

2024 JCI JAPAN

Be the Leader

Junior Chamber International Japan
Annual Report 2024

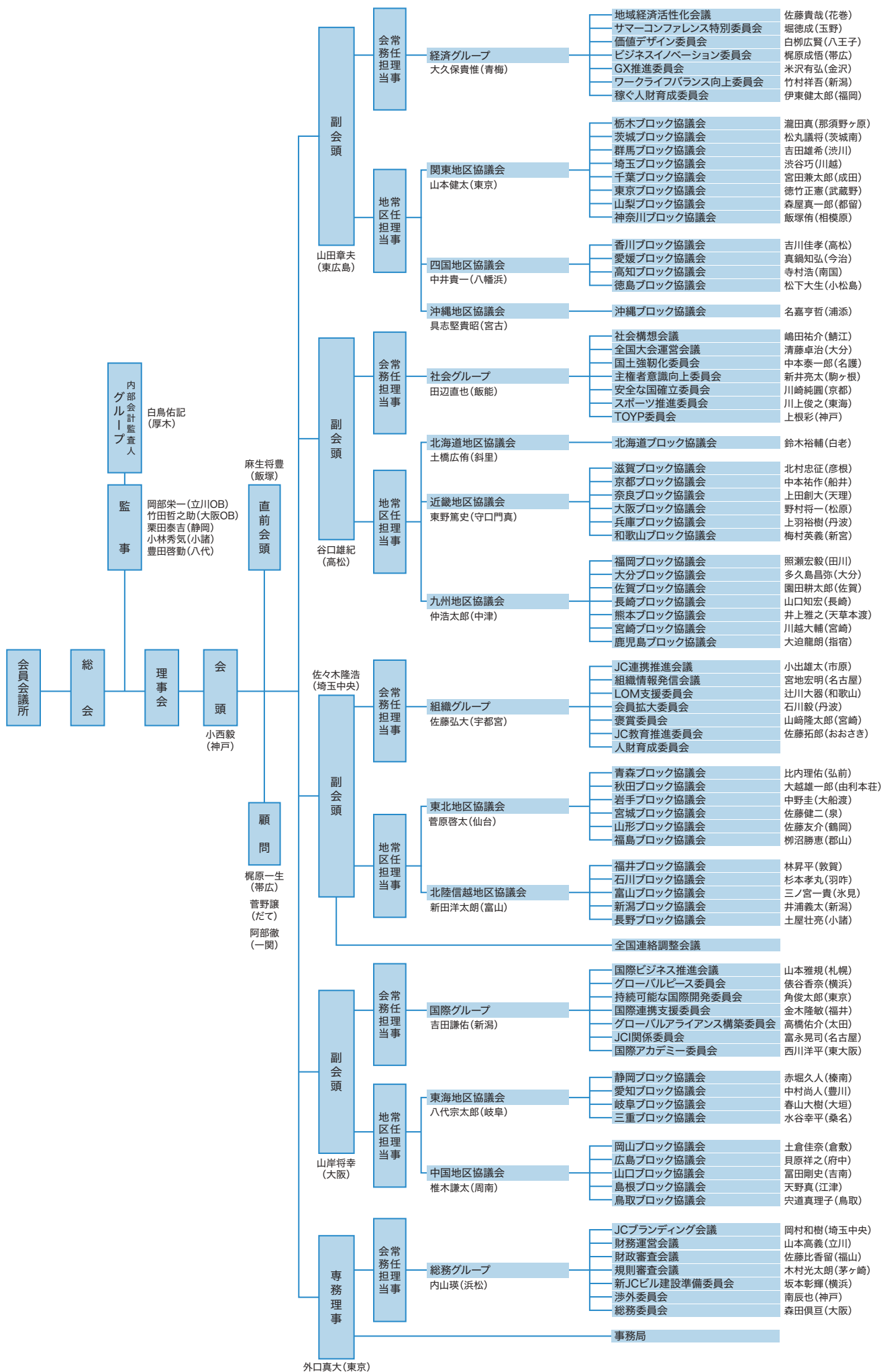
公益社団法人日本青年会議所 2024年度 事業報告書

Junior Chamber International Japan
Annual Report 2024



Junior Chamber International Japan
公益社団法人 日本青年会議所

公益社団法人日本青年会議所 2024年度 組織図



公益社団法人 日本青年会議所 2024年度 年間公式スケジュール

2024年07月05日現在

[illegible]

目次

■基本計画・事業計画	3
■役員報告	6
会頭 小西 毅	7
副会頭 山田 章夫・山岸 将幸	8
副会頭 谷口 雄紀・佐々木 隆浩	9
専務理事 外口 真大	10
顧問 梶原 一生・菅野 譲・阿部 徹	11
■内部報告	12
監事 岡部 栄一・竹田 哲之助・栗田 泰吉	13
監事 小林 秀気・豊田 啓勤	14
■グループ・会議・委員会	15
経済グループ	16
社会グループ	24
組織グループ	32
国際グループ	40
総務グループ	48
内部会計監査人グループ	56
■地区協議会・ブロック協議会	57
北海道地区協議会	58
東北地区協議会	59
関東地区協議会	60
東海地区協議会	61
北陸信越地区協議会	62
近畿地区協議会	63
中国地区協議会	64
四国地区協議会	65
九州地区協議会	66
沖縄地区協議会	67
北海道ブロック協議会	68
青森ブロック協議会	69
秋田ブロック協議会	70
岩手ブロック協議会	71
宮城ブロック協議会	72
山形ブロック協議会	73
福島ブロック協議会	74
栃木ブロック協議会	75
茨城ブロック協議会	76
群馬ブロック協議会	77

埼玉ブロック協議会	78
千葉ブロック協議会	79
東京ブロック協議会	80
山梨ブロック協議会	81
神奈川ブロック協議会	82
静岡ブロック協議会	83
愛知ブロック協議会	84
岐阜ブロック協議会	85
三重ブロック協議会	86
福井ブロック協議会	87
石川ブロック協議会	88
富山ブロック協議会	89
新潟ブロック協議会	90
長野ブロック協議会	91
滋賀ブロック協議会	92
京都ブロック協議会	93
奈良ブロック協議会	94
大阪ブロック協議会	95
兵庫ブロック協議会	96
和歌山ブロック協議会	97
岡山ブロック協議会	98
広島ブロック協議会	99
山口ブロック協議会	100
島根ブロック協議会	101
鳥取ブロック協議会	102
香川ブロック協議会	103
愛媛ブロック協議会	104
高知ブロック協議会	105
徳島ブロック協議会	106
福岡ブロック協議会	107
大分ブロック協議会	108
佐賀ブロック協議会	109
長崎ブロック協議会	110
熊本ブロック協議会	111
宮崎ブロック協議会	112
鹿児島ブロック協議会	113
沖縄ブロック協議会	114
■付録	115
■2024年度諸会議報告	123

基本計画・事業計画

基本理念

親切心が織りなす豊かさで
笑顔あふれる未来へ

基本方針

1. 地域経済の活性化による日本の躍進
2. 誰もが輝き希望ある未来を描ける社会の創造
3. 互いに成長し豊かな未来をつくる組織の実現
4. 和の心で広げる国際協調の確立
5. 共感と信頼を生むブランディングと時代に即した組織運営

事業計画

1

日本青年会議所が主催し、各地会員会議所またはJCIと共に連携して行う運動・事業

1. JCブランド力を高める全国一斉事業

2

日本青年会議所が主催し、各地会員会議所またはJCIや各国青年会議所に対して、参加や参画など協力を依頼して行う事業

- | | |
|-----------------|----------|
| 1. 京都会議 | 【1月】 |
| 2. サマーコンファレンス | 【7月】 |
| 3. 全国大会福岡大会 | 【10月】 |
| 4. 国際アカデミー | |
| 5. TOYP大賞 | |
| 6. AWARDS JAPAN | 【1月・10月】 |
| 7. 褒賞 | |
| 8. 各種視察団・使節団の派遣 | |
| 9. 国際協力 | |

3

JCIが主催し、日本青年会議所が連携して行う運動・事業

- | | |
|----------------------------|----------|
| 1. JCI ASPAC (カンボジア/アンコール) | 【6月】 |
| 2. JCI 世界会議 (台湾/桃園) | 【11月】 |
| 3. JCI AWARDSへの申請 | 【5月・10月】 |
| 4. JCI TOYPへの申請 | 【5月】 |

4

日本青年会議所が会頭所信に基づき、地区協議会と連携する事業

1. 地方創生による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動
2. 災害ネットワークに関する連携の強化
3. 他者を思いやるJCカップU-11少年少女サッカー予選大会の企画・実施
4. 理念共感拡大グランドデザインの情報収集・活用・推進
5. 理念共感拡大プロモーター育成・支援
6. JCブランド力を高める全国一斉事業

5

日本青年会議所が会頭所信に基づき、ブロック協議会と連携する事業

1. 地方創生による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動
2. 理念共感拡大グランドデザインの情報収集・活用・推進
3. ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援

役員報告



会頭 小西 毅 (神戸)

「親切心が織りなす豊かさで 笑顔あふれる未来へ」

この基本理念を基に行動を起こした全国各地のメンバーが、まちを、そして日本を明るく豊かな社会へと発展させるため1年間運動に邁進して参りました。本年は、様々な局面で、青年の素朴で純粋な親切心が発揮されました。

本年1月1日、能登半島地震が発生し、多くの方が被災されました。私たちは即座に災害対策本部を設置し、被害状況や必要な支援物資を調査し、翌日には全国の同志たちに協力を呼びかけました。すると、2日後には目標数を超える救援物資が全国各地から届けられ、現地での受け入れ態勢が整った後には、人的な復興支援にも多くのご協力をいただきました。これはまさしく、JCメンバーの圧倒的な当事者意識と素朴で純粋な親切心の発露でした。この災害支援を通じ、JCの底力を改めて実感することができました。

能登半島においては、その後も日本JCとして積極的に被災地支援にあたりつつ、この災害支援を通して、新たなリーダーの育成に取り組みました。8月には全国から選ばれた高校生が能登の地に集まり、被災地の高校生との交流を通じ、自分たちにできることは何かを考え、学んでいただいた「ネクストリーダー 被災地復興支援プロジェクト」を開催いたしました。さらに、復興の起爆剤になればと、「復興花火 in 千里浜海岸」を開催し、犠牲者への追悼や早期復興への祈りを込めました。

今もなお、全国の同志たちが復興支援に携わっていただいていることに心より感謝申し上げます。

また、本年度の一丁目一番地の事業として地域経済の活性化を目的としたインバウンド事業は、その成果を「Smile Trip Project 世界一訪れたい日本の魅力のつくrikata」としてまとめ、今後の運動を加速させていく後押しといたしました。これは全国のメンバー自らが地域資源を洗い出し、多様なステークホルダーを巻き込んだからこそ達成することができたものであります。

そして、デジタルの力を活用した地方の社会課題解決のため、高等専門学校の学生たちにITインフラやアプリを考案していただきました。高校生による政策甲子園は第2回目を迎え、高校生が国に対して政策提言をすることで、「自分たちでも社会は変えられる」というリーダーとしての意識を持つ一歩を踏み出していただきました。

さらに、それぞれの地域や日本の将来を担うリーダー育成事業も多く実施いたしました。3月に開催したLeader's Academyは、6月に近畿地区協議会、9月には北陸信越地区協議会で開催することで、地域の社会課題を解決できる能力を身につけ、実践できるトップリーダーを輩出する契機を創出いたしました。また少年少女国連大使事業、グロー

バルユース国連大使育成事業、青少年国際交流事業、JCカップU-11少年少女サッカー全国大会などを通じ、子供たちのリーダーとしての一歩を後押しいたしました。少年少女国連大使事業は、ASPACで開催したグローバルピースサミットにおいて、各NOM会頭から高い評価を受けました。

2024年度は、日本JC諸大会についても、皆様のご協力のもと、大きな成果を出すことができました。「Stand up, Leaders!」をテーマに掲げて開催した京都会議は、笑顔あふれる未来へ向けて全国のメンバーが1年間の運動方針を理解し、リーダーとしての第一歩を踏み出さなければならないと決起する大会となりました。

また、サマーコンファレンス2024では、多くの市民の方にもご参加いただき、2日間で合計約62,000名の参加者を実現いたしました。それぞれの地域課題を解決するために、理想の地域をデザインし、アイデアをもち帰り実践することのできる場とするべく「Design the future」というテーマを掲げました。サマコンフェスやフォーラム、セミナーを通じ、参加者がその内容を吸収することで、各地域において理想の姿が実現される起点となる大会を開催することができました。そして、35年ぶりに福岡で開催した全国大会福岡大会は、「Smile for tomorrow」をテーマとして、本年度デザインした笑顔あふれる未来を具現化して皆様に体感していただくと同時に、未来に向けた成果を次年度に継承するという意欲を醸成することができました。

このように、今年度は多くの親切心が解き放たれ、数多くのリーダーを生み出すことができたと確信しております。

現在の日本社会は、少子高齢化による労働人口の減少、国際競争力や労働生産性の低下などの社会課題を抱え、特に若者世代は、自身の将来を見通すことができず、漠然とした不安を抱えています。しかし、私たち青年会議所は、リーダーとして国や地域を先導し、日本経済を発展させる使命をもっています。私たちは本年度実施した多くの事業によって、地域を、そして日本を少しでも前に進めることができたことを確信しています。これは、メンバーの皆様だけではなく、JC運動に共感いただいたパートナーや協力者の支援があったからこそ、成しえたことです。そして行政、研究機関、大学などの他、JC運動に共感いただいた企業や団体などとの協働により、笑顔あふれる日本を創造し、未来を変えるための1年になりました。本年度、日本JCに関わっていただきました全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

「Be the Leader 未来の笑顔のために」

1年間本当にありがとうございました。



副会頭
山田 章夫 (東広島)

2024年度は関東地区、四国地区、沖縄地区、経済グループを担当させていただきました。

ブロック訪問では理事長の皆様にご活用いただくことでLOMの運動を最大化できる情報提供や、会館建替え、組織運営のご意見をいただくことができました。総合連絡調整機関としての役割をご認識いただき、ご活用いただくきっかけになったと思っております。社会情勢が厳しい今だからこそJCの出番だと、地域の未来のために進み続ける皆様にお会いでき、JCの力を、情熱を再確認することができました。

経済グループでは「地域経済の活性化による日本の躍進」を基本方針とし、インバウンド、地域で実装できる仕組みを広げるサマコン、新たな価値の創造、若者へのイノベーション教育、GXで稼ぐ、ワークライフバランス、金融投資教育と「経済の活性化」「稼ぐ」というキーワードを軸に1会議6委員会が運動を展開いたしました。

2024年度に生み出した運動が、地域経済を活性化させる原点になったと確信しております。

連携、ご協力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



副会頭
山岸 将幸 (大阪)

2024年度国際グループ、東海地区及び中国地区を担当させていただきました。

本年度、国際的なネットワークを活用した新しい価値創造に取り組みました。特に、国際ビジネスの促進を通じて、日本と世界各国との経済関係を強化しました。また、青年会議所の理念である「恒久的世界平和」を世界規模で実現すべく邁進しました。

まず、私たちが力を入れたのは、世界中の青年会議所との連携強化です。多国籍のメンバーとの交流を深めることで、異文化理解を促進し、グローバルな視点から日本の未来を見据える重要な足がかりを築くことができました。また、フォーラムを開催し、世界平和を実現するために青年会議所が果たすべき行動について議論を交わす機会を提供しました。このような場では、各国の青年リーダーたちと共に、平和に対する具体的な解決策を模索し、実践的なネットワーク作りが進んだと感じています。

さらに、私たちの国際的な視野を広げるために、国際的な開発支援も積極的に行いました。これにより、グローバルな環境問題に対して、青年会議所がどのように持続可能な貢献できるかを具体的に示すことができました。

1年間を通じて、多くの仲間たちと共に過ごした時間は、私にとって非常に貴重なものとなりました。国際的な活動を通じて得た経験や知見は、私たちの日本JCの活動にも大いに役立つと確信しています。

最後に、この1年間、私たちの活動にご支援、ご協力をいただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。これからも、共に歩み続け、より良い未来を創造していきましょう。



副会頭
谷口 雄紀 (高松)

本年度は社会グループ、北海道地区、近畿地区、九州地区を担当させていただきました。

社会グループでは「誰もが輝き希望ある未来を描ける社会の創造」を基本方針に掲げ、事業をスタートしました。若者の中に溢れる漠然とした不安、その原因の1つは日本が社会課題先進国であるという状況があげられます。しかし、社会課題先進国の国だからこそ、社会課題解決国へ成長する未来を描き、その実現に向けて運動を展開して参りました。デジタルを活用した若い人財の育成から始まり、政策甲子園、TOYP、JCカップなど若い世代と連携する事業を実施。特に、1月1日の令和6年能登半島地震から始まった被災地支援は1年間を通して実施し、8月3日には全国の高校生を奥能登地域に集め、現地の高校生と防災を学ぶワークショップ「ネクストリーダーによる被災地復興支援プロジェクト」を開催しました。

地区として、北海道では「第55次北方領土返還要求現地視察大会」の開催。九州では「全国大会福岡大会」の開催を行い、担当副会頭として地区協議会と連携し、現地のLOM・JCメンバーのご理解・ご協力を得ながら、持続可能な全国大会の実現に向けて事業を推進して参りました。

1月1日の震災から始まり、予測もできない艱難が多くあった一年でしたが、しかし、志同じくする仲間とともに、力を合わせて乗り越え、その中で多くの成長の機会を共に得ることができました。この経験をしっかりと次年度以降も引き継いで参ります。

改めて本年度に関わっていただきました、多くの皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



副会頭
佐々木 隆浩 (埼玉中央)

本年は副会頭として組織グループ、東北地区、北陸信越地区を担当させていただきました。

組織グループでは「互いに成長し豊かな未来をつくる組織の実現」を基本方針に掲げ、全国の青年会議所の総合連絡調整機関として拡大、理念浸透、人財育成、組織情報の発信や褒賞といったLOMの支援を全国の地区、ブロック協議会とともに実施して参りました。今年初開催となったLeader's Academyでは地域の社会課題を解決できる能力を身につけ実践できるリーダーを育成いたしました。

また、元日に発災いたしました能登半島地震では北陸信越地区が中心となり情報を収集、共有することで被災地が本当に必要としている支援を迅速に実施することができました。

2024年度に関わっていただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。



専務理事

外口 真大 (東京)

2024年度、公益社団法人日本青年会議所専務理事として、「明るい豊かな社会の実現」に向けた組織運営と事業推進に尽力いたしました。私は会頭を補佐し、全国各地の青年会議所メンバーが一体となるための仕組みを整備し、組織全体が円滑に機能するよう努めました。

令和6年能登半島地震への対応では、迅速な災害支援体制を構築し、全国のメンバーと連携して被災地復興活動を推進しました。また、サマーコンファレンスや全国大会福岡大会では、多くの参加者が学びと交流を深められる場を提供し、地域社会や国際的課題の解決に向けた意識を高める機会を創出しました。

さらに、財務管理や業務効率化に注力し、透明性と持続可能性を重視した運営基盤の強化を実現しました。次世代リーダー育成にも力を注ぎ、メンバーが主体的に地域社会の課題に取り組める環境を整備しました。

これらの成果は、全国の仲間の多大なる協力があったからこそ実現できたものです。引き続き、日本青年会議所の未来に向けて新たな挑戦を続けて参ります。



顧問
梶原 一生（帯広）

本年度は最終年度の顧問として日本で運動を展開する意味、そして青年会議所という組織をどのように持続可能にするのかを顧問の立場からアドバイスさせて頂きました。高度成長期と違い組織も運動も先を見据え逆算した構築を行わなければ成長につながらない時代、効果の先に何があるのかを問う一年になったと思います。

国家青年会議所としてどのような運動を構築すべきかそして中長期に渡りどのような組織を目指すのか、リーダーを育成する組織として各々が考え行動に移せる組織になるよう少しでも助力になっていれば幸いです。



顧問
菅野 譲（だて）

本年は、今までの役職の経験を活かし顧問職を務めさせていただきました。日本青年会議所の本会出向は、最高峰の修練の場であると思っております。JCI Missionにある通り、「リーダーシップの開発と成長の機会」を提供するため、新たにチャレンジする人へのアドバイスや成長の機会を提供させていただきました。厳しいことも言ったかもしれませんが、これが日本の青年会議所のより良い変化に繋がっていただければ幸いです。

また、JCビル建設準備会議の議長も務めさせていただき、当初予定計画から紆余曲折もありましたが、無事前に進めることが出来ました。今後も日本の青年会議所が、地域のためのより良い団体であることを心から期待しています。



顧問
阿部 徹（一関）

LOMの視点で日本JCの運動を広げていく。

このような観点で今までの出向経験を活かし事業構築やJC運動の広がりにはアドバイスをさせていただきました。

日本JCの運動を全国に展開していくことで重要なのは、全国各地のLOMやメンバーの現場の声、実状を把握してJC運動の中身をブラッシュアップし、効果を最大限に還元していくことです。

また、事業連携のパートナーやブロック協議会や地区協議会の担当者や現場レベルでの協力や連携ができているかどうかチェックしてきました。この組織体制や運営出来て、はじめて日本JCの運動が広がっていくということです。

さらに、本年は多くの日本JCの出向者と交流や対話をする機会をつくり、事業構築の段階で様々なアドバイスができる風通しが良い組織体制をつくってきたと思います。

本年のこの取組が、LOMの視点で現場の声を日本JCの運動に反映させ、全国の地域や社会に好循環を巻き起こすことにつながることを願って1年間の総括とさせていただきます。

内部評価



監事
岡部 栄一 (立川OB)

国内では、超少子高齢化へと人口オーナス期に突入し、海外では、紛争が絶えず国際情勢が大変不安定な中、JC運動に真剣に向き合いながら社会情勢を鑑み行動している現役の皆さんに敬意を表したい。

新型コロナウイルス蔓延も収束し今までの生活習慣が大きく変わった中、これからもスピーディに組織に変化をもたらし、世の中に希望をもたらす変革の起点とならなければならない。何が必要で不必要か歴史を紐解きながら精査し、実行していく決断力と実行力が今まさに求められている。

組織運営が、今までのやり方で本当に時代に合っているのか、今まで以上に外部の視点を取り入れなくていいのかなど、時代に即した組織ガバナンスの仕組みをもっと議論すべきである。

監事の務めを終え感じることは、先輩諸兄姉が紡いでこられた創始の精神はしっかりと受け継ぎ、変革を恐れることなく先駆けて社会課題解決に取り組む、魅力ある青年会議所であり続けてほしい。



監事
竹田 哲之助 (大阪OB)

2024年度は、完全にコロナの制限がない状態で青年会議所運動が、国内外において再開される1年になるはずでした。しかし、元旦に令和6年能登半島地震が発生し、翌日には羽田空港地上衝突事故が発生するなど、決して穏やかではないスタートとなりました。そのような中、戦後の焼け野原を前に「新日本の再建は我々青年の仕事である」と、人々の希望となるために青年会議所を設立された先輩方と同じく、小西毅会頭をはじめ全国のリーダーの親切心を基軸とした青年会議所運動は、より明るく穏やかで笑顔あふれる豊かな社会を実現する希望となったと確信しております。2025年度は、日本国際博覧会(大阪・関西万博)が開催予定であり、JCI会頭が日本から輩出される、世界に冠たる日本を実現する絶好の機会となります。未完成な青年が、あらゆる価値の根源であり続けるために。たった一人の熱狂からすべてがはじまる、日本の青年会議所を次のステージへ。



監事
栗田 泰吉 (静岡)

毎年すべての会員の役職と役割が変わる青年会議所において日本JC定款第3条に定める目的の達成を続けるためには組織の持続的な発展が必要不可欠であると感じます。2024年度基本理念の言葉にある「未来の笑顔のため」、日本JCが持続的に発展するためには、年度毎定められる基本理念、基本方針の達成に向けた動きが当然大事ではありますが、それらと同時に組織が健全に運営されるための管理体制(ガバナンス)の構築が重要であると思います。

2024年度は、ガバナンスを構築する要素となる、LOMに対する支援、日本JCとLOMの担い手となるリーダーの育成、地区ブロック協議会も含めた運営や監査のあり方等で課題が明確になるという成果もありました。これからも、日本JCが様々な課題を明確にして課題解決を行い定款第3条の目的達成に向かう力を生み出すこと、そして今以上に多くの人から信頼される法人となり持続的に発展することを心から願い、総括とさせていただきます。



監事
小林 秀気 (小諸)

日本青年会議所は、定款に掲げた崇高な目的を実現するため、確固たるガバナンス体制の確立を重要視してきました。ガバナンスは、ESG(環境・社会・ガバナンス)の一要素として、持続可能な事業を構築する上で欠かせないものです。今年度、私たちが活動の基盤とした「親切心」は、他者を思いやり、尊重し、信頼と協力の輪を広げる力となり、事業活動に深く根付いてきました。

「なぜこの目的を果たすのか」という問いを胸に、私たちは挑戦を続け、ガバナンスを軸に組織の持続可能な成長を目指してきました。理想と現実のギャップを埋めるため、困難に直面しても親切心を忘れず、多様な人々と手を取り合いながら事業を誠実に構築してきました。この歩みは、次世代に継承すべき財産であり、社会全体をより良く変革するという夢に向けた道標です。

現役の皆様には、この姿勢を受け継ぎ、親切心とガバナンスを両輪に社会に変革をもたらす存在であり続けていただきたいと思います。一步一步の努力が未来への道標となり、社会に希望を灯すことを信じています。



監事
豊田 啓勤 (八代)

1月1日に発災した能登半島地震の支援活動から始まった怒涛の2024年度は、青年会議所がもつポテンシャルを十分に発揮し、迅速かつ効果的な活動が行われました。被災地支援では被災地の需要を正確に把握し、規則に則りつつも臨機応変な支援活動がなされました。多くの関係先との連携は公益社団法人格として求められる動きであったと思われます。また、2024年は地域の可能性に注目し、全国各地で運動が展開されました。その一つ一つに対して、規則に則っているか、費用対効果が十分であるか、団体の目的を達成するものかという観点で審査を行いました。全てそれらを満たすものであり、1年間の運動が全て素晴らしいものであったことをご報告いたします。

グループ・会議・委員会

経済グループ

経済グループ総括



経済グループ担当常任理事 大久保 貴惟（青梅）

経済グループは、稼ぐをテーマに運動を展開して参りました。インバウンドを用いた地域経済の活性化を目指し、全国93LOM、10地区協議会、47ブロック協議会と連携を図ることで、全国各地にインバウンド運動が広まり、本運動に関わる人財は12,000名を越えました。また、ユーモアに富んだ新たな価値デザインコンテストの開催、アントレプレナーシップの学生への推進、第二創業に特化したビジネスチャンスの発掘、SAF回収の全国展開、中小企業のGX実践推進、ウェルビーイング経営の実践推進、個人の投資教育事業の実施と多くの推進運動を展開し、成果を出して参りました。サマーコンファレンスでは、参加者が楽しめ、持ち帰り、実践できる内容を構築し、今までになかった大会に挑戦。過去最高登録率となり、一般参加者も含める来場者は4万人を超えました。全7会議委員会が一丸となり、心を以って、誰もがわくわくするような運動を作ろうと挑戦し続けることのできた1年でした。

会議・委員会名	役職名	担当者名
地域経済活性化会議	議長	佐藤 貴哉（花巻）

基本方針

地域社会の特性を活かし、経済を活性化させるための仕組みを確立することで、豊かな地域を実現することを目指します。



総括

地方創生による地域経済の活性化というお題目のもと、今後のわが国の経済成長のけん引役として期待されるインバウンドに着目し、10地区、47ブロックと連携し、64の地域でインバウンド戦略会議を立ち上げ、アドベンチャーツーリズムを活用した実行計画書の策定に取り組んだほか、ラグジュアリーツーリズムの可能性を広く発信しました。運動に関わった人数は述べ12,000人を超え、大きなムーブメントを生み出しました。また、京都会議、総会、サマーコンファレンス、全国大会と4回のフォーラム、全4回に渡る全国一斉インバウンド会議を企画・発信することで、多くのLOMが2025年度にインバウンドを活用することを計画しており、LOMの運動構築の一助となりました。

事業区分	事業名	事業内容
公5	地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進	インバウンドを活用した地域の経済が豊かになる仕組みづくりに取り組み、地域で自走する仕組みを確立しました。また、ラグジュアリーツーリズムにおいては、メンバーにその可能性を感じてもらうとともに、JCが主導で商品化を行い、海外の富裕観光専門のエージェントに売り込みを行いました。
公5	2024年度京都会議経済フォーラム「Discover New JAPAN ～日本再発見の旅～」	地域経済の活性化を目指すうえで、日本の地域がもつ観光産業の可能性を理解し、自らの地域の観光産業発展に向けて行動に移すために、株式会社小西美術工芸社デービッド・アトキンソン氏と株式会社美ら地球の山田拓氏を講師に迎え、フォーラムを実施しました。
他	2024年度3月総会経済フォーラム「ジャパントラベル・サミット～魅力発信会議～」	インバウンドという日本の強みを生かした稼ぐ仕組みを確立するには、参加者自身が始動者となって地域のステークホルダーと新たな価値の創出や発信に取り組むことが必要であり、講師の朝比奈一郎氏から、地域経済の活性化に取り組むリーダーのあり方について講演いただきました。
公5	サマーコンファレンス2024「Be proud of JAPAN ～観光大国ニッポンの幕開け～」	本年度全国のLOMと取り組んできた成果を発表するとともに、観光産業の最前線を走る事業者2社と、世界中の観光に精通した堀江貴文氏を講師として招き、日本が観光立国を掲げて20年が経ったいま、観光大国に向けて何が必要なのかをフォーラムを通じて明らかにしました。
公5	サマーコンファレンス2024「第3回全国一斉インバウンド会議」	京都会議、3月総会につづき、第3回となった全国一斉インバウンド会議では、インバウンドを呼び込むためのプロモーションの重要性とその手法についてお伝えしました。また、本年度連携した93LOMのうち、3LOMに登壇いただき、プランの概要や今後の展望についてプレゼンしていただきました。
公5	第73回全国大会福岡大会「JAPAN as Only One ～地域のために私たちができること～」	インバウンドをブームで終わらせずに、地域と協同し多種多様ステークホルダーと連携を図ることで持続可能な地域を創ることが重要です。本フォーラムでは観光人財に着目し、星野リゾートの星野佳路氏とともに星野リゾートの事例を交えながら、JCだからこそ地域のためにできることをお示しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
サマーコンファレンス特別委員会	委員長	堀 徳成（玉野）

基本方針

「Design the future」をテーマに、参加者が理想の地域の未来をデザインし、もち帰り実践することができるようになるサマーコンファレンス。



総括

サマーコンファレンス2024では「Design the future」をテーマとして、各ファンクションで得たことを参加者の地域にもち帰ることに重点を置き開催しました。各ファンクションの政策成果を地域で実装するためのツールとして「Action!シート」を参加者に配布しました。また臨港パークにおいてファミリー層を中心に一般参加者への間口も広げステージを設営してアーティストの招聘、各ブースでも未来を身近に体験できる体験型のブースを中心に出演しました。これまで呼称のなかった屋外のファンクションを「サマコンフェス」と命名し、継続していくことになりました。

各ファンクション、サマコンフェスを通じて参加者が自身の未来をデザインすることができたと考えます。

事業区分	事業名	事業内容
公5	サマーコンファレンス2024	「Design the future」をテーマに、参加者が未来をデザインする事ができるようなフォーラム・セミナー・サマコンフェスを開催しました。当日の参加者にインタビューを行う生の声を取り入れた事後広報を行うことで、よりリアルなサマコンの魅力を配信することができました。
公5	オープニング	未来をコンセプトとした本年度のオープニングでは、ドローンと紗幕への投影を行うことで、空間に映像が映し出される近未来的な設営を行いました。また、香りをを用いる演出も同時に行うことにより、ダイナミックで迫力のある演出で高揚感を駆り立てました。
公5	クロージング	クロージングでは、2日間のファンクションをリアルタイムにクロージングムービーに落とし込み、XR演出で委員長総括を行うことによりサマコンを起点にどう行動していくかという意識を与える演出を行うことで、運動をもち帰ってもらうための効果を高めました。
公5	サマコンフェス	大人から子供までが未来を体験することができるブースを設営しました。未来のテクノロジーを身近に感じることができる体験を通して、起こりうる未来がもう目の前にやっけてきているという意識をもっていただきました。
公5	広報	本年の広報は、SNSの発信に力を入れ、SNS広告で宣伝を行ったり、実施後も事後広報として当日行ったインタビューを配信することでサマコンに対する参加者の生の声を配信しました。より身近にサマコンを感じてもらえるような広報が行えたのではないかと考えます。



会議・委員会名	役職名	担当者名
価値デザイン委員会	委員長	白柳 広賢（八王子）

基本方針

価値をデザインしていく社会の実現による経済の活性化



総括

「価値をデザインしていく社会の実現による経済の活性化」という基本方針のもと、生産性の向上を目指しました。第8回価値デザインコンテストでは、237件の応募プランから7件のファイナリストを選出し、サマーコンファレンスにてプレゼンテーションを実施しました。受賞者には内閣総理大臣賞を含む7賞を授与し、グランプリには賞金100万円を提供しました。また、企業交流支援プラットフォームを活用し、中小企業の生産性向上を目指した取り組みを推進しました。ビジネスマッチングを通して、各事業者の高付加価値化に寄与しました。これらの活動を通じて、持続可能な経済活性化への貢献が図られたと感じています。

事業区分	事業名	事業内容
公6	第8回価値デザインコンテスト募集計画	第8回価値デザインコンテストの開催に伴い、エントリー事業の募集を行いました。応募いただいた237件のビジネスプランに対して8項目について採点を行い、1次審査では20プランの選考、2次審査及び最終選考では7プランをファイナリストとして選出しました。
公6	企業交流支援プラットフォームを用いた国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画	企業交流支援プラットフォームを通じて、国内の特に中小企業における生産性向上を目指し、顧客体験価値向上を通じた高付加価値化を推進しました。問い合わせ数は予定通りに進み、連携協力や、マッチングといった点においても、目標数値に到達しました。
公6	サマーコンファレンス2024「第8回価値デザインコンテスト～今こそ、あなたの事業価値を試すとき～」	7組のファイナリストによるプレゼンテーションを行い、内閣総理大臣賞等7賞と会場投票によるグランプリ作品へ賞金100万円の授与を行いました。また、緒方憲太郎氏に事業を新たに生み出す難しさや継続的に事業が続けられる仕組みについて講演いただきました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
ビジネスイノベーション委員会	委員長	梶原 成悟（帯広）

基本方針

地域経済をより活性化させるため、イノベーションを起こすクリエイティブな人財を増やしていきます。



総括

現状に満足すること無く、より高みを目指していこう。そして今後の将来を担う若者にもアントレプレナーシップという何事にも挑戦できる精神を学生のうちからもってもらい、日本のスタートアップ企業を増やしていくための運動を進めて参りました。学生の起業家精神を養うガチイノベ教室は全国で開催され、開催校より追加で講演をしてほしいと連絡が来たくらい大きな反響があり、企業の第二創業を支援するイノベイト&リブースト計画でも参加したメンバーが2,000万円の投資を受けるなど、ビジネスイノベーションとしての成果を出せたと感じております。

事業区分	事業名	事業内容
他	ビジネスを発展させるための人財育成を目指す運動の推進	本事業では、アントレプレナーシップを浸透させるため、教育機関と連携し支援体制を整備。起業支援やリーダー育成を推進し、地域活性化を図りました。成果を共有し、提言書を通じ普及活動を進めました。
公6	企業の第二創業を支援する推進計画	本プロジェクトでは、中小企業を対象に第二創業を支援し、新規事業の立ち上げや第二創業に長けた講師を交えた合宿、壁打ちを経てプレゼンを行う機会を提供しました。イントレプレナーシップを促進し、第二創業を目指す取り組みを展開しました。
公5	サマーコンファレンス2024「ガッツリサンデー!!W森永から学ぶイノベーション!!」	未来に向けた漠然と感じる不安を払拭し、参加者が自分の住む地域に誇りと自信をもち、JCが行動を起こすことで、社会をより良く変えることができるという確信を全国に広げるとともに、次年度への運動の躍進につなげるために本フォーラムを開催しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
GX推進委員会	委員長	米沢 有弘（金沢）

基本方針

日本の企業がもつ技術を活用し、全国でGXの実現を目指します。



総括

近年、環境問題が大きく取り上げられていますが、日本の中小企業経営者の約8割はGXに対する認知が低くGXの取り組みは進んでいません。また、現代の経済社会は大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会となっており、健全な物質循環を阻害し、環境や資源の面で深刻な影響を及ぼしています。本年度は日本にはGX推進に有効な独自の技術をもった企業があること、そして発生した廃棄物の有用性に着目し、企業が稼ぎながら脱炭素経営を推進できる事業を実施しました。結果、脱炭素経営セミナーを実施し、参加者538名を動員、中小企業102社に対し脱炭素経営スタートアップ支援を実施し、国産SAF製造に向けた廃食油回収拠点を338件設置することができました。

事業区分	事業名	事業内容
公3	既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画	日本ではSAFを生産できる大規模施設が2024年に完成予定ですがSAF専用の廃食油の回収が進んでいません。このままでは、日本産SAFの供給量が足りなくなる恐れがあります。そこで、SAF用の廃食油を回収する仕組みを作りました。
公3	中小企業に脱炭素経営を推進するメリットを発信する推進計画	コスト負担増や知識不足、事業変革のリスクなどの課題により中小企業では脱炭素経営への取り組みが進んでいません。そこで中小企業経営者に環境問題と利益拡大の相関関係を理解してもらうためセミナーを行い、企業に脱炭素経営スタートアップ支援を行いました。
公5	サマーコンファレンス2024「『賢い人』は知っている。もう迷わない脱炭素経営」	講師に株式会社みなかみSOUL代表取締役 前田雄大氏をお招きし、参加者に適切な脱炭素経営のアプローチや成功事例を示しました。現在の課題や新技術、補助金についてもわかりやすく説明したことで、脱炭素経営のビジネスチャンスを持ち帰ってもらいました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
ワークライフバランス向上委員会	委員長	竹村 祥吾（新潟）

基本方針

誰もが活躍することで、地域経済を活性化させる。



総括

誰もが個人の幸せを追求し自分らしく働ける社会の実現をするべく、ウェルビーイング経営とベビーファースト運動の推進を行いました。委員会で作成したウェルビーイング実践パッケージを用いて、様々な業種にアプローチをして、中小企業100社に実践協力をさせていただきました。また、社会全体で子供を産み育てやすい社会の実現に向けて、622件のベビーファースト宣言があり、過去最高の宣言数となりました。今年度実施したウェルビーイング経営とベビーファーストアクションを継続することによって、誰もが働きやすい社会となり、個人や企業のウェルビーイングが向上すると思います。

事業区分	事業名	事業内容
公5	誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画	誰もが個人の幸せを追求し自分らしく働ける社会の実現に向けて、中小企業に対して、ベビーファースト運動、ウェルビーイング経営の実践を推進しました。中小企業100社にウェルビーイング経営を実践していただき、ベビーファースト宣言は622件の成果を挙げる事ができました。
公6	サマーコンファレンス2024「Well-being Challenge ～業績向上の秘訣教えます～」	中小企業が取り組んだウェルビーイング経営とベビーファースト運動の好事例を発表しました。また、発達障害の当事者から中小企業が取り組みやすいウェルビーイング経営についてセミナーを開催しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
稼ぐ人財育成委員会	委員長	伊東 健太郎（福岡）

基本方針

日本がもつ潜在的なポテンシャルを引き出しつつ、新たなことにチャレンジすることで日本経済の活性化を図ります。



総括

過度な貯蓄を投資にまわし資産所得を増加させること、Web3.0を活用して地域を活性化させることを目的に一年間やってきました。長期的に投資を増やすために、子供たちとその親へ金融セミナーを全国で実施しました。その結果を基に金融経済教育に関して金融庁に提言を行い、今後の日本の金融経済教育に一石を投じることができました。また、Web3.0に関して、サマーコンファレンス2024において、Web3.0の基礎知識と実際の活用事例をセミナーにて展開しました。同時にサマコンフェス会場にてNFT EXPOを実施し、NFT事業者50社を集め、参加者がWeb3.0に実際に触れてもらう機会を作りました。JCメンバーに地域経済活性化の起爆剤としてWeb3.0の可能性を感じていただけたと思います。

事業区分	事業名	事業内容
公2	個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進	長期的に投資を増やすために、子供たちとその親へ金融セミナーを全国7か所で実施しました。その結果を基に金融経済教育に関して金融庁に対して提言を行いました。
公5	サマーコンファレンス2024「Web3.0を学び個人と地域がガッツリ!!」	サマーコンファレンス2024において、Web3.0の基礎知識と実際の活用事例をセミナーにて展開しました。また、サマコンフェスにおいてNFT EXPOを実施し、NFT事業者を50社集め、参加者に実際にWeb3.0に触れていただきました。



社会グループ

社会グループ総括



社会グループ担当常任理事 田辺 直也 (飯能)

能登半島地震直後より、緊急支援物資の募集を行うとともに、ボランティアセンターの立ち上げ及び人的支援を実施しました。また、全国の高校生を能登半島に派遣し、被災地の視察や現地の高校生との交流を図るとともに、羽咋市にて約3,000発の花火大会を開催し、追悼と復興の祈りを捧げました。そして、JCI JAPAN TOYPでは、過去最高となる531名のエントリーを賜り、社会課題に取り組む若者のさらなる飛躍につながりました。また、全国高校生政策甲子園では、253チームの政策エントリーをいただき、若者の主権者意識向上を図りました。そして、安全保障の意識喚起を行う動画配信では、10万回を超える再生を記録しました。さらに、行政と教育機関と連携し、地域のデジタル実装へつなげるとともに、本事業は教育機関のカリキュラムに採用されました。これらの運動で、誰もが輝き希望ある未来を描ける社会の創造につながりました。

のデジタル実装へつなげるとともに、本事業は教育機関のカリキュラムに採用されました。これらの運動で、誰もが輝き希望ある未来を描ける社会の創造につながりました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
社会構想会議	議長	嶋田 祐介（鯖江）

基本方針

社会環境を向上させ、豊かさを実感できる社会の創造。



総括

全国10か所で、各LOMや協議会と行った「地域の社会課題解決事業」は、若者の柔軟なアイデアとデジタルの力を掛け合わせ、地域の課題解決につながるアプリを60件制作し実装につなげました。またJCと教育機関が協定を結び、カリキュラム化され授業に取り入れられるなど、地域の課題解決を通してデジタル人財の育成につなげました。京都会議では、人口減少社会における地方分散型社会の有用性を示し、サマーコンファレンスでは、デジタルを活用し社会課題解決につなげたベストプラクティスを共有し、さらに全国大会では、地域のデジタルを活用した取り組みの具体的な事例をもとに、持続可能な地域社会の発展に必要なデジタル人財の育成について発信しました。

事業区分	事業名	事業内容
公5	地域の社会課題を解決する事業	全国10か所で学生が地域課題を解決するアプリ開発に取り組み、地域の課題解決につながるアプリの実装につなげました。またJCと教育機関が協定を結び、カリキュラム化されるなど、デジタルを活用した社会課題解決とデジタル人財育成の仕組みを構築しました。
公5	2024年京都会議社会フォーラム 輝く地方が日本を興す ～地方分散型社会のすゝめ～	京都大学教授の広井良典氏をお招きし、2050年の日本の未来は持続可能か、をテーマに人口減少社会の問題を正しく理解し、地域のリーダーとして、都市集中型社会から地方分散型社会に向けた行動を主体的に行うきっかけにつなげました。
公5	サマーコンファレンス 『デジコネクト』未来をつなぐ、 デジタルの力!	LINEヤフー(株)の川邊健太郎氏とNPO法人イシュープラスデザインの寛裕介氏を招き、地方から日本を輝かせる魅力的な地域をつくるために、行政や地域の団体、企業が協働することで、未来をデザインし実現につなげる運動を全国に広げました。
公5	第73回全国大会福岡大会 「896の地域が消える前に ～未来を生み出すデジタル 人財の可能性～」	企業と行政がDXを活用した好事例や、AI市長秘書官の導入事例などを紹介し、地域課題解決に向けたデジタル技術の活用を示しました。また、JCがデジタル人財育成を目的に、行った社会課題解決事業における具体的な成功事例を全国に共有しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
全国大会運営会議	議長	清藤 卓治（大分）

基本方針

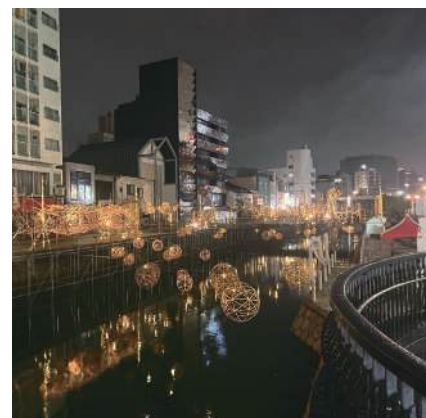
地方でも開催できる持続可能な全国大会がもたらす、社会を変革する大会の創造。



総括

第73回全国大会福岡大会は、「Smile for tomorrow」をテーマに、2024年度の運動の集大成として開催しました。JCメンバー約12,000人のご登録、また参加者は一般市民も含めると延べ12万人となり、本年度は主管LOM、開催地区協議会を含む4フォーラムを開催しました。また、福岡JCの記念事業「ヨカマチフクオカ」では、県や市と連携し、福岡の伝統文化や食文化を体験できるイベントを4会場で実施しました。多くのメディアにも取り上げられ、福岡の魅力の発信につながりました。多くのメンバーが現地を訪れ、市民と共に、私たちがつくり出した笑顔を明日へとつなげる大会となりました。

事業区分	事業名	事業内容
公5	第73回全国大会福岡大会	主管LOMと共に、日本JCがデザインした運動の成果の検証と継承を行いました。フォーラムや事業を通して、市民の皆様と開催地域の魅力や地方の可能性を再認識し、笑顔あふれる未来をつなげることができました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
国土強靱化委員会	委員長	中本 泰一郎（名護）

基本方針

災害ネットワークの構築で、誰もが安心して住み暮らす社会の実現。



総括

1月1日に発生した能登半島地震を受け、翌日から緊急支援物資を被災地へ届けるとともに、総勢763名の全国のメンバーとボランティア活動を展開しました。3月から5月には、珠州市でバスケットボール教室や七尾市で大道芸人ショーを開催し、総勢352名の子どもたちが参加し、多くの笑顔を生み出しました。8月には、能登半島と全国の高校生が交流し、共に復興プランを策定するとともに、地域を巻き込み復興花火を盛大に打ち上げました。さらに、強靱なインフラ環境の整備を推進する事業として、BCPの策定20件、事業継続力強化計画認定制度の採択を30件推進し、全国10地区に選定したエリアで企業版ふるさと納税を活用したインフラ整備を実施しました。

事業区分	事業名	事業内容
公6	発災時の被災地支援における災害対策本部設置事業	被災地に対して物資支援の供給や人的支援による災害対策支援を行うために災害対策本部を設置し、災害復興に向けコンテナハウス設置、子どもたちの笑顔創出プロジェクト、そして全国の高校生と共に被災地を視察し次世代の復興プランを計画する支援を行いました。
他	有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業	地区協議会及びブロック協議会の防災担当者と連携を行い、さらには連携するパートナーや関係諸団体と共に、あらゆる災害にも迅速に対応できる強靱なネットワークを構築し、全国各地でレジリエンスの強化を図る運動を推進することができました。
公6	強靱なインフラ環境の整備推進事業	1月から12月にかけて地区協議会及びブロック協議会の防災担当者と共に、自治体や民間企業を対象に、あらゆる災害を想定して防災、減災を行うために、企業版ふるさと納税を活用し、インフラ環境の老朽化や整備不足の解消につなげる運動を推進しました。
公6	東北地区の被災地支援における災害対策本部設置事業	7月25日に発生した線状降水帯により秋田県、山形県内に多数の被害が確認されており、被災地域の社会福祉協議会から迅速な支援の展開が求められていたことから、東北地区協議会内に災害対策本部を設置し、被災地域の支援を実施しました。
公6	サマーコンファレンス2024 サマコンフェス(防災体験ブース)	あらゆる災害を想定して、参加者が防災に対する当事者意識を持てただけように、令和6年能登半島地震の復興支援の取り組みを紹介するとともに、どのような備えをすれば良いかを明確にするための防災体験ブースの運営を実施しました。
公6	能登半島豪雨災害における災害対策本部設置事業	9月21日に発生した線状降水帯により石川県能登半島を中心に多数の被害が確認されており、被災地域の社会福祉協議会から迅速な支援の展開が求められていたことから、北陸信越地区協議会内に災害対策本部を設置し、被災地域の支援を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
主権者意識向上委員会	委員長	新井 亮太（駒ヶ根）

基本方針

国民一人ひとりが笑顔あふれる社会を目指し、日本の未来に対し当事者意識をもって政治参画ができる環境を創造します。



総括

高校生の政治への関心を高めるために、主権者教育として、第二回全国高校生政策甲子園を開催し、251チーム711名のエントリーをいただき、予選大会、決勝大会を通して若者の声を社会に届けることで政治参画意識を高めました。また、全国の高校生を対象に主権者意識向上カリキュラムを作成し、大学生とともに運動を実施しました。2,000名を超える高校生にカリキュラムを受講していただき、日本社会に対する当事者意識の醸成、行動につながるキッカケを提供できました。サマーコンファレンスでは石丸伸二氏、川崎レナ氏をお招きし、若者の政治参画をテーマに、若者が政治に参画する重要性や手法についてディスカッションを交わしました。

事業区分	事業名	事業内容
公2	第二回政策甲子園	高校生の政治への関心を高めることを目的とし、全国の高校生からテーマに沿った政策を立案していただき、予選大会と決勝大会にて演説を行い、インターネット投票にて決定した最優秀チームが文部科学省にて政策報告会を実施しました。
公4	主権者意識向上カリキュラム	大学生と連携し、全国の高校に出向き主権者教育を実施し、民主主義を疑似体験できる法哲学園と学問から社会を考えるカリキュラムを学んでいただき、大学生と高校生が日本の未来について学び合うことで、高校の教育現場における主権者教育の充実を図りました。
公2	サマーコンファレンス2024 セミナー 「日本はまだ変わる ～政治に若者の声を～」	前安芸高田市市長石丸伸二氏とアースガーディアンズジャパン創設者川崎レナ氏をお招きし、若者の政治参画をテーマにディスカッションを行い、いかに若者の政治に対する興味、関心を高めるかを学び、主権者意識向上カリキュラムについて発信をしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
スポーツ推進委員会	委員長	川上 俊之（東海）

基本方針

スポーツコミュニティの発展と学校部活動が円滑に運営される社会の実現。



総括

第10回の記念大会となるJCカップU-11少年少女サッカー大会を開催いたしました。今大会は、今後のモデルになるよう地域益の創出を図ることと親切心を醸成することを特色とし、ブロック、地区予選大会より600チーム、7,000名の子供たちに出場していただき、グッドルーザー精神の育成をすることができました。昨年より、アジアパシフィック大会へと発展を遂げており、本年度は第2回目としてアジア8カ国より16チームを招致して開催いたしました。また、部活動地域移行の課題解決に向け、保護者の認知度向上を目的にアンケート調査を行い、子供たちが文化芸術、スポーツに触れる機会を継続できるよう、当事者の声を報告書にまとめスポーツ庁へ提出しました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップ U-11少年少女サッカー全国大会予選大会	全国10地区協議会にて予選大会開催し、グッドルーザー精神を伝えることを目的に、地域益を創出すること、親切心を醸成することを本年の特色として選手、指導者、保護者合わせて64チーム、2,000人を超える参加がありました。
公1	第10回MJS presents JCカップU-11少年少女サッカー全国大会	全国10地区予選大会の優勝チームと開催地枠、特別推薦枠、計12チームで開催しました。地元小学生のプラスバンドやチアリーダー、元日本代表那須大亮氏など多数のゲストを招き大会を盛り上げ、11歳以下の世代日本一を決しました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカーアジアパシフィック大会	名古屋青年会議所と共催にて、アジア8カ国より16チームを招致して開催いたしました。また、サッカーの試合だけでなく、アフターマッチミーティングや名古屋市内の観光を通して、子供たちの国際交流の機会を提供いたしました。
公5	地域や各種関連団体と連携した部活動支援事業	部活動地域移行に対する保護者の認知度向上に向け、長野県の先進事例をもとに説明動画を作成して全国のPTAと連携し、500名の保護者からアンケートを収集しました。全国のLOMや協議会の事例とアンケート結果を取りまとめてスポーツ庁へ報告書を提出いたしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
TOYP委員会	委員長	上根 彩 (神戸)

基本方針

若者が希望をもって今を生き、明るい未来を描ける社会をつくる。



総括

多くの若者が日本に発展成長するイメージを抱けていない昨今、各地域に潜在する可能性を秘めた人財をアワードを通して発信することでエンパワメントを高め、若者が将来に希望をもてる社会環境の構築へつなげることを目的とした第38回JCI JAPAN TOYP2024を開催しました。全国各地から過去最大531名のエントリー者が集まり、15名の若者へ各省庁、団体の奨励賞を授与しました。本年度は賞の授与で終わらせず、受賞者の発信に注力し、多方面のメディア25件の掲載を達成。さらにサマーコンファレンスにて受賞者によるセミナーなどの新たな取り組みを行ない、全国のLOMへ本事業の周知を図りました。

事業区分	事業名	事業内容
公2	第38回 JCI JAPAN TOYP 2024エントリー募集	科学技術、医療、文化、環境、まちづくり等あらゆる分野において全国各地に潜在する社会に持続的なインパクトを与える可能性を秘めた20～40歳までの若者のエントリーを3ヶ月間にわたって募集し、過去最高531名のエントリー数を達成しました。
公2	第38回 JCI JAPAN TOYP 2024選考会	書類選考、オンライン投票、現地プレゼンの3段階で選考しました。内閣府、総務省、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、こども家庭庁、全国知事会等の後援を取得し、各奨励賞受賞者15名を選定しました。
公2	第38回 JCI JAPAN TOYP 2024授賞式	東京銀座にてファイナリスト15名へ各省庁、団体の奨励賞を授与する授賞式を開催。グランプリ、準グランプリには活動支援金を進呈しました。当日はメディア12社を動員、25件の記事が掲載されました。授賞式後にはマッチング交流会を開催しました。
公2	サマーコンファレンス2024 「Report of JCI JAPAN TOYPセミナー ～傑出した若者が、未来を変える!～」	本年度の新しい取り組みとして、TOYP受賞者の活動や功績を称え、発信すること、またTOYPが若き人財の挑戦を支援し、地域のエンパワメントを高める事業であることを全国に広げるため、サマーコンファレンスにてセミナーを開催しました。



組織グループ

組織グループ総括



組織グループ担当常任理事 佐藤 弘大 (宇都宮)

組織グループでは、「互いに成長し豊かな未来をつくる組織に実現」の基本方針のもと全国のLOMそして会員の支援を行って参りました。まずは、理念共感拡大グランドデザインの4年目である本年、地域に青年会議所が必要とされる団体であるために我々が行ってきた運動を多くの人々に知っていただき会員拡大、理念の浸透を行いました。そして、LOMの運動を最大化するため事業構築支援をブロック協議会と伴走支援を実施して参りました。さらに、地域の課題解決力を培う日本青年会議所が行う最高位のセミナーとして「Leader's Academy」を中国地区で開催し、近畿地区並びに北陸信越地区協議会にて開催を行い、メンバーの成長に寄与しLOMの運動のさらなる発展に貢献いたしました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
JC連携推進会議	議長	小出 雄太（市原）

基本方針

地区協議会とブロック協議会との連携を強化し、メンバーの理念共感を拡大します。



総括

日本JCの総合連絡調整機関の役割を担い、全国のLOMの運動の最大化を図ることで、組織力を向上させる活動を行って参りました。総合連絡調整機関としての機能を強化するために、協議会とともに毎月、全国連絡調整会議を実施いたしました。また、サマーコンファレンスでは、協議会をアップデートするための参加型フォーラムを開催いたしました。小西会頭が協議会会長とともに、参加メンバーからリアルタイムでの意見をいただきながら、今後の展望を語り合いました。そして、事業構築支援として様々な事情で事業の実施が難しいLOMに対して、日本JC役員とともに各地域に足を運び、ともに事業を作り上げ、地域の課題解決に寄与することができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	JC運動に共感が集まる 理念共感拡大 グランドデザイン推進	「理念共感グランドデザインの活用と推進によってLOMのさらなる発展に寄与すること」を目的に、浸透率を改善するため、組織グループ会議委員会の運動と各協議会との連携によって理念共感拡大に努めました。
他	2024年度京都會議 JC大相談会+PRブース	総合連絡調整機関の機能を高め、組織グループとしてブロック協議会、各LOMの抱える悩みや現状の課題に応じた支援を推進するとともに、各LOMに日本JCが行う運動の理解や協力につなげることができました。
他	サマーコンファレンス2024 「Update the JC!!!～みんなで話そう協議会の在り方～」	協議会をアップデートするための参加型フォーラムを開催いたしました。地区協議会会長とブロック協議会会長が登壇し、参加メンバーからリアルタイムでの意見をいただきながら、協議会をアップデートしていくために取り組むべき手法や展望を語り合いました。
他	サマーコンファレンス2024 「全力サポート!!JC大相談会」	サマーコンファレンスにて当会議が総合案内窓口となり、各LOMの課題に最適な相談ブースにご案内し、組織グループの会議・委員会が本年度の成果事例や日本JCの活用ツールをもとに、課題解決策をご提案いたしました。
他	JC大相談会+新時代への道標 ～事業継承サミット～	2024年度の集大成として、次年度の運動の更なる飛躍につなげるために、LOMの実情に合った支援を行うための「JC大相談会」と、日本JCの2024年度から2025年度の会議・委員会へ本年度の運動の成果や事業、また組織運営について引継ぎ式を開催いたしました。
他	次年度協議会役員 予定者セミナー	2025年度地区協議会・ブロック協議会役員を対象に日本JCの事業や運動への理解を促すとともに、協議会役員としての役割について強く認識する機会となることや連絡調整機関としての機能を理解いただき、次年度の運動への波及効果とモチベーションを高めました。
他	地域に根差した青年会議所 運動の事業構築支援	日本JCと各協議会が連携し、LOMの事業構築から実行まで伴走型支援を行いました。事業の成功体験や事業構築の経験から会員拡大につなげるなど、社会課題を明確に見出し、解決に向けて事業を計画して実行できるLOMへ発展するきっかけを作りました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
組織情報発信会議	議長	宮地 宏明（名古屋）

基本方針

良質な情報を、時代に即した方法で高い質を担保して共有し、メンバーの発展と成長の機会を創出し、組織を活性化させること。



総括

全国の運動が最大化する一助となるべく、情報を発信して参りました。メールマガジンでは、約2倍の情報を発信し、予算面で未活用だった公式LINEを本格活用することで、迅速かつ手軽に情報収集ができるようにしました。その結果、これまで低かったアンケートの回答率も高めることができました。JCアプリのインターフェイスを改良し、情報コンテンツを充実させて使いやすいツールに進化させました。配信素材において、伝わる写真を心掛け、多くのメンバーに共有できる仕組みを構築しました。日本青年会議所の活動が伝わり、ともに、多くのメンバーが発信できる環境をつくることで、運動を最大化する広報につなげました。

事業区分	事業名	事業内容
他	メンバーに届く興味をもつ情報の調査・発信	情報共有サイトである運動プラットフォームを周知し、中でも全国の議案が閲覧できるGian Pocketの活用促進を図り、全国で運動を興せる情報を発信してきました。いつでもどこで誰が何をしているのか伝わる写真を共有し、公式SNSだけでなく個人の発信にもつなげました。
他	組織の運動に役立つ日本青年会議所JCアプリ及びメールマガジンを利用した企画・発信	JCアプリでは、各諸大会の情報はじめ、会員のJC活動を充実させるための多彩なコンテンツを配信しました。メールマガジンでは、総数110通の情報を発信しました。情報共有を円滑に行い、メンバーの組織の運動に役立て、地域社会貢献につなげました。
他	新たな手法を用いた対内意識調査方法の検討	メンバーが回答しやすいように、Googleフォームを用いてアンケートを行い、対内意識調査を行いました。配信はメールのみならず、公式LINEアカウントからも行ったことで、高い回答数を得ることができました。
他	日本青年会議所JCアプリの活用調査・発信・利用促進・相談窓口について	JCアプリを活用できるアプリに昇華するために、アプリのインターフェイスを改良し様々なコンテンツを充実させました。これにより、会員の活動の幅を広げ、情報共有や交流を活性化させ、JC活動の効果的な推進を図りました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
LOM支援委員会	委員長	辻川 大器（和歌山）

基本方針

協議会と連携し、すべてのLOMに支援が行き届き、さらにLOMに寄り添った支援を行う。



総括

今回の事業では、全47ブロック協議会からのヒアリングや詳細な支援実施により、LOMのニーズに応じた支援が成功しました。逆出向制度やドワンゴ学園との連携も一定の成果を上げ、LOMの活動が強化されました。しかし、情報共有会議の限界や逆出向制度のマッチング課題が残りました。今後はこれらの課題解決に向けた取り組みを強化し、支援スキームのさらなる充実を図る必要があります。

事業区分	事業名	事業内容
他	ブロック協議会によるヒアリング	全国連絡調整会議にて各ブロック協議会に調査アンケートを依頼し、全47ブロックから回答を得ました。遅れた場合はLOM支援情報共有会議で再依頼し、全てのブロック協議会の協力により調査を完了しました。
他	LOMの発展に資する支援スキームの窓口	支援を要するLOMに詳細な聞き取りを実施し、適切な支援を提供。毎月の支援情報共有会議で状況把握と迅速な情報伝達を実現しました。
他	LOMに対するリモートメンバー制度のアップデートに向けた分析	9つのLOMで逆出向制度を活用し支援を実施し、いくつかで顕著な成果を上げました。また、ドワンゴ学園と連携し、2つのLOMで成功事例を作りました。
他	多様な人材が活躍できるLOM環境の向上支援	14LOMに育LOM認定を実施し、子育て世代支援を強化しました。10LOMに中期ビジョン策定支援を行い、将来の発展に寄与。事業構築支援で実情に即した支援を実現しました。
他	LOM空白エリアの解消に向けたブロック協議会との連携	LOM空白エリアの状況を把握し、全ブロックのデータを作成しました。解散時の対応を迅速化し、空白エリアの極小化に向けて周辺LOMへのエリア拡大調整を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
会員拡大委員会	委員長	石川 毅（丹波）

基本方針

社会をより良くするリーダーを生み出すこそが地域をより良くすることであり、明るい豊かな社会につながることである。リーダーを生み出す会員拡大はJCの根幹である。



総括

日本中のLOMが「会員数」を追う方法ばかりを求めており、JCの在るべき姿である「社会により良い変化を起こす」や「明るい豊かな社会をつくる」ことを会員拡大につなげて考えていない現状がありました。

つまり、なぜ会員拡大をするのがハッキリしていないのが課題であると考えます。

こうなると会員拡大がやらされている感覚がどうしてもぬぐい切れず、自をもってJCを紹介できないという悪循環が起こっています。

しかし、理念共感拡大パッケージを伝えることにより「まずは地域に必要とされるLOMになるう」を合言葉に地域の発展に向け、質的価値の観点からの経済効果や観光客を増加させるインバウンド、地域の人口減少を改善する目的の例会や事業を行政と協働で行うことで「JCは必要な団体」とまちに認知頂く可能性が高まります。

支援に入ったすべてのLOMに地域に必要とされる考え方、実例の手法を提案し、理解いただきました。2025年度も地域に必要とされるLOMになることをこころがけ「JCだけで企画、実行、事業報告することをやめる」運動を継続していけば、自然と人が集まる組織に近づくかと確しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	会員拡大セミナー	理念共感拡大パッケージの推進 会員拡大の近道は「地域に必要とされるLOMになること」であり、地域にJCは何をする団体なのかを理解いただくことが重要であることをセミナーしました。
他	会員拡大セミナー	オブザーバー網打尽作戦 多くのオブザーバーの波をつける例会を設定し、懇親会でオブザーバーに例会の感想を話させることが重要。そこで多くの人の前でスピーチする体験をさせてから「入会しますか？」とストレートに聞くことで確率が上がる。



会議・委員会名	役職名	担当者名
褒賞委員会	委員長	山崎 隆太郎（宮崎）

基本方針

褒賞事業を通じて、組織全体のモチベーション向上を図ります。



総括

AWARDS JAPANへのエントリー数向上を目的に、全ブロック協議会にてエントリーセミナーを実施いたしました。その際に運動プラットフォーム、Gian Pocketを実際に使用していただくことで活用事例の紹介になり、アクセス数、活用率を向上させることができました。また、各ブロック協議会推薦賞を新設したことで、初めてAWARDS JAPANへエントリーされたLOMも多くみられ、10年ぶりに470件を上回る事業が集まりました。エントリー数が向上し、事業内容の丁寧な紹介を実施したことで、褒賞事業の価値が高まったと言えるアンケートの回答を多数いただくことができました。事業・運動が褒賞事業を通じて全国にロールモデルとして広がることで運動を最大化し、好循環をつくりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	褒賞事業の募集・選考会の実施	賞の見直し、エントリーの環境を整備、細やかなエントリーのフォローを実施することで、10年ぶりに470件を超える事業のエントリーを達成しました。また、349LOMの理事長、7社の賛助企業にもご参加いただき、公平性のある厳正な審査を経て、各種褒賞事業を選出しました。
他	褒賞事業の企画・運営・実施	AWARDS JAPAN 2023、AWARDS JAPAN 2024を開催いたしました。どちらも目標動員数を超える来場者数を記録し、褒賞受賞事業を全国のLOMにロールモデルとして発信する機会となり、運動の好循環をつくりだしました。
他	褒賞受賞事業のロールモデルの確立・普及	AWARDS JAPAN開催当日はもちろんながら、各事業内容をまとめたデジタル冊子を作成しWEB掲載することで、より具体的な参考事例となりました。また、受賞LOMには個別にインタビューを実施し、事業の裏側をお伝えする動画もあわせて掲載。褒賞受賞事業が全国に広がりました。
他	外部褒賞の調査・研究・応募支援	AWARDS JAPAN 2023受賞事業、ノミネート事業を中心に外部の褒賞にエントリーをサポートさせていただきました。目標を上回る9件の事業をエントリーできました。
他	運動プラットフォームを活用した支援の推進	AWARDS JAPANノミネート事業をまとめたデジタル冊子、受賞LOMインタビュー動画など掲載コンテンツを増加させました。また全ブロック協議会にて、褒賞のエントリーセミナーを実施し、実際にWEB画面を操作していただく機会をつくり、活用事例の紹介をしました。
他	Gian Pocket及びODORIBAを含めた活用調査・発信・利用促進・相談窓口	全ブロック協議会にて、エントリーセミナーを実施しGian Pocket経由のエントリー方法を展開しました。さらに、議案データのアップロードを委員会でサポートすることで、1660件の議案が追加されました。また、WEBページの平均エンゲージメントも7分を超え、大幅に活用率を向上させることができました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
JC教育推進委員会	委員長	佐藤 拓郎（おおさき）

基本方針

日本JCがもつ各種教育プログラムを日本各地に普及させることで、明るい豊かな社会の実現に貢献できるLOM及び人財を生み出す。



総括

JC教育推進委員会では、日本JCのもつ教育プログラムであるJCプログラムを全国各地で400件以上開催するとともに、JCプログラムのトレーナーを育成しました。また、理念共感プロモーター育成研修を各地区協議会と連携して開催し、全国各地に200名を超える新規理念共感プロモーターを輩出しました。運動推進の結果、JCの理念と運動展開に必要な基礎知識と技術を全国のメンバーに伝えることができました。また、JCプログラムのトレーナーの育成により、JCの理念を体系的に学ぶ機会を増やし、理念共感プロモーターの育成により、JCの理念共感拡大の基盤を強化することができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成	トレーナートレーニングを20件実施しました。また、地区会長、ブロック会長にJCI Achieveの特別トレーニングを実施しトレーナー資格を与えました。その結果、40名を超える新規トレーナーが誕生し、LOMに対して教育の機会をより身近にすることができました。
他	JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施	JCプログラムを全国各地で400件実施しました。JCプログラムはJCの理念と活動に必要な基礎知識とスキルを身につけることができます。JCプログラムによる人財育成により全国各地のLOMの基盤を強化することができました。
他	理念共感プロモーター育成・支援	地区協議会と連携し、全国10地区にて理念共感プロモーター育成研修を実施し、全国に200名を超える新規プロモーターを輩出しました。全国各地にプロモーターを配置することにより、JCの理念共感拡大の基盤を強化することができました。
他	サマーコンファレンス2024「一生使えるスピーチ術! あなたにもできる!!」	JCプログラム「スピーチ」をサマコンにて開催しました。単にプログラムを開催するのではなく、若手トレーナーのヘッドトレーナーチャレンジの場とすることで、メンバーにスピーチスキルの提供と合わせ、トレーナー育成の一端を披露することができました。



会議・委員会名

人財育成委員会

基本方針

豊かな未来をつくる組織を確立できるリーダーを育成する人財育成カリキュラムを作成・実施することで明るい豊かな社会を実現する。

総括

人財育成委員会では、地域の社会課題を解決できる能力を身につけ実践できるリーダーを育成することを目的とし「Leader's Academy」を実施しました。また、地区協議会と連携し、近畿地区協議会、北陸信越地区協議会でも同カリキュラムを用いて「Leader's Academy」が開催され、延参加者数232名を動員しました。ブロック協議会と連携しブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムを活用したブロックアカデミーを開催していただきました。延参加者数4,213名を動員しました。運動推進の結果、アカデミー生から理事長を担う人財までの育成を行うことができました。人財育成は、社会課題解決を実現できる運動の実施に不可欠な要素であり、今年度は、どの地域でも人財育成可能な環境作りに貢献することができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援	人財育成委員会としてJCプログラムを活用したJAYCEE育成カリキュラムを作成し、47ブロック協議会とブロック連携事業として在籍3年目未満会員を対象に行うブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの推進し、現代の組織が求めるリーダーを育成しました。
他	Leader's Academy	今年度から新たに誕生した新規事業として、トップリーダーに必要なスキルを身につけられるカリキュラムを構築し、1泊2日の事業を実施しました。その後、各地区協議会に事業パッケージを引き継ぎ、実施までの支援を行い、全国各地への波及につなげました。
他	サマーコンファレンス2024「リーダーズセミナー～潜在「脳」力を解放!～」	活動年数が短いメンバーへむけた潜在能力を引き出し成長できるセミナーを実施。一部では講師による潜在能力の解放する方法とその実績をご講演、二部では人財育成委員会の成果と講師の実績を照らし合わせJC活動が社業でも活かされることを発信いたしました。



国際グループ

国際グループ総括



国際グループ担当常任理事 吉田 謙佑（新潟）

各国との対話を重視する運動で世界平和を実現するために、ASPACカンボジア大会では17か国と世界平和実現のために活動を起こすグローバルピースサミットを開催しました。また、各国との常任理事会開催のほか、2026年JCI ASPACの開催地に新潟が決定しました。世界会議桃園大会では、2025年のJCI役員として下山田敬介君がJCI会頭に、渡守紘宜君がJCI副会頭に当選されました。ジャパナイトではリーダーズクロッシングをテーマに参加者は仮装の装いで非常に盛り上がりました。ビジネスマッチング事業では、7カ国に赴き事業を行いました。青少年国際交流事業では4カ国が一堂に会し国際交流を行いました。SMILE by ACTIONにおいてはインドネシアに

雇用を生み出し持続可能な仕組みを構築。世界の次のリーダーを創る国際アカデミーを福井にて行いました。通年の運動で世界平和の懸け橋となる一年になりました。運動に対しご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。ありがとうございました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
国際ビジネス推進会議	議長	山本 雅規（札幌）

基本方針

JCの国際的なネットワークを活用して、日本各地の魅力を世界に発信するとともに、和の心をもって国際協調の確立を行います。



総括

各国とのビジネスマッチング、JCI GOとセカクルの推進を担当しました。JCの世界的ネットワークを活用し、日本JCメンバーとJCIメンバーがビジネス通じた繋がりを構築すべく、タイ、カンボジア、インドネシア、ベトナム、フィリピン、韓国、マレーシアとビジネスマッチングを開催し、日本JCメンバーに海外ビジネス展開の機会を提供するとともに、国際交流の楽しさを発信して参りました。参加企業の中には実際に海外との取引を成立させたメンバーもあり、積極的に海外へ挑戦する気概を多くのメンバーに持ていただくことができました。ビジネスを通して日本と海外の懸け橋としての役割をしっかりと果たせた一年でした。

事業区分	事業名	事業内容
公7	ビジネスマッチングの参画支援及び推進事業	タイ、カンボジア、インドネシア、ベトナム、フィリピン、韓国、マレーシアの7カ国のJCIとビジネスマッチングを開催し、日本JCメンバーの海外意識醸成とともに海外ビジネス展開の可能性について広く発信することができました。
公7	国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開推進事業	自信のビジネスを手軽に全国に、そして海外に発信できるアプリJCI GOの推進を日本全国、アジアを中心に行って参りました。多くのメンバーに登録をいただき、国内メンバーと海外メンバーの懸け橋となる事業を推進することができました。
公7	セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進事業	全国に埋もれたジャパニーズブランドの地域資源を世界中に発信、販売促進するための越境ECプラットフォームサイト「セカクル」の推進を行いました。200社のメンバー企業に新たに登録いただき、海外JCIメンバーに日本JCメンバーの製品を広く発信することができました。
公5	サマーコンファレンス2024「Be the next Generation～新時代を切り開く国際ビジネスの始め方～」事業	桑田一成氏を講師として、海外展開という手法を取り入れ、自社の素晴らしいサービスや製品を世界中に発信し、社業を発展させる手法を学ぶ講演を行いました。参加者が海外展開挑戦のための手法を知ること、海外展開への不安や疑念を払拭し、前向きな気持ちにマインドチェンジすることができました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
グローバルピース委員会	委員長	俵谷 香奈（横浜）

基本方針

互いを尊重し関わりをもつことで恒久的世界平和の実現に向かうことを目指します。



総括

2024年度のグローバルピース委員会では、【世界平和を願うのみではなく行動を起こすこと】をテーマに掲げ全ての事業を行って参りました。グローバルユース国連大使及び少年少女国連大使育成事業では研修に真剣に向き合い、一歩の勇気を出して恒久的世界平和実現に向けた行動を起こしている大使たちの姿を見て将来を担うグローバルな人材の育成に寄与できたと考えます。まだ世界平和へは程遠い現状が世界を覆っております。ですが一人ひとりの小さな行動が、世界を変えることができたと改めて感じることができました。また私が委員長として活動するにあたり支えてくださった委員会メンバー、周りの多くの方々に感謝申し上げます。

事業区分	事業名	事業内容
他	恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進計画	世界平和について考える機会の創出や誰にでもできる世界平和に向かう行動をすることで世界平和の実現を目指すことを目的とし、JCI JAPANグローバルピースプロジェクト、PEACE DAY2024への参画、イオン株式会社様等との企業連携をして運動発進を行いました。
公7	JCI JAPAN少年少女国連大使育成事業 ～君はこの夏、世界を変える～	日本の小学生を対象に、オンライン研修、国内研修、ベトナムでの海外研修を実施し、世界平和の実現について学びました。帰国後、それぞれが住み暮らす地域にて恒久的世界平和につながる啓発活動を行い、世界平和に向けた運動発進を行いました。
公7	JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業	日本の中高校生を対象に、オンライン研修、国内研修、カンボジア・フィリピンでの海外研修を実施し、世界平和の実現について学びました。帰国後にグローバルユース国連大使達は、恒久的世界平和の実現に向けた具体的なアクションを考え、啓発活動を行いました。
公7	JCI JAPANグローバルピースサミット事業	ASPACにて各NOM会頭にご出席いただき、各国が実際に実施している世界平和へ向けたアクションを発表いただきました。日本のグローバルユース国連大使育成事業に強く賛同いただき、次年度以降日本以外での開催を検討する運びとなりました。
公5	サマーコンファレンス2024 「国際フォーラム『愛と平和』を描きだそう」	サマーコンファレンス2024にて、日本を代表する漫画家の浦沢直樹氏をお呼びして、世界平和についてご講演いただきました。参加した各LOMが恒久的世界平和への実現に向けた具体的な活動のヒントなる運動発信を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
持続可能な国際開発委員会	委員長	角 俊太郎（東京）

基本方針

開発途上国における持続可能な国際開発の推進のため、フィリピンとインドネシアにて事業を行いました。



総括

SDGsの達成に向け、開発途上国にて2つの事業を行いました。
SMILE by WATER 事業では、JCIマニラの協力のもと、フィリピンにおいて給水所を設置しました。近年急速に発展しているフィリピンですが、未だ清潔で安全な飲料水を確保できない人々は数多く、3,400世帯13,600人の生活水準向上へと寄与しました。昨年からスタートしたSMILE by ACTION事業は、世界の環境課題へのアプローチと、開発途上国における雇用創出を目的としております。本年度はインドネシアのバンドンにおいて、環境負荷の低い養蚕事業の普及と桑畑の造成を通じ、地域の女性に就業の機会を提供しました。

事業区分	事業名	事業内容
公3	JCI JAPAN SMILE by ACTION 2024 in Indonesia	インドネシア・バンドン市で貧困に苦しむ女性たちを支援するため、環境に配慮した養蚕事業を展開しました。シルク製造が環境に優しく、廃棄物を減らす効果もあり、地域の雇用を創出し、持続可能な経済活動を推進するビジネスモデルを構築できました。
公3	JCI JAPAN SMILE by WATER 2024	フィリピンにおいてWATER STATION(給水施設)を設置し、誰もが清潔で安全な水へアクセスできる環境を構築しました。また、設備の持続可能性を高め、地域の自立支援のために、水を利用したキャッサバ栽培とティラピアの養殖業を興しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
国際連携支援委員会	委員長	金木 隆敏（福井）

基本方針

各NOMと信頼関係を築くとともに、各NOMへの存在感を示すために、青少年国際交流事業を行いました。



総括

本委員会は、青少年国際交流事業、JCI AWARDSを担当しました。
タイのバンコクにて青少年国際交流事業を行い、日本、タイ、台湾、インドネシアの4カ国の中学生31名が一堂に会しました。戦争博物館では平和、エレファントワールドでは自然環境を学び、交流を行うことで多様な価値観に触れることができました。
事業を通じ、お互いを受け入れることのできる人財の育成をすることができました。
また、JCI AWARDSにおいては、LOMより申請のあったプロジェクトの英訳支援を行い、最優秀組織間協働プロジェクトに東京JCが選ばれました。これからも日本と世界の架け橋となるよう運動を展開しました。

事業区分	事業名	事業内容
公7	青少年国際交流事業	タイのバンコクにて青少年国際交流事業を行いました。日本、タイ、台湾、インドネシアの4カ国の中学生31名が一堂に会し、国境を越えた関係を構築しました。友情を深め、お互いを理解し合っておりまし。本事業が世界平和の一助となったと考えております。



会議・委員会名	役職名	担当者名
グローバルアライアンス構築委員会	委員長	高橋 佑介（太田）

基本方針

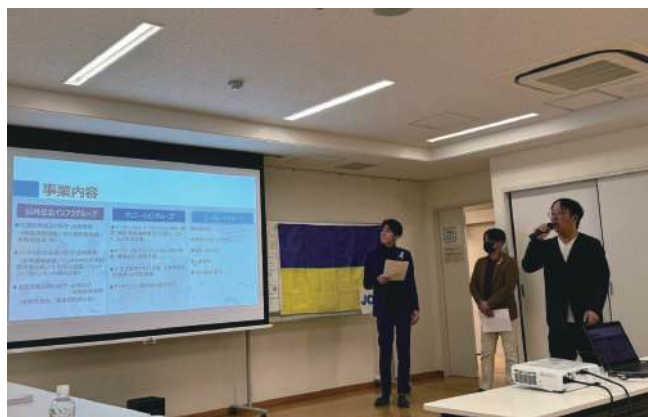
民間外交の加速によるアジア太平洋地域の平和維持と相互理解の推進を行う。



総括

本委員会は、アジア太平洋地域の各国NOMとの関係をより強固にする渉外業務と、戦争などにより国内だけでなく国外へ避難を余儀なくされた支援の必要な方々が自立した生活が送れるようになるために、就労支援などの様々な生活支援を提供し、避難された方々が安心して生活を送れる支援事業を行いました。渉外業務においては京都会議等諸大会において海外デリゲイツの受け入れを行い、民間外交を推進いたしました。支援事業においてはウクライナ避難民支援を行い、就労課題の解決に尽力しました。結果として1名の就労と5名のインターンシップの機会を提供することができました。また提言書を作成し、協力団体への提言を行いました。

事業区分	事業名	事業内容
公6	緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進	日本国内へ避難してきているウクライナ避難民に対して、生活の基盤となる就労支援の推進を行うため、就労マッチングイベントを開催し、その後の就労フォローを行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
JCI関係委員会	委員長	富永 晃司（名古屋）

基本方針

JCIと有機的なネットワークを構築し、対話をもった友好的な国際関係を構築することで、各国との協調することを目指します。



総括

京都会議から始まり国際アカデミー、全国大会においてJCI役員の方々と交流の機会を創出して日本JCとJCIの友好関係を深めることができました。4月から始まるエリア会議においても全てのエリアに参加しました。ASPACアンコール大会では下山田常任理事が議長を務め、ジャパンナイト、レセプションの開催、そして2026年度ASPAC新潟大会の誘致が決定しました。そして世界会議桃園大会では台風の影響がありましたが、無事にレセプションとジャパンナイトの開催、そして2025年度のJCI会頭として下山田敬介君が当選されました。2024年度はすべての事業を滞りなく開催し次年度JCI会頭を日本JCから輩出ということで高い場所にて次年度へバトンを渡すことができました。

事業区分	事業名	事業内容
公7	日本で相互理解が促進できる事業の推進計画	インターナショナルナイトを通じて、来日されたJCI役員及び海外デリゲイツに対しまして、開催地によってさまざまな和を通じた日本文化を体験していただき、JCIメンバー同士の相互理解を促進して、日本JCの運動を通じて友好関係を強固にすることができました。
公7	JCI ASPACアンコール大会における大会対応	今大会は日本輩出の下山田君が議長を務める大会であり、日本JC主催のプログラムを通して、リーディングNOMとしての姿をアジア太平洋地域のメンバーに示すことができました。国境を越えた相互理解と信頼関係の構築につながる国際の機会となりました。
公7	JCI ASPACアンコール大会におけるジャパンナイトの企画・運営	今回は日本の夏祭りをテーマとし、シェムリアップの地を日本の夏祭り一色で染め上げることで、日本の魅力を発信し、海外のメンバーとの交流を深めることができました。各地青年会議所の皆様には50を超えるブースを出展いただき、会場を盛り上げました。
公7	JCI ASPACアンコール大会における会頭招待レセプション	リーディングNOMとして、JCI役員及び各国NOMの会頭に日本の魅力を伝え、民間外交の粋を超え、国際交流が出来ました。また日本食メニューの数々に海外ゲストの皆さんがとても感動していました。日本食、日本の文化である書道を通して、日本の魅力を発信する良い機会となり、ブース出展においてもゲストの皆さんとの情報交換が活発に行われていました。今回のレセプションは参加者との相互理解につながったと考えます。
公7	JCI世界会議桃園大会における大会対応	日本からは2,000名を超える登録数となり、多くの日本JCメンバーにご参加いただける大会となりました。海外メンバーと交流するために開催させていただいたグローバルコミュニケーションでは総勢50名にご参加いただき、国際的な交流を深める機会となりました。
公7	JCI世界会議桃園大会におけるジャパンナイトの企画・運営	「Leaders Crossing～あつまれ未来のリーダーたち！～」をテーマに、様々な交流が行き交う場の創出を目的に開催しました。ハロウィン当日のためドレスコードを「仮装」としたことにより、言葉の壁を越えた交流が会場各地で生まれていました。
公7	JCI世界会議で相互理解が促進できる事業「会頭招待事業」企画・実施	JCI役員や各国NOM会頭に「感謝の意」を伝えるとともに、日本文化を各ブースや食事内容、オープニングアクト等で発信しました。約150名の海外ゲストをおもてなしし、日本からの次年度JCI会頭輩出や2026年度ASPAC新潟開催への期待と信頼をさらに高める機会となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
国際アカデミー委員会	委員長	西川 洋平（東大阪）

基本方針

国際社会でリーダーシップを発揮する、和の心をもったグローバルネットワーカーを創出します。



総括

第37回国際アカデミーin福井および、それに伴うブレ国際アカデミーを開催させていただきました。どんな困難なことも事でも仲間と力を合わせれば必ず達成できる、という想いを込めて「We can make it!」というテーマを掲げ、パスカル講師による講義に加えて日本・福井の魅力を体験いただきました。

ブレ国際アカデミーは全国から150名が参加し、本体事業では海外から71名、国内から94名の次世代のリーダー達が一堂に会しました。リーダー育成研修カリキュラムの学びだけでなく、寝食まで6日間共に過ごすことで、リーダーとしての資質向上に加え、国境や性別、宗教などの隔たりを超えた友情を育むことができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	ブレ国際アカデミー	グローバルネットワーカーによるディスカッションやパスカル講師によるモジュールを受講することにより、国際アカデミーの魅力を周知し、本体事業への参加意欲向上へつなげました。また、福井JCメンバーや当委員会内の事業への理解を深めました。
公7	第37回国際アカデミーin 福井	「We can make it!」というテーマを掲げ、パスカル講師によるリーダーシップ研修を通して相互理解と友情を育みグローバルネットワーカーの誕生の機会としました。さらに、開催地である福井JCと協力し、日本と福井の魅力を発信できました。



総務グループ

総務グループ総括



総務グループ担当常任理事 内山 瑛 (浜松)

総務グループでは「共感と信頼を生むブランディングと時代に即した組織運営」を基本方針とし、時代に即したより効果的な運動の基礎となる組織をつくるために運営を行って参りました。まずは、より多くの人々に青年会議所の魅力ある運動に共感していただくために、1年を通じて積極的なSNS配信を行うとともに、各マスメディアとの連携の推進を行いました。特にSNS配信については例年よりも多くの配信を行い、フォロワーの数を伸ばすことができました。そして、規則面・財政面での日本JC各会議・委員会、各協議会、各LOMの支援を行い、会計の透明化と財務体質の健全化に努めるとともに、厳格かつ柔軟なコンプライアンスの強化を図りました。また、青年会議所建替

については、各パートナーとの協議を重ね、議論を着実に前進させることができました。さらに、日本JCの運動が円滑に遂行されるよう、会頭及び役員の活動を支援するとともに、各協議会・各LOMとの連携を深めて参りました。また、2024年度の運動の発信の場となる京都会議を開催し、2024年度の運動に勢いをつけることができました。結びとなりますが、一年間多くの皆様よりご理解、ご協力をいただき活動できましたことに、心より感謝申し上げます。

会議・委員会名	役職名	担当者名
JCブランディング会議	議長	岡村 和樹（埼玉中央）

基本方針

時代に先駆けた共感と信頼を生むブランディングを実施し、日本JCへの理解者、協力者を増やすこと。



総括

2024年度JCブランディング会議では、共感と信頼を生むブランディングを確立することを目指し、各種情報発信を行なって参りました。SNS発信では、写真にこだわり視覚的に情報を伝えることを重視しました。この方針のもとに統一した情報発信ができるよう当会議体による広報審査を実施しました。会議・委員会の皆様にもご協力をいただいたことから、正確かつ魅力あふれる情報の発信ができました。機関紙であるWe Believeでは、全国のメンバーの活躍を紹介することで対内的な興味をもってもらうとともにビジネスを中心に社会情勢に関するコラムを掲載するなどメンバー以外にも興味をもっていただける誌面作成に心がけました。

事業区分	事業名	事業内容
他	JC運動への共感と信頼を生むブランディング戦略の策定・実施	SNSをはじめとする発信について、写真にこだわり、一目で何を伝えたいのかがわかるように心がけました。また、投稿文の文字数も抑え、視覚的に伝わる発信を実施しました。
収3	JC運動への共感と信頼を生む機関紙We Believeの作成・発刊・検証・管理	メンバーの会社の従業員や家族など、日ごろJCの運動に触れることのない身近な人に対しても読んでもらえる機関紙を目指しました。一般の雑誌等で目を惹くような表現手法やデザイン・コンテンツを取り入れました。
他	日本JC公式HPの作成・管理・運営	HPの全面リニューアルを実施し、必要な情報をすぐに取得できるレイアウトにしました。
他	SNS等を活用したJC運動への共感と信頼を生む情報の発信	日本JCの運動や事業をタイムリーに発信しました。また、今年は写真にこだわりました。
他	共感と信頼を生む運動の発信方法の調査・研究	日々の情報発信の中で、効果的な発信方法の調査検討を進めました。また、アドバイザーに助言を求め、専門家の視点を取り入れました。これら調査・研究の成果をマニュアルにし、ブロック協議会へ展開しました。
他	発信力のある企業・外部メディアとのパートナーシップの構築・連携	テレビ神奈川とのパートナーシップの構築を進め、次年度以降も協力してもらうことになりました。
他	各種メディア対応	京都會議では現地メディアへの訪問により記者会見の来訪メディアが増加しました。また、メディアにプレスリリースを渡すことで日本JCの運動や事業がメディアに取り上げられました。
他	笑顔あふれる豊かな未来実現のためのグループ間の連携	会議・委員会の発信の全てをチェックし、助言しました。これにより、発信全体のクオリティの確保ができました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
財務運営会議	議長	山本 高義 (立川)

基本方針

日本JCが積み上げてきた資産を未来につなぎ、JC運動の目的と活動内容を本質的に理解した賛助企業の継続的な協力と新たな外部資金の調達を目指し、安定した財務基盤に支えられた組織運営の実現をします。



総括

本年度は、基本計画に掲げた目標の達成に向け、新規賛助企業の拡大、賛助企業との連携強化・向上、災害時における資金管理、クラウドファンディングの推進、附帯収益の管理、青年会議所会館の管理、青年会議所会館建替関連の管理を重点に取り組みを行いました。特に、附帯収益の管理では商品ラインアップを拡充し、小規模LOMでも使用できるアジェンダシステムを構築し、新たに91LOMに導入していただきました。また、クラウドファンディングでは、CAMPFIREと連携し、7件のプロジェクトから390万円以上の寄附を獲得しました。

事業区分	事業名	事業内容
収2	日本JCの財務基盤の強化及び新規賛助企業の拡大	附帯収益の継続的な管理と商品ラインアップを拡充しました。また、新規賛助企業の確立も目指し、1社の新規賛助企業を獲得しました。
他	賛助企業との連携強化・関係向上、会議・委員会・協議会と協賛企業とのマッチング実施	賛助企業12社との定期的な打ち合わせを行い、協議会への協賛金の獲得、業種別部会との連携を行いました。
他	賛助企業の諸大会・事業におけるブースの設営・対応・推進	京都会議、サマーコンファレンス、全国大会開催時に賛助企業と相互のメリットを検討し、ブース出展、チラシ配布、CM放映をしていただき、賛助企業の周知を行いました。
収1	青年会議所会館の管理・運用	青年会議所会館において、必要な修繕を取捨選別し、持続的な使用を担保するために運用を行いました。
他	災害時における資金管理マニュアルの更新	災害時における資金管理マニュアルのブラッシュアップを行いました。
他	各LOMの財政基盤強化のための賛助企業の紹介、協賛金の獲得支援窓口	LOMからの賛助企業獲得に向けた問い合わせや手法に関する質問などに対応させていただきました。
他	助成金、補助金に関する調査・支援	CAMPFIREとの連携を実施し、2024年度は9件のプロジェクトが実施され、390万円を超える額の寄附をいただきました。
収2	必携品の活用方法の改善	株式会社和光と連携し、商品ラインアップを拡充し、必携品の改善に努めました。
他	相互メリットのある企業や団体とのマッチング・連携	日本JCとして、相互メリットのある企業や団体を検討し、連携を構築いたしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
財政審査会議	議長	佐藤 比香留（福山）

基本方針

公益社団法人として取り扱う日本JCの資金の会計処理において、規律ある財政の管理と費用対効果と生産性の向上を図る。



総括

財政審査会議として、各会議、委員会、各協議会の事業予算の精査や事業の公益目的の審査をし、事業終了後は決算報告が円滑に行えるように導いて参りました。各会議、委員会に指導するなかで、最終審査機関であり、各会議、委員会の応援団としてサポートすることで日本青年会議所の運動を最大化できるよう進めて参りました。また、サマーコンファレンス・全国大会の領収書電子化に向け、課題・リスクに対応したうえで、要件定義、操作マニュアル、FAQ、規則ルールの拡充を図って参りました。次年度担当者も交えて打合せを実施し、2025年度に速かに導入できるようにし、業務を効率化できるよう対応しました。

事業区分	事業名	事業内容
他	予算案及び決算書の精査	公益社団法人として「公益目的事業比率50%以上」を満たすべく各会議、委員会からの事業予算を精査し予算案を作成しました。また、各事業における予算執行をチェックし適正な決算書を作成することで財政の健全化を図りました。
他	諸事業の予算及び決算の審査	毎月審査会を行うことで、各会議、委員会が行う事業における予算及び決算の精査、厳格な審査を行うことで、会計の透明化とJC 運動の効果の最大化を図りました。
他	会議・委員会会計の指導・支援	各会議、委員会が出向者から集める会議、委員会会計について、適正な運営、使用、処理がされているか確認し、各会議、委員会が適切かつ効果的な運動を実現できるよう、指導、支援を行いました。
他	各協議会事業の予算・決算審査及び月次決算の指導・支援	各協議会の運動が最大限効果を発揮するため、予算、決算の確認や審査、財政担当者の支援、指導を行うこと、及び月次決算の指導を行うことで、運営の適正化及び透明化を図りました。
他	監査・内部会計監査人グループとの連絡・調整	日本JCの財務面での健全化と事業の公益性、費用対効果を担保するために、監事や内部会計監査人グループとの連携を強めることで、監査結果の精度を高めました。
他	諸事業の公益目的の管理	日本JCが公益社団法人格を保つために、公益目的に沿った諸事業が開催されているかを確認し、公益目的比率50%以上を達成するべく公益審査会議を行いました。
他	各協議会事業の公益目的に関する 指導・支援	日本JCが公益社団法人格を維持するために、各協議会が公益目的に沿った事業を開催できるよう相談、指導及び支援を行いました。
他	各協議会会計に関する相談窓口	各協議会の会計を適正に保つために、会計全般をサポートすることで、各地区、協議会の会計問題をスムーズに解決するようにしました。
他	時代に即した組織運営に資する会計マニュアルの精査	日本JCの会計マニュアルに関して、JC運動の生産性の向上のために、変更や簡略化すべき部分がないかを精査し、運営の生産性向上のための提案を行いました。
他	各LOM会計に関する相談窓口	各LOMの会計の健全化を図るため、財政審査会議メンバーが各LOMの相談に応じて必要な助言指導を行い、会計問題や公益比率問題の課題解決に寄与し、適正かつ透明な組織となるようにいたしました。
他	事業における会計処理を効率化するシステムの調査・策定・検証	日本JCの事業における会計管理を簡略化し、ミス等の発生に気づくことができるシステムの構築により効率化を図りました。2024年度も継続してGaroonを使用し、申請処理、承認処理を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
規則審査会議	議長	木村 光太郎（茅ヶ崎）

基本方針

突然のリスクにも柔軟に対応し、コンプライアンス管理体制において揺るぎない信頼を獲得する、あらゆる法人の模範となる組織。



総括

規則審査会議は、日本JCに所属する35議委員会、10地区47ブロック協議会、それらが構築する事業や事務対応等が膨大にある中であらゆる法人の模範となるコンプライアンス管理体制を構築するため「仕組み作り」と「実践」を日々行いました。具体的には、①ルールに則った組織運営、②事前のチェック、③青年会議所メンバーに対する意識啓発、④青年会議所メンバーのための相談窓口設置という観点で「仕組み作り」と「実践」を行いました。コンプライアンス管理体制を構築することが組織の信頼を高められることを実感した1年でした。膨大かつ迅速な確認が常に求められる中、コンプライアンス管理にご協力いただいた全ての方々に感謝を申し上げます。

事業区分	事業名	事業内容
他	公益社団法人としての定款並びに規則の管理	25年度からの北海道ブロック協議会2ブロック制移行に伴う諸規程の改正等、近年続発する不祥事事件対応のためのリスク管理規程の制定、JC会館建て替えのため必要な規則の改正を行いました。
他	コンプライアンス審査会議	日本JC本会上に上程される全ての議案に対して、毎月コンプライアンス審査会議を行いました。また、審査会議の基準となるコンプライアンスマニュアル、コンプライアンス様式について、より適切なものとするためのブラッシュアップを行いました。
他	コンプライアンスに関する相談窓口	京都会議にて財審・規則・内監セミナーを開催したほか、グループLINE等を通じて、すべての地区協議会、ブロック協議会、会議委員会、LOMの相談窓口となり、危機管理マニュアルを作成して、社会の信頼を応えられるよう助言支援を行いました。
他	LOMの法人格に関する業務	公益から一般に法人格を移行するための支援、青年会議所の解散や名称変更等に関する相談を受けて支援を行いました。
他	対外関係者に関する文書の管理に関する業務	対外関係者と関係する契約書や対外配信資料の事前確認を行いました。会頭公式文書については、組織の意思決定を円滑に行うため昨年に引き続きグループウェアを活用し、体裁を含めて確認をしました。2024年度の報告となるアニュアルレポートの確認と作成をしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
新JCビル建設準備委員会	委員長	坂本 彰輝（横浜）

基本方針

新JCビル建設に向けカウンターパートとの協議や連携を管理し日本JCの運動を止めることなく新JCビル建設につなげていくことを目指します。



総括

青年会議所会館建替に向けて1年間活動して参りました。物価高騰の社会情勢により、設計施工業者の契約解除及び再選定や事務局仮移転先の内装工事を進めて参りました。中でも、「未来の青年会議所を創る協力金」においては第177回総会でご審議いただき、来年より協力金を集めさせていただくことが決定し、また多くのメンバーの皆様へ会館建替に対する寄付をいただくことができました。2027年中建物竣工に向けた大きな1歩を踏み出す1年となり、来年以降も準備を進め、新JCビルが無事に完成することを祈念しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	建築設計定例会議	毎週1回JC会館において、設計会社及び建設会社と定例会議を行い、内装イメージの共有やテナント運用の運用方法、工程スケジュールの調整確認等を行いました。
他	未来の青年会議所を創る協力金説明会	全国各LOM理事長にご参加いただきzoomで、未来の青年会議所を創る協力金の使用用途や新JCビルの概要、建替が必要となった背景等を説明する説明会を開催致しました。
他	3大会における募金活動	1月の京都会議、7月のサマーコンファレンス2024、10月の全国大会福岡大会において、募金活動を行い多くの会員の方から温かい寄付金を頂戴することができました。
他	日本JC事務局の移転計画	新JCビル建設に伴う日本JC事務局の移転の計画準備を行いました。



会議・委員会名

渉外委員会

基本方針

日本青年会議所の運動が円滑に遂行されるために各会議・委員会・協議会と連携調整及び連携強化を目的として活動いたします。

総括

年間を通して役員の活動が円滑に進むよう、対応チームを組んで活動して参りました。諸大会では、役員やブロック会長、議長委員長などとの連絡調整に携わりました。また、理事長や各地の会員会議所メンバーと直接交流し、関係を築くために47ブロック会頭公式訪問を実施しました。2024年度も、LOMの抱える課題や情報の把握を目指し、総合的な連絡調整機関として、意見交換会形式での会頭公式訪問を行いました。

渉外委員会の業務の中で、役員だけでなく全国各地の様々なメンバーと交流した経験、そしてそこから得られた知見は、渉外委員会メンバーにとって貴重なものとなっています。

事業区分	事業名	事業内容
他	各会議・委員会・協議会との連絡調整	各会議・委員会・協議会と連携を密に取り連絡調整を行うことで日本青年会議所の運動を円滑に推進することができました。
他	会頭並びに役員の国際会議並びに諸大会参加の支援	会頭並びに役員の皆様が万全の体制で国際会議・諸大会に臨むことができるように関係各所や会議・委員会と連携を取り参加への支援を行いました。
他	会頭並びに役員の各地訪問における運動発信の支援	会頭並びに役員の皆様が国内各地を訪問する際に日本JCの運動が円滑に発信できるようにするため関係各所と連絡調整を行いました。
他	日本JC役員LOM訪問及び講師派遣の対応	日本JCの役員の皆様がLOMに訪問する際や講師派遣の依頼を受けた際に円滑に進むための支援を行いました。
他	47ブロック会頭公式訪問の支援	総合連絡調整機関の代表として会頭が全てのブロックを訪問し、各地のメンバーとの関係構築を行うことでLOMが感じていた日本青年会議所との壁を取り除くことで連携の円滑化をはかるとともに、LOMの抱える課題や情報把握を行えるよう意見交換会形式での会頭公式訪問を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
総務委員会	委員長	森田 俱亘（大阪）

基本方針

日本JCの諸会議を適切に運営し、発展的な議論が行われる環境構築と厳格なルール及び期限に基づき運動の効果を最大化すること。



総括

総務委員会では、日本JCの掲げる目標を実現するため、日々業務に取り組んできました。ルールやフォーマットを策定することで、効率的で実りのある会議を運営し、京都会議では多くの会員と共に厳格な会議運営を行いました。また総会での議決権行使書と配布資料の電子化を継続して行いました。昨年から課題であった紙資料の使い分けという点に関しても、会議や資料の内容に応じて使い分けを行うことができました。しかしながら、今後はSDGsの観点から、資料の電子化をさらに進めていく必要があると考えています。これからも適切で円滑な諸会議運営を行うことで、青年会議所の運動が最大の効果を発揮することを目指していくことが必要です。

事業区分	事業名	事業内容
他	日本JCの総会及び諸会議の設営	総会を3回開催し、昨年に続き、議決権行使の電子化を推進いたしました。また、諸会議においては、上程スケジュールの徹底やマクロを活用した議案精査を行い、効率的かつ議案の質の向上を図りました。
他	各会議・委員会の議案上程期限の徹底と内容の精査	グループごとに担当副委員長を配置し、連絡系統や上程管理、議案精査を一貫して行いました。また、チェック機能を有したマクロを各会議委員会に配布することでさらなる精度を向上させました。
他	日本JCの議案上程システムの普及	議案上程システムの導入を希望された各地会委員会議所に対し、個別に対応をいたしました。財務運営会議と連携して、新たな議案上程システムの普及いたしました。
他	統一基本運営マニュアルの内容精査と改訂	各会議委員会及び各協議会が適切な運営を遂行するために、会計、コンプライアンス、広報、上程等のルールについて精査、更新を行い、製本配布いたしました。またオンライン上でも確認できるようにいたしました。
公5	京都会議の開催	テーマを「Stand up, Leaders!」とし、会頭所信やフォーラム、様々な企画を通して、笑顔あふれる未来へ向け、1年間の運動の方向性を理解し、リーダーとして行動を起こさなければならないという気持ちを持ち、決起する場といたしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
内部会計監査人グループ	代表	白鳥 佑記（厚木）

基本方針

公益社団法人日本青年会議所の会計監査の適正化を図るため、監事を補助します。



総括

2024年度は、前年度から中間監査を1回減らす代わりに、協議会に対しては監査セミナーとバランスマンセミナーを実地開催し、中間監査の前には解説動画を配信するなど、監査資料作成に向けて例年になくサポートを行って参りました。他方で本会に対しては、京都會議、サマーコンファレンス、全国大会、これらの内部監査について例年では外部監査前に実施していなかったものを、本年度は執り行い、外部監査前に資料の修正などを行うことができました。本年度も、公益社団法人日本青年会議所の会計監査の適正化を図るために監事を補助するという目的を達成できたと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	監査・バランスマンセミナーの実施	協議会に対して、会計監査とWEBバランスマンの使用方を講演いたしました。
他	中間監査の実施	上半期の議案書・財務諸表・計算書類の内容が適正であるかを監査いたしました。
他	決算直前監査の実施	下半期の議案書・財務諸表・計算書類の内容が適正であるかを監査いたしました。
他	決算監査の実施	1年間の議案書・財務諸表・計算書類の内容が適正であるかを監査いたしました。



地区協議会・ブロック協議会

会議・委員会名	役職名	担当者名
北海道地区協議会	会長	土橋 広侖（斜里）

基本方針

広大な大地に住む道内メンバーと地域住民が地域課題の解決に向けて誰もが主体性をもって幸福を感じる未来を描き、挑戦する。



総括

北海道地区協議会は昨年より協議会アップデートとして現在の1地区1ブロック4エリアより1地区2ブロックの組織体制について移行を決議し、今後の協議会が各地会員議所の必要とされるまた北海道の先進的な課題解決に向けた協議会への基盤作りを相互理解の上で構築して参りました。また、地域が抱える課題解決に向けた運動として、地域の魅力を最大化のためATモデル、各地域や企業が持続可能な発展のためDXやGX推進、日本または青少年取組みやすい環境整備のため北方領土返還要求運動、災害に強い北海道のため防災対策に取組みました。それらの運動を広く道民に発信するため、北海道JCフェスティバル開催、さらには一年間の運動の成果報告するため、北海道地区大会小樽・余市大会開催し、北海道の明るい豊かな社会の実現に向けた一助となる成果を残すことができました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCフェスティバル2024 「北海道ファミリーフェスティバル」	北海道地区大会と並ぶ、最大の運動発信の場として例年開催しているJCフェスティバルを、本年は名称を新たに開催しました。「笑顔溢れる未来への一歩」のテーマの元、誰もが親しみやすいイベント型事業を通して、道民の皆様が社会課題に触れていただきました。
公5	第73回北海道地区大会小樽・余市大会	当委員会の1年間の運動実績を有識者からの知見をもとに纏め、フォーラムにて委員会メンバーより運動パッケージの周知、報告を行いました。また、行政、民間企業、市民との連携共助を重視し伝えることで、参会者の意識醸成を行うことができました。
公7	2024 JCI ASPACアンコール大会 ブース出展	カンボジアの地に、北海道の魅力を伝えるために、北海道で作られた飲料水でトロピカルジュースを提供し、カップに北海道観光資源のQRを組み合わせて提供することで、効果的な魅力の発信を行いました。
公5	スポーツ×まちづくりで笑顔溢れる コミュニティを	北海道芦別市にて、事業参加者に対し、地域活性化運動に積極的関わる市民の方々の意識醸成を行うために、芦別JC協力のもと、芦別市民と共に、スポーツの魅力講演を通してオリンピアから学び、スポーツを通してのコミュニティの形成をヨガ講師から学ぶことでました。
公5	JCフェスティバル2024 観光×まちづくりで笑顔あふれる地域づくりを	ATの魅力伝えるブースを展示し持続的自走可能な地域活性化の意識醸成を行うために、フォーラム及びブース展示を開催し、香川県三豊市の地域活性化成功事例をもとに、関わった講師から芦別市の子ども達と共に、トークセッションを行いました。
公5	第73回北海道地区大会小樽・余市大会 次代を担うのは君だ！〜共感と共創が もたらす共助の未来〜	各地LOMの地域活性化に対して、積極的な運動を起こす意識醸成を行うために、一年間の運動を委員会メンバーからプレゼンテーション形式で行い、ATを軸とした地域活性化に必要な軌跡、展望、使命、動機付けの課程で伝えることで行動変異を促しました。
公3	JCフェスティバル2024 誰でも始められるGXとDXで ゼロカーボン北海道へ	脱炭素への意識を向上させるために、子どもたちによるフリーマーケットを開催し、脱炭素に関わる関係諸団体と連携し、脱炭素セミナーを同時開催することで、誰もが始められる脱炭素への取り組みの一助としました。
公3	第73回北海道地区大会小樽・余市大会 地域も企業も脱炭素時代へ 〜世界が憧れる北海道の可能性〜	中小企業が脱炭素社会へ寄与していくために、脱炭素への取り組みを率先的にしている企業、行政の方にトークセッション形式で脱炭素経営の重要性を伝え、GXへの取り組みのメリットを説明してもらうことで、脱炭素経営を自分事としました。
公1	第10回JICカップ少年少女サッカー 北海道地区予選大会	次代を担う子供たちが、互いを尊重し、勝負に負けたときにこそ相手を称え、敬うことができる心豊かな人材に育成することと、親切心を養うために、JICカップU-11少年少女サッカー予選大会を開催し、アフターマッチミーティングを実施することで、互いを思いやり、尊重するといった精神性を育むことができました。
公4	JCフェスティバル2024 北方領土をもっと知ろう	北方領土問題への意識向上のため、北方領土すごろくや、北方領土キャラクターの着ぐるみとの写真会と言ったご家族にも親しめるようなブースの出展、そして有識者にご登壇いただき北方領土問題の基礎知識や返還要求運動の現状について発信するトークセッションを実施しました。
公4	第55次北方領土返還要求現地視察大会	北方領土返還要求運動を次代につなぐことを目的に、意識喚起事業として高校生による出前講座、元島民による語り部、日本全国の領土問題についてのトークセッションを実施しました。また、大会式典も実施し、ご来賓の皆様からのご挨拶や、高校生のスピーチを実施しました。
公4	第73回北海道地区大会小樽・余市大会 北方領土返還への道のり	北方領土返還運動を次代につなぐために、領土問題を専門とする北海道大学教授の岩下明裕様、学生の立場で返還要求運動を展開する久保歩夢氏をお招きし、講演とトークセッションを実施することで、北方領土問題の現状と運動のあるべき形を学びました。
公6	有事に備えた災害ネットワーク強化	有事に対して実行可能なネットワーク構築を行うために行政や団体と情報共有を行いました。また、北海道JC災害支援ネットワークについても役員が役割を認識していただけるため、調印式やLINEグループを活用し災害情報を共有し運用の機運を高めました。
公6	令和6年能登半島地震における 支援物資調達および輸送	令和06年01月01日16時10分、石川県能登半島において最大震度7の大地震が発生し、地震による家屋の倒壊だけではなく火災、津波などによって、甚大な被害を受けたことにより、北海道地区協議会では被災地のために一日でも早い復興に向け物資支援を行いました。
公6	JCフェスティバル2024 親子で知ろう！今そこにある防災	VR機器を用いて災害が発生する場面を幅広い年齢層の方に体験していただき、お子様にはタブレットを用いて防災ゲームを体験していただいたことで楽しく防災についての知識を向上できました。フォーラムでは実体験を基に必要な防災知識の共有を行いました。
公6	全国一斉事業 ネクストリーダーによる 被災地支援プロジェクト	能登半島地震に対する報道や支援の輪が減少傾向にある中で、高校生を被災地へ派遣し支援を通じて得た経験をもち帰る伝播することにより、能登半島地震を風化させないよう機運を醸成しました。
公5	第73回北海道地区大会小樽・余市大会 個人と地域の未来を支える防災	防災は「繰り返し」と「楽しく」が大切であるため、VR機器と消火器体験を本物の消火器を使用した体験を行いました。現代のインフラに欠かせない、電気とインターネットを災害時でも使用できる電気自動車とスターリンクを展示し説明を行いました。
公5	2024年度広報戦略	青年会議所をブランディングし、より社会に必要とされる組織として認知されるべくYouTubeやSNSを用いた広報を年間通じて行ってきました。また、北海道地区協議会の委員会や道内LOMの事業が広く認知されて社会との接点を持つように活動を行いました。
公5	JCフェスティバル2024 クイズスタンプラリーでプロパー事業に 動員しよう！	紙のスタンプラリーという手法を用いて、北海道ファミリーフェスティバルにおける各委員会のブース出展の集客を補助し、来場者が全ブースをまわるきっかけを創出しました。また、会場内一般客に対して、北海道ファミリーフェスティバルの内容の周知並びに各種ブースへの集客動員を行いました。
他	第73回北海道地区大会小樽・余市大会 「石川・能登応援プロジェクト」 北海道地区協議会開催	石川県の応援消費を啓発するため、北海道地区大会にて能登牛を販売するブースを出展し、北海道の会員で促すことで石川県を支援しました。また、内容、風景を発信し青年会議所のブランディングを高める一助といたしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
東北地区協議会	会長	菅原 啓太（仙台）

基本方針

東北の経済活性化と社会環境向上を目指し、国際人財を育成し笑顔あふれる東北の未来を創造します。



総括

本年度は、地区協議会独自事業を可能な限りスリム化し、本会が進める運動を地区内でも推進することを中心に据えました。特に、インバウンド増大による地域経済活性化、政策甲子園東北地区大会の開催、理念共感プロモーターの育成、JCI GO及びセカクルの登録推進等、本会各グループが取り組む運動を推進して参りました。また、地区協議会の価値を高めるにあたり、他地区協議会と連携し事業を実施しました。具体的には、近畿及び九州地区協議会と連携し、国際事業を実施いたしました。以上の取り組みにより、地区協議会が取り組むべきことを整理し、より効果を高めることができたと考えております。

事業区分	事業名	事業内容
公2	『第二回政策甲子園東北地区予選大会』参加校募集	第二回全国高校生政策甲子園東北地区予選大会を実施する上で、実施は7月末であるが、早くから募集を開始し、多くの参加チームを募り、政策甲子園東北地区予選大会の気運を高める。
公2	第二回全国高校生政策甲子園東北地区予選大会	高校生による政策提言をおこなう第二回全国高校生政策甲子園に於ける、東北地区内での予選大会。各テーマ毎に3チーム選出し合計6チームにて予選大会をおこない、各テーマ毎に1チーム、合計2チームを全国大会へ選出する。
公5	東北青年フォーラムメインフォーラム事業計画	第1部 活動成果発表 第2部 講演 青森県知事 宮下宗一郎 氏 第3部 パネルディスカッション パネリスト・タレント 王林 氏・青森県知事 宮下宗一郎 氏・公益社団法人日本青年会議所 東北地区協議会 会長 菅原啓太 君・ファシリテーター ABAアナウンサー 服部未佳 氏
他	東北における経済活性化と社会環境向上の実現推進事業企画・運営・実施	①ビジネスマッチングの推進及び参画支援 ②セカクルと越境EC利用促進に関する事業の企画・実施 ③国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開 ④地方創生による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動の推進
他	東北国際ゼミナール特別委員会 開講式	ゼミ生がゼミナール委員会で成長目標を明確にすると共に、組織のリーダーとして明確なビジョンを持ち、推進力のある運動を起こせる人財へ成長するための講演を開催しました。
他	東北国際ゼミナール特別委員会 第1講座	地域の現状を深く理解し適確な課題を抽出し、共感できる運動を構築できる人財を育成するための講演とグループワークを開催しました。
他	東北国際ゼミナール特別委員会 第2講座	JCで得られるビジネスの機会を活用し、地域経済の発展のために、既存の価値を新たな価値として活用できる人財を育成するための実地研修と講演を開催しました。
他	GLOBAL TRAINING SCHOOL UPGRADE ～異なる文化や価値観に触れ、新たな価値を醸成する～	異なる文化と価値観を理解すると共に、広い視野を持ち新たな自分の可能性を見出すための国際事業を開催しました。
他	東北国際ゼミナール特別委員会 第3講座	リーダーの職務を理解し、その役割に就く意欲を高めるための講演を開催しました。
他	東北国際ゼミナール特別委員会 開講式	ゼミ生がこれまでの活動を通して学び得たことを再確認するとともに、目標を定め断固たる決意を持ち翌年以降の役割に臨めるよう講演を行いました。
公1	第10回IJS presents他者を思いやるJCカップU-11少女サッカー予選大会	他者を尊重し、助け合う心、感謝する心の育成を行い、地域のリーダーとなる子供たちに勝負の勝ち負け以上に相手を称えることができるグッドルーザー精神の育成を通して、他者との協調性や連帯感、相互理解という意識の醸成を目的に東北地区大会を実施しました。
他	第5期、第6期理念共感拡大プロモーター育成・支援	理念について深く学び真の理解を得ると共に、理念浸透と共感拡大のノウハウを学ぶプログラムを満了し、JCの理念だけでなく、企業理念、自己理念への深い理解と、共感を拡大させるための手法を習得した人材育成セミナーを行いました。
他	協議会の価値向上に向けた会議報告「明るく楽しく前向きな地区協議会へ」	毎月実施した、協議会の価値向上に向けた会議の内容報告と地区協議会会長、顧問（コーディネーター）、ブロック協議会会長2名、公募したLOM理事長3名に参加いただきディスカッション形式で各地会員会議所メンバーの皆様へ発信し、LOMが抱えている協議会の運動に対する現状やイメージを知り、今後求められる協議会の役割と責任について改めて周知を行いました。
他	公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会～AWARDS TOHOKU 2024～表彰事業エントリー	東北各地72LOMより対象期間に実施した事業及び拡大事例を集約し、東北各地72LOMよりエントリーをいただくために、各ブロック会議へのPR訪問並びに各ブロック運営専務を通じて所属LOMの方に周知し、エントリー説明会を開催し、エントリーを募りました。
他	2024年度東北青年フォーラム表彰事業「AWARDS TOHOKU 2024」	各プログラムの優秀な事例を優秀賞として、二次審査プレゼンテーションを経てグランプリ、会長特別賞を選出しました。本年度は、JCが行う事業として方向性が適正かつ、その活動に持続性があるものかどうかを判断していただくために、JCにおいて様々な事業への知見が深い地区会会長をはじめとする、東北地区協議会役員の皆様に審査・講評いただきました。
他	東北青年フォーラム主催主幹締結式	東北青年フォーラムin青森の開催に向けて主催である東北地区協議会と公益社団法人青森青年会議所の間でそれぞれの役割を取り決めた契約書に署名捺印を行いました。
公5	東北青年フォーラム大会運営	東北青年フォーラムin青森において円滑な大会運営を実施した。各種機関との連絡調整などを実施しました。
公5	東北青年フォーラム対内対外広報活動	東北青年フォーラムの開催に際し多くのメンバー、市民を呼び込むために大会の周知と参加意欲の向上を目的とした広報活動を実施しました。
公5	東北青年フォーラムオープニングセレモニー	大会の開催に際しJCのプロトコルに則った式典を開催した。オープニングアクトして開催地の文化を代表してねぶた囃子の演奏、青森市長による祝辞、大会の趣旨説明をおこないました。
他	東北青年フォーラムクロージングセレモニー	東北青年フォーラムの終了に際し、今年度の大会の総括とお礼を伝えるためにセレモニーを開催した。また次年度開催地の発表も行い次年度開催への期待感の向上の一助としました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
関東地区協議会	会長	山本 健太（東京）

基本方針

地域同士の共存共栄社会の構築による関東から新日本の再建へ。



総括

一年間を通じて基本理念と基本方針を軸とした関東地区を明るく豊かな社会にするための活動が行えました。特に地区連携事業ではLOMとの事業構築を通じて、関東地区協議会の存在意義を感じてもらえる場面も多かったと感じています。また、関東地区大会とちぎ大会の成功も主管LOMとの良好な関係構築により大成功を収めることができ、JCメンバーのみならず地域住民と街全体を巻き込む運動ができたことを嬉しく思っています。関東地区協議会は155LOM、6,000名を超えるメンバーを有する最大の地区協議会として、これからも地区協議会を牽引する存在であり続けられるよう、次年度にこの想いと活動実績を引き継ぎたいと思います。

事業区分	事業名	事業内容
公2	硫黄島渡島事業	本事業は戦後79年経った今、戦時中のことを知っている人が減ってきているため、自らを犠牲にして戦死していった先人たちが未来に託した日本人としての誇りや想いを繋ぎ、共存共栄社会の実現のために行いました。
公1	第10回JCカップU-11 少年少女サッカー関東大会	本事業は次世代を担う少年少女たちに、サッカーを通じ協調性や連帯感を育み、多様性の相互理解の意識の育成と勝負の勝ち負け以上に大切なグッドルーザー精神の育成を目的として開催しました。
公5	高付加価値ツアーで地域活性化 ～インバウンドを獲得せよ～	今事業では高級宿泊施設が無い地域においても持続可能な観光地域づくりを推進し、地域経済を活性化するために観光庁様、スノーピーク様と連携し施設見学会、トークディスカッションを行いました。高級宿泊施設がなくとも地域特性を生かしたコンデンツの創出、モダンラグジュアリーの造成によって地域経済の活性化に繋がることを学びました。
公5	【第72回関東地区大会 とちぎ大会】メインフォーラム Digital Dream Team プロジェクト：デジタルの可能性	デジタル技術を活用した地域経済の発展をテーマに、関東地区の企業や自治体と連携し、持続可能な地域モデルの構築を目指しました。講師には国会議員の河野太郎氏、イェール大学助教授の成田悠輔氏をお招きし、クロストークディスカッションを通じて、デジタル技術の可能性を探り、地域課題解決に向けた新たなアイデアとデジタル技術を通じて地域社会に貢献する方法を学ぶ機会を提供しました。
公5	富岡市空き店舗& リノベーション体験ツアー	首都圏は少子高齢化と人口減少、東京圏へのヒト、モノ、カネ、情報の一極集中により、格差の広がり、生産年齢の人口減少等の様々な問題を抱えています。地方においては地域経済・伝統行事などの担い手不足、コミュニティの維持の困難などが課題となっています。そのような中で地域と人を結びつけとなるべく、空き店舗&リノベーション体験ツアーとして地域の空き家問題の解決と人口の増加の一助になるべく、事業を開催致しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
東海地区協議会	会長	八代 宗太郎（岐阜）

基本方針

今まで培ってきた支え合いの力をさらに超える、互いに高め合う力をもって日本各地や世界を突き動かす東海の実現を目指します。



総括

本年度東海地区協議会では「高め合う力」をテーマに地区独自の事業を2つ展開して参りました。1つは人材育成で新社会人を控える大学生をターゲットに2050年までに必要な能力である問題抽出力、課題設定力、仮説力を身につけて頂くために、国内及び海外(台湾)研修の機会を通じて、仮想企業の課題を解決するというプログラムを実施しました。経済発展の方では新規ビジネスモデルを協創していくためのプログラムを実施し、実際に新しい事業を立ち上げてもらい2024年度内に3名実現まで至り、6名すべてビジネスモデルは確立することはできました。そして、協議会のLOM支援の在り方として、ブロック協議会ではLOMの人材育成と会員募集の支援を、地区協議会としては事業構築の支援を行うとしてスタンスを分けて活動を進めてきました。上記の2事業にも合同例会、合同事業として行い運動構築の支援の1つの形を作って参りました。

事業区分	事業名	事業内容
公7	Jump Up TOKAI 2024 ～未来に向けて行動できる人財へ～	時代の変化を察知し、自ら考えて行動することで変革をけん引することのできる若者を育成することを目指し、参加対象者に国内及び海外(台湾)研修の機会を通じて、問題抽出力、課題設定力、仮説力を身につけて頂く事業を行いました。
公5	TOKAIコンファレンス2024	東海地区の運動内容を理解し、新たな事業展開のきっかけを得てもらうために、東海地区の魅力を再発見してもらう機会を提供しました。事業参加者には青年会議所の企画した事業を身近な方に体験してもらい、学びを還元する設えとしました。
公6	新規ビジネスモデルの協創 ～企業の未来を設計する～ プログラム	パートナー及びJCメンバーと応募者がチーム一丸となり、新規ビジネスモデルを協創していくためのプログラムを実施しました。チームで各自のビジネスプランを事業計画にポイントをあて経営戦略の強化を考えながらブラッシュアップし、実際の行動化、起業へと導きました。
他	東海地区協議会防災周知連絡 訓練推進事業	南海トラフ地震を想定し、東海地区会員会議所80LOMを対象に相互運営マニュアルの初動を再認識するために、災害想定訓練を行いました。発災時、初動の動きとしてLOMで安否確認を行い、フォームを入力してブロック、地区に連絡をすることで連携をとりました。
公7	ASPACジャパンナイトブース 出展事業	多くの自然や文化を有する東海地区の魅力を発信し、アジア各国の方々に、東海地区への関心をもって頂くためのブース出展を行いました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー 全国東海地区予選大会	他人を尊重し共感する力を身につけることを目的とし、JCカップU-11少年少女サッカー大会の東海地区予選を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
北陸信越地区協議会	会長	新田 洋太郎（富山）

基本方針

1. 地域の力を結集した大会開催によるJC運動の躍進と絆の強化 2. 奉仕の心でつくるアワード事業による社会課題解決の促進 3. ハイレベルなリーダーの育成と理念共感拡大によるLOMの活性化 4. 日本JCの運動の効果を最大化する対内連携の推進



総括

『今こそ繋がる! Local To Local』をテーマに長岡市で開催した北陸信越地区フォーラム、地区連携事業『高付加価値旅行者を掴む! 北陸信越地区観光座談会』などを通じ、地域経済の広域連携による地方経済活性化の展望を発信しました。また、『Leader's Academy』と理念共感拡大プロモーター育成研修の開催を通じ、地区協議会ならではのハイレベルなリーダーシップ育成機会を提供しました。能登半島地震への対応と復旧活動では、広域災害における地区協議会の役割の重要性を示しました。震災が起きた中でも、年初に計画した事業と会議をすべて遂行できたことは、協議会アップデートの成果であると振り返っています。

事業区分	事業名	事業内容
公5	高付加価値旅行者を掴む! 北陸信越地区 観光座談会	日本JC地域経済活性化会議との連携事業として観光をテーマとした座談会を開催しました。地区内5県の行政関係者、有識者を交え、インバウンドを軸とした地域経済活性化の可能性と展望について考察し発信しました。
公5	第66回地区フォーラムin長岡	長岡JCを主管LOMとして地区大会を開催しました。メインフォーラム、AWARDS、主管LOM事業、式典での次年度会長候補者発表、大会キー引継ぎなどを行いました。各地の特色を持ち寄り5ブロック、66LOMの連携を推し進めることができました。
他	北陸信越AWARDS 2024	地区独自のAWARDSコンテストと表彰式を開催しました。地域活性化部門、青少年育成部門、資質向上部門に対し合計66事業のエントリーがありました。参加メンバーに対し新たな気づきを与え運動意欲の向上をはかることができました。
公5	第66回地区フォーラムin長岡メインフォーラム	株式会社47PLANNING 鈴木賢治氏による基調講演『ローカル資源に火を灯せ』と有識者によるパネルディスカッションの二部構成でフォーラムを開催しました。地域経済の広域連携の重要性とJCの果たすべき役割と可能性について発信しました。
他	理念共感拡大プロモーター育成事業	福井県鯖江市を会場として理念共感拡大プロモーター育成研修を開催しました。地区内メンバーが2日間にわたる研修に参加し、個人の理念と組織の理念を融合させる重要性やJC運動の理念に共感する仕組みを学びました。
他	北陸信越地区アカデミー～Leader's Academy～	日本JC人材育成委員会との連携により『Leader's Academy』を開催しました。青木孝太先輩、日本JC菅野顧問を講師に迎え、JC活動に対する姿勢や社会課題解決の方法論を学ぶことができたハイレベルなリーダーシップ研修となりました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会 北陸信越地区予選大会	富山県高岡市を会場とし北陸信越地区予選大会を開催しました。真剣勝負となった試合やアフターマッチミーティングを通して、少年少女たちに、互いを思いやる心や、元気にサッカーができることへの感謝の気持ちを育んでもらうことができました。
公7	JCI ASPACアンコール大会 ジャパンナイトブース出展	アジア太平洋地域の同志たちに北陸信越地域の魅力を伝えるためにブース出展を行いました。地区内5県の地酒や珍味を配布し、地域の文化や特色を発信しました。多くの海外メンバーに北陸信越地域の魅力に触れていただく機会となりました。
公6	防災につながる災害ネットワークの強化	地区内各ブロック協議会に対して災害対策初動対応マニュアルの策定支援を行い、有事の際の対応力の強化をはかりました。能登半島地震や能登豪雨に際しても地区内の迅速な連携により、タイムリーかつ適切な支援を実施し復旧に貢献しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
近畿地区協議会	会長	東野 篤史（守口門真）

基本方針

新たな価値でイノベーションを起こし豊かな日本をリードする近畿の確立。



総括

昨年に再炎上した地区不要論に一石投じるべくLet it roll!!～想いをカタチに～をスローガンに活動しました。震災ではブロックとの連携により迅速に支援を行い、この経験からさらに防災機能を高めました。さらに、地区協議会の機能を改善するために近畿地区連絡調整会議を新設し、本会の運動をLOMへ波及すべく会議を実施しました。これにより、地区連携およびブロック連携を推し進めることができたと考えます。独自の事業としても、国際事業で民間外交を行いWe Believeへ掲載いただき、広域経済圏の事業として2025年大阪・関西万博の機運を高める運動も共感を生み出せました。これらの結果から、地区協議会のPurposeを明確にし、今後の可能性を広げることができました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	他者を思いやるJCカップU-11 少年少女サッカー近畿地区大会	JCカップU-11少年少女サッカー近畿地区大会を開催し、互いを尊重し、社会生活を送るために必要な親切心を育める機会および、互いを思いやり、尊重するといった精神性を育む機会を創出いたしました。
公5	地域の経済価値の向上につながる運動	その地域だからこそ成せる特別な体験、体感を用いて海外からの富裕層をターゲットとし近畿エリアを一つの経済圏とみなし、パッケージを構築することで地域経済の向上を図りました。
公5	近畿地区大会奈良大会リーダーズ フォーラム	近畿地区大会奈良大会の一環として、主にリーダーに必要な話術やコミュニケーションスキルの向上に焦点を当て、組織や地域社会の問題解決と未来創造に寄与することを目的として実施いたしました。
公5	近畿地区大会奈良大会地域フォーラム 「ほっともってふ熱く！地域を沸かせ！」	地域の魅力を発掘し、発信するための具体的な手法を学ぶフォーラムとして、古民家再生、地域に存在する素材を活かしたまちづくり、について講師を招いて講演を行いました。
公5	近畿地区大会奈良大会国際× 経済メインフォーラム	第一部として、日本人がグローバルな視点をもつためにまず取り組むべきことは何かを、第二部として国外に対しての心理的ハードルを下げることにつながる実体験を、それぞれで講師を招いてお話をいただきました。
公5	近畿地区大会奈良大会フェスタ	テーマを「Inspiring Our Future」と掲げ、参加者が今を楽しむことで新たな価値に気づき未来への希望を持つことができる事業を構築しました。また、構築する際にはスローガンである「New Discovery, New Creation」を意識し、新たな発見と価値の創出をするべく運動を実施しました。
公5	近畿地区大会奈良大会 開催概要及び登録依頼 広報計画・宿泊計画	近畿地区協議会としての運動を伝播する最大場である近畿地区大会の情報を広く拡散し、近畿地区内の魅力を発掘・発信し、また開催地ならではの魅力をより多くの方に周知していただくためのPR活動を行いました。
公7	ASPACアンコール大会におけるブース出展	「Kinki is riding the wave ～KINKIがジャパンナイトをジャックせよ～」をテーマに、「ミヤクミヤク」の着ぐるみを着ての大阪・関西万博PRを行いました。また射的も良いし、海外メンバーが日本の文化に触れていただく機会も提供しました。
公7	2024年度 世界会議ブース出展	ブースに立ち寄っていただいた参加者がジャパンナイトを楽しんでいたできるように、ブースの企画を通じて国際交流ができる、フェイスペイントを実施いたしました。
他	理念共感拡大ブランドデザイン推進	理念共感拡大ブランドデザインの活用を推進し、メンバーの意識変革を興すべく、「①ブロック重点目標の推進」「②プロモーター活動状況の把握」「③理念共感プロモーター育成研修」「④理念浸透サーベイの実施」「⑤プログラムの推進」を行いました。
他	Leader's Academy+	次年度以降の要職候補者にリーダーとしての必要な能力と心構えをもつことを目的として、【決起編～理想のリーダー像～】【伝達編～チームビルディング～】【スピーチ力 実践】【分析編～社会課題解決～】【実践編～議案構築能力～】を開催しました。
他	公益社団法人日本青年会議所への 予算支出	近畿地区協議会が事業構築し実施までを行った、サマーコンファレンス2024近畿地区フォーラム「Yaiバイってよ!!大阪・関西万博2025」を開催するにあたっての予算を近畿地区協議会から日本青年会議所へ支出いたしました。
他	大阪・関西万博に向けた機運の醸成	大阪・関西万博において、対内メンバーに正しい情報の提供をおこない、万博がより魅力的で自身の社業や地域の発展に有益である認識をもっていただくことで、来場機運の向上を行いました。
他	災害に備えた防災・減災の意識醸成に 資する防災訓練事業	様々な災害に対応できる体制の強化にむけて、円滑な防災行動をとることができる組織を構築し、それを正しく運用できる防災スペシャリスト(JCレジリエンスエキスパート)を各ブロック、LOMから輩出することで、近畿地区内の防災意識醸成に寄与しました。
他	地域の共創が生み出す新たな魅力を 発掘・発信する推進事業	地域の魅力を発掘し、効果的に情報を発信することを目的とした「地域共創モデル」を作成しました。また産学官が一体となり、新たなパートナーシップを構築することによる地域課題解決への寄与し、地域の魅力を対内外に向けて発信しました。
他	国際感覚(グローバルマインド)を 豊かにする講演事業	国際の機会に積極的に参加しやすい環境を醸成し、異なる価値観を理解できる多様性を持ちながらも、日本の強みにも気づくことで、様々な環境での適応力、心理的な柔軟性を持つ人材となる土台を構築することを目的として講演を実施いたしました。
他	国際感覚(グローバルマインド)を 豊かにする推進事業	今後の日本や、自身の人生や社業の成長にとって、国際事業への参加と、国際への機会に積極的に関わりたいと思うマインドを持つことを目的として、シンガポールCity青年会議所の理事長を招いてweb配信の講演会を行いました。
他	2024年度GTS	国内事業として事業参加意欲を向上させるための公開委員会を実施し、海外事業として「UPGRADE ～異なる文化や価値観に触れ、新たな価値を醸成する～」をテーマに、台湾にて現地メンバーとの国際交流を通じて、既存の価値観にとらわれない新たな価値観を醸成しました。
他	外部メディアを活用した効果的な 広報システムの構築	近畿地区内各地会会員会議所の活動と成果を一層広く社会に発信するため、一般市民向けの事業情報を集約し、PRTIMESというプレスリリースのプラットフォームを活用して広報支援を行いました。
他	理念共感をえられる インナーブランディング推進事業	近畿地区内の各ブロックおよびLOMへの情報発信を通じて、JC活動に対する意識を向上させ、また近畿地区協議会における各種事業の雰囲気発信を行うことにより近畿地区協議会の距離を身近に感じていただく取り組みを行いました。
他	時代に即した共感を生む アウトワーブランディング	SNSの特性を活用し、新しい広報の手法を取り入れることで広く発信し、映像による発信の強化と広報戦略を駆使することでJCの存在感を高め、近畿地区協議会の運動をより効果的に発信することにつながる事業を行いました。
他	会員会議所会議の設営及び運営	近畿地区内各地会会員会議所理事長の皆様が2024年度近畿地区協議会が発信する政策に対する確認および承認をいただくために実施いたしました。
他	近畿地区大会奈良大会「大会式典」	近畿地区内の各地会会員会議所メンバーへ近畿地区協議会の歴史や伝統を伝えるとともに、本年度の活動報告や今後取り組んでいくべき未来にむけての運動発信を行いました。また、次年度地区大会開催地である乙訓青年会議所への大会キーの引継ぎを行いました。
他	データベースの構築によるLOM支援	近畿地区協議会、各ブロック協議会および各LOMが保有する情報や資料等を集約することができるデータベースを構築し、同データベース上で、各ブロック協議会や各LOMの情報や資料等を用いて事業構築の参考とすることができるようにいたしました。
他	財政規律と財源を確保させるための 指導、推進、支援事業	きんちく広報チャンネル(YouTube)に財政規律と財源を確保させるための指導、推進動画を配信することで、近畿地区内メンバーが財政規則の知識を身に付けていただける取り組みをしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
中国地区協議会	会長	椎木 謙太（周南）

基本方針

親切心が呼び起こす、誰一人取り残さない中国の実現。



総括

本年度、防災・レジリエンスに関する事業では、発災時に何をすべきか再確認させる事業を実施しました。また、中国地区コンファレンスでは、中国地区内メンバーが一堂に会する場として、中国地区コンファレンスを開催し、各地青年会議所の運動の躍進を後押ししました。さらに、理念共感プロモーター事業では、理念を言語化し、アウトプットすることを通じて、メンバーが青年会議所の魅力を発信することを促進させる事業を実施しました。その他、JCカップU-11少年少女サッカー予選大会の企画・実施のほか、地方創生による地域経済活性化の構築に向けた運動の推進など、中国地区内により良い変化をもたらす運動を推進できたと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	2024年度中国地区協議会 災害レジリエンス向上事業	有事の際の情報伝達の順序と連携方法を明らかにするため、ZOOMにて災害ネットワークの活用方法を説明し、実際に災害時の情報連携の訓練を実施しました。
他	2024年度中国地区協議会 災害レジリエンス災害支援マニュアル作成	災害支援において重要となる「物的支援」「人的支援」「金銭的支援」を迅速に、かつ効率的で有意義にできるように、災害発生時の災害支援マニュアルを作成し共有しました。
公6	2024年度中国地区協議会 減災体験事業	「日常の中で楽しみながら使える減災」をテーマに4つの体験ブースを設け、市民の方を対象に災害への備えや減災に向けた意識向上を図る事業を実施しました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー大会 全国大会予選大会	相手に敬意を払い、関係者へ感謝できるグッドルーザー精神を養い、他者を思いやる親切心とあくなき挑戦心を兼ね備えた人材育成のためのサッカー大会予選大会を実施しました。
他	2024年度中国地区協議会 災害レジリエンスパッケージ策定	2024年1月1日からの経験を踏まえ、次年度の担当者を対象に、防災から災害時の対応までを事例をもって伝え、現実的な危機感と引継ぎの重要性を感じていただく引継ぎ会議を実施しました。
公5	中国地区コンファレンス2024in山口（本体）	「Pride&Passion-あふれんばかりの未来の笑顔の為に」のスローガンのもと、青年会議所だけではなく多くの地域企業、地域市民、他団体との協働による中国地区コンファレンスを開催いたしました。
他	中国地区コンファレンス2024in山口（広報）	多くの会員の方に中国地区コンファレンスに来ていただくため、中国地区内各地ブロック会員会議所会議にてキャラバンを行うと同時に、中国地区協議会52LOMに山口市PR動画を配信しました。
他	中国地区コンファレンス2024in山口（式典）	中国地区内の青年会議所の会員が一堂に会し、中国地区協議会の規模感や他LOMの事業に触れる機会を創出することで、公益社団法人日本青年会議所中国地区協議会への相互理解を深めました。
公2	中国地区コンファレンス2024in山口 （フォーラム）	AKB48元キャプテン「高橋みなみ」氏をお招きし、後発のリーダーシップの開発や、リーダーシップ開発の視野、リーダーの仕事などについて、実体験を交えながらのフォーラムを実施しました。
公5	中国地区コンファレンス2024in山口 （たからいち）	青年会議所が山口に住む全ての人に元気に、そして笑顔になっていただくために山口県の特徴の文化である「餅まき」をカスタマイズして『山口から世界へ！！～目指せ世界最多の餅まき菓子まき大会～』を開催しました。
他	中国地区コンファレンス2024in山口（褒賞）	中国コンファレンスにて発表される褒賞事業を実施しました。中国地区協議会役員にて1次審査を実施、2次審査では中国地区内52LOMの理事長の方に審査いただき、本審査へ進む事業を選定いたしました。
他	地域経済活性化の構築等に向けた運動推進	有識者からラグジュアリーツーリズムの有効性についてお話しいただく座談会を開催いたしました。各地域の特性を活かし、地域で実践できるラグジュアリーツーリズムの可能性を感じていただきました。
他	理念共感プロモーターアカデミー	中国地区協議会内52LOMより、23名以上の理念共感プロモーターの輩出を目的とし、今後の会員定着、拡大へ向けて実施しました。理念共感についての学び、スピーチ力の向上、プロモーターとしての活動経験を三拍子交えたことで参加者ご自身にとって学びある事業となりました。
公7	Awesome!Western Honshu ～いいね！中国地方	アスパクジャパンナイトにて、中国地区の魅力を発信し、国内外メンバーの方々に日本の中国地区に関心を持ってもらいたいと思いから日本らしさを体験していただけるよう書道体験をはじめとしたブースを出展しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
四国地区協議会	会長	中井 貴一（八幡浜）

基本方針

住み暮らすまちや大切な人を想う親切心を創出することで、笑顔あふれ、社会に豊かさをつくり出し、幸せな四国の未来を創造します。



総括

様々な課題の先進地域とも呼ばれる四国地区では、「人を想う豊かな心で 笑顔あふれる幸せな四国へ」を基本理念として、「Be Proud of SHIKOKU」のスローガンを掲げ、四国の誇りを取り戻すために運動を行いました。地区のメンバーが故郷への誇りを感じ、共に活動するメンバーを思いやることができれば、どんな課題も前向きに取り組むことができます。特に今まで現地参加者が少なかったASPACや世界会議など国際の機会を四国地区が積極的に提供することで、参加者の意識を変え、LOMに新たな息吹をもたらすことができました。

四国はまだまだやれる。そう感じさせてくれた4名の頼もしいブロック会長や常に前向きな27LOMの理事長の皆様に感謝申し上げます。四国はひとつ。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカー四国地区予選大会	JCカップは子供たちに、グッドルーザーの精神を伝え、道徳心を持った自立した人財を育む ために開催されています。JCカップを通じて、人財を育むために、グッドルーザーの精神や人を想う親切心を記憶に残しました。
公5	四国地区大会須崎大会記念事業	第六十五代横綱の貴乃花様をゲストにお招きし、【切り拓く力】、【生み出す力】をテーマにご講演をいただきました。【地域の食材を使ったちゃんこ鍋】を作り出し、ご来場者やゲストの方に発信いただきました。
公6	国土軸及びインフラ整備による防災力と意識の向上	石川県能登半島地震を始め、毎年全国各地で災害が発生しております。災害時や復興支援時に一人ひとりの被害や負担を軽減させるために、防災DXの在り方を理解して頂くことを目的として、講師をお呼びしての防災DXフォーラムを開催しました。
公7	2024JCI ASPACカンボジア大会における事業	世界中のJAYCEEへ四国の魅力を発信するPRブースの出展により積極的に交流を図ることを目的としてASPACカンボジア・アンコール大会に参加しました。四国地区ブースを出展し、四国の魅力溢れる調味料を海外JCメンバーに試食していただき、ご好評をいただきました。
他	理念共感拡大グランドデザインの推進及び理念共感拡大プロモーター育成事業	理念共感グランドデザインの達成に向けて、各ブロック協議会及び各LOMのメンバーに、理念共感の拡大と組織力の向上を目的とした理念共感アクションを実施する人財の育成として、四国地区内メンバーを対象に理念共感プロモーター育成セミナーを実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
九州地区協議会	会長	仲 浩太郎（中津）

基本方針

情熱ある挑戦と個性が織りなす 笑顔あふれる豊かな九州の創造。



総括

2024年度の九州地区協議会では、ITツールの活用によるLOM支援、国際交流を通じた機会の提供、災害支援・防災意識の向上に関する事業、地方の魅力を詰め込んだ九州コンファレンスの開催、全国大会福岡大会での主管地区フォーラム企画・実施による大会構築支援、ラグジュアリーツーリズムなど本会の運動推進を展開して参りました。地区協議会としてのスケールメリットを活かした運動を展開すると共に、運営グループをはじめ、各副会長・議長・委員長がそれぞれの職務を担うリーダーとして、LOMや周囲の仲間を巻き込みながら運動推進を実施したことにより、質の高い会議運営と、出向による成長の機会をメンバーに提供できた一年になりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	DXによる組織基盤の強化と組織運営の推進（新規）	メンバー数20名以下のLOMを対象に、事業の効率化や人手不足の解消、ヒューマンエラーの削減に繋げ、より円滑なLOM運営のための複数のデジタルツールを導入いただくことで、余白となる時間を創出し、新しい成長の機会の提供を図りました。
他	ラグトーク～ラグジュアリーツーリズムの未来を語ろう	有識者による既存の観光資源を生かしながら新たな価値を見出す体験型ラグジュアリーツーリズム座談会を開催しました。この座談会をきっかけに、九州地区の特性を活かした実践可能なモダンラグジュアリーツーリズム造成の機運が進展することを目的としました。
他	DX推進セミナー JCデジタル革命 ～やらない理由が見つからない！～	DXによる組織基盤の強化と組織運営の推進事業について、九州コンファレンスにてメンバー向けに事業報告として発表しました。当事業は、新時代のツールの導入を通して、未知のものへの挑戦や一歩踏み込むことの重要性を知っていただく機会となりました。
公5	メインフォーラム 10年後のデジタルライフ ～あなたは浦島太郎になりますか？～	進化するデジタル産業の現状を知っていただき、日本人が苦手と言われる「未知のものへの挑戦、変化を恐れずに自ら一歩踏み込むことの重要性」を知っていただくべく、ソフトバンクの宮川社長に講師としてご登壇いただき、フォーラムを実施しました。
公5	世界から見た日本～グローバル人材へのはじめの一歩～	グローバル化の進展に伴い、今後ますます海外の方と接する機会は増加していきます。異国の文化を理解するためにまずは、自国の文化を知る必要があると考えます。日本の魅力に惹かれた方と、日本の魅力を海外に発信している方2名をお呼びして講演して頂きました。
公7	JCI ASPAC ジャパンナイトブース出展	ジャパンナイトでブース出展し、九州各地の当地地のお酒を7本選定し、更には九州の魅力として鶏肉を使った料理、唐揚げを振る舞い九州の魅力を参加して頂いた全てのメンバーに広く発信しました。
公7	国際アカデミーin福井ブース出展	国際アカデミー、ナイトセッションでブース出展し、九州各地のお酒と、九州の魅力を広く発信します。また、九州に訪れてもらうためにも九州の魅力ガイドブックのQRコードを読み取ってもらうことで、より九州について認知度を高め、来訪意欲を高めました。
公7	JCI 世界会議ジャパンナイトブース出展	ジャパンナイトでブース出展を行い、日本の魅力の一つであるアニメの紹介と、九州の食材を使った料理としておにぎりを準備し、海外メンバーに九州の魅力だけではなく日本の食文化の魅力を発信しました。
公6	能登半島地震における支援物資調達および輸送事業	本事業は、令和6年石川県能登半島地震での被災地復旧支援を目的に、土嚢袋や一輪車等の支援物資を調達・輸送し、人的支援も実施。JCネットワークを活用した協力体制を確立し、迅速な復興に貢献しました。
公6	災害時における初動対応説明会事業	九州地区内の防災担当者を対象に初動対応の手順や情報収集・発信方法についての共通認識を深めることを目的としてオンラインにて開催しました。さらに能登半島地震の対応事例を共有することで、初動の重要性を理解し、適切な行動がとれるように開催しました。
公6	有事に備えた災害ネットワーク強化に関する事業	九州地区内での災害発生時に適切な対応を可能にするため、災害ネットワークの強化を目的として実施されました。各地の社会福祉協議会との連携を図るために、防災協定の締結推進や防災すごろくの活用を行い、防災意識の向上と連携体制の構築を図りました。
公1	第10回JICカップU-11少年少女サッカー大会九州地区予選大会事業	JICカップU-11少年少女サッカー九州地区予選大会を九州各県推薦チームと九州地区協議会推薦チームの8チーム参加で開催。トーナメント形式で全国大会出場を目指し、フェアプレーや親切心を育む活動や遠藤彰弘氏のサッカースクール、地域魅力発信も行いました。
他	事業継続力強化計画ガイドラインの作成及び推進事業	有事における地域経済のリスクに対処し、発災時においても地域経済の持続可能性を向上させることを目的とし、事業継続力強化計画策定の推進事業を実施いたしました。認定のためのガイドラインの作成と中小機構と連携した支援策を展開しました。
公5	九州コンファレンス2024 in霧島 防災フェスタ事業	未来を担う子どもたちの災害リテラシーを向上させることで、地域コミュニティ全体の防災意識を高めることを目的として開催しました。学んだ知識を家族や友人と共有することで、地域全体で災害に備え、迅速で効果的な対応が可能となることを目指しました。
他	九州コンファレンス2024in霧島 主管契約締結式	九州コンファレンス2024in霧島における主管契約締結式を執り行いました。主催側である九州地区協議会と、主管側である霧島JCが手を携えて大会の成功へ向けて協力していくことをアピールする機会となりました。
他	九州コンファレンス2026 主管LOM選考計画	九州コンファレンスを主管するLOMにおいて立候補者の低迷も懸念されるため、過去立候補LOMのみならず新たな立候補LOMの意欲促進をする必要があり興味のあるLOMに説明会を行い、その後立候補LOMに対し2026主管LOM選考会を執り行いました。
他	九州コンファレンス2024in霧島 AWARDS KYUSHU 事業	AWARDS KYUSHUを開催し、受賞LOMの功労や成果を褒め称え、受賞事業の説明として情報発信していただくことで、各地域で好循環化していく機会を提供しました。
公5	九州コンファレンス2024in霧島 PR・インフォメーション事業計画	アナログとデジタルのハイブリッドの広報により、九州コンファレンス2024in霧島が開催されることの周知と、実際に現地に行きたくするような情報の発信を行い、来場された全ての方に満足していただけるよう行いました。
他	九州コンファレンス2024in霧島 大会式典	これまで連続と受け継がれてきた大会式典の様式美を守りながら、仲会長の基本理念である「情熱ある挑戦と個性が織りなす 笑顔あふれる豊かな九州の創造」を感じていただける内容で開催しました。
他	九州コンファレンス2024in霧島 成功祈願祭・セレモニー	大会の成功と安全を祈願する意味を含め、成功祈願祭を執り行いました。開会セレモニーでは内容の説明など行い、閉会セレモニーでは無事に2日間開催する事ができた感謝を参加者にお伝えいたしました。
公5	全国大会福岡大会 九州地区協議会フォーラム ～ひとは、誰かになれる。～	ドラゴンクエストの生みの親である堀井雄二氏からTVゲームの黎明期からドラゴンクエストというブランドをどのように磨き、育てられたのかをお話いただくとともに、新たな人生のステージを歩まれる卒業生に向けて、メッセージをいただきました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
沖縄地区協議会	会長	具志堅 貴昭（宮古）

基本方針

地域格差を無くし住みよいまちの未来の創造を実現し、防災や有事に備えた協議会・LOM間連携による災害時の連携強化を推進します。



総括

本年度は沖縄地区版の地方創生をテーマに沖縄県内の都市部と僻地や離島の格差が縮小することこそが地域経済の発展に繋がると仮説を立てて取り組んできました。その中でも北部空港誘致では、地方創生基調講演、住民アンケート、有識者意見交換会、シンポジウムと、徐々に意識を変え、機運や士気を高めるようストーリーを意識して事業構築を行うことによって、会員の『本当にできるのか?』という気持ちから『俺たちがやってみよう』という意識改革へと醸成することが出来ました。まだまだ課題は山積していますが、これらを一つ一つクリアしていくことで明るい豊かな社会の実現へと光が見えてくようなワクワク感のある一年となりました。行政への提言は次年度へ継続して行うよう引継ぎをし、中期ビジョン事業として引き続き取り組んで頂きます。

事業区分	事業名	事業内容
公5	春の基調講演 ～地方創生とまちの ブランディング～	宮崎県をブランディングした手腕も持ちながら、退任後は国政にも参加した経験をお持ちの東国原英夫氏を講師としてお招きし、沖縄の魅力やポテンシャルについて官民両方の知見を持ち、今まで地域創生に携わった経験や知識を踏まえた講演を行います。
公6	沖縄県北部地域への空港誘致 に向けた意見交換会	有識者との意見交換会を実施することで、シンポジウム及び政策提言を構築するにあたり専門的な意見を頂戴するとともに、各メディアへ本意見交換会を周知することにより空港誘致に向けた機運を高めることを目的とします。
公1	JCカップU-11少年少女 サッカー全国大会 沖縄地区予選大会in宮古島	グッドルーザーの精神のもと、スポーツを通じた人間形成につなげるサッカー大会としての価値と青少年の健全な育成という価値のシナジーによって、一人でも多くのサッカー少年少女や指導者がプライオリティをおく大会を開催します。
他	理念共感拡大プロモーター 育成事業	日本青年会議所が推進しております、理念共感拡大グランドデザインの計画に基づき、沖縄県内において、JCの理念に自らの理念を掛け合わせ、自らの経験に則った運動を展開できる人材の育成を目的とし行います。
公5	2024年度沖縄会員大会	本年度の会員大会は2部構成となっており下記のフォーラムを実施し、沖縄地区協議会と沖縄ブロック協議会の活動内容を周知すると共に地方創生の起点作りを行います。
公6	沖縄県北部地域への 空港誘致に向けた 空港都市シンポジウム	有識者より日本の空港都市における事例や現状についての知識を共有していただき、参加者に有益な学びが得られる機会を創出することで、より良い空港都市の形成と発展へ向けた機運を高めるシンポジウムを開催しました。
他	OKINAWA District AWARDS 2024 ～栄誉の証 次代への架け橋～	本年度、県内10LOMが展開した事業や社会運動を会員で称えるために、沖縄地区版総括発信・褒賞事業の実施を致します。 また沖縄地区2024年度卒業生46名の功績を称えるために、合同卒業式を併せて開催します。
公6	沖縄県北部地域への空港誘致 に向けた政策提言	沖縄本島において那覇空港から離れていた2か所目の空港の必要性が高まっており、新空港誘致に向けて機運を高める為に各所にて提言書を提出します。



会議・委員会名	役職名	担当者名
北海道ブロック協議会	会長	鈴木 裕輔（白老）

基本方針

対話と連携を大切にし、希望と実現力であふれた組織運営。



総括

北海道においては1地区1ブロック制にて活動する最終年度となり、2025年度より2つのブロック協議会が誕生することから、4つのエリアとしては最後の事業を実施しました。本会や協議会がLOMとどのように関わりをもって活動していくかを発信するウインターコンファレンスから始まり、各エリアごとに分かれたアカデミー研修塾、エリア内の交流事業、全道アカデミー、そしてエリア大会まで会員同士が関わりをもつ事業を展開して参りました。次年度以降は、4つのエリアが2つのブロックへ変更となることから、移行後を意識した1年間となりましたが、2025年以降に活きる1年間だったと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	道南エリアウインターコンファレンス	メンバーの事業参加への意識醸成と塾生のアカデミー塾活動の意欲向上を目的とし、新たな出会いの場とメンバーとの交流を創出し、LOMの垣根を越えたつながりをつくる一助となる事業を構築しました。当日は、塾生と現役メンバーによる交流をおこない多くの笑顔と出会いを生むことができました。またJCの理念とビジョンへの理解を深め、目的を持って行動することが社業や人生にどれだけの大切なことであるかを学ぶ時間となりました。
他	道央エリアウインターコンファレンス	ウインターコンファレンスでは、北海道地区協議会、北海道ブロック協議会の2024年度の運動の発信場を創出いたしました。また、ワールドカフェ方式での学びと交流の場を創出し、メンバー並びにアカデミー塾生に対して運動への意欲を高めました。また、アカデミー研修塾開校式では、塾生同士と塾長との交流から信頼関係を育み、参加意欲とJC活動や運動への意識を高める場として開催しました。
他	道北エリア大雪会議	道北エリアという広大な地域の課題解決にひとりひとり向き合い、組織で活動を充実していき、道北エリアメンバーの心をつなぐ多角的視点や考え方をやりがいをもって挑戦していけるようにJCの理念を学び、道北エリアの他LOMとの交流を得て新しい発想や手法を展開していただけるように本事業の各ファンクションを提供しました。
他	道東エリアウインターコンファレンス	ウインターコンファレンスはエリアの最初の事業であり、メンバーがこれから一年間に対するモチベーションを高める機会としても重要な機会です。つながりをテーマに訓練JCのOBで地区協議会の道東エリア担当副会長の経験がある大野先輩を講師として招き、思考を止めず本気で考えた結果何がいい選択肢なのか自身で考える機会と提供していただきました。人とのつながりは直接的な楽しさを感じられるものではありませんが、時に個人の参加意欲や成長意欲などにも通じ、まさに成長と発展の機会に大きく関わる部分と考えているため、道東エリアのアイデンティティである、直接的なつながりを大切に、ウインターコンファレンスを開催いたしました。
他	道南エリア交流事業	現役メンバーのJC運動に対する視野を広げること、アカデミー塾生のJAYCEEとしての意識醸成を目的とし、本事業は「スポGOMI」というごみ拾いとスポーツを融合した競技を用いて開催しました。チームでごみ拾いをしながら交流を行い、メンバー間の絆を構築していただくとともに、JCの行う運動の本質について考えていただく機会となりました。学びの一助として、チームごとにこみが落ちていまちの現状を見たとえ、課題を見つけていただき、原因や問題点を模索し、解決策を議論しながらスポGOMIに取り組んでいただきました。
他	道央エリア交流事業	チームスポーツを通して一つの目標に向い共に努力し達成感を味わうことでメンバー間の一体感や活力が醸成され、LOMの垣根を越えた信頼関係を育みより多くの参加意欲とJC活動や運動への意識を高め、道央エリアの絆を最大限に活用し、各LOMの運動効果の最大化を図る場を創出しました。
他	道北エリア交流事業	道北エリアの各地域には多くの魅力があり、各LOMそれぞれの視点で事業を構築しています。しかし、事業構築するメンバーが減少している中で、今後はJC運動をメンバー同士で働きかけて構築する技術を学んでいただく必要があります。本事業ではJCプログラムの一つ、JCI Impactをメンバーへ提供してより良い事業と能動的に動けるメンバーの学びとなるため実施しました。
他	道東エリア交流事業	道東エリアのアイデンティティの一つである「対面での交流」にこだわり、主にLOMの垣根を越えて1のチームをターゲットとしたチームビルディングの向上や、アカデミーの成長の過程に参加メンバー全員で共有する事を目指した各種ファンクションを設け、本交流事業を開催しました。参加者各々が、対面だからこそ得られる楽しさや、自然と声を掛け合い、協力し合える事の意義を感じるとともに、LOMを超えた道東エリアというコミュニティとしての一体感を一層醸成する機会となりました。
他	全道アカデミー	各地のLOMにおいて、メンバーの平均在籍年数短期化、人材育成が困難な状況等が課題となっている中、全道各地のアカデミーが一堂に会し、自身の存在意義を通じて青年会議所運動の理解と意欲を高め、能動的な人材へと成長する機会として、全道アカデミーを開催しました。
他	道南エリアエリア大会	第一部ではアカデミー研修塾生に各塾で構築した運動を発表していただき、塾生の成長を感じる機会となりました。また、第二部では歴代エリア長2名を講師としてお招きし、道南エリアの魅力や出向の経験、またネットワークが広がることで自身にどのようなメリットがあるのかをお話いただき、多くのメンバーの共感を生み出し、次年度への活力向上へつなげました。最後に道南エリア卒業式を開催し、本年ご卒業されるメンバーに感謝と敬意を表しました。
他	道央エリアエリア大会	道央エリア大会並びにアカデミー研修塾開校式では、道央エリアの集大成場を創出いたしました。また、アカデミー研修塾開校式では一年間の活動報告場を創出し、メンバー並びにアカデミー塾生に対して成長した姿をお披露目する場となりました。また、トークセッションでは、道央エリア15LOMの各代表者が今年度の運動の取り組みや次年度に対する改善策を共有することで、参加者のJC活動や運動への意識を高める場として開催しました。
他	道北エリアエリア大会	道北エリアの各LOMは会員減少が進んでおり、活動ができていない、またはできなくなると予想されるLOMもあります。多くの方にJC運動の意義や楽しさが伝わるよう、会員はJC運動や活動を通じ、道民を魅了できる人材となることが重要です。そのためにファンクションを提供し、今後地域をけん引する意欲を高めていただきました。
他	道東エリアエリア大会	道東エリア大会は今年一年の集大成の場であり、メンバーには今年一年の総括の場として、アカデミーにとっても一年を振り返る機会として重要であると位置付けて開催しました。一年間のアカデミー塾生の成果発表に加え、LOMの垣根を越えたチームでの成果発表から気付きや学びを得られる場面を構築しました。また、今年度で卒業生に対しても、これまでのJCを各々振り返っていただける機会を提供し、JCをやり遂げた達成感を感じていただきました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
青森ブロック協議会	会長	比内 理佑（弘前）

基本方針

人々がもつ多様な個性と、地域固有の風土文化が掛け合わされることで互いの可能性が高まり合う、魅力あふれる青森を創造します。

総括

メンバー数の減少と在籍年数の低下によりLOMを取り巻く環境が厳しさを増す中で、LOM支援という協議会の最も重要な役割を果たすべく取り組んで参りました。限られた時間と予算の中で最大限効率的にメンバーに成長の機会を提供するため、諸会議の運営についてはハイブリッドにて対象者の負担を軽減しつつ、同時に各事業においてはスリム化並びに集約化することでメンバーやLOMの負担の軽減を図りました。一方でブロック大会では体験型メインフォーラムとして外部資金の導入や一般参加者が自己負担する仕組みを構築することで主催者としての予算的な負担を軽減しながらも、多くの方にご参加いただくなど、新しい取り組みにも挑戦することができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	ブロックアカデミー 開校式	アカデミー生の参加意欲の向上と友情を育むきっかけ作りとなる開会式を開催しました。
他	ブロックアカデミー 第一講座	第一部としてpurposeを実施し、第二部として開催地である五所川原市の象徴である立佞武多を題材とした課題解決のための講演、体験による講座を開催しました。
他	ブロックアカデミー 第二講座	チーム意識を高める事前交流活動を行った後、JCプロトコルを学び、続いて事業の発案から構築の仕方を学ぶ講座を開催しました。
公5	アオモリインバウンド大作戦	地域資源の将来性とインバウンドの重要性の理解につながる講演会と、その参加者と外国人住人がその場で直接話ができる意見交換会を開催しました。
公5	アオモリサマーサミットinむつ下北大会概要構築	青森ブロック大会（アオモリサマーサミット）の親議案として本議案のもと概要を構築し、大会を開催しました。
公5	アオモリサマーサミットinむつ下北広報活動	ポスターやSNSにより、青森ブロック大会の周知並びに参加意欲の向上につながる広報活動を展開しました。
公5	アオモリサマーサミットinむつ下北オープニングセレモニー	地域で活動している子供たちや団体に発表の機会を提供し、同時にご参加いただいた方々へ各ファンクションへの参加意欲を高める説明を行いました。
公5	アオモリサマーサミットinむつ下北体験型メインフォーラム	青森ブロック内各LOM所在地の魅力を体験できるブースを設け、インバウンド推進につながる地域の魅力を多くの参加者に体験いただきました。
他	ブロックアカデミー 第三講座	第二講座で学んだ事業構築を実践し、グループに分かれて企画した事業をプレゼンテーションした上で、各LOM理事長並びにブロック大会来場メンバー全員による投票にて第四講座にて実施する事業を決める講座を開催しました。
他	各LOMの面と面、点と点での交流の推進	事前アンケートにより抽出したテーマについて、役職やLOMの垣根を越えたグループにて話し合いながら県内各地の魅力的な食材・特産品を活用したお弁当を食べる大朝食会を開催しました。
他	アオモリサマーサミットinむつ下北クロージングセレモニー	来賓をお招きし、ブロック大会の総括、次年度ブロック会長候補者並びに次年度ブロック大会主管候補LOMを発表するクロージングを開催しました。
他	ブロックアカデミー 第四講座	第三講座にて決定した事業としてブロック内全メンバーを対象としたチーム対抗の交流会並びにディベート大会を開催し、アカデミー生が企画から実践までを行う事業を開催しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
秋田ブロック協議会	会長	大越 雄一郎（由利本荘）

基本方針

結いの精神と親切心にあふれるリーダーが、地域に多くのより良い変化を生み出し、誰もが夢を描ける未来を創造します。



総括

本年、秋田ブロックは、「ともに未来へ 誇りを胸に一步踏み出そう」をスローガンに、「結いの精神と親切心が織りなす 誰もが夢を描ける秋田の創造」を基本理念に掲げ、県内全てのLOMをつなぎ、共に運動を最大化することで、多くの人が豊かさを実感し、故郷への誇りと未来への希望を抱ける秋田の創造に向け、活動と運動を展開して参りました。また、連絡調整機関として、日本JC、協議会、LOMの関係構築に資するべく、協議会をアップデートし、積極的にLOMと連携し、LOM同士をつなぎ、日本JC、協議会とLOMをつなぎ、LOMの声と日本JCが推進する運動を互いに届け合い、LOMを支援し、LOMにとって魅力的な組織となることができたと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
公1	MJSプレゼンツJCカップU-11 少年少女サッカー秋田予選大会	他者を思いやる心とあくなき挑戦心を兼ね備えた地域の未来を担う人材を育成するために、グッドリーダーの精神のもと秋田予選大会を開催し、相手を讃え合う精神性と相互扶助の心、協同の力を育みました。
公5	第54回秋田ブロック大会in大館メインフォーラム「あきたサステナブルサミット」	秋田の経済を活性化するために、地域の発展に向けたデジタル技術の利用と地域の自然や伝統、文化や食といった魅力の商業化による地方創生について発信し、地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動を推進しました。
他	2024年度秋田ブロック協議会合同懇談会	秋田におけるJC運動を最大化するために、メンバーが一堂に会する場で、各LOM理事長とブロック協議会役員が基本方針並びに事業計画を発表し、LOM間、メンバー間の連携を強化し、互いの運動への協力体制を確立しました。
他	第54回秋田ブロック大会in大館	社会と地域へより良い変化を生み出すために、ブロック大会を開催し、ブロックによる運動を最大限に発信することで、JCの理念や運動に地域から共感を得るとともに、地域へ感謝の気持ちを伝えました。
他	2024年度褒賞事業	事業を構築する意識と能力を醸成するとともに、メンバーが自分たちの運動やLOMに誇りをもつために、ブロック大会にて褒賞を実施することで、事業に関する総合的な意見に触れる機会の創出と運動の成果と効果を共有しました。
他	2024年度 アカデミー委員会 開講式・第1回アカデミー委員会	開講式でアカデミー生のモチベーションを増加させ、第1回委員会で基礎的な理論を学ぶことでこれからのJC活動に参加する意義、目的を見つけることができました。
他	2024年度 アカデミー委員会 第2回アカデミー委員会	初回の委員会ではJCの理念について学び、次のステップとしてJCの活動と目的をより明確にするためのプログラムを行いました。段階を踏んでいくことで、よりアカデミー生の理解が深まり、前向きな行動へとつながっていきました。
他	2024年度 アカデミー委員会 第3回アカデミー委員会	第1回から第3回にかけてJCの基礎を学び、徐々にステップアップしていくことを目的に、今後の事業構築などのアウトプットに向けたより実践的なプログラムとしてImpactを実施しました。
他	2024年度 アカデミー委員会 第4回アカデミー委員会	第1回から第3回で学んだ内容を活用し、自分たちで考え、事業を構築するステップへと進むために、最終の委員会で発表する事業を委員会で協力して責任感をもって構築する意欲を高めました。
他	2024年度 アカデミー委員会 第5回アカデミー委員会	小委員会で議案作成を進めている中、最終的なプレゼン資料をもとに分かりやすく理事長の前で発表するために、伝え方、聞き方を学ぶ事業として実施し、伝えようとするだけでなく聞く姿勢の重要性を学ぶことができました。
他	2024年度 アカデミー委員会 第6回アカデミー委員会・閉講式	集大成として、進めてきた議案の発表を行い、全ての小委員会が課題をクリアし、オブザーバー全員に成長を見ることができました。閉講式では成長したアカデミー生を称え、各種表彰を行ったことで、アカデミーの意義を再認識していただきました。
他	理念共感拡大グランドデザインの情報収集・活用・推進	榎田先輩による理念共感拡大グランドデザインのセミナーを実施しました。また、秋田ブロックから新たに5名の理念共感プロモーターと「Achieve」のヘッドトレーナー1名が誕生し、県内で活動を行いました。AWADS JAPAN、アカデミーと連携しGian Pocketの活用を推進しました。
他	ブロック協議会で運用できる人材育成パッケージの更新及び支援	アカデミー委員会において、日本JCにおける必須、推奨プログラムのセレモニー、プロトコル、理念共感拡大グランドデザイン、Purpose、Impactの全てを実施しました。
他	がんばれ!能登!プロジェクト	能登半島地震復興支援として多くのメンバー参加のもと、能登産の牡蠣を消費しホームページとSNSで発信し、購買を促す取り組みを実施しました。各LOMの支援について共有する時間も設け、内容を共有し、引き続き支援を継続していく必要性を再確認しました。
他	秋田豪雨災害支援	日本JC、東北地区協議会との連携のもと、被災地の視察、県社会福祉協議会との情報共有、市社会福祉協議会の訪問や管轄LOMとの協議、VCの立ち上げ並びに支援内容等について協議と支援を行った後、ボランティア派遣や物資提供等の支援を継続して行いました。
他	本協議会の各種情報の戦略的かつ効果的な発信	本協議会ホームページ並びにFacebookにて秋田ブロック協議会やLOMの事業内容や活動紹介を展開しました。
他	時代に即したスマートな組織改革の推進	事業数と委員会数を見直し、出向者の絶対数を減らし、各LOMの人的負担、運営面、財政面での負担を軽減しました。ブロック会長公式訪問や理事長ミーティングの開催、会員会議所会議でLOM報告を実施し、各LOMの現状を把握しました。連携システムを一本化しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
岩手ブロック協議会	会長	中野 圭（大船渡）

基本方針

親切心による行動とつながりの連鎖がもたらす笑顔あふれる岩手を創造します。



総括

今年度、岩手ブロック協議会として、「親切心による行動とつながりの連鎖がもたらす、笑顔溢れる岩手の創造」を基本理念に、「明るく、楽しく、前向きに、まずいっかいやってみよう!」をスローガンとして運動を展開してきました。その中で協議会のアップデートを目的とし、単年度制を特徴とするJCにおいて、積極的に変革へのチャレンジを行う中長期検討会議を設置し、運営面の些細なところから運動面のダイナミックな部分に至るまで行動に落とし込んできました。ブロック大会は、行動とつながりを生み出す場と位置付けメンバーの参画を呼び込みました。支えてくれたメンバー及び関係各位に改めて感謝を表します、1年間ありがとうございました。

事業区分	事業名	事業内容
他	第41期いわてJAYCEEアカデミー開校式	アカデミー生を対象とした開校式を行いました。合同塾会議、開校式式典、目標達成への道セミナーの3部構成で年間のアカデミー事業への参加意欲の向上を目指しました。
他	第41期いわてJAYCEEアカデミー第1講座	JAYCEEアカデミー生を対象とした第1講座をセレモニー・JCプログラムPurpose・塾会議の3部構成で行いました。
他	第41期いわてJAYCEEアカデミー第2講座	JAYCEEアカデミー生を対象とした第2講座を「セミナー」「プレゼンテーション」の2部構成で行いました。セミナーでは、日本JCが推奨する人財育成パッケージの一つである「セレモニー」と「プロトコル」を実施。プレゼンテーションでは、合同塾会議で構築してきた事業案のブラッシュアップを行い、各塾で実施する事業内容を選定しました。
他	第41期いわてJAYCEEアカデミー第3講座	第2回合同塾会議の協力団体からの内容を基に陸前高田市の地域課題の抽出を行いました。青年会議所の「背景・目的・手法・効果」という事業構築を学んできた塾生に対し、事業実施出来る実践の場を提供しました。
他	第41期いわてJAYCEEアカデミー第4講座	JAYCEEアカデミー生を対象とした第4講座、閉校式の2部構成で行いました。講座ではJC理念への共感を得るために星井様による理念共感グランドデザインと成果発表を行うことで実施した事業が経験となりました。
他	第41期いわてJAYCEEアカデミー閉校式	閉校式では今後に対する誓いと理事長やLOMメンバーへの感謝を伝えました。塾生にセレモニーを行ってもらうことで、LOMでも青年会議所の基本となるセレモニーを円滑に行えるようになりました。
公5	第53回岩手ブロック大会 in大船渡	協議会の運動の発信の場として以下の内容を含む大会を開催しました。「業〜希望につながる未来デザイン〜」をスローガンに、地域や家族、企業がJC運動に共感し、メンバーとのつながりを深め、より明るい未来につながっていくことがイメージできるような大会を目指し開催しました。
公5	第53回岩手ブロック大会 in大船渡メインフォーラム〜行動とつながりがデザインするシン・イワテ〜	社会課題解決に向けた行動を一層推進するビジネスマッチング機会を創出しました。社会課題解決型ビジネスに取り組む事業者によるプレゼンテーションを行い、アイデア出しのブレインストーミングに取り組んでもらうことによって社会課題に対する当事者意識を高めてもらい、社会課題解決型ビジネスへのつながりを生み出しました。
公4	第3回いわて高校生政策甲子園2024	自分たちの声が政治に届いていないという感覚を若者たちが抱えていることが、若年世代の投票率が上がらない要因となっています。若者が現状の課題から未来の日本を考え政策を立案し、地域市民と岩手県に届けることで政治の有効性感覚を高め、若者が政治に対して興味をもち参画できる環境をつくりました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー岩手県大会	スポーツを通じて、仲間意識、責任感、犠牲的精神、リーダーシップ、相手を思いやる心を身につける機会をつくりました。利他の心からお互いに助け合う精神を醸成につなげました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
宮城ブロック協議会	会長	佐藤 健二（泉）

基本方針

JCの理念共有や地域経済活性化から、宮城を想い、地域のため本気で行動する人財が増え、笑顔があふれる宮城の実現を目指します。



総括

日本JCと連携し協議会の運動の効果をこれまで以上に高めること、そして、各LOMの支援を行ううえで、我々協議会メンバーが具体的にアクションを起こすことを大切に一年間活動いたしました。社会構想会議協力のもと、デジタル技術を活用したまちづくりに取り組み、仙台高専と連携協定を結ぶことができました。また、JC連携推進会議協力のもとLOM支援を行いました。白石JCにおいては、事業構築段階から携わらせていただき、対外事業を共に開催することができました。また、ASPAC、世界会議のジャパンナイトにおけるブース出展などをとおして、青年会議所にある国際の機会を県内メンバーに体感していただき、メンバーの視野を広げることができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	京都会議宮城ブロックナイト	京都会議中に宮城ブロックナイトを開催し、宮城県内のメンバー同士が交流をはかる場としました。
他	2024年みやぎJCアカデミー開校式	アカデミー生の青年会議所の理念への理解を深めること、1年間の活動に対して参加意欲を高めることを目的として、開催いたしました。
他	宮城ブロック協議会2024年度新年式典並びに新年祝賀会	宮城ブロック協議会の1年間の方針を発表し、各地会会員会議所及び関係諸団体の皆様に、宮城ブロック協議会の運動、活動に対するご理解、ご支援をいただくことを目的として開催いたしました。
他	理念共感拡大セミナー ～JC活動の価値と重要性～	講師として榎田啓先輩（京丹後JC OB）をお迎えし、メンバーが理念を持って行動することの重要性を理解すること、会員拡大における理念共感の必要性を理解することを目的として開催いたしました。
他	2024年みやぎJCアカデミー 3月事業 IC～Inspire the Construction～	講師として日本JC褒章委員会委員長 山崎 隆太郎君をお迎えし、アカデミー生が事業構築の考え方とパートナーシップの重要性について理解を深めることを目的として開催いたしました。
他	理念共感プロモーター育成 ～理念伝道者への道～	講師として廣野一誠先輩（気仙沼JC OB）としてお迎えし、メンバーが理念の重要性を理解すること、自身の存在意義を明確にすることを目的とし、Purposeを開催いたしました。
公7	Everyone Together Culture みんなで宮城の魅力を世界へ発信！	アジア太平洋地域のメンバーに宮城県の魅力を広めること、県内のメンバーに青年会議所にある国際の機会を身近に感じてもらうこと、県内11LOMの一体感を高めることを目的として、ASPACアンコール大会ジャパンナイトにてブース出展いたしました。
公1	JCカップU-11 少年少女サッカー大会 宮城県予選事業	青少年が勝敗に関わらず相手を認め、敬うことができる心を育むこと、保護者やチーム関係者が、グッドルーザーの精神を育む重要性を理解していただくことを目的として、宮城県東松島市にて、JCカップ宮城県予選大会を開催いたしました。
他	第54回宮城ブロック大会in栗原 オープニングセレモニー	大会の趣旨や内容を理解いただき、宮城ブロック協議会が発信する運動への理解を深めること、宮城ブロック協議会の存在意義や活動目的を理解し、ブロック大会から学びを得る意欲を向上することを目的とし、栗原市みちのく伝創館にて開催いたしました。
公5	アカデミー委員会ブロック大会事業 「まちを照らすパンプランタン」	アカデミー生がパートナーシップの重要性を理解すること、地域のために率先して行動できる人財となることを目的として、開催いたしました。
公5	第54回宮城ブロック大会in栗原 デジタル技術を活用した地域課題解決 ～ニューリーダーが考えるまちづくりのかたち～	デジタル技術を活用して地域課題の解決に繋げること、大会参加者のデジタル化に対する意識の向上と導入推進、地域課題解決に向けたデジタル人財の育成を目的として、仙台高専と共に開発をした街歩きアプリを来場者にご使用いただきました。
公5	第54回宮城ブロック大会in栗原 Change The Mind インベーションを巻き起こせ！ ～稼げる地方都市の実現に向けて～	インバウンド受け入れの重要性を認知するとともに、外貨獲得に向けた意識の向上を目的として、アバホテル株式会社社長 元谷 芙美子様を始めとした講師をお迎えし、フォーラムを開催いたしました。
他	第54回宮城ブロック大会in栗原 クロージングセレモニー	大会開催にあたりご協力いただいた皆様への感謝を伝えるとともに、宮城県内のメンバーに次年度の宮城ブロック協議会、そしてブロック大会への理解を深め、協力体制を築くことを目的として開催いたしました。
公5	第54回宮城ブロック大会in栗原 広報事業	未来を担う子どもたちの災害リテラシーを向上させることで、地域コミュニティ全体の防災意識を高めることを目的として開催しました。学んだ知識を家族や友人と共有することで、地域全体で災害に備え、迅速で効果的な対応が可能となることを目指しました。
公5	第54回宮城ブロック大会in栗原 開催計画	地域資源を、創意工夫を凝らして活用することが、地域の発展につながることを理解していただき、開催地域の魅力を活かしたまちづくりに対する運動から、各々の地域に結びつく新たな価値を見出し、地域の発展に繋げることを目的としました。
他	2024年度野球大会 宮城ブロック予選大会	野球大会を通じた交流にて、宮城ブロック協議会の仲間達との友情を育み楽しんでもらうことを目的として開催いたしました。
他	2024年みやぎJCアカデミー8月事業 SA～Sow an Action～	講師として崔成基先輩（横浜JC OB）をお迎えし、アカデミー生が地域の抱える問題から課題を抽出できる人財となること、インパクトのある事業の構築へ意欲を高めることを目的として開催いたしました。
公7	ETC×ATM みんなで宮城、 東北の魅力を世界へ発信！！	世界各国から訪れる方々に宮城県の魅力を広めること、また、宮城ブロック協議会のメンバーに青年会議所にある国際の機会を身近に感じてもらうことを目的として、世界会議議院大会ジャパンナイトにてブース出展いたしました。
他	2024年度みやぎJCアカデミー委員会 開校式	アカデミー生が出向して得た経験を今後のJC活動への糧とし、次年度以降への活動意欲を高めることを目的として開催いたしました。
他	2024年度LOM支援委員会年間支援計画	年間をとおして、ブロック内の情報共有、会員拡大支援、JCプログラムの実施等を通じて各LOMの支援を行いました。
公6	防災・減災につながるネットワークの 強化・支援計画	各地の社会福祉協議会と各LOMとの協力関係構築を目的として、座談会の実施支援など、年間をとおして支援いたしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
山形ブロック協議会	会長	佐藤 友介（鶴岡）

基本方針

親切心に重きをおいた私たちが、地域を牽引とするリーダーとして地方創生につながるJC活動やJC運動を実行することで、夢と希望溢れるやまがたを実現します。



総括

本年度はBE FIRST～親切心が導く夢と希望溢れる「やまがた」の実現に向けて～をスローガンに掲げております。対外事業としては5益を最大限に発揮するブロック大会南陽大会や災害支援事業を開催することで、各LOMと一致団結し、出向で得ることが出来る学びや各メンバーの自己成長につなげることができました。対内事業では、人間力をテーマにしたアカデミープログラムや理念共感拡大グランドデザインの推進、各LOMの支援など次世代のリーダー育成や良質かつ効果的なLOM支援を実施できました。また、ブロック内の会員拡大を最重要職務と設定し、県内メンバーの会員数純増に寄与することができました。さらには、多くのメンバーに失敗を恐れずに挑戦することの重要性を教えることで、組織や地域がより良い未来へと突き進むことに貢献できました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	第10回JCカップ U-11少女サッカー大会	子供たちにチームワークを通じ協調性や連帯感を育み、多様性の相互理解の意識を育成する次代を担う少女達に勝ち負け以上に大切なグッドルーザー精神の育成することで、他者を思いやる心とあくなき挑戦心を兼ね備えた人材を育成する事業を開催しました。
公5	第57回山形ブロック大会南陽大会	2024年度第57回山形ブロック大会を南陽市にて開催いたしました。「緑と恩」～緑に感謝し恩を忘れず、夢と希望溢れる「やまがた」の実現～のスローガンのもと、持続可能な地域とするための県民の意識変革を県内に広げることが目的とし大会を執り行いました。
他	第57回山形ブロック大会南陽大会 式典の企画・運営	2024年度第57回山形ブロック大会、大会式典を開催いたしました。多くの来賓を招き、南陽市ならではのオープニングアクト「民話鶴の恩返し」、会長挨拶、主管理事長挨拶を行うことにより、開催地の特色や大会にかける想いを共有し、存在意義を高めました。
公5	第57回山形ブロック大会南陽大会 主管地域の魅力を発信する事業	2024年度第57回山形ブロック大会、主管地域の魅力を発信すべく「NANYOまるごとマルシェ」を開催いたしました。南陽市の魅力溢れる食べ物、特産物、活動団体から出店及び出展していただき、地域に対し誇りと愛着を持っていただくことを目的とし開催しました。
公5	第57回山形ブロック大会南陽大会 広報	2024年度第57回山形ブロック大会の広報の企画、実施を行いました。JCのOGであるインフルエンサーと共に、地域社会とステークホルダーとの信頼関係を構築するための運動に対する共感を拡げ、大会への参加を促しました。
公5	第57回山形ブロック大会南陽大会 メインフォーラム 地方創生 ～アドベンチャーツーリズムの可能性を探る～	ブロック大会南陽大会メインフォーラムで地域づくり、まちづくり、地方創生に特化した方々をお呼びし講演やデスカッションを行っていただき、地方における経済発展の重要性への理解及び、山形県の特徴やニーズの認知向上を図ることができました。
他	アカデミー委員会 第1回プログラム及び閉講式	対話力をテーマに日本青年会議所JC教育推進委員会副委員長である佐々木純君をお招きし、アカデミー生に対し、対話についての講話やワークショップを行い、異なる視点からも意見をシンセサイズできるコミュニケーション能力を身に付ける事業を開催しました。
他	アカデミー委員会 第2回プログラム	アカデミー生が自分の思い描く理想像を設定し、その未来像に向けてどのようなプロセスを経て進むのか考え、目標設定を発表し相互に高め合っていたくことで目標や目的に向かって、状況の変化にイニシアチブを発揮する能力を高める事業を開催しました。
他	アカデミー委員会 第3回プログラム ブロック大会及び閉講式	アカデミー生が今後何かを成し遂げるとき、最後までやり切るにはその事業をどうしても行わないといけないという想いが重要で、その想いがメンタルタフネスに繋がるのだとアカデミー生に伝えるための事業を開催しました。
他	LOM支援委員会年間事業企画	山形ブロック協議会の窓口となり、各LOMの課題解決に向けてヒアリングを行いその内容を当委員会内で協議し、実行をして参りました。Gian Pocketの推進、理念浸透サーベイ、議案構築セミナー、大会参加促進、各メンバーの意識向上を目指す運動を行いました。
他	理念共感セミナー	アチーブメント株式会社の講師を依頼し、理念が共感されることで今後所属LOMが持続可能な組織として存続し発展につなげるために理念共感セミナーをZoom開催し、JC運動に対して多くのメンバーを巻きこみ共感を生むことができました。
他	会員拡大実行支援	各LOMのニーズに合わせた会員拡大施策及び実行に対するフォローと持続可能な団体としてJC運動を展開できるよう会員数の純増達成を目指す運動を実施しました。
他	会員拡大褒賞	ブロック大会において、これまでの会員拡大に取り組んだ結果を賞賛し、褒賞授与式を行うことで、各LOMが会員拡大運動に対し持続的かつ積極的に取り組んでいただけるよう意欲向上を図る事業を開催しました。
他	15LOMフォローアップセミナー交流会	本年度の新入会員が青年会議所の価値を理解し、意欲的に運動に取り組む意識を向上させ、参加メンバーが入会者に対するフォローアップの必要性を再認識することで、LOMにおける会員拡大意識を向上させるセミナー交流会を実施しました。
他	ブロック会長公式訪問並びに事業説明会	県内4エリアへ会長・役員が訪問し、現地参集形式にて山形ブロック協議会2024年度の基本方針や各委員会の事業の説明を行うことで、より多くの会員にブロックの方針や理念を理解していただき、ブロックに関わるうとする意識の向上を図る事業を開催しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
福島ブロック協議会	会長	柳沼 勝恵（郡山）

基本方針

メンバーの挑戦を支援し、運動の最大化を図ることで、地域とLOMの好循環を生み出し、笑顔と活気あふれる福島の未来を創造します。



総括

「故郷への想いからなる挑戦を原動力に、笑顔と活気あふれる福島の未来へ」の基本理念のもと、地域課題解決に向き合う各LOM、メンバーの挑戦を支援して参りました。理事長座談会の開催や各種会議での課題の共有を通して的確なLOM支援に繋げました。またブロック連携事業のインバウンド推進に合わせ、メンバーに対して身近に国際の機会を感じていただけるようアスパックでのブース出展を行いました。アカデミーにおいても全4回の講座と開校式、閉校式を通して、JCの基礎を学ぶとともにブロック内の絆を深めることができました。また、予定者段階から一年を通して、メンバーや市民に向けた防災・減災に関わる意識向上の事業を行いました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	第10回MJS presents JCカップ 少年少女サッカー全国大会福島予選大会	福島県内の11歳以下12チームが集うサッカー大会を開催しました。試合はもちろん、グッドルーザー精神セミナーやアフターマッチミーティングを通じ、選手たちは相互尊重や礼儀を学びながら交流を深め、次世代の地域リーダーとしての成長を目指しました。
公6	親子で楽しむ防災体験 イザ！カエルキャラバン！	ブロック大会inたむらにおいて防災・減災のための知識をゲームや体験を通して学ぶ事業とポイントを介したおもちゃの交換事業であるかえっこバザールを組み合わせ、イザ！カエルキャラバン！を実施しました。
公5	インバウンド推進事業	年間を通じて、2LOM(福島JC、猪苗代JC)のインバウンド向けモデルプラン策定を支援し、インフルエンサー2名と協力してプロモーション動画を作成しました。さらに各地で開催される大会での広報活動を通じて、地域の魅力を広く発信しました。
公5	Discover Fukushima×Taiwanブース出展	田村市で開催されたたむら愛郷祭～EXCITRIP(エキサイトリップ)～の会場でブースを出展し、台湾茶等の提供やVR上での福島の魅力発見、インバウンドモデルプランの紹介を通じて、福島と台湾の魅力に触れていただく機会としました。
公5	第54回福島ブロック大会inたむら 広報	第54回福島ブロック大会inたむらの広報を様々な手法を用いて実施しました。数年ぶりに大会PRキャラバンが復活し、各LOM事業等に近い、積極的な会員参加を促しました。また、大会情報を紹介するブロック大会日より、読者により詳細な大会情報を届けることができました。
公7	ASPACジャパンナイトブース出展	ASPACアンコール大会のジャパンナイトブースに、福島の魅力を海外メンバーに知っていただくことを目的にブースを出展しました。福島の日本酒11銘柄やおつまみを来場者に提供し、国際化の機会を肌で感じながら福島の魅力を伝えることができました。
他	公益社団法人日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会2024年度 新春のつどい	県内18LOMと日本JCをつなぐ総合連絡調整機関として、各組織改編後の人的資源を確認し、理念共感を広げる機会を創ることが求められるため事業を実施したことで、福島ブロック協議会並びに県内18LOMの相互理解を高めることができました。
他	組織アップデート座談会	第1部では、LOMが持つ組織運営の課題を、直前理事長たちに、組織づくり・運営の声(成功事例・反省・助言)を聞き出し、第2部では、日本本会の視点から、これからの時代に即した組織運営について石田全史歴代会頭と菅野謙顧問による特別対談を実施しました。
他	第54回福島ブロック大会inたむら 主催主管締結式	第54回福島ブロック大会inたむらにおける主催者、主管LOMがそれぞれの想いを伝えるとともに、大会に向けて一丸となって運動を展開する機運を高めることで、会場が一体となり、大会への成功を祈願しました。
他	第54回福島ブロック大会inたむら パートナー企業募集	ブロック大会開催に合わせて福島ブロック協議会のパートナー企業を募集し、合計21企業から賛同いただくことができました。会場で企業名をPRボードで紹介し、SNS(Instagram)でも企業紹介を実施しました。
他	第54回福島ブロック大会inたむら 記念式典	「Excitrip～ふるさとが織りなす魅力の旅～」をスローガンに掲げ、開催地である田村地域の良さや主管LOMの想いを形にした記念式典を7月7日に開催しました。大会旗伝達式を通じて、脈々と受け継がれてきたブロック大会のバトンを無事に次年度へと引き継ぐことができました。
他	公益社団法人日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会 2024年度 アカデミー委員会オリエンテーション及び開校式	アカデミー委員会で活動する意義や自分とJCの理念に共感する部分を見つけて活動意欲の向上を図ると共に、県内18LOMメンバーの前で輝く人財へと昇華する決意を固めていただきました。
他	公益社団法人日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会 2024年度 アカデミー委員会第1回委員会	日本JC必須プログラムの一つを受講することでJAYCEEが守る流儀・作法を理解することができました。また、運動発信の土台を作ると共に、地域の中で輝く組織となるためにLOMがどうあるべきかを理解した上でLOMの現状・課題を知ることができました。
他	公益社団法人日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会 2024年度 アカデミー委員会第2回委員会	自分たちが行う活動の理念に共感することで理念に共感しLOMをより良く変革できる人財へと近づくことができました。また、地域の中で輝く組織となるためにLOMがどうあるべきかを共有し、ブロック大会に向けての研究テーマを決定することができました。
他	公益社団法人日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会 2024年度 アカデミー委員会第3回委員会	各事業がどのようにできているかを学び、入会歴の浅いアカデミー生が、どんな組織で活動したいか、そして地域で輝ける組織となるためにはどのようにすればよいかを歴の長いメンバーでは見えない視点から組織運営の形を発見する機会となりました。
他	公益社団法人日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会 2024年度 アカデミー委員会第4回委員会	入会歴の浅いアカデミー生が、どんな組織で活動したいか、そして地域で輝ける組織となるためにはどのようにすればよいかを発信し、これからの組織運営に影響を与えることのための時間としました。
他	公益社団法人日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会 2024年度 アカデミー委員会閉校式	地域や組織内で必要とされる人財「Shining One」へと成長した姿を来場者に見ていただき、次年度以降への活動に繋げることができました。
他	公益社団法人日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会2024年度 事業報告会・卒業式	福島ブロック協議会の運動活動に賛同をいただいた県内18LOMに対して、本年度開催した事業の詳細や運動の成果を発表致しました。また、昭和59年生まれのご卒業生に対して感謝の想いを伝える機会となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
栃木ブロック協議会	会長	瀧田 真（那須野ヶ原）

基本方針

栃木県内の全ての青年会議所メンバーが、当事者意識を持って率先して自身が成長し、子供たちの未来を変える先駆者となる。



総括

栃木ブロック協議会では、明るい未来を創るために、まずは成長が大切と考え、「未来を変えるのは私たち」という当事者意識を持って運動をして参りました。LOM支援としては、アカデミーや中堅者への研修と拡大支援を行い、純増で次年度に引き継ぐことができ、また地区大会では、県内11LOMが一丸となって県内の魅力を発信し子ども食堂への支援を行い、ブロック大会では、子供の体験をベースに「こどもまんなか社会」について発信することができました。さらに栃木ブロック協議会2020年代答申書を理事長へのヒアリングを基に役員で作成し、目指す方向性を示しました。一人ひとりが成長し、明るい未来のために1歩進んだ1年と考えています。

事業区分	事業名	事業内容
他	2024年度第1回全体会議	2024年度の幕開けとして、第1回全体会議を実施いたしました。会長挨拶・各委員会各委員長事業方針説明等を通して、2024年度栃木ブロック協議会の運動方針を発信しました。当協議会運動方針に対する共感の輪は広がったと考えております。
他	当事者意識向上セミナー ～楽しいブロック活動のススメ～	メンバー各々の主体性と積極性を喚起し、力強い運動を展開する心構えが必要であり、開催しました。私たちの目的達成に必要な当事者意識への理解を深め、事業や委員会活動への参加意欲を向上させることを目的とし開催しました。
他	アワード受賞者から学ぶリーダー研修 ～次のグランプリは俺達だ～	これからリーダーシップ発揮するためのヒントを得ることを目的とし、組織運営や事業構築について学んでいただきました。県内LOMの同志と情報交換しながら、栃木県内でよい事業をつくっていくその支援が栃木ブロックの役割であると再認識しました。
公1	ベビファ進まない栃木県、、、なぜななぜ？ ～3歳児健診から考えるベビーファースト～	子供を取り巻く環境を作っている親の世代が、子供たちにとって良い環境を作るためにどういったアクションが有効なのかを考える機会として本事業を実施しました。大人の親切心が織りなす豊かさによって、子供たちの笑顔があふれる未来の実現を目指します。
他	交流事業～新しい出会いここにあります～	県内LOM混合のグループを作り交流を行いました。メンバーのこと、LOMのことを知ってもらうことで、今後も新しいつながりを持ちたいと思ってもらえるよう、工夫を取り入れました。
他	つかもうぜJCパワー ～つながりからはじまるJCの可能性～	全力で青年会議所の活動と運動の軌跡をアカデミーメンバーに伝えることで、栃木ブロック協議会・各LOMの事業の質の底上げとなり、青年会議所が魅力のある組織への一助へと繋がる事業となりました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー 全国大会栃木県予選大会	グッドルーザー精神や親切心を交えた講演会を行い、子供達に目的をインプットしてから試合に臨んでもらいました。アフターマッチミーティングでは、最初の回ではしっかり目的を説明し、子供達に目的が伝わるよう努めました。
公5	関東地区大会とちぎ大会 魅力発信ブース～子ども食堂応援大作戦！～	関東地区大会内で魅力発信ブースとして、各LOMが地域の魅力を発信できるブース出店を行いました。多くのメンバーが会場に足を運んで魅力の発信を実感してもらえるように、運営や販売、呼び込みなど各LOMメンバーが中心となって担う手法にしました。
公5	とちぎフォーラム2024 Let's CREATE for children ～未来につながる栃木の創造～	ブロック大会として、こどもまんなか社会とは何かを知ることで、子供の視点に立った行動や考え方・子供の将来のために何ができるのか、街の発展のために何ができるのかを考えるきっかけを提供しました。
公1	わくわくワークス ～栃木でやってみよう！働くて楽しい！！～	栃木県で活躍している各企業や団体、アカデミーメンバーによる職業体験ができるブースを開設しました。働くことの意義や目的を学び、実際に触れることで貴重な経験をさせていただきました。
公5	栃木フォトゲイニングin鹿沼市	地域の魅力を知る、自分のまちでも魅力を知りたいと思ってもらうということを目的にフォトゲイニングという手法を用い実施しました。スポーツを楽しみながら、鹿沼市の魅力を伝えることもできました。
公6	キッズセーフティフェスティバル！！ ～家族で楽しく学ぶ防災教室～	防災講演や、防災グッズを使ったワークショップを行い、防災を身近に感じていただきました。子供たちが災害弱者とならないために、災害の現実を学び、興味をもって自らの危機管理能力を育むことで、防災意識の向上を促進するきっかけとなりました。
公5	わくわく？ばらばら？ワークライフバランス ～カエル会議でワークもライフもハッピーに！～	ワークライフバランスの本質を学び波及させること、ワークライフバランスの質を向上する事を意図して事業を構築しました。事業手法そのものはセミナー形式で、鹿沼市長、鹿沼青年会議所理事長を講師としました。
公2	やってみたいをやらなくちゃ！ ～Let's CREATE for children～	「こどもまんなか」をテーマに、家庭における子どもがやってみたいと思う気持ちを大切に、やってみようという気持ちにさせる子育てについてテーマに沿ってトークを繰り広げてもらいました。
他	とちぎフォーラム2024大会式典	栃木ブロック協議会最大の運動発信の場であるフォーラムの大会式典にて、年度の運動を周知・共有を行いました。また、フォーラムに関する次年度紹介の場を設けたことで、次年度に対する高揚感を高めることに繋がったと思います。
他	第2回全体会議Let's celebrate !!	2024年度の運動の成果や課題を共有し、栃木ブロック協議会の運動を次年度へと繋げること、栃木県内11LOMの活動成果やメンバー個人の成果を、栃木ブロック協議会として讃える場として実施しました。
他	会員褒賞	青年会議所の運動を理解し推進を計った会員を、県内各地会員会議所会員に周知し、栃木ブロック協議会褒賞規則に則り褒賞するために実施しました。次年度以降のJC活動と、栃木ブロック協議会出向へのさらなる意識の向上に繋がりました。
他	栃木ブロックアワード2024審査会 及び表彰式	今年度実施された事業の中から、課題設定や課題解決の手法選定に新規性があり、他の地域においても参考にする事ができる高い再現性・汎用性がある好事例を表出し、次年度の事業構築に向けた学びの場とするために実施しました。
他	会員拡大褒賞	持続可能な会員拡大の構築方法を、次代に繋げていく必要があり実施しました。今年度の拡大活動の成果をたたえ合い、意識を高め合い、持続可能な会員拡大を今後も目指します。



会議・委員会名	役職名	担当者名
茨城ブロック協議会	会長	松丸 議将（茨城南）

基本方針

個性が輝き期待があふれる持続可能な茨城の実現を目指し、人財育成と事業構築及び実施のサポートを通じてLOMの発展に寄与します。



総括

本年度はLOMの運動の最大化を使命とし、そのためにLOM・ブロック協議会の持続可能性を高めるための活動を行って参りました。アカデミーに加え新たにLOMの中堅層を対象とした研修事業を行うことで、LOM内の人財育成環境の改善を図り、またLOM間連携の推進、行政とのパートナーシップの推進、及びデジタルを活用した広報の推進を行うことで、LOMの持続可能性を高めて参りました。そしてこれまで属人性が高く再現性の低かったLOMサポートを組織化及び体系化するとともに、ブロック協議会の在り方を検討する会議を設置することで、茨城ブロック協議会自体の運営と活動を持続可能なものへとアップデートいたしました。

事業区分	事業名	事業内容
他	シェアリングエコノミーを活用した地域活性の推進	ブロックとLOMが共同で行政に対して提案を行い、各市町村が管理・保有する施設をシェアリングエコノミーサービスを用いて、利用者の増加、収益の増加へ繋げる事業です。
他	JCと地方自治体の連携体系構築の推進	LOMの運動をより良いものにするために、県内LOMと行政の連携を現状よりスムーズかつ強固に行えるよう伴走型支援を行う事業です。
他	各エリア事業においてアカデミー会員の育成を目的とした連携事業	エリア毎にアカデミーメンバーによる模擬委員会を作り、そこで構築した事業をエリア内LOMの事業において実際に実施することで、ブロックのスケールメリットを活用し、より多くのアカデミーメンバーに成長の機会を提供する事業です。
他	理念共感グランドデザインの推進	県内すべてのLOMにおいて理念サーベイと理念共感セミナーを実施することで、退会者の抑制とJCに対する参画意識の向上を図る事業です。
他	Change Yourself 春のブロック合宿	アカデミーメンバーだけでなく、中堅メンバーを対象とした参加メンバーのキャリアに合わせたプログラムを実施することで、様々なLOMの人材育成ニーズに対応し、LOMの人材育成を自走可能な状態にすることを目的とした事業です。
公1	第10回JCカップU-11少年少女サッカー大会エリア予選大会	県内4つエリアにおいて予選大会を実施することで、エリア内LOMの連携を強化するとともに、より多くの子どもに発展と成長の機会を提供する事業です。
公1	第10回JCカップU-11少年少女サッカー大会茨城予選大会	地域社会の次代を担う少年少女達が、大会を通してグッドルーザーの精神を育むとともに自分の夢を真剣に考え、周囲への感謝を忘れない人財になることを目的とした事業です。
公1	いばらきハイスクール議会2024	高校生が政治への理解を深め、地域の課題に興味をもち、主権者意識を醸成することを目的とした事業です。
公5	第53回茨城ブロック大会日立大会 記念事業「皆で咲かせよう 秋のさくら祭」	地域資源を最大限活用した事業を通して、市民が多くの気づきや一体感を得ながら、地域に対する愛着や郷土愛を深めるとともに、県内LOMの参考となり、その運動をより良いものにする事業です。
公2	第53回茨城ブロック大会日立大会 ウェルビーイングセミナー 「幸福の定義を知り、幸せをシェアしよう」	県内企業の経済人がウェルビーイング経営について理解を深め、すべてのステークホルダーに幸福と利益を提供する必要性を理解することで、県内企業の生産性や魅力の向上を図る事業です。
公6	第53回茨城ブロック大会日立大会 「防災力向上フィールド ～Level up by self help～」	VRを活用し災害時の状況を疑似体験することで、地域の防災レジリエンスの向上を図る事業です。
公7	2024JC世界会議桃園大会 ジャパンナイトにおけるブース出展	茨城の文化と魅力を県内3LOMと共同出展し、世界へ発信する事業です。
他	戦略的な広報セミナー	予算的制約がある各LOMの広報をより良いものとするために、SNS及びオンラインツールを正しく理解し、その活用を促進する事業です。
他	魅力溢れる出向者交流会	20代や女性など様々なブロック内の横の繋がりを深め出向者間の交流を深めることで、出向のメリットの最大化を図る事業です。
公4	公開討論会の開催支援	LOMに対し公開討論会の開催に関わる様々なサポートを行うことで、有権者の政治参画意識を高め、選挙投票率の向上を図る事業です。



会議・委員会名	役職名	担当者名
群馬ブロック協議会	会長	吉田 雄希（渋川）

基本方針

地域に未来を、群馬に愛を 笑顔と誇りあふれる未来の創造。



総括

今年度、群馬ブロック協議会では在籍年数が短いメンバーが増えている課題があり、アカデミー事業に注力を注いで参りました。年3回JCプログラム等を活用しアカデミー事業を開催し、毎回100名を超えるメンバーに受講していただき今後のJC活動の糧になったと確信しております。またブロック大会では利根沼田の地域を舞台に「アドベンチャーツーリズム」に着眼点を置き事業を開催し3,000名を超える方にご来場いただきました。群馬県内各地域でアドベンチャーツーリズムが浸透するきっかけとなったブロック大会となりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	第1回全体会議	県内12LOMのメンバーが一堂に会し、2024年度の群馬ブロック協議会の運動の方向性を共有しました。
他	第1回アカデミー事業 ～結局、JCって何よ？～	JCIプログラム「Purpose(パーパス)」を実施しました。服装は自由とし、多くのメンバーが参加しやすい環境整備を図りました。また、グループワークを実施することでメンバー間の交流を図り、参加者がJC事業に参加することは、つながりが広がることを感じていただきました。
公1	第10回JCカップU-11少年少女 サッカー全国大会関東地区 予選大会群馬県予選大会	JCカップを通じて、次世代の地域社会を担う子供達に他人を思いやることのできる心豊かな人材の育成をするとともに、参加者及び関係者に、県内各市町村で青年会議所が活動していることを周知し、会員拡大につなげるための事業を行いました。
公5	群馬ブロック協議会 第54回群馬ブロック大会 利根沼田魅力創造フェス2024	第54回群馬ブロック大会テーマを「未来創造 ～未来へのパズルはひとつひとつのPEACEから～」として、参加者に事業を通して地域の持つ魅力が外国人から見てどの様な物なのかを知っていただき、インバウンドによる地域活性化の可能性や重要性を認識していただくことで、将来的に地域において自立してインバウンド戦略が積極的に行われる様になるための素地となる事業を行ないました。
他	群馬ブロック協議会 2024年度 第54回群馬ブロック大会式典	県内12LOMのメンバー、歴代ブロック会長、来賓の方に対して、2023年度の活動実績と2024年度の上半期の活動実績の報告を行いました。
他	第2回アカデミー事業 ～JCゲームでブロック交流を 楽しもう～	JCプログラム「JCゲーム」を実施しました。またアカデミー対象者同士交流が図られるようグループ分けはできる限り同LOM以外のメンバーで編成することとします。また、多くの方にご参加いただくためにドレスコードは自由として行いました。
公5	「群馬」を未来へ ～故郷の歴史や文化を継承し 持続可能なまちの発展へ～	近年は東京・京都・大阪などのゴールデンルートから外れた地方都市において、その地でしかできないユニークな体験を希望する訪日観光客が増えています。このことから我々自身が、群馬県の自然、文化、歴史、伝統こそがインバウンドにおける価値だと理解し、またそれらの活用方法を学ぶことで、次代に継承したいと思う気持ちを醸成する事業を行いました。
他	第3回アカデミー事業 ～ワクワクする気持ちで 事業構築に取り組もう～	JCの先輩を講師に招き事業構築についての講演をしていただきました。グループワークでは実際に議案書を作成し、同じ背景・目的でも多様な手法があり、様々な事業構築ができるというのを感じてもらった事業を行いました。
他	第2回全体会議	2024年度群馬ブロック協議会にご排出していただいた12LOMの皆様へ感謝を伝え、出向メンバーを労うとともに、2024年度の運動の報告を行い、卒業生に感謝を伝えることができました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
埼玉ブロック協議会	会長	渋谷 巧 (川越)

基本方針

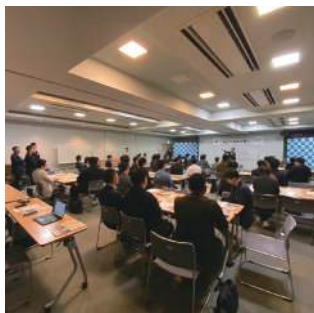
湧き出す魅力～それぞれが高め合う誰もが輝く埼玉の創造～



総括

県内各地会会員会議所とそこに所属する会員、そして各地域に存在する魅力を発掘し、それらをつなぎ合わせることで魅力を磨く事業、本来の力を地域の皆様に魅せることができた一年となりました。多様性が叫ばれる時代の中で、海外の人々と日本人が暮らしやすいような共存社会の実現を模索しました。また、会員それぞれのビジネスの可能性を切り開き、埼玉県内企業の女性就業環境改善について模索いたしました。そして、LOMの人財育成や魅力をつなぎ合わせ、ALL埼玉の魅力を最大限にする施策を実行しました。JCカップU-11少年少女サッカー大会では、サッカークリニックを実施するとともに、グッドルーザーの精神を醸成する事業を実施しました。

事業区分	事業名	事業内容
他	2024スタートアップセレモニー～湧き出す魅力～	2024年運動をスタートするにあたり県内各地会会員会議所の理事長をはじめとするメンバーを一度に集め埼玉ブロックの運動の方向性の発信をすると共に理事長紹介、ブロック会員の事業計画の発表を行い、出向者を募る事業としました。
他	JC交流合宿	LOM間交流の一員として宿泊での事業を行いました。内容としては、林間学校のようなカリキュラムであり各地会会員会議所の成功事業の発表をするLOMプレゼン会を行い参加したメンバーに気づきと学びを得る機会を作りその中で交流を図れるような事業を行いました。
他	拡大3K大作戦(拡大褒章事業)	会員数が減少している中で年間を通しての拡大褒章事業としました。3月に拡大担当者を集め勉強会兼交流会を開催し拡大手法を共有しブロックの活性化を図りました。毎月の拡大人数をスプレッドシートに記載していただき表彰しました。
公5	地方創生による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動	日本本会と連携し、埼玉県内各地青年会議所と、その地域のステークホルダーと共にアドベンチャーツーリズムの手法を取り入れた観光プラン(実行計画)の策定を行い、インバウンド需要を生み出す仕組みを構築しました。
公5	企業のブランド力向上を支援	企業が持つ商品やサービス、地域資源の魅力をPRし、販売や問い合わせに繋げられるプラットフォームビジネス「ぶらっと埼玉」を立ち上げ、青年会議所と企業がつながる広告ツールを展開し企業のブランド力向上を支援しました。
公5	各種団体との連携による企業支援「今こそ変革のとき」	圧倒的事例数と経営学を融合した長続きする「いい会社」の要素を学ぶ講演会を開催しました。JC関係企業だけでなく、一般企業を交えグループワークを行い互いに失敗や成功の要素を交換し合い、より強い企業へと成長するきっかけをつくりました。
他	2024年度日本青年会議所会頭訪問事業	年に1度のこの機会！小西会頭とコミュニケーションタイムとして、会頭とテーブル別で交流をしていただきます。理事長7～8名を1チームとして、25分間のコミュニケーションタイムの時間を設けます。会頭に各チームのテーブルに移動していただき、会食をしながら交流をしていただきます。
公1	第10回JCカップU-11少年少女サッカー大会埼玉県予選大会	本大会を実施し、他者を思いやれる人財の育成を子供たちが育める事業を目指すとともに埼玉県の代表チームを選出しました。代表チームには、関東地区予選大会に参加していただきました。今大会は過去最大の32チームに参加いただき、トーナメント方式によるサッカー大会の他、全参加選手対象としたサッカークリニックを実施いたしました。
公7	JCI世界会議桃園大会ジャパンナイトブース出展	世界会議桃園大会ジャパンナイトでのブース出展をしました。埼玉県のソウルフードであり国内消費量第2位のうどんを提供しました。240食を提供しました。ポップカルチャーの1つでもある、日本のキャラクター(ドラえもん・キティちゃん・ピカチュウ)のすり身チップをブースに来ていただいた方に、ご自身で盛り付けしてもらいます。豚山菜、日本酒、焼酎、ウイスキーの提供をしました。
他	日本本会の育成パッケージの活用	理念共感型新プログラム「Purpose」を通じて、自身の理念と日本JCの共通点を見つけ、JC活動が仕事や家庭に密接に関連していることを認識し、リーダーシップの意義を学ぶ全体委員会を実施しました。
他	理念共感拡大ブランドデザインの活用・推進	意見共有力と考えをまとめる力を向上させるため、効果的なコミュニケーションやマインドマッピングを通じて、メンバー間の共感や協力を促進しました。
他	Academy Award 2024「Be raised ～湧き出す魅力～」	アカデミー生がJCをテーマにショートムービーを作成し、ブロック大会で発表しました。投票によりグランプリを決定し、リーダーシップや伝える力を活用する機会を提供しました。
公5	第54回埼玉ブロック大会朝霞大会「メインフォーラム」	少子高齢化、外国人流入増の観点から多文化共生をテーマにフォーラムを開催し埼玉の明るい未来の創造に対する意識を醸成いたしました。
公5	第54回埼玉ブロック大会朝霞大会「本体」	多文化共生をテーマに17か国の料理をキッチンカーやブース出店形式で紹介するとともに日本の伝統文化である縁日ブースを設置し来場者に体験していただきました。
公5	第54回埼玉ブロック大会朝霞大会「対外向け広報の推進」	主管LOMと合同のチラシを作成し、朝霞駅前にて配布しました。またSNSでの告知やその他キャラバンを行い広くブロック大会の周知を行いました。外国人向けに翻訳アプリの説明書き等も記載し、理解していただけるよう設えました。
他	第54回埼玉ブロック大会朝霞大会「大会式典」	1部制にて設え、先輩諸兄姉、関係諸団体を来賓としてお招きし、感謝を伝えるとともにこれからも続いていく埼玉ブロック大会への意識の向上を図りました。
公5	第54回埼玉ブロック大会朝霞大会「体験型企業PR」	ブロック大会において地域資源(自然、人、経済、社会)をテーマに企業のPRブースを展開いたしました。直接地域住民の目に触れるだけでなく体験を通じ実際に企業の魅力に触れられる機会となりました。
他	第54回埼玉ブロック大会朝霞大会「JCクリーンカップ」	埼玉ブロック大会においてメンバー間の交流を促進するためにブロック内の参加者をチームごとに分けて会場でもある朝霞の森周辺をウォーキングしながらゴミ拾いをして交流を図っていただきました。そして、ブロック大会当日にゴミ拾いのポイントが高いチームを表彰しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
千葉ブロック協議会	会長	宮田 兼太郎（成田）

基本方針

千葉県内のメンバーとのつながりとメンバー同士の研鑽により自己成長が織りなし、希望あふれる千葉の創造をします。



総括

「つながりと自己成長が織りなす希望あふれる千葉の創造」を基本理念とし、運動の2つの大きな軸として会員拡大とアカデミーを据えて各LOMへの支援を行いました。また、千葉県内24LOMや関係諸団体と連携を強化し、災害対策意識を高めることで、災害時に迅速に対応できる組織を目指しました。そして千葉県が将来にわたって活力ある持続可能なまちとして存在し続けるために、「第57回千葉ブロック大会・茂原大会」を開催いたしました。数多くある資源を生かした魅力をさらに磨き上げ、まちに愛着をもつ人が増えたことで、持続可能な千葉の未来への一歩になったと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	千葉ブロック協議会 2024年度賀詞交歓会	2024年度の基本方針、事業計画を発信することで、24LOMメンバーに理解と協力をいただき、千葉ブロック協議会の事業をスタートすることが出来ました。また、本年は県内24LOMのスローガンを各地理事より発情していただき、県内24LOMの意思を共有することが出来ました。
他	理念共感拡大事業 「理念共感拡大セミナー ～JC好きじゃないから、拡大したくない、JCの本質って何?～」	千葉県内24LOMそれぞれがJCの理念共感を浸透させ、理念に基づいた会員拡大を図ることができました。
他	ブロックアカデミー事業 [アカデミックエスト ～Vision Mission Valuesに 導かれし者たち～]	VMVセミナーを通し、JCの意義、目的、必要性を学びJC運動に対する意識向上を図ることができました。
他	ブロックアカデミー事業 再発見、あなたの原動力! ～そしてPurposeへ～	Purposeのセミナーを通し、千葉県内24LOMそれぞれのメンバーがJC活動に対する意識を向上し、それに伴うLOMの活性化と未来のリーダーを育成することができました。
他	公益社団法人日本青年会議所 関東地区千葉ブロック協議会 2024年度会頭公式訪問	会頭と直接交流を図ることで、LOMと日本JCとの距離感を縮め日本JCへの理解を深める切っ掛けにし、LOMの活動、運動の幅を広げる一助にすることができました。
公1	第10回JCカップU-11 少年少女サッカー全国大会 千葉県予選大会	未来を担う子供たちが大会を通じて仲間と協力し同じ目標を持ち、協調性及び相手を思いやる心を養うことで地域間交流を生み、勝ち負けではないグッドルーザーの精神、そして親切心を育む事業をおこないました。
他	LOM間交流事業 汗かけ!ベソかけ!おったまげ～! 伝説の拡大運動会	事業を通し、新たな仲間との出会いからJCの楽しさを感じ、メンバー一人ひとりの拡大意識向上する交流事業をおこないました。
公5	第57回千葉ブロック大会・ 茂原大会市民参加型事業 CHIBA★FESTIVAL in 茂原	千葉県内が有機的に結びつき地域の魅力や強みを最大限に発信し、この地に住み暮らす人々が魅力や価値を再認識することで、郷土愛を育み、自分たちのまちに誇りを持つことで持続可能な千葉県を確立する機会となりました。
公6	連携推進事業 ～つながり・守ろう。地域の絆～	関東地区協議会と連携するパートナーと共に、大規模な災害の備えとしてつながりや地域の絆の重要性を認識していただき、各々の住む地域で当事者意識をもって防災対策に取り組んでいただく機会となりました。
他	第57回千葉ブロック大会・ 茂原大会 式典	千葉ブロック協議会と関係諸団体、千葉県内24LOMとの有機的なつながりを再認識し、明るい豊かな社会の実現への運動に対する意識を高める機会となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
東京ブロック協議会	会長	徳竹 正憲（武蔵野）

基本方針

新しい価値を世界に打ち出す国際都市シン・Tokyoの創造をし、経済的に政治的に世界から遅れをとってきた30年。今こそ東京の価値を昇華させ、人への投資を実現し世界に誇る持続可能な国際都市、東京を目指します。



総括

昨年度の全国大会東京大会を皮切りに、東京ブロック協議会内においてALL TOKYOの波を寄り加速させる1年を目指しました。1丁目1番地として「国際交流」をテーマとし、国際の交流から生まれる友情の輪、民間外交の推進を実施し、友好LOMを2LOM締結する事が出来ました。また、東京ブロック協議会内では実施されていなかったエリア制度を実施し、3つのエリアに分けて、近隣のLOMとの交流や情報の交換、拡大の支援等、新たなLOM支援の形を行いました。結びに、LOMの大小に関わらず、東京ブロック協議会内約1,500人のメンバーが、お互いのLOM同士や東京ブロック協議会との距離が近づいたと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	Grand Design Conference 2024	新年度のご挨拶と共に、本年度東京ブロック協議会がLOM支援を中心として、どのような方針、組織で運動を発信していくのか各LOMに共有し、共感してもらう場を設けました。
他	認知度アップの新たな広報及び実施（HP・SNSの広報等含む）	東京ブロック協議会や各地会員会議所の存在や運動について、メンバーや都民からのブランド価値の認知度を向上させることを目的としました。
他	東京ブロック協議会2024年度褒賞候補策定	褒賞事業を通じて東京ブロック協議会内が様々な事業を知り、LOMやメンバーの成長に寄与することを目的としました。
他	京都会議ブロックナイト	出向者及び各地会員会議所メンバーとの交流及び親睦を深めました。
他	第1回交流事業「24LOM横断BBQ大会」	24LOM1,200人のメンバーが足並みをそろえて同じ目標に向けてJC運動を行うことで、顔を合わせて向き合い、友情が育まれ、切磋琢磨できる仲間づくりを行うことが重要です。参加したメンバーがLOMや役職を超えて交流することにより、24LOMの垣根を超えた仲間づくりをすることを目的としました。
他	アカデミー研修委員会第1回全体委員会「開校式～きつこう無限の可能性～」	アカデミー研修委員会は、青年会議所の理念を理解・共感し、今後のアカデミー研修委員会の参加意欲を向上させることを目的としました。
他	アカデミー研修委員会第2回全体委員会「社会を1ミリでも動かす」	「過去のブロック大会を調査し、調布大会に活かそう」と、青年会議所運動の魅力、背景調査の重要性を理解し、今後の青年会議所活動への参加意欲を向上させることを目的としました。
公1	ALL TOKYO一斉事業の内容の策定・推進事業計画	少子化に関する運動のなかでも、各地会員会議所の取組みやすさとその効果の大きさをからべビーファースト運動を手法とし、ALL TOKYOが前進することでより大きな社会課題を解決できる組織となることを目的としました。
他	認知度アップの新たな広報及び実施（HP・SNSの広報等含む）	東京ブロック協議会や各地会員会議所の存在や運動について、メンバーや都民からのブランド価値の認知度を向上させることを目的としました。
他	東京ブロック協議会2024年度褒賞候補策定	褒賞事業を通じて東京ブロック協議会内が様々な事業を知り、LOMやメンバーの成長に寄与することを目的としました。
他	アカデミー研修委員会第1回全体委員会「開校式～きつこう無限の可能性～」	アカデミー研修委員会は、青年会議所の理念を理解・共感し、今後のアカデミー研修委員会の参加意欲を向上させることを目的としました。
他	アカデミー研修委員会第2回全体委員会「社会を1ミリでも動かす」	「過去のブロック大会を調査し、調布大会に活かそう」と、青年会議所運動の魅力、背景調査の重要性を理解し、今後の青年会議所活動への参加意欲を向上させることを目的としました。
他	2024年度東京ブロック協議会野球大会	野球大会を通じた交流にて、東京ブロック協議会の仲間達との友情を育み楽しんでもらうことを目的としました。
他	インナーブランディングを向上し愛される組織へ事業計画	東京ブロック協議会内の全メンバーが青年会議所とは社会貢献運動を通して自己成長できる団体だと理解してもらう為に、インナーブランディングにおける認知・共有→理解させるために動画を作成、それを会員全体に閲覧できるようにし、その運動意識の醸成を図ることを目的としました。
公1	ブロック大会子議案～調布で体感！集まれ！子ども国際フェスタ！～事業計画	講演やブース出店を行い、国際感覚や多様な価値観を育むことを通じて、国際交流の大切さを考えるきっかけを創ることを目的としました。
公5	ブロック大会子議案「地球を1国を1星を星え！広げよう！繋げよう交流の"WA"」事業計画	本事業を通じて、地域交流を促進させるためと共に、全てのメンバーが一括に会場の一体感を作りあげること、ALL TOKYOをさらに加速させるきっかけ作りを目的としました。
公2	ブロック大会子議案「Be ambitious session 傑出した若者が世界を変える。」事業計画	著名人の講演やTOYPエントリー者のお話を聞きまして、社会に好循環をおこす傑出した若き人財を発掘して発信し、青年世代が将来に夢を描ける環境を醸成することを目的としました。
公5	第53回東京ブロック大会 調布大会 広報（ブロック大会関連）事業計画	新しい取り組みとして、理事長の皆様の動画リレー等を行い、ブロック大会調布大会の参加人数目標の達成と、東京ブロック協議会の運動の躍進に繋げることを目的としました。
公1	第53回東京ブロック大会 調布大会 メイン事業 事業計画	地域に対して、新しい価値の創出を行い、地域の魅力を最大限に発信し、交流を促進させること、スポーツを通じて、コミュニケーション能力を養うことを目的としました。
公5	第53回東京ブロック大会 調布大会「本音」事業計画	東京ブロック大会を通じ、地域の魅力を最大限に発信し、また、地域に対して新しい価値の創出を行い、人との交流や地域の魅力を認識し、各々の地域やLOMが学びを持ち帰ることで、各地域が更に発展することのできる気づきの場とすることを目的としました。
公7	ASPAC（カンボジア）におけるブース出展計画	ASPACという国際の機会にて、団員の作成や奮闘を使い、日本の魅力を発信することを通じて、同じ志をもった海外の仲間たちと国籍を超えた友好関係を築き上げる一助とし、国際的なリーダーへと成長する契機とすることを目的としました。
公7	ASPAC（カンボジア）における合同LOMナイト開催	多くのメンバーの参加を促すために、東京ブロック推奨パッケージツアーの案内を展開しました。また、海外のLOMのメンバーに参加を頂き、交流ができる設えを工夫しました。
他	第1回エリア会議開催	本年は、中央エリア会議、西エリア会議、東エリア会議を行い、近隣のLOMとの交流や、拡大、交流、相談事など様々な設えを行い、交流の機会と致しました。
他	第4回全体委員会「事業構築のリアルを体感しよう」事業計画	第3回全体委員会では、ブロック大会調布大会に参画をしたアカデミー生が、鳥取県倉吉市の課題・問題から、全体課題調査の手法や、課題解決の成功例を学び、将来のJC運動の起点となる人物へと成長するきっかけ作りとしました。
公1	JCカップ東京東大会事業計画	サッカーを通じて、次代を担う子供たちが、互いを尊重し、勝負に負けたときにこそ相手チームを称え、敬うことができる心豊かな人材の育成すること、親切心を養うことを目的としました。
他	第2回交流事業「24LOM横断大懇親会～PRを勝ち取り！異種対抗戦～」の開催	大懇親会を通じて、24LOM1,401名（5月現在）のメンバーが足並みをそろえて同じ目標に向けてJC運動を行うことで、顔を合わせて向き合い、友情が育まれ、切磋琢磨できる仲間づくりを行うことが重要です。参加したメンバーがLOMや役職を超えて交流することにより、24LOMの垣根を超えた仲間づくりをすることを目的としました。
他	東京ブロック協議会さよならブロック2024の開催事業計画	「さよならブロック」を通じて、東京ブロック協議会の2024年度の運動を総括し、各地会員会議所・メンバーと共有する場とすることを目的としました。
公4	政治は祭りだ！若者政治フェスティバル事業計画	「憲法と選挙」に対しての講演や、学生が「投票率向上」に対するプレゼンを行って頂く中で、若者が政治に対して当事者意識を持ってもらうことを目的としました。
他	アカデミー研修委員会第5回全体委員会「さあ、構築してみよう」事業計画	アカデミー生に地域の課題解決に向けた事業構築を考えて頂き、講師の先生方にアドバイスや講評を頂きました。この事業を通して、切磋琢磨し、地域を担う人材として成長するきっかけ作りとなる事を目的としました。
他	アカデミー研修委員会第6回全体委員会「開校式～きつこう無限の可能性～」	アカデミー生が、塾の垣根を超えて、アカデミー研修委員会ですんだこと、来年度以降目指す姿の発表を行い、今後主体的に行動し、今後のLOM運動の起点となるような人材になるという自覚をもつことを目的としました。
公6	少子化問題解決のための政策提言事業計画	ベビーファースト運動を通年で行っていく中で、アンケートを実施しております。そこで、子育て当事者の子育てに関する負担感が軽減される政策の一助となる政策提言を行うことを目的としました。
他	第2回エリア会議開催	機会の共有のために各LOMで行われる（行われた）事業や運動について第1回目より詳しく情報共有をしました。また、多く意見がっている課題である会員拡大についての情報共有も行い課題解決へ向けてのディスカッションを行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
山梨ブロック協議会	会長	森屋 真一郎（都留）

基本方針

人財育成、他団体などとの協力強化を行い地域に新たな価値を創造することで、希望にあふれる山梨の未来を創造していきます。



総括

近年アカデミー増加や会員数の減少などに苦しみ山梨ブロック協議会内11LOMにおいて、人財育成、地域間協力の強化を掲げLOMのためになるブロック協議会を目指してきました。人財育成については、年間通してのアカデミー塾を開催することで、各LOMで手が届かないアカデミー育成の一助を担うことができました。また、ブロック協議会が情報のハブとなり各LOMの活動や出向者の活躍に触れる機会をつくることで、会員一人ひとりの意識向上に努めてきました。対外事業に関しては他団体などとの協力をする中で、会員数以上のことができることを各LOMに示すことができたと感じております。この一年が次年度以降の大きな飛躍につながることを信じています。

事業区分	事業名	事業内容
他	人財育成塾	自分自身の目的を定め、行動することができる人財の育成を目的といたしました。年間通しての塾を行うことで、各LOMのアカデミー育成の一助となりました。
他	会員拡大	メンバーの青年会議所活動に対しての意欲や問題点を可視化し、拡大に向けてのメンバーのモチベーション向上や入会後のフォロー強化による退会者抑制につながる活動に挑戦しました。各LOMの拡大意識向上につながり、拡大増の結果を出すことができました。
他	LOM連携広報	山梨ブロック協議会内で1つのプラットフォームを作り、LOM間の情報共有の強化やメンバー同士のつながりを作ります。また、青年会議所活動の魅力や楽しさを伝える広報活動に挑戦しました。情報の共有が行えることで、各LOMとの距離を縮めることができました。
他	賀詞交歓会	山梨ブロック会員並びに、山梨ブロック協議会及び各地会会員議所の2024年度の運動方針に理解を深めていただき、団結と協力関係を強固にすることができました。
公2	政治を身近にする事業	若者や会員が政治家との接点を作り、政治を身近に感じることで、主権者意識を高めることを目的とし実施いたしました。現役の市会議員にご参加いただき参加者と意見交換を行うことで政治家、市民双方にとっての良い時間となりました。
公5	ブロック大会に向けた事業	ブロック大会の主管LOM地域を大学生と共に多角的な視点で精査し、地域の新たな価値の発見を目的とし実施いたしました。大学生から多くの新しい視点での意見発表を地元市長にお伝えしました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会山梨予選大会	目的をもって物事に取り組み、仲間や対戦相手を思いやれる親切的な人財の育成を目的としました。当日は豪雨により大会自体は中止となってしまいました。
公5	ブロック大会	次世代を担う若者が地域を愛し、いつまでも暮らしていきたいと感じるような新たな価値の創造を目的とし実施いたしました。当日は他団体との共催で実施することで、より多くの魅力を発信することができました。
他	褒章アワード	優れた運動と挑戦の成果を共有し称え合い、会員の資質向上を図り、今以上の青年会議所運動の発展を促しました。
他	ありがとうブロック	山梨ブロック協議会2024年度の活動を振り返り、協力への感謝を伝えるとともに、2025年度へ想いをつなげることを目的とし実施いたしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
神奈川ブロック協議会	会長	飯塚 侑（相模原）

基本方針

自分自身を信じる行動を起こす若者が生まれるとき、親切心の輪が広がりすべての人が人生に希望をもてる神奈川が創造できる。



総括

理想に寄り添ったサポート体制の強化と仕組み化を図るものとし、大きく二つの仕組み化ができました。
一つ目は、かながわロードマップ2030の策定（2030年までの理想の会員数の設定）
二つ目に、LOMサポート宣言の策定（単年度でサポートの目的が変わらないために全役員での署名）
年間通じて各LOMへ最低3回以上訪問を実施しました。LOMとの距離と積極的な信頼関係の構築を意識し協議会役員全員での講師派遣システムの構築、経験者による逆出向制度を実施し、LOM支援サイトの運用なども併せ実績の見える化を図りました。これにより、LOMにとっての協議会との距離は確実に縮まり運用することができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	神奈川ブロック協議会 全体会議	年初第一回は2024年度の方針性を示し、出向者のため各地会員会議所と一つになる機会を創りました。第二回では一年の総括と成果を示し卒業生を送り出す機会となりました。
他	第1回カレッジスクール	LOMの中核人材へと、成長を加速させるきっかけを提供するため株式会社DeNA川崎ブレイブサンダース取締役会長元沢伸夫氏/アパホテル株式会社取締役社長元谷美美子氏/石井紀彦先輩（歴代会長）をお招きしリーダーに必要な要素をお伝えしました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー神奈川ブロック予選大会	スポーツを通じて、多種多様な人と交流を図ることで、自らを成長させる場だと認識してもらい、グッドルーザー精神の理解から相手を讀えることが出来る人材を創出することができました。
公7	JCI ASPACカンボジア大会 ジャパンナイトブース	神奈川の魅力を発信し、来訪するASPAC海外参加者が神奈川に興味をもていただくことを目的とし、アニメコスプレを実施して撮影をすることで神奈川への魅力をもつきっかけを創出いたしました。
他	かながわアカデミー2024 プレ事業	組織の要職を担う理事候補者を育成し、各LOMの発展、地域の発展に寄与できるリーダーの輩出を目的としアカデミー事業のプレとして実施内容など動員に繋がる機会としました。
他	かながわアカデミー2024	組織の要職を担う理事候補者を育成し、各LOMの発展、地域の発展に寄与できるリーダーの輩出を目的とし、本年は即戦力人材を創るため短期集中の研修の機会として新たな出会いと学びを深める時間となりました。
公1	かながわハイスクール議会 2024	18回目となる継続事業として、高校生世代が能動的に政治参画し、まちの今後を担う意識を向上する機会とし、最終日に知事への提言を実施しました。
他	第52回神奈川ブロック大会 鎌倉大会式典	鎌倉芸術会館ホールにて実施いたしました。 次年度会長の発表、今年度の運動報告などを行い各地メンバーと意思統一を図りました。
公5	第52回神奈川ブロック大会 鎌倉大会「かながわに泊まろう！」 ー地域で支え合う新しい観光ー	鎌倉市と神奈川県で共通する観光問題をテーマに課題解決のフォーラムを行うことで、そこから得られる必要なステップやプロセスを学び、参加者及び各地域の地域活性化に寄与するために実施いたしました。
公5	第52回神奈川ブロック大会 鎌倉大会サブフォーラム 「未来を切り拓く組織～生成AIがもたらす革新と成長～」	新しい発見からなる成長のきっかけの為に、生成AIを通じた新しい組織づくりを学び、各地青年会議所の進展に寄与し、ブロック協議会の活力に変え、より強固な組織づくりに繋げる機会となりました。
他	第2回カレッジスクール	LOMの理事を担う予定のメンバーが抱えやすい事業構築上、委員会運営上の悩みを解決すると共に、仲間同士の支え合いを軸にした協力関係を構築するために本次年度会長含めて講演を行いました。
他	神奈川県知事政策懇話会	これまでの運動の成果として各地会員会議所の課題をまとめ、神奈川ブロック協議会から要望書として政策を提出しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
静岡ブロック協議会	会長	赤堀 久人（榛南）

基本方針

「友情」と「笑顔」を大切にモチベーションを高め、静岡全土に明るい未来を提供する組織運営を基本とします。



総括

すべての事業において、参加者のbenefitを一番とし、参加した方（一般・メンバー）が自社、地域またLOMに還元したくなるよう意識の向上と知識の増勢を目指しました。参加率が100%を超えた事業、その反対に達成をできなかった事業があることから、参加推進という観点ではまだまだ再考の余地があります。しかし、委員長はじめ、委員会に所属するメンバーは自ら能動的に設営すること、参加してくれたことから、全ての事業を開催した意味はあったと思います。今年は理事長はじめ多くのメンバーの皆様が協力があるからの成果であり、静岡の結束がより高まることで次年度以降がより力強い運動を展開できる地盤となった確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	天城で越えよう!!LOMの垣根	入会後3年未満を基本の対象とし、広く横に広がる静岡内で交流する文化を広めること、同時にメンバー間の交流を図り、能動的に活動する意識を強固にしました。内容としては、必ず他者と協働する競技を行いました。多くの理事長も急遽参加し、盛り上がりしました。
公5	本当の魅力をあなたは知っている？ 地元の魅力を発信発掘バスらせ ワークショップ	発信する能力だけではなく、発掘する力も向上することで、より効果的な広報を学ぶ内容を開催しました。ニーズに合わせた内容を行えたことにより、参加登録率が100%を超える事業となりました。
公2	一人ひとりが会社の要だ！ ～組織運営マネージメント～	地域の経済活動の活性化を図るために、基礎である自社の経営基盤を固める内容の事業を開催しました。SNS系、行政、地域の多角的な講師にきていただき、様々な知見を増やしました。
他	Z世代を制する者はすべてを制す	LOMの若返り、静岡ブロック内でも20代前半の会員が少ないことを問題とし、そのなを解消するために、若者との価値観を埋める内容の事業を開催しました。
公2	DXが会社を導く！ ～ビジネスモデル変革～	経済系事業の2つ目として、今ある経営基盤の強化と経営を革新に導くべく、導入の低いデジタルをテーマとして開催しました。使っている事業所、検討していない事業にも広く行う事業としました。
公5	静岡茶と和紅茶の魅力を体験せよ！ 歴史と伝統そして新たなチャレンジ	静岡の魅力系事業の2つ目として、実施体験する事業としました。知っているものの魅力を再発見すること、また新たな価値を生み出し静岡のブランド力が高まる事業を開催しました。
公5	第57回静岡ブロック大会	ブロック大会を開催し、協議会の運動の集大成を発信するとともに、静岡県全体にJCのブランド力を高める内容としました。
公2	それなー！ みんなのパワーで静岡アゲてこー！！	多くの人を巻き込み地域経済の活性化を図るために、新たな視点から物事を見る能力を高めることのできる事業を開催しました。ギャルマインドという手法を用いることで、インパクトある内容で好評でした。
公5	静岡アゲてこー！つなぐ・ 見つかる・企業の光！	ブロック大会に参加した事業所のビジネスマッチングを行いました。特設ブースを設け、講師の方に常駐してもらい、進行形でのビジネスマッチング、今後のビジネスマッチングにつながる事業を開催しました。
公2	The Academy	リーダーの資質を向上するために、まずは個々がつ、リーダーの素質を明確にすること、またその素質を生かしたリーダーにはどのような環境が資質向上のために必要なのかを知る事業を開催しました。
公5	あなたが魅力の伝道師！ 1杯のラーメンから始まる静岡食紀行	静岡県全体に広まる特産物を使ったオリジナルのラーメンを東部、中部、西部で作りました。地域との連携や埋もれている魅力を使用することで新たな価値を生み出すことを発信する内容としました。
公2	武田修宏氏、服部康雄氏に学ぶ！ 共感力を生かした組織づくり	家庭、仕事、JCと人と生活をともにする中で、共感力は必要であり、高めることで人としての成長を促す機会としました。フォーラム形式で開催し、一般の方にも広く伝わる事業を開催しました。
公5	笑顔プロジェクト	静岡県の魅力あるものを集め発信することで、地域を発信する人、誇れる人を一人でも増やす内容で開催いたしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
愛知ブロック協議会	会長	中村 尚人（豊川）

基本方針

ご縁への感謝とワクワクを原動力に、もっと楽しい愛知を未来につなげます。



総括

本年、愛知ブロック協議会は、33会員会議所の同志と共に、もっと楽しい愛知を未来につなげるべく、「縁JOYNT!」をスローガンに1年間活動して参りました。

予定者段階から33会員会議所理事長の皆様と1on1ミーティングを重ね、実現したい未来の姿にワクワクするだけでなく、LOMの具体的な課題とニーズを教えていただき、それを基に7つの委員会が構築した運動を展開しました。愛知ブロック協議会がハブとなり、LOM、ブロック、地区、日本の人と人をつなげ、「支援」と「連携」を可能にするチームを生み出すことで、JCの魅力を見える化している「人」の成長と、「事業」の最大化を実現したと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	名古屋会議	2024年度の愛知ブロック協議会の会長所信及び愛知ブロックの基本方針、重点事業を共有するために、式典、メインフォーラム、各委員会を開催しました。
公2	∞インフィニティ ～最強の組織と最高の仲間～	人財の価値の重要性を理解し、組織のあり方考え、最強のチームへとアップデートしていくために、周囲を巻き込むことができるワクワクリーダーの存在が不可欠であることを理解していただくフォーラムを開催しました。
公6	生き残り！我が防災サバイバー！	災害時に備えBCPなどの策定はしていますが、有事の際に自らが生き残るという意識は非常に低いです。災害時に自らが生き残ることで大切な方の命を救うことのできる防災リーダーを育成する事業を開催しました。
他	国際交流で魅力の発信ツアー！	自国や地域の魅力を世界へ発信できる人財の育成するために、外国人の方々に対して愛知県内の観光名所を訪れ、楽しみながら自身の考えを伝える力を身に付けることを目的とした事業を開催しました。
他	魁！！ワクワクリーダー塾	LOMの未来を考え、入会3年以上の会員を対象にしたセカンドアカデミーと位置づけ、メンバーや組織がもつ無限の可能性を引き出し、周囲を巻き込んで次代へとつないでいく「ワクワクリーダー」の育成を目的として育成事業を開催しました。
公7	青年会議所の可能性をフル活用した 国際ビジネスマッチング	世界で活躍する仲間との友情やJCIのネットワークを最大限活かして、JCI台湾の北区メンバーと国際ビジネスマッチング事業を開催しました。このご縁から「姉妹ブロック締結」に向けて大きな一歩を踏み出すことになりました。
公7	JCI アジア太平洋エリア会議 (ASPAC)におけるブース出展	アジア圏のJCIメンバーの方々に対し、愛知に観光し訪れたいと思っていただくことを目的とし、愛知県の魅力の一つである「ひつまぶし」と「日本酒」の提供をしました。アスパック当日は、海外メンバーと大いに盛り上がりしました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会の 愛知県予選大会	地域コミュニティの希薄化が挙げられているなかで、スポーツのつながる力を活かし、まちの人々が交流する機会を創出するとともに、まちの未来を担う子供たちに勝ち負けがある真剣勝負の中で「親切心」を学んでいただく事業を開催しました。
他	JAYCEEヒーロー化プロジェクト！	2月開催の「生き残り！我が防災サバイバー！」の続編として、今回は青年会議所メンバーが自然災害の際に、自らがリーダーシップを発揮し、迅速に行動し、まちの人々を助けられる人財への成長を目的に事業を実施しました。
他	未来を担う人財とのワクワクな連携	持続可能な地域を創るために、青年会議所と未来を担う人財である若者とが、共に地域の課題を解決するための事業を実施することで、会員数が減少しているLOM事業の最大化と、若者との新たな接点を生み出す中長期的な会員拡大を目的に事業を実施しました。
他	2024年度ブロックアカデミー委員会	県内会員会議所から入会3年未満の会員150名程が集まり、青年会議所への理念共感、基礎知識の習得だけでなく、多様な個性を認め合うことで、地域の課題を可能性に変える運動を起こすことのできる人財へと成長することを目的に事業を開催しました。
他	理念共感プロモーター育成事業	JCが人やまちに必要とされ続ける組織であるために、メンバー自身がワクワクしながら活動しつつ、JCの理念を理解し、浸透させていく理念共感拡大を率先して行うことができる「理念共感プロモーター」の育成を目的とし、東海4県合同で開催しました。
他	第57回愛知ブロック大会稲沢大会	愛知ブロック協議会の集大成の場として、会員のみなさん県内すべてのの方々に対し、地域の課題や魅力に気付く場とすることで、参加者の意識変革のきっかけを生み出し、もっと楽しい愛知を未来につなげることを目的に開催しました。
他	未来の可能性～若者×青年会議所が 創造する未来への連携と拡大～	青年会議所の会員数は減少傾向にあり、組織運営や運動発信が難しい状況です。しかし青年会議所が地域と若者をつなぐ架け橋となり、若者の人財育成を継続させることで、中長期的な会員拡大の仕組みを根付かせることを目的とし事業を実施しました。
他	第57回愛知ブロック大会褒賞事業 「AWARDS AICHI 2024」	33LOMが地域の課題解決を目指し、それぞれの特徴を活かし行った運動をブロック大会にて表彰することで、33LOMメンバーの活動意識と運動発信の向上を目指すとともに今後のJC運動のモチベーションアップを目的に開催しました。
他	真夏の地獄ウォーキングin稲沢	愛知県は6エリアに分かれており、エリア内での交流は盛んですがエリアを越えた交流の機会は決して多くはありません。愛知県内のメンバーが、お互いに協力し合える関係性を構築するために、過酷な環境でのウォーキング事業を実施しました。
他	名古屋プレ世界会議ブース出展	2027年度世界会議名古屋大会開催に向けて、愛知ブロック協議会として愛知をワンチームにするべく、県内会員会議所メンバーに国際の機会を提供しJCI世界会議開催への機運を高めることを目的に実施しました。
公7	世界会議桃園大会ブース出展	入会3年未満のアカデミー生が、世界会議で世界中の仲間と愛知の魅力を伝える機会を活かすことで、JCIのスケールメリットを体感するだけでなく、国際事業の魅力を知り世界で活躍するリーダーへの一歩を踏み出すことを目的に実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
岐阜ブロック協議会	会長	春山 大樹（大垣）

基本方針

一人ひとりの知恵を集め、尊重し、助け合う、思いやりのある和の心をもってひとづくりへの理解を深め、各々が地域から必要とされる人材を育成し、地域経済活性化につながるまちづくりを行うことで、日本や世界から必要とされる岐阜県を目指します。



総括

日本JCの運動を各LOMに適切に伝えることができるように東海地区協議会と連携し連絡調整を行い、各LOMが抱える課題を共有し必要な支援を行うために岐阜県全体での連携が必要であると考え、横のつながりを意識した活動を行いました。ブロック協議会が各LOMとの連携を密に行うことで運動を活性化し、各事業から最大の効果が得られるように協働することでLOM間のパートナーシップの確立を得ることができたと感じております。また、会員拡大セミナーやブロックアカデミー事業を行うことで各LOMの事業に加えて会員の成長する機会を提供できたと感じております。

事業区分	事業名	事業内容
他	関係諸団体との互いに強みを生かした防災・疾病支援ネットワークの構築事業(組織連携推進会議)	有事の際に迅速な支援活動を行うことができるようにするため、防災・疾病ネットワークの構築を推進し、関係諸団体との連携を強化するために岐阜県会議にて岐阜ブロック協議会と県内17LOM間で災害協定を締結しました。
他	岐阜県会議の開催(組織連携推進会議)	2024年度最初の事業である岐阜県会議において、運動方針や各LOMの基本方針等を広く理解していただくことで、岐阜ブロック協議会全体の士気を高め、今後の運動のさらなる発展につなげることを目的として開催しました。
公1	JCカップU-11少年少女岐阜ブロックサッカー大会(組織連携推進会議)	人と人との交流を通して子供たちの心身の発達に寄与し、他者を思いやる心と強靱な精神力を兼ね備えた人材の育成を目的として岐阜ブロックサッカー大会を開催しました。
他	選挙における各種討論会の実施・支援(組織連携推進会議)	地域のリーダーである我々JAYCEEが先導者となり、国政や地方政治に対する関心を高め、当事者意識をもつきっかけとなる機会の提供や支援が必要であるため、公開討論会の開催支援を行いました。
他	地方創生による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動(組織連携推進会議)	地域経済活性化会議が行うインバウンド推進プロジェクト内における、Smile trip projectの取り組みへ、大垣JCと高山JCにご登録いただき、アドベンチャーーツリズムを通して地域経済活性化に結びつける、地域のオリジナルの実行計画書を策定いただきました。
他	会員拡大セミナー(アカデミー委員会)	各LOM内で組織として拡大をできる体制を整えていくために、会員拡大におけるリーダーがメンバーを巻き込み、多くの人が拡大に対して当事者意識を持つ必要があるため、多くのメンバーを会員拡大に巻き込む力を高めていただくために事業を開催しました。
他	会員拡大の推進及び支援(アカデミー委員会)	各LOMの拡大状況の現状把握をし、拡大セミナーを開催しました。最後に岐阜ブロック大会内にて拡大アワードを開催させていただき、優秀LOMを表彰させていただくことでLOMとして目標になる場を設けていただきました。
他	岐阜ブロックアカデミー2024(アカデミー委員会)	入会3年未満、且つ過去ブロックアカデミー未受講者を対象に開催しました。講演として理念共感拡大グランドデザインとPurposeを学び、その後スポーツ交流としてモルックにて、体を使った交流を行い受講者同士の絆を深める機会としました。
他	地域の魅力再発見及び発信事業(岐阜ブロック大会2024実行委員会)	岐阜県各地が誇る伝統や文化にとどまらず、変化する時代に合わせて生まれた魅力や、近年地域をあげてまちおこしで発信しているものなど、広く知ってもらいたい岐阜県の魅力の発信を行いました。
公5	第65回岐阜ブロック大会2024公益事業(岐阜ブロック大会2024実行委員会)	岐阜県内外から約1,500名にご参加いただき、メインコンテンツである岐阜県各地の推しモノづくり、体験、飲食を中心に子供から大人まで楽しみながら、岐阜県各地の魅力を体験いただきました。
他	第65回岐阜ブロック大会2024共益事業(岐阜ブロック大会2024実行委員会)	岐阜ブロック協議会の志を継承するため、本次年度の理事長及びブロック協議会役員紹介や岐阜ブロック協議会の事業報告と卒業式を行いました。
他	活動方針の理解共有のための事業(岐阜ブロック大会2024実行委員会)	岐阜ブロック協議会の活動方針を理解し、岐阜県内各地のLOMメンバーが、岐阜ブロック協議会の事業に関わる意識を高めることを目的として岐阜県会議内で会長から活動方針を説明し、理事長の昔姿から各LOM活動方針を説明して頂きました。
他	HP、SNSの管理・運用(事務局)	HP、SNSを活用して、岐阜ブロック協議会及び各LOMの活動内容や地域の魅力についての情報発信を行いました。
他	日本JC、東海DCとの諸事業の連携・推進(事務局)	京都会議、東海コンファレンス、サマーコンファレンス、全国大会、世界会議の事業において、岐阜ブロック協議会として推進を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
三重ブロック協議会	会長	水谷 幸平（桑名）

基本方針

豊かな社会を描ける人財を育成し、希望あふれる三重を創造します。



総括

本年は人財育成とつながりに重点をおき、各LOM会員同士のつながり、そして地域とのつながりを強く、そして拡大する事業を展開しました。会員の入会年数が短くなる中で入会5年までの会員を対象にアカデミー事業を開催しました。半数以上会員が対象となり、学びに加えLOMを超えたつながりを生み出しました。またブロック大会を開催し、地域活性化事業では三重の魅力を集め地域の方々に触れてもらうきっかけを創出し、魅力と地域の人々とのつながりを生み出しました。またブロック内出向を活用し少人数LOMへの支援を行いました。成長の機会を提供し、地域の魅力を広げることができ、希望あふれる三重の実現につなげることができたと確信します。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカー三重県予選大会	JCカップU-11少年少女サッカー東海地区予選に向けて県内6チームが出場し、三重県の代表を決める大会を開催しました。子供たちが全力で戦い勝つことだけでなく、思いやる気持ちを持つグッドルーパーの精神を育む機会を創出しました。
公5	第54回三重ブロック大会地域活性化事業	県内の魅力ブースを集め、各地域の地域資源に触れ、三重の魅力を知っていただき、三重への愛着を感じていただく事業を開催しました。
他	ブロックアカデミー事業	県内の入会5年以内のメンバーを対象にJCの目的や理念について学ぶ機会とともに各LOMの垣根を超えたつながりと作るメンバー同士が協力して取り組む事業を開催しました。
他	第54回三重ブロック大会式典・卒業式	三重ブロック協議会の運動の成果を共有し、県内各LOMに周知するとともに、会員の思いを次代に繋げていく事業を開催しました。
他	出向者を励ます会	三重ブロック協議会の基本方針や各委員会の運動方針を県内全メンバーを対象に発表し、理解いただくとともに県内各LOMメンバー同士の交流の場となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
福井ブロック協議会	会長	林 昇平（敦賀）

基本方針

県内のLOMが既存の地域資源と新たな地域資源のイノベーションを起こし、これまでになかった新たな福井の価値を生み出します。



総括

今年度の福井ブロックでは、インバウンド、魅力の発信、会員研修を3本の柱として、各事業を実施して参りました。インバウンドについては本年、福井県内LOMである福井JCが主管する国際アカデミーと連携しつつ、国際的な魅力発信に繋げていく事業でしたが、当日の悪天候もあり目標には届かない結果となりました。しかし、魅力の発信面ではブロックのインスタグラムのフォロワー数の増加としては倍増させることに成功し、海外のフォロワーも増えたことで一定の成果を出せていると考えます。会員研修では毎月実施しているJCプログラムとアカデミー事業を通して、常に学べる姿勢を提供しており、各LOMから好評をいただいています。

事業区分	事業名	事業内容
他	第1回ブロック全体会議	2024年度の福井ブロック協議会が行う事業を各委員会から説明し、さらに日本JCの運動の一部を紹介し、日本JCを使う意識を広めました。各地会員会議所メンバーの皆様に熱意を伝えることが出来ました。
公5	ふくいエモーショナルプロジェクト	福井県は全国的な知名度が非常に低く、幸福度調査においても文化の項目が非常に低いという課題を抱えています。福井の知られていない魅力をエモーショナルに捉えSNSにて通年で発信する事業を行い福井の魅力向上に寄与しました。
他	JCプログラムセミナー	JCプログラムはJCでできる学びの中でも最も即効性があり、かつ短時間で実施できるツールです。その点に注目し、毎月1回webにてJCプログラムを開催し、興味あるものを興味ある人が学べる体制を構築しました。
他	福井ブロックアカデミー	JCゲームとPurposeというJCの学びとその理念を伝えられるプログラムを実施し、JCに参加するモチベーションを高めました。また、各地会員会議所メンバーをバラバラにしたチームでカレー作りを行い、共同作業を通して親交を深めました。
他	ブロック公式訪問の実施	福井県内に10ある各地会員会議所に2月3月の2か月間で訪問させていただき、ブロック役員と各地理事メンバーで、互いのサマリーや基本方針について、質問しあい理解を深めました。
公7	Investing in FUKUI's future	国際アカデミーの翌日に、同会場にて福井の魅力を体験できるブースを設置し、さらに日本の文化を体験できる和太鼓やよさこいのチームにご参加いただく体験イベントを実施いたしました。この体験を母語で、SNSで発信していただき知名度の向上を図りました。
他	福井ブロック大会	式典を通して、2025年度の福井ブロック協議会会長を紹介いたしました。また2024年度会長と2025年度会長によるブロック会長対談を行い、福井ブロックの歴史と未来への展望を参加者のメンバーにお伝えしました。
他	災害協定ネットワークの運用と災害復興支援	2024年度は1月1日から能登半島地震が発災し、翌日から災害復興支援がスタートしました。北陸信越地区協議会と連携し、必要な物資や人員の派遣を行いました。10月現在も支援は継続しており、状況に応じては2025年度にも引き継ぎます。
他	第2回ブロック全体会議 Story Of JC	福井ブロック協議会が本年行った事業の報告と2025年度役員予定者を発表しました。さらに、その後各地会員会議所の中で心が動いた事業を実施した本人にそのストーリーを語っていただき、JCの学びと成長を感じていただきました。
他	開発と連帯の発行	福井ブロック協議会が例年実施している各地会員会議所の2024年度活動を報告する機関誌「開発と連帯」を発行し、2024年度の福井県全域での活動を報告します。



会議・委員会名	役職名	担当者名
石川ブロック協議会	会長	杉本 孝丸（羽咋）

基本方針

社会貢献や自己成長の高い意識をもつ仲間やLOM間のつながりを深め、笑顔があふれる石川の未来を創造します。



総括

「感謝と決意で手を取り合い笑顔があふれる石川を創造」を基本理念とし、地域コミュニティの考察による社会課題解決の促進や理念共感拡大によるメンバーの資質向上とLOMの安定強化、地域の価値の向上によるJC運動の価値を示すことに努めました。地域社会への感謝と復旧復興への決意によって手を取り合って取り組んだ令和6年能登半島地震による地域コミュニティへの支援活動では、メンバーの当事者意識を高めました。また、石川ブロックアカデミーを開催し、JCの活動や運動に対する理解を深めました。そして、石川ブロック大会を開催し、2024年度の活動や運動の報告と2025年度へとつなぐ想いを確認しました。

事業区分	事業名	事業内容
他	石川ブロックアカデミー01	自身とJCの理念との共通点を見つけ、JCの良さを理解するために、酒井光博先輩によるJCプログラムPurposeを開催し、自身の目的設定を行いました。また、講師の実体験をもとに、自身のビジネスにJCでの経験を活かすことを考える機会としました。
公1	他者を思いやるJCカップU-11少年少女サッカーブロック予選大会	地域のプロサッカークラブと協力し、子供たちは勝負を楽しむこと、世代を超えて交流することで、親切心と相手を尊重するグッドルーザーの精神を育む機会としました。また、地域のお弁当や近隣の温泉を紹介して活用することで、地域益を生み出しました。
他	石川ブロックアカデミー02	事業を通して自身の理想を現実にするための方法を、柳田啓先輩によるワークショップを開催しました。また、講師の経験からJCと家族との関係性について学び、JC・仕事・家族の優先順位を考えるきっかけとなりました。
公5	第54回いしかわコンファレンスin金沢	地震の被害にあった方から生の声を聴くことや様々なコンテンツから石川県の魅力に触れることで石川県への愛が育まれ、復興への意識を醸成することができました。また、事業後に配信したSNSへのリアクションも非常に多く復興へ向けた一助となりました。
他	第54回いしかわコンファレンスin金沢式典事業	青年会議所の活動や運動や復興への想いを行政や各種団体に伝えました。また、県内9LOMが一同に会し、メンバーの当事者意識の向上を図る、さらには能登半島の復興へ向けた他団体との連携をより強固とし、より良いまちづくりの意識を醸成しました。
他	能登半島地震復興への道	石川県YEG高橋会長、石川県IMPULSE上杉会長、石川ブロック協議会杉本会長によるクロストークを通して3団体での連携強化に対する意識を共有しました。また、石川ブロック協議会防災マニュアル策定しました。
他	石川ブロックアカデミー03	JCの理念に共感し、JC活動の意義やJCとはどんな団体なのかを自身の言葉で伝えることができるようになるきっかけとなりました。また、仲間と覚悟をもって挑戦することの重要性を伝えました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
富山ブロック協議会	会長	三ノ宮 一貴（氷見）

基本方針

つながりから共感を生み出し豊かさと笑顔あふれる富山の創造。



総括

本年度、富山ブロック協議会では「つながりから共感を生み出し豊かさと笑顔あふれる富山の創造」を基本理念に県内9LOMの皆様とともにJC運動を行って参りました。中でも本年度はLOMの支援に注力し、連絡調整機関として協議会本来の目的に立ち返り、富山ブロック協議会内のすべての委員会でLOMの支援を様々な形で行ってきました。また、毎月県内9LOMの理事長の皆様とブロック協議会の在り方についてのミーティングを行い、協議会アップデートを推し進めて参りました。今後もLOMから必要とされるブロック協議会であるために、協議会のあるべき姿を県内に示すことができた1年でありました。

事業区分	事業名	事業内容
他	第1回ブロックアカデミー	メンバー自身が組織に対して提供できる価値を認識いただくためのパネルディスカッションを行いました。第1部では主に若手メンバーを対象に、第2部では全メンバーを対象とした内容でパネリストの皆様に見聞交換を行いました。
他	第2回ブロックアカデミー	知見を広げ修練、奉仕、友情の3面から今後の活動における視座を高め、主体的に歩んでいくことを意図としたゲームを行い、仲間の大切さについて学ぶアカデミーを行いました。
他	LOMの実情に合わせた支援推進	各LOMの課題抽出から支援内容を設定し、各LOMが求めている支援を実施しました。
他	地方創生による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動の推進	パートナーとともに地域でインバウンド需要の獲得を生み出す仕組みづくりの推進ととやま観光塾出身の方をモデルケースとして、観光事業者と地域の事業者がつながり、行政の取り組みも後押しとするネットワークを構築しました。
公5	第52回富山ブロック大会	富山ブロック協議会の成果発表の場として観光を起点とした地域経済活性化のモデルを発信しました。外からみても価値のある地域の魅力を見いだしていく重要性を込めて大会テーマのもと実施しました。
他	JC運動の対内外向けの情報発信	SNSを活用し、富山ブロック協議会や県内LOMの運動、活動を対外対内に発信しました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会	JCカップU-11少年少女サッカー大会の全国大会に向けたブロック予選大会を日本JCの趣旨目的に則り開催しました。
他	第1回全体会議	来賓の皆さまが、富山ブロック協議会活動に理解をいただくこと、対内メンバーが青年会議所活動に対する意欲を向上するきっかけとなる会議を行いました。
他	第2回全体会議	富山ブロック協議会と各LOMの今年度の事業報告、次年度ブロック会長、理事長の発表を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
新潟ブロック協議会	会長	井浦 義太（新潟）

基本方針

一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら活動し、地域の次世代を担う青年たちが未来を切り拓くことで笑顔あふれる新潟を実現します。



総括

「人と地域の調和で未来を切り拓き笑顔あふれる新潟を実現する」の基本理念のもと、ブロック協議会を通じて、メンバーが多くの人と出会い、LOMの枠を越えた地域との関りを持った事業を展開することで個の成長、LOMの成長につなげてもらえるように取り組んできました。

また、新潟ブロック協議会内の全21LOMからブロック協議会の役員を輩出してもらったことで、例年以上にLOMとブロック協議会の距離が縮まり、各LOMからの参加推進や新潟県全域を巻き込む事業展開に寄与しました。

事業区分	事業名	事業内容
他	2024年度新潟ブロックコンファレンスの開催	新潟ブロック協議会の本年度の活動方針を新潟県内のメンバーと関係諸団体に伝える場を設けました。また、メンバーに対しての学びの機会としてJCプログラムを実施しました。これらを通じて、新年度の体制の良いスタートを切ることができました。
他	LOM間事業単位出向のすゝめ	新潟県内には21LOM存在し、様々な事業が展開されていますが、他LOMの事業を学ぶ機会は多くありませんでした。そこで、ブロック協議会がハブとなり各LOMの事業に対して出向者を募り、事業に参加することで互いのLOMの事業構築を学ぶ機会につなげることができました。
公6	にいがた防災バンクの構築	新潟県は自然災害が多い地域のため、いつ起こるか分からない災害に対して備えることが大切です。本年度は自然災害が発災する前から備えることができるようにボランティアの事前登録制を導入し、発災した際に速やかに行動ができるように整備しました。
公5	「郷土の誇り」新潟の魅力さがしの旅	新潟県に存在するたくさんの魅力あるコンテンツを把握する魅力マップを各LOMのメンバーから収集して作成することで新潟の魅力を再発見するとともに、広く周知する取り組みを行いました。
公1	共に育む体験・郷育事業の実施	子供たちに自然、文化、社会体験を通じて成長する機会を創出しました。この事業においては、各地域での体験を通じて地域の魅力や課題を学んだあとにグループワークを行い、地域課題の解決に取組もうとする気概を醸成しました。
公2	にいがた子供会議の実施	新潟県内の子供たちが子供議員となり、エネルギー、防災、観光をテーマにグループワークで課題を考えた後にテーマに基づいた箇所の現地視察を行いました。その後は、視察を通じて感じたことを県議会議事場において報道陣を招いて提言を行いました。
公1	他者を思いやるJCカップU-11少年少女サッカー新潟ブロック予選大会の実施	グットルーザーの精神で夢や希望に向かって挑戦し続ける気持ちを育むことを目的としたJCカップU-11少年少女サッカー新潟ブロック予選大会を実施しました。
公5	新潟らしさの追求！ブランド化の必要性を探る	新潟県民は地元に対しての愛着度は高い一方、県民自身が身近な魅力を認知していない現状があり、それを打破するために新潟らしさが詰まったブランドを創出することが必要と考え、調査研究を通じてNIIGATAクリスタル井というブランドを完成させました。
公5	ここでしか。ここだから。NIIGATAクリスタル井！！	新潟における食の新ブランド「NIIGATAクリスタル井」を広めるために県外から多くの人を訪れる新潟アルビレックスの試合開催日にサッカースタジアムの売店での販売や道の駅での特設販売を行い、県外の人を含めた多くの人に周知しました。
他	アカデミーだよ！全員集合！！	入会3年未満のメンバーをメインターゲットにJCプログラムのpurposeやセレモニー、JCプロトコルの実施を行いました。その後は、交流会を実施して親睦を深めました。
他	新潟ブロック大会における褒賞事業	他LOMの事業に共感を得て、より良い活動へ繋げることを目的に褒賞を実施しました。事業褒賞、拡大褒賞に加え、育児や家事に積極的に参加しながらも活躍できる環境の推進を目指して育LOM褒賞を設けました。
他	第54回新潟ブロック大会	2024年度の新潟ブロック協議会の集大成として、ブロック会長からメンバーに対してメッセージを伝え、メインフォーラムで未来を切り拓くインバウンド戦略をテーマに新潟県の今後を考える機会としました。懇親会では、本年度の卒業生を盛大にお祝いしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
長野ブロック協議会	会長	土屋 壮亮（小諸）

基本方針

自発的に行動するJAYCEEを増やし、信州の魅力を自らの言葉で発信することで、笑顔あふれる信州を実現していきます。



総括

本年度は、総合連絡調整機関としての機能を強化し長野ブロック協議会がハブとなりLOMとLOMとのつながりを強化できるように尽力してきました。さらにはLOMに寄り添い不安を一つでも多く取り除き、生き活きと活動できるようにアカデミー事業に事業に力を入れてきました。さらには、地域のリーダーとして私たちの住む地域の魅力を自らの言葉で発信できるように調査・研究をおこない行政をはじめ様々な団体とパートナーシップを組んで、多面的に信州の魅力を発信する事が出来ました。長野ブロック協議会がハブとなり県内各地会員会議所との連携を強化したことで、LOMのためのブロック協議会として活動していく基盤を作る事ができたと思います。

事業区分	事業名	事業内容
他	第一回会員拡大会議	会員拡大に対する意欲を高めてもらうためにも県内17LOMの拡大担当者に参加いただき、日本JC会員拡大委員会より講演をいただきながら、各LOMの課題や改善策を話し合ってもらいました。
公5	信州周遊モニターツアー	長野県在住の外国人と行政の方々と県内3会場において様々な施設を回り意見交換と共有ワークを行い、外国人の考えを行政に知ってもらうとともに観光カルテとして提言することで外国人が来やすい環境づくりへの一助とすることができました。
他	長野ブロックアカデミー（第一回・二回）	長野ブロック協議会内に入会歴3年未満のメンバーを対象に、Purposeと事業構築を学んでもらいJCとしての理念を自覚し自発的にJC活動を行う人財育成とプレミートングを開催することで他LOMのメンバーとも積極的に交流しLOMの垣根を越えた友情を育んでももらいました。
公1	第10回JCカップU-11少年少女サッカー大会長野県予選大会	JCカップU-11少年少女サッカー大会長野県予選大会を通じてサッカーを通じて互いに助け合う気持ちを育み、誰もが住みやすい地域づくりができる人財育成をおこない親切心さと相手を称えることの大切さを学ぶ機会を創出につながりました。
公5	第55回 長野ブロック大会 in 飯田「信州の魅力発見！～Connect Smiles Journey～」	信州の魅力である「自然環境」「食文化」「伝統文化」をテーマに飯田市でブロック大会を開催し、様々な圏域における魅力を集結し共有することで、信州の魅力を再認識する機会を創出することができました。
公5	誰もがインバウンドの主役に！成功へのステップ	事例発表や講演を通じてインバウンド需要が高まる中、観光業だけでなく、外国人対象ビジネスにおけるインバウンド需要向上の可能性を学び、誰もが自社でも外国人を対象にしたビジネスを始めてみようという意識を高める事ができました。
公5	第三回長野ブロックアカデミー事業計画	アカデミー生が中心となって第一回・第二回から学んだ事を参考にブロック大会内でブースを出展し、事業構築、及び運営の経験で地域のリーダーとしての土台をつくることができました。また、信州の魅力を来場者に知っていただき積極的な交流もおこなえました。
公5	地域の伝統文化から広がる信州の魅力	ブロック大会開催地である飯田市の伝統文化黒田人形を保存会と中学生による発表をして頂き、地元根付く伝統文化を再認識することで各地域への関心を高め、信州への誇りや愛着を育むことにより、笑顔あふれる信州の実現に寄与することができました。
他	第55回長野ブロック大会記念式典	2024年度長野ブロック協議会の締めくくりとして17LOMが一丸となり次年度に向けて活発な組織となるように意識して式典を開催しました。また、卒業生から青年会議所に対する想いを受け継ぎ、今後の青年会議所活動への積極的に取り組める環境を創出しました。
他	第三回会員拡大会議	各LOM拡大担当者に拡大運動を最後まで意欲的に推進していただくとともに、次年度の拡大担当予定者が今年度担当者たちの拡大手法を参考にして拡大運動を開始していただくためにも今年度と次年度の拡大担当者が集まりグループミーティングを行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
滋賀ブロック協議会	会長	北村 忠征（彦根）

基本方針

With pleasure～利他の心が創り出す魅力あふれる湖国滋賀の実現。



総括

「With pleasure～利他の心が創り出す魅力あふれる湖国滋賀の実現」を基本理念として、滋賀県内各地青年会議所メンバーやアカデミーメンバーに対して青年会議所活動に積極的になって頂く事を目的に、また地域の方々に対しては地域の魅力に触れて頂く中で愛郷心を育む事を目的に事業を実施致しました。地域活性化事業で約9000名の方々にご参加いただくことができ、事業後のお声をお聞きした結果、地域の魅力に触れ合う中で愛郷心を育むことができたと考えます。また人材育成や地域活性化事業に参加や参画頂いた事を切っ掛けに、次年度や次年度以降、役職を受けるメンバーがおられる事から青年会議所活動に積極的になって頂けたと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	Start up JCライフ ～ここから始まるJC活動～	JCの基本的な理念や流儀・作法を学び、さらに知識を伝えていく能力を身に付け、より良い運動を展開していくための素地をつくる事を目的に「Purpose」「JCプロトコル・セレモニー」「分かりやすい説明の仕方研修」を取り入れ事業を実施いたしました。
公5	KOKOKU FESTIVAL ～滋賀の魅力わくわく体験～	滋賀県内の地域資源について楽しく学び、滋賀県への愛郷心を育んでもらうことや新たな発見をしてもらうこと及び他地域に対して興味をもっていただくことを目的とし事業を実施致しました。当日は約9000名の来場者数となりました。
他	学び！競い！語れ！ ～我らは希望の変革者 JAYCEE～	JCの歴史や影響力を知ることでアカデミーメンバーがこれからのJC活動に希望をもち、想いと夢を語ることで未来へ力強い一歩を踏み出せるJAYCEEになることを目的とし、ワークラリーやカードゲームを取り入れ交流する中で、友情を育む事業を実施致しました。
他	2024年度滋賀ブロック協議会 褒賞事業	各LOMの代表する事業を県内各LOMのメンバーに発信するとともに、各地域でご活躍され、様々な経験をお持ちの外部審査員の方に公正な審査をおこなっていただくために褒賞公開審査会を野洲の地に開催しました。
他	プロモーターからの 理念共感推進事業	本事業では近畿地区協議会開催の第5期プロモーターにご登壇頂き、県内メンバーに青年会議所の理念を伝え再認識していただきました。また自らの理念を他者に伝えることで、今後活動する上で理念をもって活動していくことの重要性を伝えることが出来ました。
他	第54回滋賀ブロック大会 東近江大会式典・卒業式 「湖国が紡ぐJAYCEEのつながり ～喜びを分かち合い高く舞い上がれ～」	あかね文化ホールにて9月7日に開催致しました。来賓出席者数85名・県内JAYCEEメンバー181名での開催となり、本年度は記念事業を執り行わず、事業を式典・卒業式の2部構成で行い、褒賞発表・表彰式のプログラムを式典の一部に含める形で執り行いました。
公5	第0回滋賀県インバウンド会議	行政・事業者・講師をお招きし、講演やパネルディスカッションを取り入れ、インバウンドの可能性を知って頂く事で観光事業の発展に繋がる事業を実施致しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
京都ブロック協議会	会長	中本 祐作（船井）

基本方針

人を想う純粋な心であふれ思いやりに包まれる京都の実現。



総括

「そうだ、人を喜ばせよう!!」をスローガンに掲げ、人の為に行動する原動力を常に持つ事を大切に活動、運動を展開して参りました。LOMへの伝達機能、LOMの為に存在している協議会としての意識を高める事に重点を置き、例会の開催も危ぶまれるLOMへの支援も行いました。また、国際交流としてカンボジアでの情勢を踏まえ、水上学校への支援も行い、現地の人々へ服の提供を行いメンバー自身の国際の意識を高めました。ブロック大会では、京都市内への一極集中しているインバウンドの波を地方へも流れるよう、運動を展開致しました。会員同士が思いやりの心を持ち、相互理解する事で自身の社業からも地域や人々に対して活動する喜びを感じ京都全体へ波及するよう今後も活動運動を展開して参ります。

事業区分	事業名	事業内容
公7	国際交流事業	地雷除去活動家のアキ・ラー氏にカンボジアの歴史を講演していただきました。多くの方に異なる国の歴史や文化を理解していただくため、誰でも閲覧可能なページを作成し、Facebookやインスタグラムで告知及び事業概要を公開いたしました。
公7	JCI ASPAC カンボジア大会 ジャパンナイトへの協力とブース出展	京都に対する興味を高めるために、唐きあげられた京都の地酒と京都を代表する「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」「竹の里乙訓」を表現した京菓子、観光連盟トラベルガイドをお渡ししました。また京都の伝統の遊び「お座敷遊び金毘羅船舟」を行いました。
公5	地方創生による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動	京都ブロック大会において、観光協会と連携しブースを出店していただき、運営サポートを行いました。また、乙訓JC、宮津JC、福知山JCのAT実行計画書を当委員会主導にて作成しました。
公5	第52回京都ブロック大会でのフォーラムの開催	ブロック大会の中で、自らの住まう地域に対する関心を高めるために、若者の地域への関心を高め若者と共に地域を活性化することが運動を展開して上で重要であることを、第1部の講師講演と第2部のパネルディスカッションを実施し来場者に伝えました。
公5	第52回京都ブロック大会でのフェスタの開催	本年度は地方創生への一助として、天橋立での開催を致しました。観光都市としてインバウンドを活用する上で重要な機会に、若者と共に地域活性化する事が出来たと考えます。
公5	近畿地区大会奈良大会ブース出展	京都を代表する「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」「竹の里・乙訓」の代表特産品を用いて、京都の一端を見て感じ、堪能頂ける食品を提供するブースを出展いたしました。本事業をきっかけに京都への関心を高め、観光への興味を引き出し、地方創生への一助に致しました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー 全国大会予選大会	サッカー大会JCカップの京都府予選を、海のそばの天然芝グラウンドで行い、参加チームが試合間で海に入り最後まで選手が楽しめる大会となりました。アフターマッチミーティングが特に子どもたちやコーチ保護者に好評で、JCの価値も上げることができました。
他	第52回京都ブロック大会での式典の実施	京都ブロック協議会の府内各LOMメンバーが地域に対して夢を描き、想いを共有し、JCに所属していることに誇りをもつことで、各地域におけるまちづくり活動と運動への意欲が高まる式典を開催しました。
他	第52回京都ブロック大会での褒賞授与式の実施	ブロック大会の中で、より良い事業構築のモチベーション向上につなげるため、昨年度実施された京都ブロック内の事業の中から優れた事業を表彰し、各LOM事業構築の情報を共有することで事業構築の参考とし、今後のより良い事業展開へとつなげました。
他	JC育成カリキュラムの実施 (ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用支援推進)	JCの作法の基礎基本をマスターしよう!～プロトコル、セレモニー日本JC公認プログラムPurposeについて講師をお招きし、京都市内の各LOMメンバー特に3年未満の会員に学びの機会を提供しました。
他	青年経済人育成セミナー	京都府西脇知事と麻生将豊直前会頭で「何事にも全力でチャレンジできる躍動する人財になるう!」～JCをすることで社業を発展させよと題して対談を実施しました。リーダーの生の声を体感するとともに「JCを適当にやっている人は仕事やうまいかない」と言う言葉も飛び出しました。
他	会員拡大セミナーの実施	日本JCシニアクラブ拡大支援委員会、柳田先輩をお招きし、「これからの時代への対応とJC活動の【仲間】について」をテーマとして会員拡大セミナーを開催しました。
他	理念共感拡大グランドデザインの推進	プロ連として、理念浸透サーベイを実施した後、府内各LOMと連携し1on1ミーティングを実施しました。その後、2回目の理念浸透サーベイを実施しました。合わせて6月と8月にオープン委員会としてそれぞれ平下先輩、石川委員長を講師としてお招きしました。
他	広報セミナーの実施	広報の発信について、SNSを活用したインフルエンサーの方を講師にお招きし、Instagramのアルゴリズムや発信のトレンド、またショート動画の作成を学ぶことで、JCはもとより社業においても活用できるセミナーを実施しました。
他	本今年度合同会議並びに委員会報告会	第1部では2024年度の事業を完遂出来たことの御礼と次年度への伝達式を行いました。第2部では今年度の各委員会の取り組みを参加者に向けて報告し、出向の魅力を感じて頂くことが出来ました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
奈良ブロック協議会	会長	上田 創大（天理）

基本方針

地域のつながりが共感を生み豊かさと笑顔あふれる古都奈良へ。理念共感を軸にJC運動への意識を高め、それぞれの地域課題に向き合う。



総括

基本方針を軸に、Start Today 目の前の未来のために、のスローガンのもと、ブロック内メンバーの意識と視座の底上げをすべく運動を展開。対外発信では地域資源を発掘し本会のATフォーマットを使い、インバウンドニーズに対応すべくツアーパッケージ化を行い、ブロック大会での発信を想定するも実施できずブロック事業へ転換。また、対内向けには今後ブロックで運用可能なLOM支援ツールのパッケージ化や情報収集に力を入れ、予定者段階での理事長の1on1ミーティングを軸に課題を抽出。アカデミー育成や組織の運用への課題が多く、対内系委員会を2つ設置し運動構築支援、事業実施と理念共感の2本柱で実施し好感触を得た。

事業区分	事業名	事業内容
他	第1回ブロックアカデミー事業 日本青年会議所 会頭セミナー	小西毅会頭から、日本JCが目指している「明るい豊かな社会」の実現に向けた動きと、日本JCの存在意義について、自身のエピソードを交えて講演を行っていただきました。JCの運動及び理念を理解し、今まで以上に能動的に活動するきっかけとなりました。
他	2024年度意見交換会	ブロック協議会内メンバーがそれぞれの立場から用意した課題テーマに対して意見を出し合うことで、参加した各LOMの委員長やメンバーがグループワークでの学びを各々の担いに活かせるようにし、今後展開される各LOMの事業構築の質を高める場として実施しました。
公5	近畿地区大会奈良大会フェスタ 出店	近畿地区大会奈良大会にて奈良特産品のブースを出展し、吉野杉を使った製品の展示と販売を実施。来場者に実際に触れてもらい、驚きと魅力を感じていただきました。アンケートでは肯定的回答100%を達成し、奈良の文化と産業の価値を広く発信しました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー大会 奈良県代表チームの選出	アスカカップ第22回奈良県U-11サッカー大会優勝チームを、JCカップU-11少年少女サッカー近畿地区予選大会に出場させていただき、奈良県代表チーム(YF奈良テソロ)を8月24日(土)に開催された近畿地区予選大会へ送迎し試合会場へ引率しました。
他	第2回ブロックアカデミー事業 VMVセミナー	JC日本公認プログラムの中でも、JC活動の根幹について最も深く学ぶことが出来る「VMV」を開催した。JCの成り立ちや、セレモニーの意味を知る事により、全ての行動には意味があるという事を再認識し、メンバーがより能動的に行動できるきっかけとなりました。
他	11月ブロック事業 歩くにぎわい茶屋	参加者が、ウォーキングをしながら地域と共に発展してきた食にまつわる体験と食事をする事で、地域の文化と資源への理解が深まり、笑顔と驚きが溢れる場を創出しました。また、重要な観光資源である食文化を深掘りすることで、地域の未来に繋がる可能性を創出できました。
他	11月事業 フォーラムの実施	奈良県が抱えているツーリズムの課題を、講師及びJCメンバーに認識して頂き、フォーラム会場である川上村での取り組みを紹介しました。具体的取り組み事例を講演後、「地域の魅力を再発見・資源を経済活性化につなげるには？」という議題でパネルディスカッションを行いました。
他	ブロック協議会 褒賞事業	アンケートでは「2024年度褒賞公開発表並びに審査会を通じて、各LOMが昨年度に実施した事業における事業構築の過程や手法を理解することができたか」との問いに対して全てのメンバーが「とても理解できた」「多少理解できた」との回答を頂きました。
他	オリエンテーション 『JAYCEEのあるべき姿2024』	JCプロトコルとセレモニーを実施したことにより、所作であったり今まで何気なく理由も知らずに漠然としていたが、事業に対する姿勢や取り組み方、ベクトルを合わせるべき事業や方針にしっかりと向き合うことができるようになったと考えます。
公5	地方創生による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動	アドベンチャーツーリズムに絡めた実行計画書を提出するまでが本年度の担いでした。奈良ブロック協議会では、奈良の外国人観光客に対してアンケートを実施し、奈良県が求める内容を抽出し考察資料を提出することで、行政とコミットすることができました。
他	奈良連絡調整会議の運営と 全国連絡調整会議との連携	LOMの課題や現状、実施予定の事業など情報共有したことによりLOMが抱える問題や、対応できない事を協議会としてフォローすることができた。LOMが抱える様々な課題を、本年度は日本JCや近畿地区協議会と連携し対応することで課題解決に向けた運動の一助となりました。
他	ブロック協議会で運用できる 人材育成パッケージの更新及び支援	JCプログラムの活用や拡大運動の骨組み、LOMへの支援により、活躍する人材を育成する仕組みの基礎を構築できた。JCプログラムを受講し知識の向上を得る機会とし、拡大運動の骨組みや支援しLOMの運動をともに作り上げました。
他	理念共感拡大グランドデザインの 情報収集・活用・推進	JCプログラムを用いたブロックアカデミー事業でメンバーのアンケートで肯定的な回答を多数頂き、JC活動をより能動的に行えるきっかけの場を設けた。1on1ミーティングの推進で「次年度に委員長をやってみたいと思った」という意見を頂き、精力的に活動し成長に繋がりました。
他	2024年度卒業式	卒業生には今後のJC以外の場での活躍の原動力になるように感謝の気持ちを伝える場をブロック協議会として用意しました。現役メンバーは卒業生の想いを受け継ぎ次年度に向けてのJC活動の意欲を高め、多くのメンバーで活躍してきた本年度卒業生を送り出します。
他	褒賞アワードセレモニー	前年度に行った事業の中で、最も発信したい事業を、9月10日の褒賞公開発表会にて審査頂いた結果に基づきLOMに対して表彰を行います。事業をLOM外、JC外に発信し、多面的に検証、評価していただき、今後の事業の発展やメンバーの意識向上につなげ、更なる運動の発信と発展になります。



会議・委員会名	役職名	担当者名
大阪ブロック協議会	会長	野村 将一（松原）

基本方針

共に利を創り和を以て輝く未来都市大阪の実現。



総括

すべての事業が28LOMの益につながるように、予定者段階でLOMの組織面の課題、運動面での課題を60項目にわたりヒアリングをしました。そのヒアリングから事業構築をおこない各LOMの益につながる事業を構築出来ました。わんぱく相撲ではLOMによっては開催されていない地域もありましたが、大阪ブロックと隣接するLOMのご協力で開催につながりメンバーからも青年会議所の運動のスケールメリットに共感を生み出すことが出来ました。またブロック大会枚方大会に関しては1万5000人以上の一般参加者でJCの魅力、各地の物産など大いに盛り上がり青年会議所を広くPRにつながり、各種フォーラムを開催しメンバーの成長にも寄与しました。すべての事業においてただ参加するだけでなく、共感から共に利を創る事業として率先して参加し当事者意識を高める事が出来ました。

事業区分	事業名	事業内容
他	理念共感アカデミー	入会后3年未満を基本の対象とし、地域の垣根を超えた大阪交流する文化を広めること、同時にメンバー間の交流を図り、能動的に活動する意識を強固にしました。青年会議所は社会により良い影響を与えるリーダーを創出する組織であり唯一無二である事の理解を深めることが出来ました。
他	出陣式	日本青年会議所の一年の運動方針、大阪ブロック協議会の役割と方針をリッツカールトンで600名を超えるメンバーに参加頂き共感を得ることが出来ました。会場は大きく盛り上がる各LOM、メンバーの機運を高めました。
他	リーダー育成会議	現在の大阪でプロモーターとして登録されているメンバーも活動が出来ておらず、ただプロモーターになっただけの現状に改めて全員に集まって頂き活動できるように再教育、そして3年未満に理念共感拡大のセミナーを開催しました。
公1	わんぱく相撲大阪府決勝大会	各LOMで勝ち上がったわんぱく力士の大阪府決勝大会です。この大会では子供たちに大阪のスケールメリットを感じていただき、国技を通じて和の心、親切心を学部機会となりました。
公1	JCカップU-11	各LOMで勝ち上がったチームによる大阪府決勝大会。グットルーザーの精神と親切心を学び大会となりました。
公5	共創型ビジネス 講演会	大阪府民、メンバーを対象にこれからのビジネスのあり方について学び、全員での名刺交換などビジネスに特化し多くの方にご来場頂きました。またJCとビジネスのあり方にも新たな一歩を踏み出すことが出来ました。
公5	大阪ブロック大会枚方大会	ブロック大会を開催し、協議会の運動の集大成を発信するとともに、大阪全体にJCのブランド力を高める事が出来ました。
他	理念共感グランドデザイン	本年は4回にわたり開催しました。3年目未満のメンバーを中心に榎田歴代委員長をお招きし講演と全員が発表できる環境で大いに盛り上がりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
兵庫ブロック協議会	会長	上羽 裕樹（丹波）

基本方針

Be advanceをスローガンに五国の魅力あふれる兵庫を一步前進させ地域の魅力を向上させる運動を県内22LOMと共働で行います。



総括

本年度は笑顔と優しさを生み出し誰もが挑戦でき誇りのもてる兵庫の実現を基本理念に様々な運動をブロック協議会と22会員会議所が絆を深め展開して参りました。本年度はエリアごとの連絡調整会議をスタートさせ、また拡大に特化した委員会を新設し県内の拡大状況の収集と支援を行うなど、例年の懇談会に加えより密に各LOMとの関係を構築することでエリアを問わずきめ細かい事業を実施することができました。その積み重ねが、ブロック大会・尼崎大会の延期での実施や、急遽の兵庫県知事選の討論会の対応など我々の運動の真価が県民にも波及したと実感しています。1年間を通じ今後も兵庫を躍動躍進させる運動を展開できたと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
公5	地域の経済的価値の向上につながる運動の推進	兵庫県内の事業者を対象に、地域経済の発展に寄与するために、地域の伝統や文化を起点とした地域経済に資する新たな価値を創造する方法を学んでいただきました。そして、その学びを活かして新たな価値を創造する力を育みます。また自らが主体的に地域に経済的な価値向上をもたらす新価値を作出します。
公6	あらゆる災害を想定し防災減災につながる運動の推進	兵庫県民の防災減災に関する意識をより高めることや、有事の際に多くの団体や人が連携し自ら主体的に取り組むために、兵庫県下の各防災減災に取り組む団体や機関と連携し、それぞれの持つ防災減災の取組事項をより大きく展開するためのロールモデルを構築しました。
他	会員拡大の支援	「理念浸透サーベイ」を兵庫ブロックとして実施し、理念が各LOM別にどの程度浸透しているかを調査、検証します。理念共感拡大推進会議においてその検証結果を各LOMに落とし込み推進を実施しました。
他	エリア別連絡調整会議の設営と推進	兵庫ブロック協議会が的確な連絡調整機関として各LOMとの関係を深め、ブロックとLOMが一枚岩となった連携を実現させることを目的としました。
他	兵庫県知事と懇談会の開催に関する業務	兵庫県各地の青少年から地域特有の課題を抽出し、各LOMで解決できる運動を県政と共有・連携しながら見出すことで、県政との連携を深めました。そして、各地高校へ事前調査アンケートを行う際に、各地青少年から兵庫県知事へ直接質疑応答できる機会を設けることで、県民としての誇りと当事者意識を育みました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー予選大会の開催	兵庫県代表を決定するサッカー大会を通して、他人を認め相手の勝利に敬意を表し、試合に関わる人たちに感謝できる道徳心を育む事業を行いました。そして、従来とは異なるルールでのサッカー競技を通して、他人と協調しながらも、自ら考え行動できる自律した人財を育む大会も同時に行います。
公1	兵庫の未来の人財育成の推進	兵庫各地の魅力を客観的に学び、事業者を招いて地元でできる仕事の可能性を地域と学ぶ事業を実施し、子供たちの生きる力を育むために、学校教育と地域教育の垣根を越えて連携し、兵庫県発祥である心の教育、トライやるウィークの実施に合わせて地域事業者と手を取り合って地元の魅力を再発見できる事業を実施することで、将来地元へ貢献したいと考えられる人財を育みました。
公2	誰もが政治参画できる仕組みの構築に関する事業	子育て世代の当事者である親を対象とし、非認知能力の育み方を学び、地域の未来について親子で考える事業を実施しました。そして、親子で取り組むワークを設け、地域の明るい未来に向けて考えていただき、メンバーを含めた子育て世代の当事者に、主体性と当事者意識を育む重要性を感じていただきました。
公1	ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援	アカデミーメンバーが年間通じて成長できるよう本会が薦める理念共感、Purpose、JCゲーム、JCプロトコル並びにセレモニーを実施しました。また、研修プログラムを通じてJCの理念を共有し、自分に置き換え行動することで、活動意義を見出せる人財の育成を行いました。
公1	兵庫ブロックアカデミーHYOGO YOUNG FES事業実施	アカデミーメンバー1つの事業を構築することで連帯意識を養いながら互いの役割を認識し、目標を達成する意欲をもち、能動的に行動するリーダーシップを醸成したLOMで活躍できるJAYCEEの育成を行いました。
公5	近畿地区大会奈良大会におけるブース出展	兵庫県の魅力を知っていただくために、兵庫県の特産品や名物が当たる魅力ガチャを行い、新たな発見をしていただき、兵庫県に対する興味を持つきっかけを作りました。
公7	JCI ASPAC カンボジア大会ジャパンナイトにおけるブース出展	本年度の兵庫ブロックのメインカラーであるオレンジ色のブースをポスターで装飾し兵庫県のPRを行いました。兵庫県の魅力を知っていただくために和食において重要な出汁を試飲していただきました。また、兵庫県は山・川・海に囲まれた広大な地域の特性も知っていただきました。
他	第57回ブロック大会・尼崎大会 公益事業計画	ブロック大会において、知事や開催地市長、行政関係者、歴代ブロック会長及び開催地LOMのOBをお招きし、記念式典を開催しました。また褒章では例年5年、10年、15年、生涯皆出席会員の表彰しました。
公5	第57回ブロック大会・尼崎大会 公益事業計画	兵庫の魅力を体験し発信する場とし兵庫えもんストリートで兵庫県内の食や文化を体験できるブースを出店していただき兵庫県内各地域の魅力を存分に発信しました。
他	行動化のための良質な情報共有の推進	事業構築のクオリティを向上させるためにgianpocketの推進を行いました。そして、アジェンダシステムを導入していないLOMに対して、議案共有の簡易化を低価格で行うことができ、専務理事や総務委員会の負担を大きく下げることが可能となる新アジェンダシステムの推進を行いました。
他	LOM役員懇談会の実施	ブロック役員団や他LOMの役員の前で答弁をすることで自身の基本方針について再度見直すことができるディスカッションか、それぞれの立場や職務から各LOMの現状打開に向けて取り組みを進めるなぜなぜ分析かを各LOM選択していただき、LOMの役員とブロック役員が手を取り合うより強固なパートナー関係を構築しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
和歌山ブロック協議会	会長	梅村 英義（新宮）

基本方針

すべてに寄り添い心豊かな和歌山の創造。



総括

本年度はブロック協議会内にLOMに寄り添うことを目標に、タイムリーな情報交換及び連絡調整を行いLOM事業やブロック事業だけではなく地区・本会事業にも参加し易い環境作りに努めました。
また委員会を4から5へ増やしアカデミー会議を作り、県内アカデミーメンバーへのJCプログラムを活用した事業や出向の機会の提供を行い発展と成長につなげることができたと考えます。
今後も理念共感をブロック内メンバー達と深め邁進して参ります。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカー地区大会予選大会の実施	心豊かな人財を育成するために、勝敗に囚われず相手を称え合うことができるJCカップを開催し、将来地域社会を担う子供たちの協調性や連帯感を醸成しました。和歌山BC輩出チームは全国大会で優勝し、アジア大会まで駒を進めました。
公5	ブロック大会 記念事業	対内的には県下8LOMの連携を促し、より強固で団結した組織へと昇華する機会となりました。対外的には、地域の魅力を継続的に発信できる仕組みを持った事業を実施することで、長期的な発展の可能性を持つ地域経済の活性化の一助となることができました。
他	アカデミー事業①②③	歴の浅いメンバーを対象に、3部構成で実施いたしました。第1部として、JC運動への理解を深める機会を設け、第2部3部にて企画立案から実施までを体験していただきました。結果、多くのアカデミーメンバーの機運を高めることができた確信しています。
他	ブロック大会 記念式典	より強固な組織基盤を構築するために、一堂に会する記念式典を開催することで、JC運動に対する理念共有ならびに意識統一を図ることができました。また、地域とJCとの密接な協力体制を構築するための貴重な機会ともなりました。
他	防災関係事業	県社会福祉協議会、県下LOMと発災時の連携について話し合う機会を設け、支援体制や連携体制について明確化することができました。
他	会員拡大支援	県下8LOMを巡り、各LOMと寄り添い各々が抱える課題を共に抽出し、解決に向けたグループワークを開催しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
岡山ブロック協議会	会長	土倉 佳奈（倉敷）

基本方針

一人ひとりの仲間を想う心やまちを想う心を育み、JCや岡山を今まで以上に好きになっていただき、笑顔あふれる岡山を目指します。



総括

「想い合う心が相集い笑顔あふれる岡山の創造」の基本理念のもと、ブロック協議会を通じて、1人でも多くの仲間と出会い、様々な機会に触れていただくこと。そして、各LOMから必要とされる存在を目指して取り組んで参りました。そのため、今まで対象者を限定していた拡大セミナーやブロックアカデミーは、本年度は全員対象としました。また、会員会議所の場やLINEグループなどを活用し、本会や地区協議会、各LOMの情報共有をしっかりとできる仕組み作りを行ったことにより、多くのメンバーに多くの学びの機会と出会いの機会を提供することができました。その結果、JCの理念を理解し、JC運動や活動に誇りを持つメンバー増加につながったと考えます。

事業区分	事業名	事業内容
他	会員拡大・LOM支援セミナーの実施	近年、岡山ブロック協議会は徐々に会員減少が進んでおります。そこで、年2回6月と10月にセミナーを開催しました。6月は本年度が始まって中間期ということもあり改めて会員拡大のモチベーションを上げ、LOMの組織風土を再考する機会をつくりました。10月は次年度予定者会が始まる時期に、次年度もより良いスタートをきれるよう、全員拡大をLOMで取り組んでいただく意識変革の機会をつくりました。
他	岡山ブロック協議会60周年記念誌の作成及び配布	本年度岡山ブロック協議会は創立60周年を迎えました。それに伴い、記念誌を作成し歴代会長及び関係各所、岡山県内各地会員会議所に配布しました。データ版も配信したことで全会員が目にすることができるものとなりました。
他	会員拡大ツールの作成及び共有	岡山ブロック協議会内の会員数は減少傾向です。そこで、各LOMだけの拡大ツールではなく、岡山ブロック協議会のスケールメリットを活かした拡大ツールを作成し共有しました。既に活用していただいているLOMもあり、次年度も活用していただけるよう引継ぎを行っています。
他	新会員研修会の実施	青木孝太先輩をお招きして第一部では日本JC公認プログラムPurposeセミナーを開催し、JCの存在意義や目的を伝えていただきました。第二部では理念共感を演題としてJCの魅力や今やるべきことなどについてセミナーをおこないました。
他	ブロックアカデミーの実施	岡山ブロック協議会内全会員を対象として、レクリエーションを行った後にそれぞれのステージに応じた3つのセミナーを開催しました。ブロック協議会としてのスケールメリットを活かした研修となりました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会岡山予選大会の実施	チームワークを通じ協調性や連帯感を育み、多様性の相互理解の意識の育成、次代を担う少年少女達に勝ち負け以上に大切なグッドルーザー精神の育成、相互尊重の意識の醸成を目的として開催しました。次世代を担う青少年の豊かな人間性を育むことができました。
公2	未来サミットの実施	講師に岡山商科大学三好宏教授をお招きし、1部では、「多様性社会の実現」に向けてグループディスカッションをしていただき、自由なアイデアと多くの解決策を考えることができました。2部ではKJ法による意見の分類をしていただき発想をグループ化し、論理的に整理して問題解決の道筋を明らかにしていきました。参加していただいた皆様にはこれからの目指すべき社会のあり方について考えていただく機会となりました。
他	岡山ブロック大会の実施	式典を通じて岡山ブロック協議会の今までの歴史、そして未来への期待を感じていただき、改めて会員の志をひとつにし、仲間意識をもち、今後の青年会議所運動を邁進していく気概を高めることができました。会員同士の交流も深まり、協議会内の横の繋がりがも増えたと考えます。
他	認知度アップの新たな広報及び実施（HP・SNSの広報等含む）	岡山ブロック協議会や各地会員会議所の存在や運動について、メンバーや県民からのブランド価値の認知度を向上させることを目的としました。岡山ブロック協議会内各LOMの事業も把握でき、各LOM事業の広報にも繋げることができました。
公5	魅力を発見！～おかやま推しスポット調査～	地域に住み暮らす人たちが岡山の新たな魅力に気付くことで、郷土に愛着をもつきっかけとなることを目的とし、県内各地の行事にブースを出し、来場者に投票していただいた推しスポット調査の結果を元にPR動画を作成し、岡山ブロック協議会と岡山県内15LOMのSNSで発信していただき、岡山県内外と全体へ魅力の発信を行いました。
他	2024年度岡山ブロック協議会懇親野球大会	野球大会を通じた交流にて、岡山ブロック協議会の仲間達との友情を育み楽しんでもらうことを目的とし、実施しました。各LOMでの絆の強化はもちろんのこと、岡山ブロックを代表して地区大会及び全国大会に参加したLOMへは勝敗に関係なく応援し、ブロック協議会内の団結力が向上したと考えます。



会議・委員会名	役職名	担当者名
広島ブロック協議会	会長	貝原 祥之（府中）

基本方針

新たな1を生み出し 笑顔と希望あふれる広島へを基本理念とし、新たな未来に期待感をもつことのできる広島を創造します。



総括

本年度は、一人ひとりが新たな人脈の形成、新たな学び、新たな価値を生み出せるような場となるブロック協議会を念頭に、事業を構築し、各LOMの交流と各LOMへの支援を行って参りました。年度計画はすべて実行し、どれも1つでも前年度と違うものを組み込んだ事業、1歩入り込んだ支援を行い、昨年を上回る多くの参加実績を達成出来ました。ブロック協議会は年々減少傾向でしたが、今年は卒業生を上回る入会も得られる予定となり、年初計画に未達のLOMはあったものの、全体としてはプラスに転じることができました。以上のことから、基本理念を軸とした事業を通じて、次年度に繋がる協議会の運営が出来たと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
公1	他者を思いやるJCカップ U-11 少年少女サッカーブロック予選大会の企画・実施	県内11歳以下の子どもたちを対象にサッカー大会を企画・運営し、本大会を通して思いやりの精神を育み、人間としての成長に繋げられる予選大会を開催しました。アツい大会でしたが、グッドルーザーを取り入れ、目的も達成出来ました。
公5	広島ブロック大会(本体)	県内12LOMが一堂に会して集まり、今後のJC運動の発展に繋げられる事業を実施しました。また、ご当地地域の方々にもご参加頂き、感謝を込めて楽しんでいただくことで、今後のJC活動への参加や協力につなげることも出来ました。
公5	広島ブロック大会(フォーラム)	「世界に突き抜けるローカルを創るLocal&Globalの挑戦」と題して講師をお呼びし、JCメンバーや地域の方々当事者意識を持って地域の活性化に取り組み、地域の魅力や価値を再認識できる内容を実施しました。
公5	広島ブロック大会(たからいち)	広島県内の「地域のたから」を集結し、JCメンバーや地域の方々に楽しんでもらい、広島県各地の魅力を再発見して頂くことで、各地域のたからを広く知らせ、その地を訪れたいと思うきっかけづくりとなるように設え、実施しました。
他	広島ブロック大会(PR事業)	広島ブロック大会の参加促進のため、全12LOMへのキャラバンを実施しました。また、これに合わせ、本大会の見どころなどを各LOMと協力して積極的にSNSを通じて発信を行いました。結果、たからいちが過去最高の集客をすることが出来ました。
他	広島ブロック大会(式典)	広島ブロック協議会が54年続いたことを内外ともに感謝し、県内12LOMの推し進める地域に根ざしたJC運動を共有し、結束を強め、次年度に繋ぐ内容を実施しました。
他	広島ブロック大会(拡大研修)	広島ブロック協議会内の各LOMの会員拡大委員長をお呼びし、拡大の成功事例、失敗事例を忌憚なく話し、メンバーへ共有することで、拡大支援及び拡大への当事者意識が向上する内容を実施しました。
他	広島ブロックアカデミー	アカデミー生が主体性をもつ活動を体験しJCの基礎となる知識や理念を学びリーダーとしての資質を得る内容を実施しました。また、1泊2日で各LOMのメンバーが垣根を越えた継続する交流関係をもつことにも繋がりました。
他	メンバー交流親睦事業の実施	交流無くして支援なしの考えのもと、東広島市の廃校を活用し、真に12LOMすべてのメンバーが強い繋がりを築けるよう、事業を通じて個人間のつながりを増やす内容を実施しました。
他	地方創生による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動の推進	一般社団法人東広島青年会議所及び現地ステークホルダーがインバウンドを活用した地域経済活性化に向けて、地方創生の仕組みを理解することを実施しました。
他	理念共感拡大ブランドデザインの情報収集・活用・推進	県内12LOMの拡大責任者のLINEグループを作成し、拡大情報を共有（毎月月末時点の進捗確認、各LOMでの実施内容の共有、拡大成功事例の共有など）、相互に連絡が取れる体制を構築し、必要に応じてWEB打合せの場を設け各LOMの活動目標達成を支援しました。
他	ブロック協議会で運用できる人財育成パッケージの更新及び支援	ブロックアカデミー内で理念共感教育や人材育成パッケージの共有を実施しました。また、地区協議会が実施した理念共感プロモーターも4名(目標の1名以上)が参加し、修了しました。
他	拡大LOM支援事業の実施	特に10名を切る人員のLOMに対して、丁寧にヒアリングと支援の内容を協議し、対象LOMの実情に合わせて進行了しました。次年度にも引き継ぎながら、12月末まで引き続き支援を継続していきます。
他	広島ブロックゴルフ大会の実施	県内12LOMのメンバーがゴルフという場を利用し、組織に必要な人脈形成を行えることを目的として実施し、多くのメンバーに参加頂きました。また、本大会は2LOMの合同開催とした新しい試みも行いました。
他	広島ブロック野球予選大会の実施	因島の地において、LOM同士が真剣に勝負することで、一層の親睦を深められる場を創出出来ました。少数LOMのご当地での実施でしたが、ブロック協議会も共に作り上げた大会となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
山口ブロック協議会	会長	富田 剛史 (吉南)

基本方針

LOMと本会や地区協議会を連携して必要な支援を行い、出向者の成長を通じて、笑顔あふれる山口を創造します。



総括

人口10万人程の都市が点在する山口県において、LOMの垣根を超えた交流と一体感の醸成に向けて、本会や地区協議会とLOMをつなぐ連絡調整機関としての役割を果たすため、すべてのLOMからブロック協議会に出向者を輩出していたき、運動を展開しました。ブロックアカデミー事業や球技大会、JCカップやブロック大会などの事業実施に向けて各委員会が活発に活動してLOMの垣根を超えた友情を深めるとともに、事業を通じて県内各地の魅力を発信することができました。6つの委員会の内3つの委員会で女性の委員長が活躍するなど、ブロック協議会の多様性も実現しました。出向を通じて成長した会員が将来のブロック協議会を支えていく基盤作りができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	山口会議	2024年度の本会・地区の運動方針並びに山口ブロック協議会の活動方針とブロック会長の所信の発表を行うことで、山口ブロック協議会の役割や活用方法を見出していくことができ、LOMとの連携の強化・促進につながる事業となりました。
他	理念共感拡大グランドデザインのセミナーの実施	会員数の減少や入会歴の浅い会員の増加、退会者の割合が増加する中において、JCの理念を語ることができていないという課題に対して、JCの理念について会員が自分の中に落とし込み、胸を張って活動することができる人財の育成を達成することができました。
他	ブロックアカデミーの実施 (JCプロトコル・セレモニー・Purpose)	山口ブロックにおいてPurpose、JCプロトコルの存在を知らない割合が70%となっている現状に対して、JCの行動規範、世界共通の使命を共有し、JCに入会して自分は何をすべきなのかを明確にすることで目的意識を持ち、JCの理解促進を達成することができました。
他	第60回山口ブロック球技大会の実施	LOMの垣根を超えた会員同士の交流を促進する場として、球技大会を実施しました。スポーツを通じた真剣な交流の中で、新たな友情が芽生えるきっかけとなりました。また、参加した会員が主管LOMとその地域をより深く理解する事業となりました。
公1	JCカップU-11少女サッカー 全国大会予選大会の実施	試合だけでなくアフターマッチミーティングを実施することで、子供達が自ら考える機会となり、主体性・協調性・他者を思いやる親切心を育む事業となりました。また、事業後の地域プロスポーツ観戦を通じて、子供達が郷土愛を持ち、夢を描く事業となりました。
他	理念共感拡大プロモーター育成	中国地区協議会と連携して、理念共感プロモーター育成プログラムへの参加者を輩出し、ブロック協議会内に多くの理念共感拡大プロモーターを誕生させました。 プロモーターのセミナーを通じて理念共感の輪を広げる体制が構築できました。
他	褒賞事業の実施	手本となる運動を共有するために、各LOMから事業の申請をいただき、他LOMの事業を知ること、時代に即した事業を構築する上で必要な「新たな視点や考え方、着想」を得ることができ、会員が更なる成長に向けた意欲を促進する事業となりました。
公5	地域の魅力発信と経済活性化に関する事業の実施	地域を代表する音楽ホールにおいて、全国屈指の実力を持つ大阪桐蔭高校吹奏楽部の演奏に触れることで、子供達が地域の魅力を知り、夢を描く機会となりました。また、地域の食を知るグルメフェスを開催し、地域の経済活性化につながる事業となりました。
他	第61回山口大会の実施	ブロック協議会の1年間の運動の総括を行うとともに、全LOMから出向者を輩出いただいたブロック協議会の団結心をさらに高める場となりました。また、次年度への引継ぎを行い、各LOMが当事者意識を持って次年度に向けてさらなる高みを目指す場となりました。
他	多様性のある組織の確立のための 拡大支援	各LOMが女性会員も含めた多様な人材を獲得するために、LOM間で入会候補者の情報を共有し、ブロック協議会として女性会員交流会の実施など、拡大を支援しました。定期的に拡大担当者会議を実施し、各LOMの拡大担当者間で横のつながりを構築することができました。
他	姉妹JCとの交流と新たな締結支援	LOM独自では難しい姉妹JCの締結を支援するために、本会と連携しながら主に台湾のLOMとの交流を目標として、ASPACや世界会議通じて交流を深めました。台湾の二林國際青年商會と親交を深めることで、次年度への足掛かりを構築することができました。
他	地方創生による地域経済活性化につながる 仕組み構築に向けた運動の推進	インバウンドによる地域経済活性化のモデルとして、長門JCが本会と連携する支援を行い、インバウンド戦略会議の実施やモデルツアーの策定などを行いました。地域の他団体とも連携し、地域が一体となって地域の魅力を発信する仕組みを構築することができました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
島根ブロック協議会	会長	天野 真（江津）

基本方針

島根ブロックは、各LOMのプラットフォームになることでLOMの垣根を越えて島根をより良くするリーダーを一人でも多く輩出することを支援します。



総括

ブロック協議会の事業を通じて各LOMメンバー間の交流を生み出し、ブロックアカデミーや会員拡大支援事業を開催しブロックだからこそのLOMの垣根を超えた成長の機会を提供することを考え1年間邁進しました。JCカップではグッドルーザーの精神と親切心を育むために県内各所より多くの子供たちに出場いただき素晴らしい大会が開催できました。また、第50回ブロック大会では、記念品の贈呈や各LOMの事業発信を行い、県下9LOMのメンバーが集まりこの機会を迎えられたことがとても嬉しく感じました。記念事業では、デジタル技術を活用した展示会や体験会を開催し、笑顔あふれる力強い島根の創造のためブロック丸となって運動を発信できました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカーブロック予選大会	島根県内各所より6チームが参加し、グッドルーザーと親切心を育むブロック予選大会を開催しました。大会内ではクイズやアフターマッチイテイングを通じて多くの子供たちにスポーツを通じて学びの機会を提供することができました。
公5	第50回島根ブロック大会 記念事業デジタルアドベンチャー	笑顔あふれる強い島根の創造のために、私たちの暮らしや営みにデジタル技術を取り入れ生産性向上の必要性を伝える事業を開催しました。当日は地元企業や飲食店の皆様にご協力いただき多くの一般来場者の皆さまにデジタル技術を体験いただくことができました。
他	組織で躍動する人財育成事業	ブロック内全LOMメンバーを対象としたメンバーがリーダーシップを発揮し、LOMや会社で活躍できる人財になるために地元企業創業者の方から学ぶ経営における講演とJCプログラムエフェクティブリーダーシップを開催し、94名のメンバーに参加いただきました。
他	潜在力覚醒セミナー ～increase attractiveness～	ブロック内全メンバーを対象に理念共感プロモーター講師より理念を明確にし、JC活動と自分の願望をリンクさせ自信をもった活動につなげることができるセミナーと会員拡大委員会委員長より拡大における手法や心構えをレクチャーいただくセミナーを開催し90名のメンバーに参加いただきました。
他	第50回島根ブロック大会 記念式典	安来青年会議所主管の第50回島根ブロック大会記念式典を開催し、第50回を記念し、記念品の贈呈と各LOMの事業紹介を通じてLOMの垣根を越えて島根発展に向けての意識向上、またメンバー間の友情を育む機会、そして各LOMの今後の運動への学びの機会とすることができました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
鳥取ブロック協議会	会長	宍道 真理子（鳥取）

基本方針

・未来につながる5LOMで創る鳥取ブロック協議会 ・未来につながる笑顔あふれる地域の創造 ・未来につながるメンバー育成・拡大



総括

まず、基本方針を最重要に考え、全LOMから役員やメンバーを輩出していたらLOMの垣根を越えた活動ができました。そして、新たな取り組みとして5LOMが連携し拡大をしたことにより、他LOMへの拡大情報の提供など成果は見られ、今後につながる仕組みが構築できました。さらに、地域を維持発展していくために事業承継に着目した事業では、今までとは違う観点から地域をより良くしていく手法の一つとして学びになりました。しかし、メンバーの動員に苦戦したこと、地域との連携や巻き込みは薄い結果となりました。新たな取り組みにいくつかチャレンジした1年となりましたが、この結果は必ず鳥取ブロック協議会の未来につながるものと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	5LOM連携拡大セミナー ～いざ行かん!拡大へ～	「5LOM連携拡大セミナー」「理事長クロストーク」を開催し、日本JC会員拡大委員会委員長より「まちにJCの認知度を向上させよう」の講演とブロック内理事長とのクロストークをしていただきました。その後5LOMが連携し拡大するためのワークショップを行いました。
他	人材育成支援事業ブロック アカデミー ～Purpose編～	地域社会に必要とされる能動的なリーダーの育成を目指し、アカデミー生を対象に、自分達の仕事や家庭にもJCの取り組みが密接に繋がっていることを認識し、JCの存在に共感を抱くことができるプログラム「Purpose」を開催いたしました。
公2	事業承継が生み出す無限の可能性～承継 is Succession～	地域経済を維持していくために事業承継を選択するきっかけ作りを行うことを目指し、米子JCの森田先輩にM&A実体験の講演、鳥取県商工労働部産業未来創造課様より、オープンネーム型事業承継についての講演、最後にパネルディスカッションを行いました。
公1	JCカップU-11少年少女 サッカー鳥取県予選大会	子供だけでなく大人もがグッドルーザー精神を身につけることで世代を超えていかなる場合でも相手を認め、尊重し合える人財を育成することを目指し、JCカップ鳥取県予選としサッカー大会を開催いたしました。
他	2024年度鳥取ブロック大会	鳥取ブロック協議会への関心を高め、LOM同士の協力と連携強化を目指し、各LOM事業発表、鳥取ブロック事業報告を行いました。また、2025年度の鳥取ブロック協議会会長の発表を行い、メンバーからの協力を引き続きいただけるよう情報共有の機会を設けました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
香川ブロック協議会	会長	吉川 佳孝（高松）

基本方針

県内6LOMが協力し、地域課題の解決や緊急時に対応できる関係と連携を強固にすることで、笑顔あふれる持続可能な香川を創造します。



総括

香川ブロック協議会では、会員減少やアカデミー会員増加、子どもの自己肯定感低下といった課題に取り組みました。各LOMとの協力体制を築き、香川のリーダーとして活躍する人財の育成に努めました。また、新型コロナウイルス感染拡大で一時途絶えた各LOMの関係を再構築するため、懇親と交流の場を設営しました。全体の参加率は低下傾向にありましたが、この一年で徐々に回復し、次年度の理事を目指すアカデミー会員も増加しました。活力と持続可能性のある香川の創造に寄与しました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	丸亀マーチ！ストリートビンゴ	香川県の子どもの自己肯定感向上を目指し、丸亀町商店街に25のブースを設け、成功体験と大人との交流機会を提供しました。約400名の子どもが参加し、当日を楽しんでくれました。
公1	他者を思いやるJCカップU-11少年少女サッカーブロック予選大会事業	香川県内の小学5年生以下のチームに呼びかけ、四国地区大会に参加するメンバー選定を行いました。炎天下でも子どもたちは活発に試合に臨み、グッドルーザー精神や相手を思いやる姿勢を育みました。
他	会員拡大を行うための新しい支援の実施	会員減少対策として、香川ブロック協議会はウェルビーイング経営セミナーと名刺交換会を開催。当日には入会候補者30名も参加し、会員拡大に成功しました。
公5	第54回香川ブロック大会記念事業計画	忘れられつつある香川の伝統文化に触れてもらうため、香川ブロック東かがわ大会で伝統文化体験や郷土料理のキッチンカーを運営し、多くのご家族に楽しんでいただきました。
公5	今後の伝統工芸が活きていく香川を目指すための提言	香川県のインバウンド促進のため、伝統文化提供者へアンケートを実施し、行政に提言しました。調査により、多くが外国人来訪に関心を持つ一方で、言語などの壁が課題であると判明しました。
他	第54回香川ブロック大会広報計画	年々参加率が低下しているブロック大会のため、PR活動を強化しました。6LOM合同例会や各LOM公式訪問例会で積極的に参加を呼びかけました。
他	6LOM合同例会事業	香川ブロック協議会では、2月例会を6LOM合同例会としてアカデミー向け事業や懇親会を同日に実施します。2024年はJCI Achieveを学び、青年会議所の活動理由についても深めました。
他	第54回香川ブロック大会記念式典事業	香川ブロック大会東かがわ大会を開催し、式典を実施しました。意識向上と協議会への想いをよせてもらうため、会長挨拶や次年度会長挨拶、次年度開催地LOM発表を行いました。
他	2024年度香川ブロック協議会野球大会	6月に香川ブロック協議会の野球大会を開催し、四国地区大会に出場するLOMを選定しました。全てのLOMが参加し、運動と交流の場を楽しみました。
他	交流とやる気向上を目的とした運動会及び交流会事業	次年度に向けた出向やLOMの理事就任を促進するため、やる気向上の運動会を開催しました。ミニゲームを通じてLOMの団結と交流を深め、香川ブロック協議会の全体事業として実施しました。
他	理念共感拡大セミナー	香川ブロック協議会では理念共感の促進を目的に、理念共感拡大セミナーを開催しました。2024年の四国地区協議会でトレーナー育成事業を実施し、講師による知識と経験の共有を生むことができるセミナーとなりました。
他	議案の考え方・書き方セミナー	香川ブロック協議会ではアカデミー会員が3割を超え、理事や出向が増加しています。そのため、議案の考え方・書き方セミナーを開催し、苦手意識を克服し理解を深める機会を提供しました。
他	LOMの事業を支援する広報の実施事業	総合連絡調整機関として、日本青年会議所の運動プラットフォームや各地会員会議所の事業を発信する機会を設けました。Canvaを活用し、魅力的なデザインと質の高い情報の提供に努めました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
愛媛ブロック協議会	会長	真鍋 知弘（今治）

基本方針

愛媛ブロック協議会が一つの和となり他者を想いやる気持ちを持って、笑顔あふれる幸せな愛媛の未来を創造します。



総括

本年度、愛媛ブロック協議会は「8つの和が織りなす利他の心で笑顔あふれる愛媛の創造」を基本理念に、運動を展開しました。各LOMに寄り添い、各LOMの考えを理解し連携を図ることで、調和のとれたブロック協議会を目指し、8LOMの理事長をはじめメンバーと共に運動を展開しました。また、各LOMにおける例会や事業に参加し、課題や悩みを共有し解決に向けてともに活動を進めました。そして、各LOMのつながりが強固なものになるよう、アカデミー会員だけでなく全メンバーを対象に研修事業を行い、メンバー間の交流を図り協議会の役割を明確にすることができました。各LOMの理事長と連携することで、ブロック協議会の一体感を作り上げることができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	第54回愛媛ブロック大会 松山大会スローガン及びPR事業	県内8LOMのメンバーに愛媛ブロック大会開催日の認識を高め、来場意欲向上を図ることを目的とし、全LOMの例会に訪問させていただき大会のPRを実施しました。
公5	地方創生による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動の推進	愛媛の魅力在海外からの旅行者にヒアリングし、ニーズを理解することで、観光資源や特産品等の活用を促進することを目的としました。海外からの旅行者1,000名以上からアンケートを実施し、調査報告書を作成しました。
他	理念共感拡大グランドデザインの推進	理念に基づいた運動の展開や会員の資質向上を目指して、理念共感拡大グランドデザインの推進を行いました。アカデミー会員はもちろん、全メンバーを対象に研修事業を行い、理念浸透率の向上に努めました。
他	第54回愛媛ブロック大会 松山大会記念式典	県内8LOMのメンバーが一堂に会し、本年度の運動と各LOMの事業紹介、そして次世代への起点となる次年度体制の発表を含めた記念式典を開催しました。参加したメンバーがブロック大会の意義を改めて感じることでできた式典となりました。
公5	第54回愛媛ブロック大会 松山大会記念事業 ～伊豫祭（IYOフェス）2024～	「伊豫祭IYOフェス2024～愛媛の魅力見にこんけん!～」のスローガンの下、愛媛県内の魅力ある資源に触れ、発信することでメンバー及び一般参加者にとっても、改めて魅力を再認識できる事業となりました。
公1	他者を思いやるJCカップU-11 少年少女サッカーブロック予選大会の企画・実施	参加者に協力し合うことの価値を実感してもらい、他者を思いやる心と挑戦心を兼ね備えた人材を育成することを目的に事業を開催しました。また、子供たちや保護者にとってグッドルーザー精神について、理解を深める機会となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
高知ブロック協議会	会長	寺村 浩（南国）

基本方針

少しの好奇心で参加したメンバーが多くの学びや出会い、成長を得られる協議会を目指し、地域の経済、高知の復活を目指します。



総括

本年度は「親切心と好奇心で実現する地域経済と高知の復活」のスローガンのもと、委員会構成を3小委員会制にし、より自身の地域を自分自身で盛り上げるという当事者意識を持ったメンバーで溢れる団体を目指しました。また、理事長と予定者段階から毎月ミーティングの時間を作り、日本や地区の様々な情報共有の時間を設け、LOMごとで違う状況の集約や、課題の共有・解決の時間となりました。次年度も理事長MTGを開催するなど、LOMとの連絡調整機関としての機能を次年度に引き継ぐことができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	2024年度理念共感推進事業 「皆で学ぶ我がJC事業」の実施	アチーブメント株式会社高木 謙治講師にお越しいただき、JCの理念についての理解を深め、参加者自身の今後のJC活動にすぐに役立つ内容の講演をしていただきました。また、講義後の懇親会にて忌憚らない意見交換の時間を設けることができ、多くの学びと成長の機会となったと回答をいただきました。
他	LOM支援アカデミー事業	大阿久友伸トレーナーをはじめ2名の講師をお招きし、zoomにてPurposeのセミナーを開催しました。高知BC内15名のメンバーが参加し、自身の人生を考える時間、何の為にJCをしているのかなど、自身の言葉で自身の人生についてのJCを説明ができるようになった有意義な時間となりました。
他	JCカップU-11少年少女サッカー 全国大会 高知予選大会の実施	NPO法人グリーンスポルトすくも様主催第29回宿毛カップジュニアサッカー大会に紐づく形でJCカップを開催しました。全国大会四国地区予選大会への出場切符をお渡しできたことと、スポーツを通じて他者への思いやり、協力し合うことの大切さを伝えるサッカー大会となりました。
他	第67回高知ブロック大会 記念式典	県内6LOMのメンバーが一同に回し、本年度の運動と各LOMの事業紹介、また次世代への起点となる次年度体制の発表を含めた記念式典を開催しました。参加したメンバーがブロック大会の意義を改めて感じることにできた式典でした。
公5	第67回高知ブロック大会 記念事業「ぼくらの庭祭り」開催	高知県北川村の若年層過疎地域にて開催、子供達が地元の企業や産業に触れる機会を提供し、子供達、ご家族連れをはじめ多くの方々にご来場いただき、自身の地域に希望が持ていただける事業となりました。
公5	移住促進動画作成事業	北川村への移住を促進する動画を作成し、記念事業のステージイベントにてお披露目、サプライズで出演してくださった波田陽区様に登場いただき多くの方々に喜ばれる事業となりました。完成した動画は高知県移住促進サイトをはじめ、北川村公式サイトに掲載、東京で開催の高知暮らしフェアなどで上映され多くの方々に北川村の魅力をお伝えする機会となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
徳島ブロック協議会	会長	松下 大生（小松島）

基本方針

LOMとの距離が一番近いブロック協議会を目指し連携を深め、持続可能な組織へと進化し地域に必要とされ続ける団体を目指します。



総括

本年はLOMに真に必要なとされるブロック協議会を目指し、寄り添った支援体制の構築や潤滑油の役割になることを目指し、担当委員会をはじめ役員と共有し運動を展開しました。またブロック内の各LOMにおける例会や事業に積極的に参加し、課題や問題を共有し解決に向けとも活動を進めました。そして、県内の青年団体とも交流を図り、徳島ブロック協議会が青年会議所の活動の枠を広げることで、協議会の必要性を示しました。さらに現在会員の約半数がアカデミーメンバーである状況からJCセミナー、JCプログラムを活用するとともに県内の理念共感プロモーターとの研修事業を実施し会員の成長に繋がる多くの機会を提供することができたと考えます。

事業区分	事業名	事業内容
他	ブロック大会PR事業	大会テーマ、スローガンを策定し、周知することで第51回徳島ブロック大会の方向性を明確にしました。また、開催地を除く県内7LOMの例会に訪問させていただき、大会のPRを実施しました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー大会 徳島県予選事業	出場8チームによるトーナメント方式によるサッカー大会を実施しました。試合前には県内サッカーチームFC徳島によるサッカークリニックを行い、試合に向けてグッドルーザーの精神とフェアプレーの精神を学んでいただきました。
他	LOM支援アカデミー事業	徳島ブロック協議会内のメンバーを対象に研修を開催し入会3年未満のメンバーに向けはJCとは、なに、からを知ってもらうことを目的としVMVセミナーを開催また、同時に入会3年以上のメンバーに対してはImpactを実施しブロック内の出席率向上に向けた研修につなげました。
公5	2024年度 第51回徳島ブロック大会 阿波池田大会 記念事業	ブロック大会記念事業を通し、開催地域の魅力を引き出し、魅力を発信することで地域の魅力を再認識できる機会となりました。また、徳島ブロック所属しております、入会歴の浅いメンバーにとっては自分たちのLOMでも開催したと思っていただける事業となりました。
他	2024年度 第51回徳島ブロック大会 阿波池田大会 記念式典	県内7LOMのメンバーが一堂に会し、本年度の運動と各LOMの事業紹介、また次世代への起点となる次年度体制の発表を含めた記念式典を開催しました。参加したメンバーがブロック大会の意義を改めて感じることであった式典でした。
他	2024年度理念共感推進事業「～共感型組織力向上のすゝめ～」	ブロック内各LOMメンバーにおいて、リーダーシップの本質とその重要性を再確認し、JCの理念を効果的に伝え、共感を呼び起こすことができるメンバーの育成を目的とし、青年会議所の理念を深く理解し共感してもらえる事業となりました。
他	LOM支援推進事業	徳島ブロックでは初となるLOM支援委員会を創設しブロック協議会が各LOMを繋げるハブとなることを目的とし、情報の共有や提供また、人的支援を行い活動して参りました。その効果もありLOMの垣根を越え人的交流が増えた事により地域活性化の一助になれたと感じています。
他	広報事業	徳島ブロック協議会や各地会員会議所の存在や運動について、メンバーや県民へ対し周知や青年会議所の認知度を向上させることを目的としました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
福岡ブロック協議会	会長	照瀬 宏毅 (田川)

基本方針

未来のために行動を起こし 笑顔あふれる福岡を創造する。



総括

2024年度の福岡ブロック協議会は、「未来のために行動を起こし 笑顔あふれる福岡を創造する」を基本理念に掲げ、機会の質を高め、市民や地域との連携を強化することで、JCの価値を最大化すべく尽力いたしました。22のLOMと福岡ブロック協議会がともに地域を想い、福岡の未来を描き、行動を起こし続けたことで、明るい豊かな社会の実現に不可欠なリーダーを輩出することができたと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカーブロック予選大会	サッカーを通して、他社を思いやる気持ち、夢を持つことの大切さ、勝負に負けても相手を称えることができる精神を育む青少年育成事業を実施しました。
公5	第52回福岡ブロック大会 田川大会	福岡ブロック協議会最大の運動発信の場として、メンバーや県民に地域の魅力を感じてもらうとともに、LOMの発展や地域の発展につながる福岡ブロック大会を開催しました。
公6	災害対策機関との連携支援、防災減災意識を向上させる事業 (第52回福岡ブロック大会 田川大会)	平時からの防災・減災に対する意欲の更なる向上並びに、未来に向けた環境保護に対する意識の醸成を計る事業を実施しました。
公5	地方創成による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動 (第52回福岡ブロック大会 田川大会)	一人ひとりの発信力・影響力が地域を変える力になることを学び、住み暮らす地域への誇りや郷土愛を育む事業を実施しました。
他	ブロック内メンバー間のビジネスマッチング事業 (FUKUOKAコンファレンス2024)	業種別部会連絡会議と協業し、JCにあるビジネスの機会を最大化するためのセミナーと相談会を実施しました。
公7	JCIアスバック担当窓口及びブース出展	国内外に福岡の魅力を発信するべく、JCI ASPAC ジャパンナイトにブース出展しました。
他	第42期福岡ブロックアカデミー	入会3年以内の県内メンバーに対し、年5回の全体事業及び全体事業を行い、地域で活躍できるリーダーへの成長を目的とした人材育成事業を実施しました。
他	FUKUOKAコンファレンス 2024	福岡県内22LOMのメンバーが集い、2024年度の活動運動を共有することで、2025年度の活動運動をより良いものにする対内事業を実施しました。
他	福岡ブロック 2024年度事業アワード (FUKUOKAコンファレンス2024)	2024年度のLOM事業を共有し褒章することで、有益な情報交換を促し高め合える機会となる褒章事業を実施しました。
他	福岡ブロック 2024年度会員拡大褒賞 (FUKUOKAコンファレンス2024)	2024年度のLOM拡大を共有し褒章することで、有益な情報交換を促し高め合える機会となる褒章事業を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
大分ブロック協議会	会長	多久島 昌弥（大分）

基本方針

親切心が織りなす豊かさで大分の未来を創造するということを念頭に置き、大分ブロック協議会の目指す未来として、日本JCと大分県各地のLOMとの連携や支援の強化とアカデミーメンバー人財育成を確実に行之、将来に渡り各地のLOMの発展をサポートし、豊かさと笑顔が広がる大分の未来を創造します。



総括

本年度の大分ブロック協議会としては元旦に起きた能登半島地震の救援物資の支援からはじまり、各LOM向けの拡大セミナー、ブロック大会での理念共感セミナーに地域活性化推進に関するブースなどや地方創生に関するフォーラムなどを行いました。今年度のブロック協議会の委員長はほぼ全員が入会三年未満のメンバーばかりということもあり、出向者の育成というの大きなテーマの1つでした。このようにブロックへの出向者が集まらなくて、しかも一部のLOMが多く出すという近年の状況を改善するためにも、ブロック協議会の魅力的な事業や出向を通じて成長した姿を大分ブロック内のメンバーに発信するという事が出来たと思います。

事業区分	事業名	事業内容
他	2024年度 ブロック・ファースト ～一年に一度ではない、 人生に一度を楽しもう～	大分ブロック協議会が成長できる場である事をPRし、一人でも多くの方にご理解とご協力をいただき、出向したいと思っていただけるような式典を開催しました。「同じメンバーで出向できるのは人生に一度である事」「自分たちの成長の機会である事」を式典内で前面に出させていただきました。
他	大分ブロック協議会2024年度野球大会	日田の地で開催された今年の野球大会では、昨年度は大分JCが九州大会も勝ちあがり、全国大会に出場しました。本年度は合同チームを含め7チームの参加となり、みごと日田JCが九州大会の出場を勝ち取りました。
他	理念共感推進セミナー	当セミナーは会員の平均年数の短期化に伴い、全てのメンバーがJCの理念に対する共通の認識を持って活動してもらうために理念の大切さを理解し共感する機会を提供しました。 事業内容としては、ブロック大会終了後大分県内8LOMの青年会議所メンバーを対象に実施し講師としてアチーブメント株式会社野地優太様、中島土先輩をお招きし講演をしていただきました。今回は理念について深堀をするために2部構成にし、第一部では理念の大切さをメンバーに理解してもらい第二部では、JCの理念に特化した形で「セレモニー、クリード」などをテーマにしてさらにご自身の社業に理念をどのように使っているのかを講演していただきました。
公5	第57回大分ブロック大会inひた アドベンチャーツーリズムブース展示	担当会議体ではアドベンチャーツーリズムにおける地域経済の活性化についてより視覚的に理解を深められるように、ポスターサイズのパネルを16枚作成し、ブロック大会の際にブース展示を行いました。また、より理解を深める事ができるように展示ブース内にて、アドベンチャーツーリズムの対象になる観光地を書き出すワークショップを行い、より身近に感じられるように工夫しました。ブース展示には日田市長も訪れ、アドベンチャーツーリズムについて説明する機会も得る事ができました。
他	第57回大分ブロック大会inひた 記念式典	ブロック大会の式典事業になります。来賓46名をお呼びし、オープニングアクトには幅広い年齢層で繋がるよう日隈小学校金管バンドの皆様に盛り上げて頂きました。来賓祝辞として大分県副知事、日田市長、日田商工会議所会頭の皆様にご挨拶を頂きました。
公5	第57回大分ブロック大会inひた 記念フォーラム	記念フォーラムでは中田英寿様をお呼びし、地域創生フォーラムとして講演して頂きました。大分県には観光資源、ものづくり、伝統文化など世界に通用するものが多いが、まだ上手く発信できていない地域が多いので、今フォーラムを通して、先進事例やトレンド、私たちが気づいていない地域の魅力や学び、世界と繋がる可能性を来場者に感じてもらうことができました。また第2部では有識者をお呼びし、中田英寿様の講演を聞いた感想から、もっと大分県にフォーカスした内容を深掘りし、地域住民の目線でトークセッションを行い、参加者の理解を深めることができました。来場者数は574名となり、多くの方たちに参加して頂きました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー 全国大会大分県予選大会	本会との連携のサッカー大会の大分県の予選をさせていただきました。大分県内の各少年少女サッカーチームに参加していただき、「スポーツを通じて相手を思いやる気持ちを育む」をテーマに全部で12チームの大分県少年少女サッカーチームに参加していただきました。
他	拡大セミナー	大分JCのOBでありシニアの拡大委員会の安部先輩による拡大セミナーを実施しました。理念共感を軸とした拡大の手法を各地の拡大担当者にレクチャーしました。その後拡大につながったという声も頂き、また開催して欲しいという声も頂きました。
他	2024年度ブロックアカデミー交流事業	今回のブロックアカデミーでは、2部構成にし、事業の積極的参加を促すきっかけとして、最初に理念共感プロモーターによるJC活動で学んだことを発表してもらい、第二部では、交流を交えJCの魅力本質を理解しながらJCゲームを県内8LOMのメンバーと共に実施しました。
公6	ネクストリーダーによる被災地支援 プロジェクト参加者派遣	全国一斉事業「ネクストリーダーによる被災地支援プロジェクト」へ大分ブロック協議会は阿部太洋くんを被災地へ派遣しました。被災地の現状や、避難所への視察、被災地の高校生との交流を通して阿部くんが感じた事を大分へ戻ってから、大分ブロック協議会の各理事長を前に報告会を行って頂きました。高校生の目線で被災地の現状や将来へどう活かしていくのかを発信しました。
公2	成功事例から学ぶイノベーション 人財育成セミナー	当セミナーは、地域にイノベーションを起こすために、誰もがイノベーションを「身近に」「自分事」考え、自発的な行動を促すことを目的としています。セミナーは3部構成で行われました。まず、ヤマナミ種芸社の吉岩様が、事業拡大の経緯、多角化戦略、そして「豊かな食で地域に貢献する」というビジョンについて語りました。次に、中小企業診断士の岩崎様が、吉岩社長の講話を専門家の視点から解説し、イノベーションとアントレプレナーシップの基本概念と理論を説明しました。最後に、参加者はクロスSWOT分析を用いたグループ演習を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
佐賀ブロック協議会	会長	園田 耕太郎（佐賀）

基本方針

住み暮らす佐賀をこれまで以上に発展させる未来を描き、一人ひとりの親切心で地域の未来が笑顔あふれるまち佐賀を創造します。



総括

本年は、ブロック全体の会員数の減少など青年会議所に入会して3年未満のメンバーがブロック全体で半分を占めるなど会員拡大・会員育成が急務となっている中、ブロック役員メンバーも入会が浅いメンバーでの構成となりましたが、ブロック役員もブロック内メンバーと一緒に成長できる機会と地域の活性化に繋がる事業が展開できたと考えます。また、2025年は全国大会佐賀大会へ向けてLOM支援と合わせてブロック内全体で士気を高めることが出来たと確信しております。今年度私自身成長の場を提供していただき誠にありがとうございました。

事業区分	事業名	事業内容
他	第49回佐賀ブロック大会in佐賀大会式典	多くの来賓、来訪JC、県内LOMメンバーが一堂に会し、佐賀ブロック協議会の運動・活動を発信しました。また、2025年の全国大会佐賀大会のPRとして佐賀青年会議所様協力のもと動画と県内LOM理事長の登壇を行い、来場者の方々にPRしました。
公5	第49回佐賀ブロック大会in佐賀佐賀エンジョイフェスティバル～笑顔と感動の日～	佐賀の魅力を伝えるDJから始まり、鷹を使った鷹匠のイベント、普段触れ合えない猛禽類と触れることで新たな知見を得ることができ、子ども達のダンスやバトンでは子供たちの頑張る姿を市民に見せるができ、大道芸・サイエンスショーでは主として子供たちに芸の面白さや科学的な楽しさを与えることを目的として、すべてのイベントを通じて市民の笑顔があふれる事業を行いました。
公6	第49回佐賀ブロック大会in佐賀『防災すごろくで楽しく学ぼう!』	2023年度公益社団法人日本青年会議所九州地区レジリエンス委員会が制作した「防災すごろく」を活用し、一般市民に遊びながら防災、減災への知識を身に付けていただきます。また、屋外で消防車などの展示を行い子どもたちへの意識醸成に繋がりました。
他	アカデミー開校式及び第1回アカデミー事業	アカデミー生を対象に必須プログラムであるPurposeを行い自分達の仕事や家庭にもJCの取り組みが密接に繋がっていることを認識し、JCの存在に共感を抱いていただき、同時に理念共感拡大グランドデザインの活用と推進によって各LOMをよりよい組織へと変革できる人財を育成するため講演を開催しました。
他	第2回アカデミー事業『未来を築くための基礎を学ぼう』	LOMを牽引する力とはリーダーシップを発揮し、率先して地域の課題を解決する力だと考え、課題を解決する力を身に付けるために事業の設計書である議案の作成方法について学んでもらい、アカデミー生が団結して地域の課題を解決するための模擬議案を作成し、会員会議所を想定した実践方式で模擬会員会議所を実施しました。同じ参加者と自ら意見を議論しアウトプットする場を設けることによって、より参加者にとってブロックアカデミーに参加した意義を感じて頂きました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
長崎ブロック協議会	会長	山口 知宏（長崎）

基本方針

地域のイノベーションを創出 未来に誇る長崎の創造。時代が進む中で現状維持を保つ。それは後退しているのと同じです。地域のもつ歴史や価値を尊重しつつも、新しい切り口から変革をもたらすイノベーションを推進し、未来に誇れる長崎を創造します。



総括

大村の地にて「大村ビッグバン」と銘打ち50周年となるブロック大会を開催いたしました。ビッグバンという言葉には、高熱高密度の塊が大爆発を起こし、新しい世界を創って行くという意味が込められています。私たち役員の熱量を表現し、50年の節目に長崎県の新しい可能性を示すことができました。私たちの運動は全て長期戦略の下、設計されています。イノベーション・インバウンド、Web3.0、教育プラットフォーム、部活動地域移行、デジタルツールの活用推進等、全ての委員会においてが単年度で完結せず、団体輩出や仕組みづくりといった長期間かけてガチンコで未来を変えるための、新しい形を0ベースで構築し、実現してきました。

事業区分	事業名	事業内容
公5	大会運営及び告知活動並びにスローガンクラウドファンディング	長崎ブロック協議会の行っている運動を認識いただき、長崎コンファレンス2024in大村への参加を促すことを目的とします。
公5	長崎コンファレンス2024 in大村メインフォーラム	参加者が地域資源を活かしつつ新たな技術を活用しながら魅力的なまちづくりをしようという新しい長崎県づくりのビジョン『未来大国』や自治体の取り組みを知ることを目的といたします。
公5	Web3.0(NFT)のビジネスでの実用事例を学ぶセミナー NFTからはじまる新たな価値創造	生産性向上のためにこれまではない新たに価値創造ができる可能性がある分野を学び、新たな価値創造に対して意識を持っていただく機会を提供することを目的とします。
公5	「～youth of the future～ ひととまちで育む確かな未来」	参加した方々が部活動地域移行について地域全体の当事者意識が向上し、主体性をもつことを目的とします。
他	集えJCアカデミアVMVで知るJCの哲学	アカデミー会員をはじめ県内各会員一人ひとりに対し、JCの理念に対する学びを深めることを目的とします。
他	長崎コンファレンス2024 in大村「大会式典」	我々の運動や方針をご理解いただき、さらなる結びつきを強固にすることを目的とします。 (対内)記念式典を通じ、JCとしての運動や方針を県内多くのメンバーで共感し、肌で感じて頂き、今後のJC運動やブロック大会への参加意欲を高めることを目的とします。
公5	覚悟をもって、危機を乗り越える！ イノベーション推進セミナー	参加者一人ひとりに自分でも新たな切り口で価値を創造できると自信をもっていただくこと、また覚悟をもち、具体的に明日から何を行動に移すかについて考えていただくことを目的とします。
他	長崎県教育庁長崎県教育委員会とのパートナーシップ締結について	県と長崎青少年育成振興協議会、長崎ブロック協議会が相互協力関係を結び部活動地域移行の課題解決へ始動していくために三者での締結を目的とします。
公5	長崎インバウンド戦略会議	長崎県下7LOMのそれぞれの地域においてインバウンド需要をどう取り込んでいくかを考えるきっかけとするため、参加者にインバウンドの良い事例を学んでもらい、また、明日からどう行動すれば良いかを考えるための材料を得てもらいます。
他	基礎から学ぶアカデミア	長崎県下7LOMの会員がJCの理念や活動目的を学び、学んだことを簡単に復習できる環境を整えることを目的とします。



会議・委員会名	役職名	担当者名
熊本ブロック協議会	会長	井上 雅之（天草本渡）

基本方針

ひと・まち・地域が輝き笑顔があふれる熊本の未来へ
地域のためにメンバーの個性が輝き、笑顔であふれる熊本を創造します。



総括

ブロック協議会の方針と出向者を募る熊本会議を皮切りに、協議会の事業がスタートしました。本年度は県内メンバーすべての飛躍の年となることを目指し活動して参りました。地域を巻き込み、運動を波及させていく、そうすることで青年会議所の認知度を上げ、より活動しやすい環境を創出し、各地域の明るい豊かな未来へ近づけていきたい。そのように想いをもって各委員会、しっかりと担いを全うしてくれて、無事にすべての事業を完遂することが出来ました。次に繋げなければいけない点はしっかりと引き継ぐことで、次年度がよりよい運動を展開できるように寄与したいと考えています。1年間、関わっていただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカー 2024年度熊本予選大会	県内11LOMの地域からチームを輩出し、予選会を行いました。世界大会まで続く大会は多くないので、高見を目指し熱い試合が繰り広げられました。その中でグッドルーザー精神など勝負だけでなくスポーツの力を感じました。
公5	ブロック大会（メイン事業）第57回 熊本ブロック大会in水俣の開催	熊本ブロック大会in水俣を通じて、メンバー一人ひとりがJC運動の理解を深め、地域への想いを共有するとともに、参加いただいた来賓や地域の皆様にJC運動を知って、理解いただくことで持続可能な熊本の実現に寄与する機会の創出を目的としました。
公5	ブロック大会（メイン事業） ※子議案第57回熊本ブロック大会 in水俣メイン事業	地元の高校と講師、JCと連携して社会減という問題に向き合い、参加者が地域の魅力や課題について関心を持ち、住み暮らす地域のまちづくりに参画する意識を醸成するとともに、郷土に愛と誇りを持ち社会と連携して行動することのできる青少年を創出する仕組みを作ること
公5	ブロック大会（総務・広報） ※子議案第57回熊本ブロック大会 in水俣 総務広報	多くの媒体を活用し、大会の開催の周知をすることで大会だけでなく、青年会議所という組織がどのような活動をしているのか、地域とどのように連携していくのかを知っていただく機会としました。
公5	地域の経済的価値の向上につながる運動の推進 インバウンド推進事業 ～そうさ、今こそ、インバウンド！～	講師をお呼びし、パネルディスカッション方式で取り組みや具体的な活用法を学び、インバウンドを活用した各地域の繁栄の一助にしてもらうこと、そしてインバウンドに取り組むことへの意識アップと気運を醸成させることを目的に開催しました。
公5	カーボンニュートラル推進事業 ～@kumamotoblock2024 選ぼう、未来キャンペーン～	SNSを活用し、カーボンニュートラルに対して具体的なイメージをもってもらうこと、カーボンニュートラルを推進する意識の醸成をすること、当事者意識を持ってもらうことを目的に事業を行いました。
公6	災害支援他団体との防災・ネットワークの確立 災害に備える防災意識向上事業 「家族で防災さくせん会議」	県内で開催されるぼうさい国体という機会を活用し、本年度のブロック協議会で伝えたかった「自助」の大切さを知り考える機会を創出しました。家族での防災マニュアルを作成してもらい、防災意識の啓発や備えの重要性を周知徹底し、災害が発生した際に迅速かつ適切な対応ができるよう防災意識を高めることを目的としました。
公6	被災地支援事業	公益社団法人日本青年会議所、国土強靱化委員会と協力し、全国の同世代の若者とのつながりを創出し、共感と支援の機会を提供し、被災地と全国の学生をつなげ、被災地への継続的な支援と関心を全国に呼びかけることを目的としました。
他	ブロック大会支援委員会（大会式典）※子議案 第57回熊本ブロック大会in水俣 大会式典	多くの来賓、県内各地委員会協議所メンバーへブロック協議会の運動に共感していただくために、式典内で今年度のブロック協議会の運動の概要といつもご支援いただいている感謝を発信し、運動に対する理解を深めていただくことを目的としました。
他	ブロック大会（成功祈願祭・結団式・解団式） ※子議案 第57回熊本ブロック大会 in水俣 成功祈願祭・結団式・解団式	【成功祈願祭】 大会期間中の全ファンクションの成功と参加するメンバーと一般参加者が楽しく、安全で学び多いブロック大会となるよう祈願することを目的としました。 【結団式】 各ファンクションを開催する前に、県内各LOM理事長と熊本ブロック協議会役員が本大会の想いを改めて共有し、全てのファンクションの成功に向けて結束することを目的としました。 【解団式】 全てのファンクション終了後に、本大会で得られた学び、経験、成長を糧に次のブロック大会へつなぐ橋渡しと大会開催にご尽力いただいた皆様へ感謝を伝えることを目的としました。
他	ブロックアカデミー事業 「第1期 熊本ブロックアカデミー ～良い出会いをし、よく遊び、よく学べ～」	県内のアカデミーメンバーを対象にJCプログラムを用いて理念共感の考え方のもとに、学びを得ていただくことを目的としました。今年度はアカデミー事業を第1期と位置づけ、「熊本ならではのブロックアカデミー」をパッケージ化し、例年変化はしつつも恒常化して継続できる仕組みの基礎を構築しました。名刺交換会の時間を作り交流を図り、修了証を発行し、講師よりベストアカデミー賞として最優秀メンバーを表彰するなどモチベーションアップも心掛けました。
他	2024年度熊本ブロック協議会野球大会	野球大会を通じた交流にて、熊本ブロック協議会の仲間達との友情を育み楽しんでもらうことを目的としました。
他	2024年度熊本会議	2024年度の熊本ブロック協議会の方針と各委員会の担いの説明、委員会メンバーを募集することを目的に、11LOMがいつ同に会して、プレゼンテーション並びに懇親会を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
宮崎ブロック協議会	会長	川越 大輔（宮崎）

基本方針

親切心が織りなす豊かさで笑顔あふれる宮崎を創造する。



総括

本年は会員拡大支援を1丁目1番地として活動して参りました。結果として76名の新入会員を獲得することに貢献することができました。またJCフェスタでは本年から開催している理事長ミーティングの拡大版をフォーラムの代わりに取り入れ、隣のLOMがどのような活動をしているのか、また県内の動向について会員同士で議論する機会を創出することができました。また本年度はアカデミーメンバー全員にブロック協議会に出向いただいたことでアカデミー教育を通年で行えたこと、ブロックアカデミーを初めて2会場で開催したことでこれまで以上の参加者を集めることができたなど、新しいことに取り組むことでできた一年であったと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
公5	地方創生アドベンチャーツーリズム	小林青年会議所が活動を展開する中で、近隣地域と連動していくことから『北きりしまインバウンド戦略会議』を立ち上げ、各ステークホルダーを巻き込み、モデルコースの構築を目標に活動を展開しました。
公6	災害時連絡体制構築	宮崎県内にはどのLOMも活動範囲としていない市町村が多数あることから、災害時の一次窓口がどのLOMになるのかを議論しました。 また、4市町村との防災協定を行い、ブロック協議会として支援して参りました。
他	ブロックアカデミーセミナーの開催	アカデミーメンバー全員にブロック協議会に出向してもらい、さらに参加率を増やすために、本年は県北・県南の2会場にてブロックアカデミーセミナーを開催しました。
他	JCフェスタ2024in日南大会式典事業	宮崎ブロック協議会の事業内容や運動の方向性を共有し、参加者の士気向上やJC運動の価値や社会貢献の重要性を伝え、JC活動への参加意識の醸成に時間をとりました。
公5	JCフェスタ2024in日南広報渉外事業	当事業開催にあたり、これまでの広報活動ではなくSNSを中心として広報を意識し、日南市を中心に広報活動を展開しました。当日は想定を超える来場者となり、認知が広がった結果であると日南市役所からも感謝の言葉をいただきました。
他	JCフェスタ2024in日南公開理事長ミーティング	アカデミーが増え、隣のLOMがどんな活動をしているのか分からないという課題をヒアリングできたので、本年度はフォーラムをやめ、テーマを決めた理事長との意見交換会としました。アカデミーメンバーからも質問が飛び交うなど活発な議論の時間となりました。
公1	JCフェスタ2024in日南わんぱく相撲宮崎県予選	県内3会場にて予選会を開催し、勝ち上がった選手に県予選会に参加してもらいました。県大会を開催するのは初めてとのことで、協会との連携など多くの困難もありましたが、青少年の健全な心の育成に繋がる事業となりました。
公6	JCフェスタ2024in日南アカデミーブース出展事業	JCフェスタ内にて、アカデミーメンバーを班分けし、魅力発信ブースを設け、一般来場者に県内の魅力を感じてもらえるよう、またコミュニケーション創出を行いました。石川能登復興支援として日本酒の振る舞いも開催しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
鹿児島ブロック協議会	会長	大迫 龍朗（指宿）

基本方針

和の心で豊かさを実感できる 笑顔あふれる鹿児島の創造。



総括

本年度は地方創生による地域活性化による仕組み構築をメインに活動しました。ブロック大会では地域資源を発掘し、そのプログラムを観光に活かす事業を実施しました。また、この事業はLOMにおいても実施されブロック協議会としての役割も果たすことができたと感じております。また近年、各LOMにおいて会員数の減少が見受けられることから、アカデミー事業では日本JC公認プログラムPurposeを実施、またリーダー育成に関する講演をシニアクラブの先輩に依頼し実施しました。この一年は我々の地域のポテンシャルの再確認し、また今後の各LOMの現状を知り、足元を見つめなおすことで今後の各LOM発展に寄与することができました。

事業区分	事業名	事業内容
公4	鹿児島県知事選挙に伴う公開討論会	任期満了に伴う鹿児島県知事選挙の開催のもとに、公益社団法人日本青年会議所九州地区鹿児島ブロック協議会の主催で公開討論会を行いました。
他	「未来は僕らの手の中に！ 立ち止まって考えてみよう！ Your Purpose」	アカデミー会員をメインの対象に日本JC公認プログラムPurposeを石川陽一氏（高槻JCシニア）に講師としてお招きし、アカデミー事業を実施しました。
公5	鹿児島ブロック大会地域経済活性化事業「サスラ」	バスを貸し切り、地域を周って魅力に気づき、地域資源の活用方法や、日本各地で行われているサステナブルツーリズムの事例をもとに新しいビジネスの可能性を学び地域に帰った後に受講した人達が自分の地域に還元していただけるよう事業を実施しました。
公5	第50回鹿児島ブロック大会 in南さつま～ワークライフ バランス向上事業～	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授武蔵野大学ウェルビーイング学部・学部長前野隆司様を講師として講演を行い、講演後パネリストに元テレビアナウンサー岡本安代様を含め働き方についてパネルディスカッションを行いました。
他	第50回鹿児島ブロック大会 in南さつま 大会式典事業	2024年度鹿児島ブロック協議会の運動の成果を効果的に伝えるために式典を開催し鹿児島県知事、南さつま市長、衆議院議員2名、九州地区協議会会長、計5名の方々に祝辞を頂戴しました。また2025年度のブロック大会開催地の発表を行い、次回につなげました。
他	第50回鹿児島ブロック大会 in南さつま PR事業	鹿児島ブロック大会in南さつまの参加動員数の増加を図るために、PR計画の構築を行いました。また、各メディアやSNSを活用し県民、行政、企業各種団体、各LOMのOBに対して広報活動を行い、効果的に周知することができ、大会への参画、協力を得ることができました。
公1	第10回JCカップU-11 少年少女サッカー大会 鹿児島ブロック予選大会	次代を担う子供たちが、サッカーを通じて互いを尊重し、勝負に負けたときにこそ相手を称え、敬うことができるグッドルーザーの精神を持つ心豊かな人財の育成することを目的として鹿児島ブロック少年少女サッカー大会を開催しました。
他	未来のかごしまを牽引する リーダー育成事業	リーダー育成をテーマに、日本瓦斯株式会社 代表取締役社長津曲貞利様をお招きし、これまでのJCでの経験や地域のリーダーとして活躍されている経験談などを講演いただきました。そして、VMVセミナーを行いJC活動を能動的に取り組む動機を得ることができました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
沖縄ブロック協議会	会長	名嘉 亨哲（浦添）

基本方針

会員が成長するための学びの機会を創出していき、連絡調整機関としてLOMの課題を抽出し解決に向けた活動を展開していきます。



総括

LOM益・会員益を第一に考えブロック協議会としての事業を展開しました。予定者の段階からLOMの課題をヒアリングし、連絡調整機関としてブロック協議会でサポートできる事をあらゆる方向からLOM益に繋がるようサポートを行いました。LOMからも気軽に相談が来るようになりLOMとブロック協議会との関係性がこれまで以上に近くなったと感じています。また、歴の浅い会員に対してはJCの楽しさを知ってもらう為にセミナーや議案作成を通じて実際に事業を実施するところまで人材育成として行い、会員一人ひとりが成長し、中には次年度LOMで役職を担う会員も多くなる事から、ブロック協議会としてリーダーへと成長する機会の創出ができたと感じます。

事業区分	事業名	事業内容
他	JCって何だろう？ ～みんなで見つける 自分自身のPurpose～	JC入会3年未満の会員を対象に、齊藤浩慈先輩をお招きして日本JC公認プログラムPurposeセミナーを実施しました。 JC活動の共感と楽しさを実感してもらい、能動的にJC活動へ参加すれば何が実現できるかを理解してもらう事ができました。
公5	地方創生による地域経済 活性化につながる仕組みの 構築に向けた運動の推進	地域社会の特性を活かし、経済を活性化させるための仕組みを構築することで豊かな地域を実現することを目的に、参加表明をした県内LOMと連携し、インバウンド戦略会議を立ち上げ実行計画書の策定を支援しました。
他	議案書作成体験セミナー	各LOM新入会員を対象に議案作成体験セミナーを開催しました。 参加者でグループ分けを行い実際に簡易版議案書を使用して、事業計画を作成してもらい最優秀議案を選出して実際に新入会員を中心として事業を実施しました。
公5	「インバウンドによる 地域経済の活性化」 パネルディスカッション	大王製紙株式会社元会長の井川意高氏と市議会議員の潮ゆいな氏を外からお招きして、地区・ブロック共同で開催した会員大会で沖縄の観光と地域経済の活性化を考え、地域課題の解決に関わる意識の創出を目的にパネルディスカッションを実施しました。
公5	サードプレイス ～持続可能な地域を創る～	新入会員を対象に行った議案作成セミナー時に最優秀議案に選出された事業を実施しました。 地域の子どもから祖父母世代が集い交流することで持続可能な地域を創ることを目的として、パークゴルフ大会を実施しました。参加定員である60名が集まり交流を図りました。
他	ファミリー感謝祭 ～HAPPY HALLOWEEN～	会員の家族へ感謝する事と青年会議所の活動を知ってもらう事を目的に、会員とその家族をお招きしてファミリー感謝祭を実施しました。 家族へ日頃の感謝を伝える場や子供たちが楽しめる催し物も行い、会員家族が楽しみ青年会議所の活動PRも行い理解を深める場となりました。



付 録

諸大会開催・褒賞記録
事務局組織図

1) 国内諸大会記録

大会名	日程	開催地	参加者数	参加者数 内訳
京都会議	1/18-1/21	京都	15,506	現役 15,497 一般 9
サマーコンファレンス	7/20-7/21	横浜	61,916	現役 10,813 一般 51,103
全国大会	10/3-10/6	福岡	11,942	現役 11,931 一般 11

2) 国際会議参加記録

国際会議名	日程	開催地	首席代表	日本JC 参加者数	総参加者数
アフリカ・中東地域会議	5/22 - 5/26	ギガリ(ルワンダ)	山岸 将幸	23	503
アジア・太平洋地域会議(ASPAC)	6/6 - 6/9	アンコール(カンボジア)	小西 毅	2,241	4,787
アメリカ地域会議	5/8 - 5/11	アスンシオン(パラグアイ)	山岸 将幸	25	456
ヨーロッパ地域会議	6/12 - 6/15	オウル(フィンランド)	山岸 将幸	41	1,471
JCI世界会議	10/29-11/2	桃園(台湾)	小西 毅	2,070	3,920

3) 褒賞等

■国際青年会議所(JCI)褒賞受賞一覧

【JCI-ASPACアンコール大会】

グループB(LOM賞)	東京JC	最優秀組織間協働プロジェクト
-------------	------	----------------

【JCI世界会議桃園大会】

グループB(LOM賞)	東京JC	最優秀LOM個人開発プログラム
グループC(個人賞)	故 須田 良規(あきる野JC)	ホアキン・ゴンザレス賞
JCI会頭による特別表彰	日本JC	JCIへの多大なる貢献と支援したNOMとして

2023年度 褒賞受賞団体一覧

(2024年1月20日 京都会議「AWARDS JAPAN 2023」)

【最優秀賞】

部門名	地区名	ブロック名	LOM名	事業名
グランプリ	中国	広島	広島	カーボンニュートラルRPG～主人公はキミだ!
準グランプリ	東北	宮城	仙台	若者によるまちづくり「Sendai Future Generations」

【優秀賞】

部門名	地区名	ブロック名	LOM名	事業名
事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦事業特別賞	近畿	滋賀	長浜	湖北対流都市構想推進事業 LINK UP FESTA 2022 ～みんなでつくろう湖北のドキドキ!～
事業褒賞部門 最優秀LOM地域社会向上プログラム	東海	愛知	瀬戸	新たな魅力発信事業「ランタンフェスinセト」
事業褒賞部門 最優秀LOM個人能力開発プログラム	東北	宮城	仙台	若者によるまちづくり「Sendai Future Generations」
事業褒賞部門 最優秀LOM拡大開発プログラム	東北	山形	新庄	高校生と共に、明るく豊かな持続可能な新庄もがみを
事業褒賞部門 最優秀LOM国際協力プログラム	関東	東京	東京	発奮!世界を結ぶ!わんぱくの“わ”!
最優秀会員	関東	群馬	安中	倉松 和美 君
事業褒賞部門 最優秀好循環地域確立プロジェクト賞	関東	栃木	日光	中学生MIRAIサミット ～未来へ届け このメッセージへ
事業褒賞部門 最優秀地球環境プロジェクト賞	中国	広島	広島	カーボンニュートラルRPG ～主人公はキミだ!
事業褒賞部門 最優秀組織改革プロジェクト賞	関東	神奈川	相模原	会員資格制度による組織変革

2024年度 褒賞受賞団体一覧

(2024年10月4日 全国大会福岡大会「AWARDS JAPAN 2024」)

【最優秀賞】

部門名	地区名	ブロック名	LOM名	事業名
グランプリ	九州	鹿児島	屋久島	YAKUSHIMA Island Tour 2024
準グランプリ	東海	愛知	春日井	6月オリエンテーション 『PC開けたら2分でキャラ完成!もしアナログ社長が生成AIを使ったら』

【優秀賞】

部門名	地区名	ブロック名	LOM名	事業名
事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦賞	中国	山口	長門	未来へバトンを!短編映画製作プロジェクト! ～映画がつなぐ、地域と歴史!JCがつなぐ、地域と世界～
事業褒賞部門 最優秀LOM地域社会向上プログラム賞	北陸信越	富山	富山	MACHIMEGURI 2023
事業褒賞部門 最優秀LOM個人能力開発プログラム賞	関東	茨城	茨城南	MORIYAダイバーシティプロモーション
事業褒賞部門 最優秀LOM拡大開発プログラム賞	東海	愛知	春日井	6月オリエンテーション 『PC開けたら2分でキャラ完成!もしアナログ社長が生成AIを使ったら』
事業褒賞部門 最優秀LOM国際協力プログラム賞	九州	宮崎	宮崎	インターナショナルホスピタリティ事業 (国際交流事業&国際災害訓練事業)
最優秀会員	関東	東京	東京	西川 恭央 君
事業褒賞部門 最優秀地球環境プロジェクト賞	九州	鹿児島	新大隅	つながろう!耕作放棄地再生プロジェクト
事業褒賞部門 最優秀組織改革プロジェクト賞	近畿	大阪	高槻	新入会員アカデミー事業
事業褒賞部門 BESTアドベンチャーツーリズム賞	九州	鹿児島	屋久島	YAKUSHIMA Island Tour 2024
事業褒賞部門 デジタルDE未来まちづくり賞	東北	岩手	一関	3月例会未来はいつも妄想から始まる ～社会課題解決型ハッカソン～

公益社団法人 日本青年会議所
2023年度会員拡大褒賞受賞団体一覧

(2024年1月20日 京都会議「AWARDS JAPAN 2023」)

グランプリ【最優秀拡大LOM賞】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	埼玉	一般社団法人狭山青年会議所

【優秀拡大LOM賞 20名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	埼玉	一般社団法人狭山青年会議所

【優秀拡大LOM賞 30名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	東京	福生青年会議所

【優秀拡大LOM賞 50名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
近畿	大阪	一般社団法人茨木青年会議所

【優秀拡大LOM賞 75名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
近畿	兵庫	一般社団法人尼崎青年会議所

【優秀拡大LOM賞 110名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
東北	宮城	一般社団法人泉青年会議所

【優秀拡大LOM賞 111名以上の部】

地区名	ブロック名	LOM名
東海	静岡	一般社団法人浜松青年会議所

公益社団法人 日本青年会議所
2024年度会員拡大褒賞受賞団体一覧

(2024年10月4日 全国大会福岡大会「AWARDS JAPAN 2024」)

グランプリ【最優秀拡大LOM賞】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	埼玉	公益社団法人春日部青年会議所

【優秀拡大LOM賞 10名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
東北	宮城	一般社団法人さくら青年会議所

【優秀拡大LOM賞 20名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
東海	愛知	一般社団法人丹羽青年会議所

【優秀拡大LOM賞 30名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
東北	岩手	一般社団法人一関青年会議所

【優秀拡大LOM賞 50名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	千葉	一般社団法人流山青年会議所

【優秀拡大LOM賞 75名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
近畿	大阪	一般社団法人大東青年会議所

【優秀拡大LOM賞 110名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	埼玉	公益社団法人春日部青年会議所

【優秀拡大LOM賞 111名以上の部】

地区名	ブロック名	LOM名
近畿	大阪	一般社団法人堺高石青年会議所

4)「JCI JAPAN TOYP2024」受賞者一覧 ※TOYP大賞(旧人間力大賞)

	受賞者	活動内容	推薦
グランプリ 内閣総理大臣奨励賞	清水 映輔 氏	「世界の失明を50%減らし、眼から人々の健康を守る」をミッションに、スマートフォンへ装着することにより安価で誰でもどこでも眼科診察が可能な「Smart Eye Camera」を発明。学術化の後に実用化に成功し、現在世界中に展開している。	眼科医 服部匡志
準グランプリ 総務大臣奨励賞	小林 稜平 氏	誰もが宇宙で生活できる世界を創り、人の未来を豊かにすることを目指す宇宙スタートアップ企業の起業家。2030年の国際宇宙ステーション退役を見据え、無重力環境を活かした実験を無人小型衛星で行い、地球に帰還させる宇宙環境利用・回収プラットフォームを開発している。	公益社団法人 仙台青年会議所
準グランプリ 環境大臣奨励賞	本間 貴裕 氏	自然の中にあるもう一つの家「セカンドホーム」の文化を日本に取り入れ、それをサブスクリプションで使えるサービスの提供を通じて、より多くの人々に自然の美しさや楽しさに気付いてもらうことを目指す。地球温暖化、生物多様性の喪失という大きな課題に向き合い、地球環境の回復、明日への明るい期待をもてる未来を実現することを発信している。	公益社団法人 福島青年会議所
衆議院議長奨励賞	高尾 明香里 氏	生産者が儲かり、食べる人も喜ぶ世界の実現を目指し、生産農家の赤字や過剰労働解消のために自社独自の農園直送BtoB受発注システムを開発。全国の農園より今まで破棄されていた規格外のフルーツを全国のケーキ店やコンビニなど800社以上へ安定供給している。	公益社団法人 坂出青年会議所
参議院議長奨励賞	長内 あや愛 氏	歴史再現料理の提供と新食材タンパク質の精算を通じ、多くの食卓に安心できる食を届ける活動をしている。タンパク質枯渇などの食糧問題に立ち向かうミッションのもと、食べるべき新食材の社会実装を行い、菌タンパク質「kin-pun」を生産することで持続可能な食文化創造に取り組んでいる。	公益社団法人 鶴岡青年会議所
外務大臣賞	岩本 涼 氏	世界各国で茶寮や茶室を主宰し、体験を提供する場を作ることで文化を評価する顧客を育成。お茶や工芸などのプロダクトを国内外にて流通させ、その資金を活用して生産部門を統合し、生産や文化に従事する人々の適正な評価と資金流通に取り組み、生産者の年取向上、文化従事者の雇用創出、事業承継や輸出拡大などに数字的インパクトを残している。	公益社団法人 埼玉中央 青年会議所
文部科学大臣賞	安田 哲 氏	日本企業の海外進出を支援する会社をシンガポールにて運営。挑戦する大切さと海外から見た日本の強みを日本の青少年に知ってもらうため、日本の未来を担う青少年育成に努め、学生たちへ講演やシンガポール企業インターンの受け入れを積極的に実施している。	一般社団法人 神戸青年会議所
厚生労働大臣賞	沖村フォンデビラ 有紀子 氏	平均世帯構成人数が2人となった現状を見据え、家族介護に打ち込む人々(ケアラー)の支援を通じて、誰もが臆さず外出できる社会の実現に向けて邁進し、各所にケアラー支援の必要性、社会問題であることを訴える活動を展開している。	一般社団法人 横浜青年会議所
農林水産大臣奨励賞	西田 宏平 氏	名古屋大学発グリーン・アグリテックベンチャー企業を創業し、サステナブルな次世代農業を起点とする超循環社会を実現に向けて活動。土壌微生物の培養・スクリーニング技術をコアとして、化学肥料の使用量30%低減、化学農業の使用量の低減といった課題解決に向け、「高機能バイオ炭」の開発、事業立上を実施。	Brand Next Value 株式会社
経済産業大臣奨励賞	齋藤 隆太 氏	日本全国の後継者不足問題の解決に取り組み、事業承継マッチングプラットフォーム「relay」を開発。事業承継のマッチングを実名開示で行い、毛英社が事業に込めた想いをストーリー化して掲載し、共感をベースにした新しい事業承継の形を打ち出し、400件以上の後継者募集案件を公開、60件を超えるマッチングを生み出している。	一般社団法人 宮崎青年会議所
全国知事会 会長奨励賞	清水 広行 氏	琵琶湖最北端の人口4000人の滋賀県長浜市西浅井町で本業をもちながら地域の宝である米づくりを行う兼業農家集団を設立。農業、一次産業に持たれがちな「きつい、汚い、儲からない」といったネガティブなイメージをポジティブに変え全国の一次産業全体を盛り上げていく活動に注力する。	一般社団法人 大阪青年会議所
NHK会長奨励賞	バブリー (竹野理香子) 氏	令和ギャルのもつギャルマインド(自分軸、直感性、ポジティブ思考)、肩書や役職を超えてフラットに自分らしく話せる環境やマインドセットを提供し、ダイバーシティコミュニケーションを体現することで日本全体が抱える閉塞感を打破し明るい未来の創造を目指す。	一般社団法人 当別青年会議所
日本商工会議所 会頭奨励賞	波平 雄翔 氏	日本林業遺産に登録される景観や国の重要無形民俗文化財に指定された踊りなど日本の宝が残る沖縄県・人口1,000名弱の多良間島にて生活を営み、文化経済の循環をキーワードに観光コンテンツを造成し、島の文化や自然を守り、次世代に引き継いでいく活動を展開している。	一般社団法人 宮古青年会議所

会頭特別賞

受賞者	推薦
大嶋 香織 氏	一般社団法人沖繩青年会議所
押村 憲昭 氏	公益社団法人名古屋青年会議所

ファイナリスト

受賞者	推薦
清水 映輔 氏	眼科医 服部 匡志
小林 稜平 氏	公益社団法人仙台青年会議所
本間 貴裕 氏	公益社団法人福島青年会議所
岩本 涼 氏	公益社団法人埼玉中央青年会議所
沖村フォンデビラ有紀子 氏	一般社団法人横浜青年会議所
長内 あや愛 氏	公益社団法人鶴岡青年会議所
齋藤 隆太 氏	一般社団法人宮崎青年会議所
清水 広行 氏	一般社団法人大阪青年会議所
高尾 明香里 氏	公益社団法人坂出青年会議所
西田 宏平 氏	Brand Next Value 株式会社
バブリー(竹野理香子)	一般社団法人当別青年会議所
波平 雄翔 氏	一般社団法人宮古青年会議所
安田 哲 氏	一般社団法人神戸青年会議所

5) 会員会議所新設、名称変更及び退会一覧

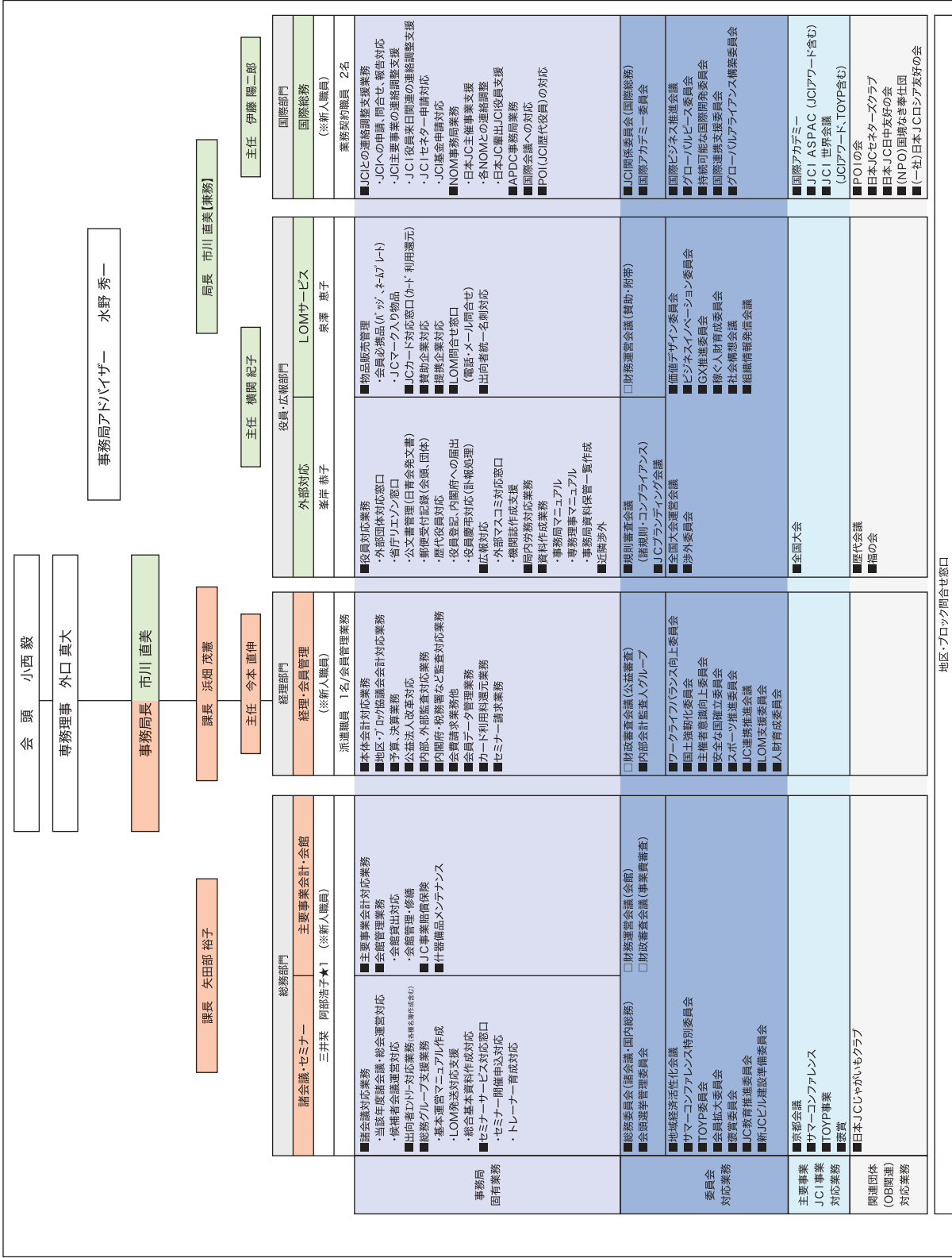
1. 会員会議所退会一覧

No.	認証番号	名称	ブロック	承認年月日	適用
1	84	紋別	北海道	2024.12.14	2024.12.31
2	318	伊万里	佐賀	2024.12.14	2024.12.31
3	421	羽幌	北海道	2024.12.14	2024.12.31
4	632	会津坂下	福島	2024.12.14	2024.12.31
5	737	南双葉	福島	2024.12.14	2024.12.31

2. JCの数及び会員数

2024年 1月1日現在 671JC 23,829名
2024年 12月1日現在 671JC 27,353名

2024公益社団法人日本青年会議所 事務局組織図



【注釈】★1：再雇用契約（2024/1/1-2024/12/31）

地区・ブロック問合せ窓口

2024年度 諸会議報告

総会
理事会

総会

第175回総会

日時：2024年1月20日(土)12:30～14:10
場所：国立京都国際会館 Main Hall

報告依頼事項

- (1) 2024年度予算について
- (2) サマーコンファレンス2024について
- (3) JCI ASPAC アンコール大会について
- (4) JCI 世界会議 桃園大会について
- (5) 第37回国際アカデミーについて
- (6) 会議・委員会出向者について
- (7) 内部会計監査人について
- (8) JCI及びJCI APDC出向役員について
- (9) JCI基金について
- (10) 青年会議所会館建替に関する進捗報告について
- (11) 全国連携インバウンド事業について
- (12) JCIからの支援金について

第176回総会

日時：2024年 3月23日(土)13:00～14:30
場所：ベルサール新宿セントラルパーク 1F ホール

審議事項

- (1) 2023年度事業報告(案)承認の件
- (2) 2023年度決算(案)承認の件

報告依頼事項

- (1) 2024年度予算について
- (2) 2024年度会議・委員会出向者追加変更について
- (3) 内部会計監査人について
- (4) JCI APDC(アジア太平洋開発協議会)中間報告について
- (5) JCI ASPACアンコール大会について
- (6) 第37回国際アカデミー in静岡について
- (7) サマーコンファレンス2024について
- (8) 第73回全国大会福岡大会について
- (9) JCI世界会議桃園大会について
- (10) 青年会議所会館建替に関する進捗報告について
- (11) 全国連携インバウンド事業について

第177回総会

日時：2024年 10月4日(金)14:00～16:00
場所：福岡国際会議場 メインホール・多目的ホール

審議事項

- (1) 公益社団法人日本青年会議所 定款変更(案)承認の件
- (2) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 外口 真大 君 選任の件
- (3) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 神畑 浩子 君 選任の件
- (4) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 安井 琢磨 君 選任の件
- (5) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 伊住 公一朗 君 選任の件
- (6) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 内山 瑛 君 選任の件
- (7) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 加藤 大将 君 選任の件
- (8) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 鈴木 裕輔 君 選任の件
- (9) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 柳沼 勝恵 君 選任の件
- (10) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 渋谷 巧 君 選任の件
- (11) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 戸嶋 一将 君 選任の件
- (12) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 北村 勇樹 君 選任の件
- (13) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 辻川 大器 君 選任の件
- (14) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 佐藤 公泰 君 選任の件
- (15) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 大前 裕也 君 選任の件
- (16) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 和田 光平 君 選任の件
- (17) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 中本 泰一郎 君 選任の件
- (18) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 菅原 啓太 君 選任の件
- (19) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 堀 徳成 君 選任の件
- (20) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 仲 浩太郎 君 選任の件
- (21) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 森谷 圭 君 選任の件
- (22) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 理事 佐野 友亮 君 選任の件
- (23) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 監事 村尾 尚太郎 氏 選任の件
- (24) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 監事 菅野 譲 君 選任の件
- (25) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 監事 新井 亮太 君 選任の件
- (26) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 監事 佐藤 貴哉 君 選任の件
- (27) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 監事 大久保 貴惟 君 選任の件
- (28) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 顧問 選任の件
- (29) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 代表理事 外口 真大 君 選定の件
- (30) 公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 業務執行理事選定の件
- (31) We Believe 年間購読料変更(案)承認の件
- (32) 未来の青年会議所を創る協力金(案)承認の件
- (33) 令和 6 年能登半島地震被災地 LOM 2024 年度会費追加請求並びに 2025 年度会費等免除(案)承認の件

報告依頼事項

- (1) 下山田敬介君 2025 年度 JCI 会頭立候補について
- (2) 2026年度 ASPAC 開催地について
- (3) 公益社団法人日本青年会議所 2025年度 直前会頭就任について
- (4) 公益社団法人日本青年会議所 2025年度 基本理念・基本方針並びに事業計画 について
- (5) 公益社団法人日本青年会議所 2025年度 組織並びに委員数について
- (6) 公益社団法人日本青年会議所 2025年度 ブロック会長選任について
- (7) 公益社団法人日本青年会議所 2025年度 議長・委員長選任について
- (8) 公益社団法人日本青年会議所 2025年度 内部会計監査人グループ代表選任について
- (9) 公益社団法人日本青年会議所 2025年度 年間公式スケジュールについて
- (10) 公益社団法人日本青年会議所 2025年度 スローガンについて
- (11) 公益社団法人日本青年会議所 2025年度 予算について
- (12) 青年会議所会館建替に関する進捗報告について

理事会

第1回理事会

日時：2024年01月19日 11:00～
場所：国立京都国際会館 RoomA

確認事項

- (1) 第1回財政審査会議・公益審査会議及びコンプライアンス審査会議の結果について

審議事項

<推進議案>

- (1) 地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(2) 2023年度地域コンテンツ発掘推進報告(案)承認の件
(3) 企業の第二創業を支援する推進計画並びに予算(案)承認の件
(4) 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進修正計画(案)承認の件
(5) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件

<通常協議議案>

- (6) 発災時に被災地支援における災害対策本部設置事業計画(案)承認の件
(7) 第二回政策甲子園事業計画並びに予算(案)承認の件
(8) AWARADS JAPAN2024募集審査基準並びに審査実施計画(案)承認の件
(9) Leader's Academy事業計画並びに予算(案)承認の件
(10) JCI JAPAN少年少女国連大使育成事業～君はこの夏、世界を変える～の事業計画並びに予算(案)承認の件
(11) JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業計画並びに予算(案)承認の件
(12) 2024年度日本で相互理解が促進できる事業の推進計画並びに予算(案)承認の件
(13) 第37回国際アカデミーに伴うブレ国際アカデミー事業計画並びに予算(案)承認の件
(14) 株式会社CAMPFIREとのパートナー契約(案)承認の件
(15) コンストラクションマネジメント契約に係る2023年度個別契約締結(基本設計段階)報告並びに決算(案)承認の件
(16) コンストラクションマネジメント契約に係る2024年度個別契約締結(基本設計段階)計画並びに予算(案)承認の件
(17) 会議・委員会出向者(案)承認の件
(18) 内部会計監査人グループ副代表・幹事・地区代表・委員選任(案)承認の件
(19) 会頭職務代行者指名(案)承認の件
(20) 候補者並びに予定者会議審議事項(案)承認の件

推進報告事項

【経済グループ推進計画進捗報告】

- (1) 地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(2) 国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画の進捗報告について
(3) ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進計画の進捗報告について
(4) 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(5) 誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(6) 個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進計画の進捗報告について

【社会グループ推進計画進捗報告】

- (7) 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげ希望ある未来を描く運動の推進計画の進捗報告について
(8) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進計画の進捗報告について
(9) 強靱なインフラ環境の整備推進計画の進捗報告について
(10) 時代に即した安全保障の意識を創出する推進計画の進捗報告について

【組織グループ推進計画進捗報告】

- (11) JC運動に共感が集まる理念共感拡大ブランドデザイン推進計画の進捗報告について
(12) 組織が活性化する対内広報強化推進計画の進捗報告について
(13) 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画の進捗報告について
(14) 会員拡大支援の推進計画進捗報告について
(15) 褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画の進捗報告について
(16) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
(17) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗報告について
(18) 理念共感拡大プロモーター育成・支援推進計画の進捗報告について
(19) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進計画の進捗報告について

【国際グループ推進計画進捗報告】

- (20) ビジネスマッチングの参画支援及び推進計画の進捗報告について
(21) 恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進計画の進捗報告について
(22) 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進計画の進捗報告について

【総務グループ推進計画進捗報告】

- (23) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) 2024年度賛助企業(年初確定)について
(2) 賛助企業による支援・連携について
(3) 2024年度協議会口座の運用ルールについて
(4) 財審支払申請及び規則押印申請におけるGaroonの使用料に関する報告について
(5) 地区協議会及びブロック協議会 名称使用等に関する報告について
(6) 2024年度ブロック協議会会頭訪問について
(7) 2024年度地区事業説明会報告について
(8) 2024年度服装規定ドレスコードについて
(9) 2024年度会議・委員会 指名委員・兼務委員について
(10) 第175回総会次第変更について
(11) 2024年度年間公式スケジュールについて
(12) 次回開催日について 2024年2月17日(土) 9:00～ 青年会議所会館にて

(13) その他

＜参考＞(20)候補者並びに予定者会議審議事項(案)承認の件 内訳

第3 回理事予定者会議 審議事項

- 審-1 有事に備えた災害ネットワーク強化推進計画(案)承認の件 社会G
- 審-2 強靱なインフラ環境の整備推進計画(案)承認の件 社会G
- 審-3 JC運動に共感が集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画(案)承認の件 組織G
- 審-4 新JCビル建設準備会議設置計画(案)承認の件 総務G

第4 回理事予定者会議 審議事項

- 審-1 地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進計画(案)承認の件
- 審-2 国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画並びに予算(案)承認の件 経済G
- 審-3 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画(案)承認の件 経済G
- 審-4 個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進計画(案)承認の件 経済G
- 審-5 組織が活性化する対内広報強化推進計画並びに予算(案)承認の件 組織G
- 審-6 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画並びに予算(案)承認の件 組織G
- 審-7 会員拡大支援の推進計画(案)承認の件 組織G
- 審-8 褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画(案)承認の件 組織G
- 審-9 JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画並びに予算(案)承認の件 組織G
- 審-10 理念共感拡大プロモーター育成・支援推進計画並びに予算(案)承認の件 組織G
- 審-11 ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進計画(案)承認の件 組織G
- 審-12 恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進計画(案)承認の件 国際G
- 審-13 JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進計画並びに予算(案)承認の件 総務G
- 審-14 第8回価値デザインコンテスト募集計画並びに予算(案)承認の件 経済G
- 審-16 2024年度京都会議事業計画並びに予算(案)承認の件 総務G
- 審-17 2024年度京都会議広報事業計画(案)承認の件 総務G
- 審-18 2024年度京都会議経済フォーラム「Discover New JAPAN ～日本再発見の旅～」事業計画並びに予算(案)承認の件 経済G
- 審-19 第73回全国大会福岡大会「主管契約締結式」事業計画(案)承認の件 社会G
- 審-20 2024年度京都会議「AWARDS JAPAN 2023」開催計画並びに予算(案)承認の件 組織G
- 審-21 サマーコンファレンス2024開催テーマ(案)承認の件 経済G
- 審-22 第73回全国大会福岡大会「テーマ」(案)承認の件 社会G
- 審-23 2027年度第76回全国大会「主管立候補受付並びに審査日程」(案)承認の件 社会G

第5 回理事予定者会議 審議事項

- 審-1 ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進計画(案)承認の件 経済G "
- 審-2 誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画並びに予算(案)承認の件 経済G
- 審-3 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげ希望ある未来を描く運動の推進計画(案)承認の件 社会G"
- 審-4 時代に即した安全保障の意識を創出する推進計画並びに予算(案)承認の件 社会G
- 審-5 JC運動に共感が集まる理念共感拡大グランドデザイン推進修正計画(案)承認の件 組織G"
- 審-6 JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画並びに予算(案)承認の件 組織G "
- 審-7 ビジネスマッチングの推進及び参画支援計画(案)承認の件 国際G
- 審-8 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進計画(案)承認の件 国際G "
- 審-9 JCカップU-11 少年少女サッカー全国大会予選大会実施計画並びに予算(案)承認の件 社会G
- 審-10 JCI JAPAN TOYP事業募集計画並びに予算(案)承認の件 社会G
- 審-11 国際アカデミーテーマ並びに募集計画(案)承認の件 国際G
- 審-12 JC運動への共感と信頼を生む機関紙We Believe作成・発刊(案)承認の件 総務G
- 審-13 サマーコンファレンス2024登録料(案)承認の件 経済G"
- 審-14 全国大会運営会議に付託する事項(案)承認の件 社会G
- 審-15 第73回全国大会福岡大会「スケジュール」(案)承認の件 社会G
- 審-16 第73回全国大会福岡大会「PR計画」並びに予算(案)承認の件 社会G

第2回理事会

日時：2024年02月17日 09:00～
場所：青年会議所会館

前回議事録の承認

- (1) 第1回理事会議事録

確認事項

- (1) 第2回財政審査会議・公益審査会議及びコンプライアンス審査会議の結果について

審議事項

<推進議案>

- (1) 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげ希望ある未来を描く運動の推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(2) 地域や各種団体と連携した部活動支援推進計画(案)承認の件
(3) 組織が活性化する対内広報強化推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(4) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(5) 国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開推進計画(案)承認の件
(6) セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進計画並びに予算(案)承認の件

<通常協議議案>

- (7) 第8回価値デザインコンテスト募集修正計画(案)承認の件
(8) JCI JAPAN TOYP事業選考会開催計画並びに予算(案)承認の件
(9) 国際会議主管青年会議所選考委員会委員指名(案)承認の件
(10) JC運動への共感と信頼を生む機関紙We Believe作成・発刊修正(案)承認の件

<3月総会関連議案>

- (11) 2024年度3月総会経済フォーラム ジャパントラベル・サミット～魅力発信会議～事業計画並びに予算(案)承認の件
(12) 第176回総会開催並びに次第(案)承認の件

<全国大会関連議案>

- (13) 第73回全国大会福岡大会「登録料」(案)承認の件

推進報告事項

【経済グループ推進計画進捗報告】

- (1) 地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(2) 国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画の進捗報告について
(3) ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進の進捗報告について
(4) 企業の第二創業を支援する推進の進捗報告について
(5) 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(6) 誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(7) 個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進計画の進捗報告について

【社会グループ推進計画進捗報告】

- (8) 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげ希望ある未来を描く運動の推進
(9) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進計画の進捗報告について
(10) 強靱なインフラ環境の整備推進計画の進捗報告について
(11) 時代に即した安全保障の意識を創出する推進計画の進捗報告について

【組織グループ推進計画進捗報告】

- (12) JC運動に共感が集まる理念共感拡大ブランドデザイン推進計画の進捗報告について
(13) 組織が活性化する対内広報強化推進計画の進捗報告について
(14) 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画の進捗報告について
(15) 会員拡大支援の推進計画進捗報告について
(16) 褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画の進捗報告について
(17) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
(18) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗報告について
(19) 理念共感拡大プロモーター育成・支援推進計画の進捗報告について
(20) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進計画の進捗報告について

【国際グループ推進計画進捗報告】

- (21) ビジネスマッチングの参画支援及び推進計画の進捗報告について
(22) 恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進計画の進捗報告について
(23) 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進計画の進捗報告について

【総務グループ推進計画進捗報告】

- (24) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) 公益社団法人日本青年会議所北海道地区ブロック協議会の2ブロック制移行に関する提言書提出の報告について
(2) ブロック会長公式訪問報告書について
(3) 三井不動産リアルティ株式会社との賃貸借契約一部変更について
(4) 日本たばこ産業株式会社契約内容変更について
(5) 株式会社和光との覚書締結について
(6) 株式会社和光の販売するJCグッズ一部改定について
(7) JC会館建替に伴う東京電力配電設備(電柱)移設工事について
(8) 2024年度ブロック協議会会頭訪問について
(9) 第175回総会開催報告について
(10) 外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
(11) 2024年度年間公式スケジュールについて
(12) 次回開催日について 2024年03月08日(金)9:00～ 青年会議所会館にて

第3回理事会

日時：2024年03月08日 09:00～
場所：青年会議所会館

前回議事録の承認

- (1) 第2回理事会議事録

確認事項

- (1) 第3回財政審査会議・公益審査会議及びコンプライアンス審査会議の結果について

審議事項

<第176回総会審議案件>

- (1) 2023年度事業報告(案)承認の件

- (2) 2023年度決算(案)承認の件

<第176回総会報告案件>

- (3) 2024年度予算(案)承認の件

<推進議案>

- (4) 中小企業が脱炭素経営を推進するメリットを発信する推進計画(案)承認の件

- (5) 主権者意識向上カリキュラム推進計画並びに予算(案)承認の件

- (6) JCI公式コース・日本JCI公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件

<通常協議議案>

- (7) 人々が国防の在り方に関して議論する事業計画並びに予算(案)承認の件

- (8) JCカップ U-11 少年少女サッカー全国大会予選大会実施修正計画並びに修正予算(案)承認の件

- (9) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Indonesia 2024事業計画並びに予算(案)承認の件

- (10) JCI JAPAN SMILE by WATER 2024事業計画並びに予算(案)承認の件

- (11) 青年会議所会館 保管書類廃棄及び事務局記録保存管理細則一部改正(案)承認の件

- (12) 公益社団法人日本青年会議所 リスク管理規程策定(案)承認の件

- (13) 会頭選挙管理委員会委員指名(案)承認の件

- (14) 会議・委員会出席者追加・変更(案)承認の件

- (15) 内部会計監査人グループ副代表・幹事・地区代表選任追加(案)承認の件

<ASPAC 関連議案>

- (16) JCI ASPAC アンコール大会における大会対応計画並びに予算(案)承認の件

推進報告事項

【経済グループ推進計画進捗報告】

- (1) 地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進計画の進捗報告について

- (2) 国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画の進捗報告について

- (3) ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進の進捗報告について

- (4) 企業の第二創業を支援する推進計画の進捗報告について

- (5) 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画の進捗報告について

- (6) 誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画の進捗報告について

- (7) 個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進計画の進捗報告について

【社会グループ推進計画進捗報告】

- (8) 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげ希望ある未来を描く運動の推進報告について

- (9) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進計画の進捗報告について

- (10) 強靱なインフラ環境の整備推進計画の進捗報告について

- (11) 時代に即した安全保障の意識を創出する推進計画の進捗報告について

- (12) 地域や各種団体と連携した部活動支援推進計画の進捗報告について

【組織グループ推進計画進捗報告】

- (13) JC運動に共感が集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について

- (14) 組織が活性化する対内広報強化推進計画の進捗報告について

- (15) 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画の進捗報告について

- (16) 理念共感拡大プロモーター育成・支援推進計画の進捗報告について

- (17) 会員拡大支援の推進計画進捗報告について

- (18) 褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画の進捗報告について

- (19) JCI公式コース・日本JCI公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について

- (20) JCI公式コース及び日本JCI公認プログラム推進・実施計画進捗報告について

- (21) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進計画の進捗報告について

【国際グループ推進計画進捗報告】

- (22) ビジネスマッチングの参画支援及び推進計画の進捗報告について

- (23) 国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開推進計画進捗報告について

- (24) セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進計画の進捗報告について

- (25) 恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進計画の進捗報告について

- (26) 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進計画の進捗報告について

【総務グループ推進計画進捗報告】

- (27) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について

- (2) 第73回全国大会福岡大会「事前アンケート」について【付託】

- (3) 第37回国際アカデミーオンライン説明会及び、ブレ国際アカデミーの募集経過の進捗報告について

- (4) 2023年度附帯収益報告について

- (5) 令和6年能登半島地震 見舞金拠出対象LOMについて

- (6) 第1回地区・ブロック協議会監査セミナーについて

- (7) 地区ブロック協議会 名称使用等に関する報告について

- (8) 青年会議所会館建替進捗について

- (9) 2024年度ブロック協議会会頭訪問について

- (10) 第176回総会次第変更について

- (11) 2024年度年間公式スケジュール

- (12) 次回開催日について 2024年04月20日(土) 9:00～ 青年会議所会館にて

第4回理事会

日時：2024年04月20日 09:00～

場所：青年会議所会館

前回議事録の承認

- (1) 第3回理事会議事録

確認事項

- (1) 第4回財政審査会議・公益審査会議及びコンプライアンス審査会議の結果について

審議事項

<推進議案>

- (1) 時代に即した安全保障の意識を創出する推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件
 - (2) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件
- #### <通常審議議案>
- (3) JCI JAPAN TOYP授賞式開催計画並びに予算(案)承認の件
 - (4) 公益社団法人日本青年会議所 北海道地区北海道ブロック協議会2ブロック制移行計画(案)承認の件
 - (5) JCI JAPAN 少年少女国連大使育成事業～君はこの夏、世界を変える～の修正計画並びに修正予算(案)承認の件
 - (6) JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
 - (7) 青少年国際交流事業-Children without Borders-計画並びに予算(案)承認の件
 - (8) 台湾東部沖地震によるJCI台湾への支援(案)承認の件
 - (9) コンストラクションマネジメント契約に係る2024年度個別契約締結(実施設計①段階)計画並びに予算(案)承認の件
 - (10) 第74回JCIアジア太平洋エリア会議(ASPAC)アンコール大会における議決権の会頭一任(案)承認の件
 - (11) 会議・委員会出向者追加・変更(案)承認の件
 - (12) 会頭選挙に関する指定事項(案)承認の件
 - (13) 「下山田敏介君立候補支援委員会」設置(案)承認の件

<京都会議関連議案>

- (14) 2024年度京都会議事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
- (15) 2024年度京都会議経済フォーラム「Discover New JAPAN～日本再発見の旅～」事業報告並びに決算(案)承認の件
- (16) 2024年度京都会議社会フォーラム 輝く地方が日本を興す～地方分散型社会のすゝめ～事業報告並びに決算(案)承認の件
- (17) 第73回全国大会福岡大会「主管契約締結式」事業報告(案)承認の件
- (18) 2024年度京都会議JC大相談会+PRブース事業報告並びに決算(案)承認の件
- (19) 2024年度京都会議「AWARDS JAPAN 2023」事業報告並びに決算(案)承認の件

<ASPAC 関連議案>

- (20) JCI JAPAN グローバルピースサミット事業計画並びに予算(案)承認の件

推進報告事項

【経済グループ推進計画進捗報告】

- (1) 地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進計画の進捗報告について
- (2) 国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画の進捗報告について
- (3) ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進の進捗報告について
- (4) 企業の第二創業を支援する推進計画の進捗報告について
- (5) 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画の進捗報告について
- (6) 中小企業に脱炭素経営を推進するメリットを発信する推進計画の進捗報告について
- (7) 誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画の進捗報告について
- (8) 個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進計画の進捗報告について

【社会グループ推進計画進捗報告】

- (9) 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげる希望ある未来を描く運動の推進計画の進捗報告について
- (10) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進計画の進捗報告について
- (11) 強靱なインフラ環境の整備推進計画の進捗報告について
- (12) 主権者意識向上カリキュラム推進事業の進捗報告について
- (13) 時代に即した安全保障の意識を創出する推進計画の進捗報告について
- (14) 地域や各種団体と連携した部活動支援推進計画の進捗報告について

【組織グループ推進計画進捗報告】

- (15) JC運動に共感が集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について
- (16) 組織が活性化する対内広報強化推進計画の進捗報告について
- (17) 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画の進捗報告について
- (18) 会員拡大支援の推進計画進捗報告について
- (19) 褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画の進捗報告について
- (20) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
- (21) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗報告について
- (22) 理念共感拡大プロモーター育成・支援推進計画の進捗報告について
- (23) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進計画の進捗報告について

【国際グループ推進計画進捗報告】

- (24) ビジネスマッチングの参画支援及び推進計画の進捗報告について
- (25) 国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開推進計画進捗報告について
- (26) セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進計画の進捗報告について
- (27) 恒久的世界平和につながる 国際関係を構築する運動の推進計画の進捗報告について
- (28) 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進計画の進捗報告について

【総務グループ推進計画進捗報告】

- (29) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) JCI ASPACカンボジア大会「JCI AWARDSジャッジ」の日本青年会議所からの選出推薦について
- (3) 第37回国際アカデミー開催に伴うオンライン説明会、プレ国際アカデミー、国際アカデミーの募集計画進捗報告について
- (4) 2024年度ウェブページ業者変更について
- (5) 株式会社三木森 新規賛助契約について
- (6) 株式会社ミロク情報サービス 契約内容変更について
- (7) 地区ブロック協議会 名称使用等に関する報告について

- (8) 株式会社LDH JAPANとの協定解除について
- (9) 2024年度ブロック協議会会頭訪問について
- (10) 第176回総会開催報告について
- (11) 2025年度3月総会会場選定について
- (12) 外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員選任について
- (13) 2024年度会頭選挙管理委員会について
- (14) 2025年度JCI会頭立候補について
- (15) 2024年度年間公式スケジュールについて
- (16) 次回開催日について 2024年05月18日(土)9:00～青年会議所会館にて

第5回理事会

日時：2024年05月18日 09:00～
場所：青年会議所会館

前回議事録の承認

- (1) 第4回理事会議事録

確認事項

- (1) 第5回財政審査会議・公益審査会議及びコンプライアンス審査会議の結果について

審議事項

<推進議案>

- (1) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(2) 理念共感拡大プロモーター育成・支援推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(3) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件

<通常協議議案>

- (4) 第二回政策甲子園事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(5) 人々が国防の在り方に関して議論する修正事業計画並びに修正予算(案)承認の件
(6) 第10回MJS presents JCカップU-11少年少女サッカー全国大会事業計画並びに予算(案)承認の件
(7) JCI JAPAN グローバルユース国連大使育成事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(8) 第37回国際アカデミーに伴うブレ国際アカデミー事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
(9) 第37回国際アカデミー事業計画並びに予算(案)承認の件
(10) 公益社団法人日本青年会議所 定款変更(案)承認の件
(11) 公益社団法人日本青年会議所 運営規則変更(案)承認の件
(12) 公益社団法人日本青年会議所 北海道地区 北海道ブロック協議会運営規程廃止(案)承認の件
(13) 公益社団法人日本青年会議所 北海道地区 東北北海道ブロック協議会 運営規程制定(案)承認の件
(14) 公益社団法人日本青年会議所 北海道地区 西北北海道ブロック協議会 運営規程制定(案)承認の件
(15) 公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会 運営規程変更(案)承認の件
(16) コンストラクション・マネジメント契約に係る2024年度個別契約締結(基本設計段階)事業報告並びに決算(案)承認の件

<京都会議関連議案>

- (17) 2024年度京都会議事業報告並びに決算(案)承認の件
(18) 2024年度京都会議広報事業報告(案)承認の件

<3月総会関連議案>

- (19) 2024年度3月総会経済フォーラム ジャパントラベル・サミット～魅力発信会議～事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件

<ASPAC 関連議案>

- (20) JCI ASPACアンコール大会での事業ジャパンナイト開催計画並びに予算(案)承認の件
(21) JCI ASPACで相互理解が促進できる事業「会頭招待事業」企画・実施計画並びに予算(案)承認の件

<サマーコンファレンス関連議案>

[本体・広報]

- (22) サマーコンファレンス2024「広報」事業計画並びに予算(案)承認の件
(23) サマーコンファレンス2024「オープニング・クロージング」事業計画並びに予算(案)承認の件

[フォーラム関連議案]

- (24) サマーコンファレンス2024「自然と人が集まるLOMのつくりかた、教えます」開催計画並びに予算(案)承認の件
(25) サマーコンファレンス2024「国際フォーラム『愛と平和』を描きだそう」開催計画並びに予算(案)承認の件

[セミナー関連議案]

- (26) サマーコンファレンス2024「Web3.0を学び個人と地域がガッチリ!!」開催計画並びに予算(案)承認の件
(27) サマーコンファレンス2024「日本を食べるのはあなただ!プロジェクト」開催計画並びに予算(案)承認の件
(28) サマーコンファレンス2024「Report of JCI JAPAN TOYP～傑出した若者が、未来を変える!～」事業計画並びに予算(案)承認の件

[その他]

- (29) サマーコンファレンス2024「第8回価値デザインコンテスト～今こそ、あなたの事業価値を試すとき～」開催計画並びに予算(案)承認の件
(30) サマーコンファレンス2024「全力サポート!!JC大相談会」開催計画並びに予算(案)承認の件

<全国大会関連議案>

- (31) 第73回全国大会福岡大会「大会事務局開設」計画並びに予算(案)承認の件

推進報告事項

【経済グループ推進計画進捗報告】

- (1) 地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(2) 国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画の進捗報告について
(3) ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進の進捗報告について
(4) 企業の第二創業を支援する推進計画の進捗報告について
(5) 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(6) 中小企業に脱炭素経営を推進するメリットを発信する推進計画の進捗報告について
(7) 誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(8) 個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進計画の進捗報告について

【社会グループ推進計画進捗報告】

- (9) 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげ希望ある未来を描く運動の推進
(10) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進計画の進捗報告について
(11) 強靱なインフラ環境の整備推進計画の進捗報告について
(12) 主権者意識向上カリキュラム推進事業の進捗報告について
(13) 時代に即した安全保障の意識を創出する推進計画の進捗報告について
(14) 地域や各種団体と連携した部活動支援推進計画の進捗報告について

【組織グループ推進計画進捗報告】

- (15) JC運動に共感が集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について
(16) 組織が活性化する対内広報強化推進計画の進捗報告について
(17) 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画の進捗報告について
(18) 会員拡大支援の推進計画進捗報告について
(19) 褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画の進捗報告について
(20) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
(21) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗報告について
(22) 理念共感拡大プロモーター育成・支援推進計画の進捗報告について
(23) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進計画の進捗報告について

【国際グループ推進計画進捗報告】

- (24) ビジネスマッチングの参画支援及び推進計画の進捗報告について
- (25) 国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開推進計画進捗報告について
- (26) セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進計画の進捗報告について
- (27) 恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進計画の進捗報告について
- (28) 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進計画の進捗報告について

【総務グループ推進計画進捗報告】

- (29) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) 2027年度第76回全国大会「主管予定立候補LOM」について
- (3) 第73回全国大会福岡大会「大会成功祈願」について【付託】
- (4) 第73回全国大会福岡大会「登録ガイド」について【付託】
- (5) 第73回全国大会福岡大会「県・市表敬訪問」計画について【付託】
- (6) 第73回全国大会福岡大会「インフォメーション」計画について【付託】
- (7) 第73回全国大会福岡大会「エクスカーショ」計画について【付託】
- (8) 第37回国際アカデミー開催に伴うオンライン説明会、プレ国際アカデミー、国際アカデミーの募集計画進捗報告について
- (9) JCカード2023年度分LOM還元について
- (10) 災害対策初動対応マニュアル一部改正について
- (11) 2024年度新規支援団体の認定について
- (12) 未来の青年会議所を創る協力金(仮称)に関する説明会について
- (13) 2024年度ブロック協議会会頭訪問について
- (14) 2024年度京都都会議外部監査について
- (15) 2024-2025 JCI APDC出向役員候補者推薦について
- (16) 2024年度年間公式スケジュールについて
- (17) 次回開催日について 2024年06月22日(土)9:00～青年会議所会館にて

第6回理事会

日時：2024年06月22日 09:00～
場所：青年会議所会館

前回議事録の承認

- (1) 第5回理事会議事録

確認事項

- (1) 第6回財政審査会議・公益審査会議及びコンプライアンス審査会議の結果について

審議事項

【第6回理事会審議予定議案】

<推進議案>

- (1) 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげ希望ある未来を描く運動の推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(2) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(3) 2024年度日本で相互理解が促進できる事業の推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件

<通常協議議案>

- (4) 発災時に被災地支援における災害対策本部設置修正計画並びに予算(案)承認の件
(5) 第37回国際アカデミー事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(6) JCグッズ新商品の販売計画(案)承認の件

<2024年度3月総会関連議案>

- (7) 2024年度3月総会経済フォーラム ジャパントラベル・サミット～魅力発信会議～事業報告並びに決算(案)承認の件

<サマーコンファレンス関連議案>

【本体・広報】

- (8) サマーコンファレンス2024事業計画並びに予算(案)承認の件
(9) サマーコンファレンス2024「サマコンフェス」事業計画並びに予算(案)承認の件

【フォーラム関連議案】

- (10) サマーコンファレンス2024「Be proud of JAPAN～観光大国ニッポンの幕開け～」開催計画並びに予算(案)承認の件
(11) サマーコンファレンス2024「ガッツリサンデー!!W森永から学ぶイノベーション!!」開催計画並びに予算(案)承認の件
(12) サマーコンファレンス2024「『デジコネクト』未来をつなぐ、デジタルの力!」開催計画並びに予算(案)承認の件
(13) サマーコンファレンス2024「Update the JC!!!～みんなで話そう協議会の在り方～」開催計画並びに予算(案)承認の件
(14) サマーコンファレンス2024「Be the next Generation～新時代を切り開く国際ビジネスの始め方～」開催計画並びに予算(案)承認の件
(15) サマーコンファレンス2024「ヤバイってよ!!大阪・関西万博2025」開催計画並びに予算(案)承認の件

【セミナー関連議案】

- (16) サマーコンファレンス2024「第3回全国一斉インバウンド会議」開催計画並びに予算(案)承認の件
(17) サマーコンファレンス2024「『賢い人』は知っている。もう迷わない脱炭素経営」開催計画並びに予算(案)承認の件
(18) サマーコンファレンス2024「Well-being Challenge～業績向上の秘訣教えます～」開催計画並びに予算(案)承認の件
(19) サマーコンファレンス2024「日本はまだ変わる～政治に若者の声を～」開催計画並びに予算(案)承認の件
(20) サマーコンファレンス2024「一生使えるスピーチ術!あなたにもできる!!」開催計画並びに予算(案)承認の件
(21) サマーコンファレンス2024「リーダーズセミナー～潜在「脳」力を解放!～」開催計画並びに予算(案)承認の件

推進報告事項

【経済グループ推進計画進捗報告】

- (1) 地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(2) 国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画の進捗報告について
(3) ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進の進捗報告について
(4) 企業の第二創業を支援する推進計画の進捗報告について
(5) 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(6) 中小企業に脱炭素経営を推進するメリットを発信する推進計画の進捗報告について
(7) 誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(8) 個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進計画の進捗報告について

【社会グループ推進計画進捗報告】

- (9) 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげ希望ある未来を描く運動の推進計画の進捗報告について
(10) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進計画の進捗報告について
(11) 強靱なインフラ環境の整備推進計画の進捗報告について
(12) 主権者意識向上カリキュラム推進事業の進捗報告について
(13) 時代に即した安全保障の意識を創出する推進計画の進捗報告について
(14) 地域や各種団体と連携した部活動支援推進計画の進捗報告について

【組織グループ推進計画進捗報告】

- (15) JC運動に共感が集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について
(16) 組織が活性化する対内広報強化推進計画の進捗報告について
(17) 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画の進捗報告について
(18) 会員拡大支援の推進計画進捗報告について
(19) 褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画の進捗報告について
(20) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
(21) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗報告について
(22) 理念共感拡大プロモーター育成・支援推進計画の進捗報告について
(23) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進計画の進捗報告について

【国際グループ推進計画進捗報告】

- (24) ビジネスマッチングの参画支援及び推進計画の進捗報告について
(25) 国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開推進計画進捗報告について
(26) セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進計画の進捗報告について
(27) 恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進計画の進捗報告について
(28) 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進計画の進捗報告について

【総務グループ推進計画進捗報告】

- (29) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
(2) 第73回全国大会福岡大会「事前アンケート」集計結果について【付託】
(3) 2027年度第76回全国大会主管立候補について
(4) 第37回国際アカデミー開催に伴う国際アカデミーの募集計画進捗報告について

- (5) 本会自主中間監査について
- (6) 地区ブロック協議会 名称使用等に関する報告について
- (7) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (8) 2024年度ブロック協議会会頭訪問について
- (9) 2024-2025 JCI APDC出向役員について
- (10) 会頭立候補者推薦書(選管書式NO.3)の取り扱いについて
- (11) 外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
- (12) 業務執行理事による業務執行状況報告について
- (13) 2024年度年間公式スケジュールについて
- (14) 次回開催日について 2024年07月19日(金)12:30～パシフィコ横浜にて

第7回理事会

日時：2024年07月19日 12:30～
場所：パシフィコ横浜

前回議事録の承認

- (1) 第6回理事会議事録

確認事項

- (1) 第7回財政審査会議・公益審査会議及びコンプライアンス審査会議の結果について

審議事項

<推進議案>

- (1) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件

<通常協議議案>

- (2) 第8回価値デザインコンテスト募集修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(3) 第10回MJS presents JCカップU-11少年少女サッカー全国大会事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(4) JCカップU-11少年少女サッカーアジアパシフィック大会事業計画並びに予算(案)承認の件
(5) 地域に根差した青年会議所運動の事業構築支援の事業計画(案)承認の件
(6) 第37回国際アカデミーに伴うプレ国際アカデミー事業報告並びに決算(案)承認の件
(7) LOM版議案システム導入及び普及計画(案)承認の件
(8) 仮移転先内装工事(案)承認の件

<サマーコンファレンス関連議案>

[本体・広報]

- (9) サマーコンファレンス2024事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(10) サマーコンファレンス2024「サマコンフェス」事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件

[セミナー関連議案]

- (11) サマーコンファレンス2024「Report of JCI JAPAN TOYP～傑出した若者が、未来を変える!～」開催修正計画並びに予算(案)承認の件

<全国大会関連議案>

[本体議案]

- (12) 第73回全国大会福岡大会事業開催計画並びに予算(案)承認の件
(13) 第73回全国大会福岡大会「スケジュール」修正(案)承認の件
(14) 第73回全国大会福岡大会「大会ガイド構成」並びに予算(案)承認の件

[フォーラム関連議案]

- (15) 第73回全国大会福岡大会「JAPAN as Only One～地域のために私たちができること～」開催計画並びに予算(案)承認の件
(16) 第73回全国大会福岡大会「896の地域が消える前に～未来を生み出すデジタル人材の可能性～」開催計画並びに予算(案)承認の件
(17) 第73回全国大会福岡大会「JC大相談会＋新時代への道標～事業継承サミット～」開催計画並びに予算(案)承認の件
(18) 第73回全国大会福岡大会「AWARDS JAPAN 2024」開催計画並びに予算(案)承認の件

[その他]

- (19) 第73回全国大会福岡大会「次年度協議会役員予定者セミナー」開催計画並びに予算(案)承認の件
(20) 第73回全国大会福岡大会「2025年度スタートアップセッション」事業計画並びに予算(案)承認の件

推進報告事項

【経済グループ推進計画進捗報告】

- (1) 地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(2) 国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画の進捗報告について
(3) ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進の進捗報告について
(4) 企業の第二創業を支援する推進計画の進捗報告について
(5) 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(6) 中小企業に脱炭素経営を推進するメリットを発信する推進計画の進捗報告について
(7) 誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(8) 個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進計画の進捗報告について

【社会グループ推進計画進捗報告】

- (9) 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげ希望ある未来を描く運動の推進計画の進捗報告について
(10) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進計画の進捗報告について
(11) 強靱なインフラ環境の整備推進計画の進捗報告について
(12) 主権者意識向上カリキュラム推進事業の進捗報告について
(13) 時代に即した安全保障の意識を創出する推進計画の進捗報告について
(14) 地域や各種団体と連携した部活動支援推進計画の進捗報告について

【組織グループ推進計画進捗報告】

- (15) JC運動に共感が集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について
(16) 組織が活性化するための対内広報強化推進計画の進捗報告について
(17) 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画の進捗報告について
(18) 会員拡大支援の推進計画進捗報告について
(19) 褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画の進捗報告について
(20) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
(21) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗報告について
(22) 理念共感拡大プロモーター育成・支援推進計画の進捗報告について
(23) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進計画の進捗報告について

【国際グループ推進計画進捗報告】

- (24) ビジネスマッチングの参画支援及び推進計画の進捗報告について
(25) 国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開推進計画進捗報告について
(26) セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進計画の進捗報告について
(27) 恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進計画の進捗報告について
(28) 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進計画の進捗報告について

【総務グループ推進計画進捗報告】

- (29) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
(2) 第73回全国大会福岡大会「大会式典・卒業式」構成・演出について【付託】
(3) 第73回全国大会福岡大会「運輸」計画について【付託】
(4) 第73回全国大会福岡大会「開会式」計画について【付託】
(5) 第73回全国大会福岡大会「閉会式」計画について【付託】
(6) 第73回全国大会福岡大会「記念事業」計画について【付託】
(7) 2027年度第76回全国大会主管立候補LOMについて
(8) 本会並びに地区・ブロック協議会 第1回中間監査について
(9) 2024年度支援団体認定状況について
(10) 2024年度ブロック協議会会頭訪問について
(11) 2024年度年間公式スケジュールについて
(12) 2025年度会頭立候補者の資格認定並びに会頭当選者決定について
(13) 次回開催日について 2024年09月14日(土)9:00～青年会議所会館にて

第8回理事会

日時：2024年09月14日 09:00～

場所：青年会議所会館

前回議事録の承認

- (1) 第7回理事会議事録

確認事項

- (1) 第8回財政審査会議・公益審査会議及びコンプライアンス審査会議の結果について

審議事項

【第8回理事会審議予定議案】

<通常協議議案>

- (1) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進報告(案)承認の件
(2) 強靱なインフラ環境の整備推進報告(案)承認の件

<推進協議議案>

- (3) 発災時に被災地支援における災害対策本部設置修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(4) 東北地区の被災地支援における災害対策本部設置事業計画(案)承認の件
(5) JCカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会事業報告並びに決算(案)承認の件
(6) JCI JAPAN TOYP事業募集報告並びに決算(案)承認の件
(7) JCI JAPAN TOYP事業選考会開催修正計画並びに補正予算(案)承認の件
(8) JCI JAPAN TOYP事業選考会報告並びに決算(案)承認の件
(9) Leader's Academy事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
(10) 2024年度日本で相互理解が促進できる事業の推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(11) 2027年度世界会議主管推薦青年会議所決定(案)承認の件
(12) 東海地区岐阜ブロック協議会 運営規程一部変更(案)承認の件
(13) We Believe年間購読料変更(案)承認の件
(14) 未来の青年会議所を創る協力金(案)承認の件
(15) 令和6年能登半島地震被災地LOM 2024年度会費追加請求並びに2025年度会費等免除(案)承認の件
(16) 第177回総会開催並びに次第(案)承認の件
(17) JCI世界会議における議決権の会頭一任(案)承認の件
(18) 2025年度理事選任(案)承認の件
(19) 2025年度監事選任(案)承認の件
(20) 2025年度顧問選任(案)承認の件
(21) 2025年度代表理事選定(案)承認の件
(22) 2025年度業務執行理事選定(案)承認の件
(23) 2025年度基本理念・基本方針並びに計画(案)承認の件
(24) 2025年度組織並びに委員数(案)承認の件
(25) 2025年度ブロック会長選任(案)承認の件
(26) 2025年度議長・委員長選任(案)承認の件
(27) 2025年度内部会計監査人グループ代表選任(案)承認の件
(28) 2025年度年間公式スケジュール(案)承認の件
(29) 2025年度スローガン(案)承認の件
(30) 2025年度予算(案)承認の件

<ASPAC関連議案>

- (31) ASPACアンコールで相互理解が促進できる事業「会頭招待事業」報告並びに決算(案)承認の件
(32) JCI JAPAN グローバルピースサミット事業報告並びに決算(案)承認の件

<サマーコンファレンス関連議案>

[本体・広報議案]

- (33) サマーコンファレンス2024事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
(34) サマーコンファレンス2024「サマコンフェス」事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件

[フォーラム関連議案]

- (35) サマーコンファレンス2024「Be proud of JAPAN～観光大国ニッポンの幕開け～」事業報告並びに決算(案)承認の件
(36) サマーコンファレンス2024「ガッツリサンデー!!W森永から学ぶイノベーション!!」事業報告並びに決算(案)承認の件
(37) サマーコンファレンス2024「『デジコネクト』未来をつなぐ、デジタルの力!」事業報告並びに決算(案)承認の件
(38) サマーコンファレンス2024「Update the JC!!!～みんなで話そう協議会の在り方～」事業報告並びに決算(案)承認の件
(39) サマーコンファレンス2024「自然と人が集まるLOMのつくりかた。教えます」事業報告並びに決算(案)承認の件
(40) サマーコンファレンス2024「Be the next Generation～新時代を切り開く国際ビジネスの始め方～」事業報告並びに決算(案)承認の件
(41) サマーコンファレンス2024「国際フォーラム『愛と平和』を描きだそう」事業報告並びに決算(案)承認の件
(42) サマーコンファレンス2024「ヤバイってよ!!大阪・関西万博2025」事業報告並びに決算(案)承認の件

[セミナー関連議案]

- (43) サマーコンファレンス2024「第3回全国一斉インバウンド会議」事業報告並びに決算(案)承認の件
(44) サマーコンファレンス2024「『賢い人』は知っている。もう迷わない脱炭素経営」事業報告並びに決算(案)承認の件
(45) サマーコンファレンス2024「Well-being Challenge～業績向上の秘訣教えます～」事業報告並びに決算(案)承認の件
(46) サマーコンファレンス2024「Web3.0を学び個人と地域がガッツリ!!」事業報告並びに決算(案)承認の件
(47) サマーコンファレンス2024「日本はまだ変わる～政治に若者の声を～」事業報告並びに決算(案)承認の件
(48) サマーコンファレンス2024「日本を食べるのはあなただ!プロジェクト」事業報告並びに決算(案)承認の件
(49) サマーコンファレンス2024「Report of JCI JAPAN TOYP～傑出した若者が、未来を変える!～」事業報告並びに決算(案)承認の件
(50) サマーコンファレンス2024「一生使えるスピーチ術!あなたにもできる!!」事業報告並びに決算(案)承認の件
(51) サマーコンファレンス2024「リーダーズセミナー～潜在「脳」力を解放!～」事業報告並びに決算(案)承認の件

[その他]

- (52) サマーコンファレンス2024「全力サポート!!JC大相談会」事業報告並びに決算(案)承認の件

<全国大会関連議案>

[本体議案]

- (53) 第73回全国大会福岡大会事業開催修正計画並びに修正予算(案)承認の件

[その他]

- (54) 第73回全国大会福岡大会「次年度協議会役員予定者セミナー」事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(55) 第73回全国大会福岡大会「2025年度スタートアップセッション」事業修正計画並びに予算(案)承認の件

<世界会議関連議案>

- (56) JCI世界会議桃園大会における大会対応計画並びに予算(案)承認の件

(57) JCI世界会議桃園大会における事業ジャパンナイトの開催並びに予算(案)承認の件

(58) JCI世界会議で相互理解が促進できる事業「会頭招待事業」企画・実施計画並びに予算(案)承認の件

推進報告事項

【経済グループ推進計画進捗報告】

- (1) 地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進計画の進捗報告について
- (2) 国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画の進捗報告について
- (3) ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進の進捗報告について
- (4) 企業の第二創業を支援する推進計画の進捗報告について
- (5) 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画の進捗報告について
- (6) 中小企業に脱炭素経営を推進するメリットを発信する推進計画の進捗報告について
- (7) 誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画の進捗報告について
- (8) 個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進計画の進捗報告について

【社会グループ推進計画進捗報告】

- (9) 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげ希望ある未来を描く運動の推進計画の進捗報告について
- (10) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進計画の進捗報告について
- (11) 強靱なインフラ環境の整備推進計画の進捗報告について
- (12) 主権者意識向上カリキュラム推進事業の進捗報告について
- (13) 時代に即した安全保障の意識を創出する推進計画の進捗報告について
- (14) 地域や各種団体と連携した部活動支援推進計画の進捗報告について

【組織グループ推進計画進捗報告】

- (15) JC運動に共感が集まる理念共感拡大ブランドデザイン推進計画の進捗報告について
- (16) 組織が活性化する対内広報強化推進計画の進捗報告について
- (17) 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画の進捗報告について
- (18) 会員拡大支援の推進計画進捗報告について
- (19) 褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画の進捗報告について
- (20) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
- (21) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗報告について
- (22) 理念共感プロモーター育成・支援推進計画の進捗報告について
- (23) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進計画の進捗報告について

【国際グループ推進計画進捗報告】

- (24) ビジネスマッチングの参画支援及び推進計画の進捗報告について
- (25) 国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開推進計画進捗報告について
- (26) セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進計画の進捗報告について
- (27) 恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進計画の進捗報告について
- (28) 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進計画の進捗報告について

【総務グループ推進計画進捗報告】

- (29) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) 2027年度第76回全国大会「主管立候補LOM現地調査報告会開催」について【付託】
- (3) 第73回全国大会福岡大会「登録状況」について
- (4) 第74回全国大会佐賀大会「進捗状況」について
- (5) 第75回全国大会神戸大会「進捗状況」について
- (6) JCI 世界会議 桃園大会「JCI AWARDSジャッジ」の日本選出推薦について
- (7) 日本JC LINEスタンプ解約について
- (8) 2025年度役員・出向者統一名刺について
- (9) 地区ブロック協議会 名称使用等に関する報告について
- (10) 公益社団法人日本青年会議所 アニュアルレポートの取り纏め及び作成について
- (11) 各LOMの役員変更登記に関する注意喚起について
- (12) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (13) 2025年度直前会頭就任について
- (14) 外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
- (15) 2024年度年間公式スケジュールについて
- (16) 次回開催日について 2024年10月4日(金) 9:00～ 福岡国際会議場にて

第9回理事会

日時：2024年10月04日 09:00～

場所：福岡国際会議場

前回議事録の承認

- (1) 第8回理事会議事録

確認事項

- (1) 第9回財政審査会議・公益審査会議及びコンプライアンス審査会議の結果について

審議事項

<推進決算議案>

- (1) 国内企業の生産性向上につながる運動の推進報告並びに決算(案)承認の件
(2) 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進報告(案)承認の件
(3) 中小企業に脱炭素経営を推進するメリットを発信する推進報告(案)承認の件
(4) 誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進報告並びに決算(案)承認の件
(5) 個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進報告(案)承認の件
(6) 時代に即した安全保障の意識を創出する推進事業報告並びに決算(案)承認の件
(7) 地域や各種関連団体と連携した部活動支援推進事業報告(案)承認の件
(8) 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(9) 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進報告(案)承認の件

<通常協議議案>

- (10) 第8回価値デザインコンテスト募集事業報告並びに決算(案)承認の件
(11) JCカップJCカップU-11少年少女サッカーアジアパシフィック大会事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件
(12) JCI JAPAN TOYP事業授賞式報告並びに決算(案)承認の件
(13) 青少年国際交流事業~Children without Borders~事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
(14) 国際アカデミーテーマ並びに募集計画事業報告(案)承認の件
(15) 第37回国際アカデミー事業計画並びに補正予算(案)承認の件

<ASPAC関連議案>

- (16) JCI ASPACアンコール大会対応事業報告並びに決算(案)承認の件
(17) ASPACアンコール大会ジャパンナイト事業報告並びに決算(案)承認の件

<サマーコンファレンス関連議案>

[本体・広報議案]

- (18) サマーコンファレンス2024事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
(19) サマーコンファレンス2024「広報」事業報告並びに決算(案)承認の件
(20) サマーコンファレンス2024「サマコンフェス」事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
(21) サマーコンファレンス2024「オープニング・クロージング」事業報告並びに決算(案)承認の件

[その他]

- (22) サマーコンファレンス2024「第8回価値デザインコンテスト～今こそ、あなたの事業価値を試すとき～」開催計画並びに補正予算(案)承認の件
(23) サマーコンファレンス2024「第8回価値デザインコンテスト～今こそ、あなたの事業価値を試すとき～」事業報告並びに決算(案)承認の件

<全国大会関連議案>

- (24) 2027年度第76回全国大会「主管LOM決定」(案)承認の件

推進報告事項

【経済グループ推進計画進捗報告】

- (1) 地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(2) 国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画の進捗報告について
(3) ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進の進捗報告について
(4) 企業の第二創業を支援する推進計画の進捗報告について
(5) 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(6) 中小企業に脱炭素経営を推進するメリットを発信する推進計画の進捗報告について
(7) 誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(8) 個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進計画の進捗報告について

【社会グループ推進計画進捗報告】

- (9) 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげる希望ある未来を描く運動の推進計画の進捗報告について
(10) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進計画の進捗報告について
(11) 強靱なインフラ環境の整備推進計画の進捗報告について
(12) 主権者意識向上カリキュラム推進事業の進捗報告について
(13) 時代に即した安全保障の意識を創出する推進計画の進捗報告について
(14) 地域や各種団体と連携した部活動支援推進計画の進捗報告について

【組織グループ推進計画進捗報告】

- (15) JC運動に共感が集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について
(16) 組織が活性化する対内広報強化推進計画の進捗報告について
(17) 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画の進捗報告について
(18) 会員拡大支援の推進計画進捗報告について
(19) 褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画の進捗報告について
(20) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
(21) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗報告について
(22) 理念共感拡大プロモーター育成・支援推進計画の進捗報告について
(23) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進計画の進捗報告について

【国際グループ推進計画進捗報告】

- (24) ビジネスマッチングの参画支援及び推進計画の進捗報告について
(25) 国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開推進計画進捗報告について
(26) セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進計画の進捗報告について
(27) 恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進計画の進捗報告について
(28) 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進計画の進捗報告について

【総務グループ推進計画進捗報告】

- (29) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
(2) 国際アカデミーユニオンin世界会議台湾桃園大会について

- (3) 国際アカデミー開催地決定の報告について
- (4) 地区・ブロック協議会 決算直前監査について
- (5) 2024年度年間公式スケジュールについて
- (6) 次回開催日について 2024年11月23日(土)9:00～青年会議所会館にて

第10回理事会

日時：2024年11月23日 09:00～
場所：青年会議所会館

前回議事録の承認

- (1) 第9回理事会議事録

確認事項

- (1) 第10回財政審査会議・公益審査会議及びコンプライアンス審査会議の結果について

審議事項

<推進決算議案>

- (1) ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進報告(案)承認の件
(2) 企業の第二創業を支援する推進計画並びに補正予算(案)承認の件
(3) 企業の第二創業を支援する推進報告並びに決算(案)承認の件
(4) 主権者意識向上カリキュラム推進報告並びに決算(案)承認の件
(5) JC運動に共感が集まる理念共感拡大グランドデザイン推進報告(案)承認の件
(6) 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画の推進報告並びに決算(案)承認の件
(7) 会員拡大支援の推進報告(案)承認の件
(8) 褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画の推進報告(案)承認の件
(9) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進報告並びに決算(案)承認の件
(10) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施報告並びに決算(案)承認の件
(11) 理念共感プロモーター育成・支援推進報告並びに決算(案)承認の件
(12) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進報告(案)承認の件
(13) ビジネスマッチングの推進及び参画支援報告(案)承認の件
(14) 国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開推進報告(案)承認の件
(15) セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進計画並びに補正予算(案)承認の件
(16) 恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進報告(案)承認の件
(17) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進報告並びに決算(案)承認の件

<通常協議議案>

- (18) 発災時に被災地支援における災害対策本部設置事業報告(案)承認の件
(19) 能登豪雨災害における災害対策本部設置事業計画(案)承認の件
(20) 全国青年友好4団体 災害防災協定書締結(案)承認の件
(21) 第二回政策甲子園事業報告並びに決算(案)承認の件
(22) 人々が国防の在り方に関して議論する事業報告並びに決算(案)承認の件
(23) 第10回MJS presents JCカップU-11少年少女サッカー全国大会事業報告並びに決算(案)承認の件
(24) AWARDS JAPAN 2024募集審査基準並びに審査実施報告(案)承認の件
(25) Leader's Academy事業報告並びに決算(案)承認の件
(26) JCI JAPAN少年少女国連大使育成事業～君はこの夏、世界を変える～事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
(27) JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
(28) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Indonesia 2024事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
(29) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Indonesia 2024事業報告並びに決算(案)承認の件
(30) JCI JAPAN SMILE by WATER 2024事業報告並びに決算(案)承認の件
(31) 2024年度日本で相互理解が促進できる事業報告並びに決算(案)承認の件
(32) 第37回国際アカデミー事業計画並びに補正予算(案)承認の件
(33) 青年会議所会館設計施工業者との契約解除(案)承認の件

<サマーコンファレンス関連議案>

[本体・広報]

- (34) サマーコンファレンス2024事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件
(35) サマーコンファレンス2024「サマコンフェス」修正事業計画並びに補正予算(案)承認の件

<全国大会関連議案>

[本体議案]

- (36) 第73回全国大会福岡大会事業開催計画並びに補正予算(案)承認の件
(37) 第73回全国大会福岡大会事業報告並びに決算(案)承認の件
(38) 第73回全国大会福岡大会「PR計画」事業報告並びに決算(案)承認の件
(39) 第73回全国大会福岡大会「大会事務局開設」事業報告並びに決算(案)承認の件

[フォーラム関連議案]

- (40) 第73回全国大会福岡大会「JAPAN as Only One ～地域のために私たちができること～」事業報告並びに決算(案)承認の件
(41) 第73回全国大会福岡大会「896の地域が消える前に～未来を生み出すデジタル人材の可能性～」事業報告並びに決算(案)承認の件

[その他]

- (42) 第73回全国大会福岡大会「AWARDS JAPAN 2024」開催報告並びに決算(案)承認の件
(43) 第73回全国大会福岡大会「JC大相談会+新時代への道標～事業継承サミット～」事業報告並びに決算(案)承認の件
(44) 第73回全国大会福岡大会「次年度協議会役員予定者セミナー」事業報告並びに決算(案)承認の件
(45) 第73回全国大会福岡大会「2025年度スタートアップセッション」事業報告並びに決算(案)承認の件

[第75回全国大会関連議案]

- (46) 第75回全国大会神戸大会「開催日程」(案)承認の件

推進報告事項

【経済グループ推進計画進捗報告】

- (1) 地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(2) 国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画の進捗報告について
(3) ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進の進捗報告について
(4) 企業の第二創業を支援する推進計画の進捗報告について
(5) 既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(6) 中小企業に脱炭素経営を推進するメリットを発信する推進計画の進捗報告について
(7) 誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画の進捗報告について
(8) 個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進計画の進捗報告について

【社会グループ推進計画進捗報告】

- (9) 人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげ希望ある未来を描く運動の推進計画の進捗報告について
(10) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進計画の進捗報告について
(11) 強靱なインフラ環境の整備推進計画の進捗報告について

- (12) 主権者意識向上カリキュラム推進事業の進捗報告について
- (13) 時代に即した安全保障の意識を創出する推進計画の進捗報告について
- (14) 地域や各種団体と連携した部活動支援推進計画の進捗報告について
- 【組織グループ推進計画進捗報告】
- (15) JC運動に共感が集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について
- (16) 組織が活性化する対内広報強化推進計画の進捗報告について
- (17) 協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画の進捗報告について
- (18) 会員拡大支援の推進計画進捗報告について
- (19) 褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画の進捗報告について
- (20) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
- (21) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗報告について
- (22) 理念共感拡大プロモーター育成・支援推進計画の進捗報告について
- (23) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進計画の進捗報告について
- 【国際グループ推進計画進捗報告】
- (24) ビジネスマッチングの参画支援及び推進計画の進捗報告について
- (25) 国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開推進計画進捗報告について
- (26) セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進計画の進捗報告について
- (27) 恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進計画の進捗報告について
- (28) 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進計画の進捗報告について
- 【総務グループ推進計画進捗報告】
- (29) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) 第73回全国大会福岡大会外部監査について
- (3) 東北地区の被災地支援における災害対策本部設置事業報告について
- (4) 各事業における統一ウェブサイト委託業者について
- (5) JCグッズ必携品追加発注について
- (6) 地区ブロック協議会 名称使用等に関する報告について
- (7) 第177回総会開催報告について
- (8) 2024年度年間公式スケジュールについて
- (9) 次回開催日について2024年12月14日(土)9:00～ 青年会議所会館

第1回臨時理事会

日時：2024年12月06日 09:00～15:00

場所：書面（メール）

審議事項

- （１）議長・委員長辞任に伴う職務代行者選任（案）承認の件

第11回理事会

日時：2024年12月14日 09:00～

場所：青年会議所会館

前回議事録の承認

- （１）第10回理事会議事録
- （２）第1回臨時理事会議事録 総務G

確認事項

- （１）第11回財政審査会議・公益審査会議及びコンプライアンス審査会議の結果について

審議事項

<推進決算議案>

- （１）地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進報告並びに決算（案）承認の件
- （２）人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげる希望ある未来を描く運動の推進報告並びに決算（案）承認の件
- （３）組織が活性化する対内広報強化推進計画並びに補正予算（案）承認の件
- （４）組織が活性化する対内広報強化推進計画の推進報告並びに決算（案）承認の件
- （５）セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進報告並びに決算（案）承認の件

<通常協議議案>

- （６）JCカップU-11 少年少女サッカーアジアパシフィック大会事業修正計画並びに補正予算（案）承認の件
- （７）JCカップU-11 少年少女サッカーアジアパシフィック大会事業報告並びに決算（案）承認の件
- （８）地域に根差した青年会議所運動の事業構築支援の事業報告（案）承認の件
- （９）JCI JAPAN少年少女国連大使育成事業～君はこの夏、世界を変える～事業報告並びに決算（案）承認の件
- （10）JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業報告並びに決算（案）承認の件
- （11）青少年国際交流事業～Children without Borders～事業報告並びに決算（案）承認の件
- （12）第37回国際アカデミー事業報告並びに決算（案）承認の件
- （13）JC運動への共感と信頼を生む機関紙We Believe作成・発刊事業報告（案）承認の件
- （14）LOM版議案システム導入及び普及報告並びに決算（案）承認の件
- （15）株式会社和光との契約期間満了に伴う覚書締結（案）承認の件
- （16）青年会議所会館解体及び建設等管理・運営事業実施計画（案）承認の件
- （17）公益社団法人日本青年会議所 2024年度年度各種積立預金の積立額および取崩額（案）承認の件
- （18）公益社団法人日本青年会議所 2025年度資金調達および設備投資の見込み（案）承認の件
- （19）公益社団法人日本青年会議所 特定資産取得資金設定の変更（案）承認の件
- （20）公益社団法人日本青年会議所 特定費用準備資金設定の変更（案）承認の件
- （21）仮移転先内装工事の報告並びに決算（案）承認の件
- （22）青年会議所会館建替事業に係る優先交渉権者の変更（案）承認の件
- （23）第178回総会開催並びに次第（案）承認の件
- （24）2025年度予算（案）承認の件

<サマーコンファレンス関連議案>

[本体・広報]

- （25）サマーコンファレンス2024事業報告並びに決算（案）承認の件
- （26）サマーコンファレンス2024「サマコンフェス」事業報告並びに決算（案）承認の件

<世界会議関連議案>

- （27）JCI世界会議桃園大会における大会対応事業報告並びに決算（案）承認の件
- （28）JCI世界会議桃園大会における事業ジャパンナイトの事業報告並びに決算（案）承認の件
- （29）JCI世界会議桃園大会で相互理解が促進できる事業「会頭招待事業」報告並びに決算（案）承認の件

推進報告事項

【経済グループ推進計画進捗報告】

- （１）地方創生による地域経済活性化につながる仕組みの構築に向けた運動の推進計画の進捗報告について
- （２）国内企業の生産性向上につながる運動の推進計画の進捗報告について
- （３）ビジネスを発展させるための人材育成を目指す運動の推進の進捗報告について
- （４）企業の第二創業を支援する推進計画の進捗報告について
- （５）既存の資源を活用し循環型社会形成に向けた運動の推進計画の進捗報告について
- （６）中小企業に脱炭素経営を推進するメリットを発信する推進計画の進捗報告について
- （７）誰もが自分らしく働ける社会の実現に向けた運動の推進計画の進捗報告について
- （８）個人の資産を貯蓄から投資へ促進する運動の推進計画の進捗報告について

【社会グループ推進計画進捗報告】

- （９）人口減少社会における地域の社会課題の解決につなげる希望ある未来を描く運動の推進計画の進捗報告について
- （10）有事に備えた災害ネットワーク強化推進計画の進捗報告について
- （11）強靱なインフラ環境の整備推進計画の進捗報告について
- （12）主権者意識向上カリキュラム推進事業の進捗報告について
- （13）時代に即した安全保障の意識を創出する推進計画の進捗報告について
- （14）地域や各種団体と連携した部活動支援推進計画の進捗報告について

【組織グループ推進計画進捗報告】

- （15）JC運動に共感が集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について
- （16）組織が活性化する対内広報強化推進計画の進捗報告について
- （17）協議会と連携したLOM支援状況の管理推進計画の進捗報告について
- （18）会員拡大支援の推進計画進捗報告について
- （19）褒賞事業における情報発信ツール活用推進計画の進捗報告について
- （20）JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について

- (21) JCI公式コース及び日本JCI公認プログラム推進・実施計画進捗報告について
- (22) 理念共感拡大プロモーター育成・支援推進計画の進捗報告について
- (23) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進計画の進捗報告について
- 【国際グループ推進計画進捗報告】
- (24) ビジネスマッチングの参画支援及び推進計画の進捗報告について
- (25) 国内外のビジネス需要を結びつけるJCI GOの拡張・運用・展開推進計画進捗報告について
- (26) セカクルと越境EC利用促進に関する事業の推進計画の進捗報告について
- (27) 恒久的世界平和につながる国際関係を構築する運動の推進計画の進捗報告について
- (28) 緊急支援が必要な国の人々への国内外における支援推進計画の進捗報告について
- 【総務グループ推進計画進捗報告】
- (29) JC運動への共感と信頼を生むブランディング推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) サマーコンファレンス2024外部監査について
- (3) 能登豪雨災害における災害対策本部設置事業報告について
- (4) 第37回国際アカデミー外部監査について
- (5) 2024年度姉妹JC締結について
- (6) 台湾東部沖地震によるJCI台湾への支援報告について
- (7) SMILE by ACTION運動支援に関する支援報告について
- (8) 株式会社CAMPFIREパートナー契約実績報告について
- (9) 賛助企業・提携企業の拡大・連携報告について
- (10) 日本青年会議所会館建替をはじめとする未来の日本青年会議所を創る活動資金報告について
- (11) JCグッズ必携品追加発注について
- (12) 本会最終監査資料審査会について
- (13) 財審支払申請及び規則押印申請におけるGaroonの使用料に関する報告について
- (14) 2024年度新規支援団体の認定について
- (15) LOMの退会について
- (16) 各地会員会議所の法人格の移行状況について
- (17) 地区ブロック協議会 名称使用等に関する報告について
- (18) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (19) 2025年度JCI役員並びにJCI出向者について
- (20) 業務執行理事による業務執行状況報告について
- (21) 外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
- (22) 2024年度年間公式スケジュールについて

私たちはJC運動を応援しています。

【賛助企業名】



益々高まる青年会議所運動。未来を担う子どもたちの育成から、より良い国づくり、まちづくりのための提言、地球市民としての国際交流まで明るく豊かな社会の実現を理想とする青年会議所運動を賛助企業として支援しています。

2024年12月現在

